



シスコの E メール セキュリティ アプライアンス 向け **AsyncOS 9.7 CLI** リファレンス ガイド

2015 年 10 月 13 日

Cisco Systems, Inc.

www.cisco.com

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。
所在地、電話番号、FAX 番号
は以下のシスコ Web サイトをご覧ください。
www.cisco.com/go/offices.

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

シスコの E メール セキュリティ アプライアンス向け AsyncOS 9.7 CLI リファレンス ガイド
© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



はじめに	1
このマニュアルをお読みにする前に	1
印刷時の表記法	2
関連リソース	2
資料	2
ナレッジベース	2
シスコ サポート コミュニティ	3
カスタマー サポート	3
シスコ アカウント の登録	3
マニュアルに関するフィードバック	3

CHAPTER 1

CLI クイック リファレンス ガイド	1-1
CLI コマンド (確定が不要なもの)	1-2
CLI コマンド (確定が必要なもの)	1-7

CHAPTER 2

CLI の概要	2-1
コマンドライン インターフェイス (CLI) へのアクセス	2-1
コマンドライン インターフェイスの表記法	2-2
汎用 CLI コマンド	2-5
バッチ コマンド	2-6
バッチ コマンド例	2-7

CHAPTER 3

コマンド: 参考例	3-1
リストの読み方	3-2
高度なマルウェア防御	3-2
ampconfig	3-2
Anti-Spam	3-7
antispamconfig	3-7
antispamstatus	3-8
antispamupdate	3-9
incomingrelayconfig	3-9
sblconfig	3-12

グレイメールの検出と安全な配信停止	3-13
graymailconfig	3-14
graymailstatus	3-15
graymailupdate	3-15
アンチウイルス	3-16
antivirusconfig	3-16
antivirusstatus	3-18
antivirusupdate	3-18
コマンドラインの管理	3-19
commit	3-19
commitdetail	3-20
clearchanges または clear	3-20
help または h または ?	3-21
rollbackconfig	3-21
quit または q または exit	3-22
コンフィギュレーション ファイルの管理	3-22
loadconfig	3-22
mailconfig	3-24
resetconfig	3-24
saveconfig	3-25
showconfig	3-26
クラスタの管理	3-27
clusterconfig	3-27
データ損失の防止	3-29
dlprollback	3-29
dlpstatus	3-30
dlpupdate	3-30
emconfig	3-31
emdiagnostic	3-33
S/MIME セキュリティ サービス	3-33
smimeconfig	3-33
ドメインキー	3-36
domainkeysconfig	3-36
DMARC 検証	3-48
dmarcconfig	3-48
DNS	3-53
dig	3-53
dnsconfig	3-55
dnsflush	3-59

dnshostprefs	3-60
dnslistconfig	3-61
dnslisttest	3-61
dnsstatus	3-62
一般的な管理/トラブルシューティング	3-62
addressconfig	3-64
adminaccessconfig	3-65
certconfig	3-71
date	3-76
diagnostic	3-76
diskquotaconfig	3-80
ecconfig	3-82
ecstatus	3-83
ecupdate	3-83
encryptionconfig	3-83
encryptionstatus	3-87
encryptionupdate	3-87
featurekey	3-88
featurekeyconfig	3-89
generalconfig	3-90
healthcheck	3-90
healthconfig	3-91
ntpconfig	3-92
reboot	3-94
replugstatus	3-94
resume	3-95
resumedel	3-95
resumelister	3-96
revert	3-96
settime	3-97
setz	3-98
shutdown	3-99
sshconfig	3-99
status	3-102
supportrequest	3-103
supportrequeststatus	3-105
supportrequestupdate	3-105
suspend	3-106
suspenddel	3-106
suspendlistener	3-107

tcpservices	3-107
techsupport	3-108
tlsverify	3-109
trace	3-110
trackingconfig	3-112
tzupdate	3-113
updateconfig	3-114
updatenow	3-119
version	3-119
wipedata	3-120
upgrade	3-121
コンテンツ スキャン	3-121
contentscannerstatus	3-121
contentscannerupdate	3-122
LDAP	3-122
ldapconfig	3-122
ldapflush	3-127
ldaptest	3-128
sievechar	3-129
メール配信の設定/モニタリング	3-130
addresslistconfig	3-130
aliasconfig	3-132
archivemessage	3-135
altsrchoost	3-135
bounceconfig	3-137
bouncerecipients	3-141
bvconfig	3-142
deleterecipients	3-144
deliveryconfig	3-145
delivernow	3-146
destconfig	3-146
hostrate	3-154
hoststatus	3-154
imageanalysisconfig	3-156
oldmessage	3-157
rate	3-158
redirectrecipients	3-158
resetcounters	3-159
removemessage	3-160

showmessage	3-160
showrecipients	3-161
status	3-162
tophosts	3-163
topin	3-164
unsubscribe	3-165
workqueue	3-166
ネットワーク設定/ネットワーク ツール	3-167
etherconfig	3-168
interfaceconfig	3-169
nslookup	3-172
netstat	3-173
packetcapture	3-174
ping	3-175
ping6	3-176
routeconfig	3-177
setgateway	3-180
sethostname	3-181
smtproutes	3-181
sslconfig	3-183
ssl3config	3-185
telnet	3-186
traceroute	3-186
traceroute6	3-187
アウトブレイク フィルタ	3-189
outbreakconfig	3-189
outbreakflush	3-190
outbreakstatus	3-191
outbreakupdate	3-191
ポリシーの実施	3-192
dictionaryconfig	3-192
exceptionconfig	3-196
filters	3-197
policyconfig	3-199
quarantineconfig	3-222
scanconfig	3-224
stripheaders	3-226
textconfig	3-227

ロギングとアラート	3-230
alertconfig	3-230
displayalerts	3-232
findevent	3-233
grep	3-235
logconfig	3-236
rollovernow	3-244
snmpconfig	3-244
tail	3-246
レポート	3-247
reportingconfig	3-248
SenderBase	3-251
sbstatus	3-251
senderbaseconfig	3-252
SMTP サービスの設定	3-252
callaheadconfig	3-252
listenerconfig	3-254
例: SPF および SIDF の設定	3-274
localeconfig	3-282
smtpauthconfig	3-283
システムのセットアップ	3-285
systemsetup	3-285
URL フィルタリング	3-289
aggregatorconfig	3-289
urllistconfig	3-290
webcacheflush	3-291
websecurityadvancedconfig	3-292
websecurityconfig	3-293
websecuritydiagnostics	3-294
ユーザの管理	3-294
userconfig	3-294
password または passwd	3-297
last	3-298
who	3-298
whoami	3-299
仮想アプライアンスの管理	3-299
loadlicense	3-300
showlicense	3-300



はじめに

このマニュアルの手順は、ネットワーキングおよび電子メールの管理に関する知識を持つ、経験豊富なシステム管理者向けに記載されています。

このマニュアルをお読みになる前に



(注)

すでにアプライアンスをネットワークに配線済みの場合は、アプライアンスのデフォルト IP アドレスが、ネットワーク上の他の IP アドレスと競合していないことを確認します。工場出荷時に管理ポートに割り当てられた IP アドレスは、192.168.42.42 です。アプライアンスへの IP アドレス割り当ての詳細については、お使いのリリースのユーザガイドの「**Setup and Installation**」の章を参照してください。

印刷時の表記法

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド、ファイル、およびディレクトリの名前、画面に表示されるコンピュータの出力。	Please choose an IP interface for this Listener. sethostname コマンドは、アプライアンスの名前を設定します。
AaBbCc123	ユーザ入力(画面上のコンピュータ出力と対比される場合)。	mail3.example.com> commit Please enter some comments describing your changes: []> Changed the system hostname
AaBbCc123	マニュアルのタイトル、新しい語句や用語、強調する語句。コマンドライン変数(実際の名前や値に置き換えられる部分)。	『 <i>Quickstart Guide</i> 』を参照してください。 アプライアンスは、発信パケットを送信するためのインターフェイスを一意に選択できる必要があります。 Before you begin, please reset your password to a new value. Old password: ironport New password: <i>your_new_password</i> Retype new password: <i>your_new_password</i>

関連リソース

資料

E メール セキュリティ アプライアンスの関連資料は、次の URL から入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10154/tsd_products_support_series_home.html

ナレッジベース

シスコ コンテンツ セキュリティ製品に関する情報についてのナレッジベースにアクセスするには、以下の場所を参照してください。

<http://www.cisco.com/web/ironport/knowledgebase.html>



(注)

サイトにアクセスするには Cisco.com のユーザ ID が必要です。Cisco.com ユーザ ID がない場合は、[シスコ アカウントの登録\(3 ページ\)](#)を参照してください。

シスコ サポート コミュニティ

シスコ サポート コミュニティは、シスコのお客様、パートナー、および従業員のオンラインフォーラムです。コンテンツ セキュリティに関する一般的な問題や、特定のシスコ製品に関する技術情報について話し合う場を提供します。このフォーラムにトピックを投稿して質問したり、他のユーザと情報を共有したりできます。

次の URL から、E メール セキュリティ アプライアンスのシスコ サポート コミュニティにアクセスします。

<https://supportforums.cisco.com/community/netpro/security/email>

カスタマー サポート

サポートを受けるには、次の方法を使用してください。

U.S.: Call 1 (408) 526-7209 or Toll-free 1 (800) 553-2447

米国外: http://www.cisco.com/en/US/support/tsd_cisco_worldwide_contacts.html

サポートサイト: http://www.cisco.com/en/US/products/ps11169/serv_group_home.html [英語]

リセラーまたは他のサプライヤからサポートを購入した場合、製品に関するサポートについては、直接そのリセラーもしくはサプライヤにお問い合わせください。

シスコ アカウントの登録

Cisco.com の多数のリソースへアクセスするには、シスコのアカウントが必要です。

Cisco.com のユーザ ID をお持ちでない場合は、<https://tools.cisco.com/RPF/register/register.do> で登録できます。

マニュアルに関するフィードバック

テクニカル マニュアル チームは、製品マニュアルの改善に努めています。お客様からのご意見をお待ちしています。次の電子メール アドレス宛にお送りください。

contentsecuritydocs@cisco.com

メッセージの件名行に、このマニュアルのタイトルとタイトル ページに記載されている発行日をご記入ください。





CLI クイック リファレンス ガイド

次の表を使用すると、目的の CLI コマンドを見つけ、その簡単な説明と C-Series、X-Series、M-Series の各プラットフォームで実行可能かどうかを確認できます。

- [CLI コマンド \(確定が不要なもの\) \(1-2 ページ\)](#)
- [CLI コマンド \(確定が必要なもの\) \(1-7 ページ\)](#)

CLI コマンド (確定が不要なもの)

CLI コマンド	説明	実行可能なプラットフォーム
<code>antisppamstatus</code>	Anti-Spam ステータスを表示します。	C-Series、X-Series
<code>antisppamupdate</code>	スパム定義を手動で更新します。	C-Series、X-Series
<code>antivirusstatus</code>	Anti-Virus ステータスを表示します。	C-Series、X-Series
<code>antivirusupdate</code>	ウイルス定義を手動で更新します。	C-Series、X-Series
<code>archivemessage</code>	キュー内の古いメッセージをアーカイブします。	C-Series、X-Series
<code>bouncerecipients</code>	キューからメッセージをバウンスします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>clearchanges</code> または <code>clear</code>	変更をクリアします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>commit</code>	変更を確定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>commitdetail</code>	最後の確定に関する詳細情報を表示します。	C-Series、X-Series
<code>contentsscannerstatus</code>	コンテンツ スキャナ バージョン情報を表示します。	C-Series、X-Series
<code>contentsscannerupdate</code>	コンテンツ スキャナ エンジンの手動更新を要求します。	C-Series、X-Series
<code>date</code>	現在の日時を表示します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>deleterecipients</code>	キューからメッセージを削除します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>delivernow</code>	メッセージのスケジュールを即時配信に再設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>diagnostic</code>	RAID ディスク、ネットワーク キャッシュ、および SMTP 接続をチェックします。ネットワーク キャッシュをクリアします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>dig</code>	DNS サーバ上でレコードをルックアップします	C-Series、X-Series
<code>displayalerts</code>	アプライアンスから送信された最後の n 個のアラートを表示します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>dlprollback</code>	ロールバック RSA DLP エンジン	C-Series、X-Series
<code>dlpstatus</code>	RSA DLP エンジンのバージョン情報	C-Series、X-Series
<code>dlpupdate</code>	更新 RSA DLP エンジン	C-Series、X-Series
<code>dnsflush</code>	DNS キャッシュからすべてのエントリをクリアします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>dnslisttest</code>	DNS ベースのリスト サービスの DNS ルックアップをテストします。	C-Series、X-Series
<code>dnsstatus</code>	DNS 統計情報を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>ecstatus</code>	証明書を取得するのに使用する登録クライアントのバージョンを確認します	C-Series
<code>ecupdate</code>	証明書を取得するのに使用する登録クライアントを更新します	C-Series

<code>emdiagnostic</code>	ESA の RSA EM の診断ツール	C-Series、X-Series、M-Series
<code>encryptionstatus</code>	PXE エンジンとドメイン マッピング ファイルのバージョンを表示します。	C-Series、X-Series
<code>encryptionupdate</code>	PXE エンジンの更新を要求します。	C-Series、X-Series
<code>featurekey</code>	システム機能キーを管理します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>findevent</code>	メール ログ ファイルのイベントを検索します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>graymailstatus</code>	既存のグレイメール ルールの詳細を表示します	C-Series、X-Series
<code>graymailupdate</code>	手動でグレイメール ルールを更新します	C-Series、X-Series
<code>grep</code>	ログ ファイル内のテキストを検索します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>healthcheck</code>	E メール セキュリティ アプライアンスの状態を確認します	C-Series、X-Series
<code>help</code> または <code>h</code> または <code>?</code>	ヘルプ	C-Series、X-Series、M-Series
<code>hostrate</code>	特定のホストのアクティビティをモニタします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>hoststatus</code>	特定のホスト名のステータスを取得します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>last</code>	システムに最近ログインしたユーザを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>ldapflush</code>	キャッシュされている LDAP の結果をフラッシュします。	C-Series、X-Series
<code>ldaptest</code>	1 つの LDAP クエリー テストを実行します。	C-Series、X-Series
<code>loadlicense</code>	仮想アプライアンス ライセンスをロードします	すべての仮想アプライアンス
<code>mailconfig</code>	現在の設定を電子メール アドレスに送信します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>nslookup</code>	ネームサーバに問い合わせます。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>netstat</code>	ネットワーク接続、ルーティング テーブル、およびネットワーク インターフェイス統計情報を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>outbreakflush</code>	キャッシュされている発生ルールをクリアします。	C-Series、X-Series
<code>outbreakstatus</code>	現在のアウトブレイク ルールを表示します。	C-Series、X-Series
<code>outbreakupdate</code>	ウイルス感染フィルタ ルールを更新します。	C-Series、X-Series
<code>oldmessage</code>	キュー内の古いメッセージのリストを表示します。	C-Series、X-Series
<code>packetcapture</code>	ネットワーク経由で送受信されたパケットを傍受して表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>password</code> または <code>passwd</code>	パスワードを変更する	C-Series、X-Series、M-Series
<code>ping</code>	ネットワーク ホストに対して ping を実行します。	C-Series、X-Series、M-Series

■ CLI コマンド (確定が不要なもの)

<code>ping6</code>	IPv6 を使用するネットワーク ホストに <code>ping</code> を実行します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>quit</code> または <code>q</code> または <code>exit</code>	終了します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>rate</code>	メッセージのスループットをモニタします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>reboot</code>	システムを再起動します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>redirectrecipients</code>	すべてのメッセージを別のリレー ホストにリダイレクトします。	C-Series、X-Series
<code>removemessage</code>	古い未配信のメッセージをキューから削除します。	C-Series、X-Series
<code>repengstatus</code>	レピュテーション エンジンのバージョン情報を要求します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>resetconfig</code>	工場出荷時のデフォルト設定に戻します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>resetcounters</code>	システム内のすべてのカウンタをリセットします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>resume</code>	受信と配信を再開します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>resumedel</code>	配信を再開します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>resumelistener</code>	受信を再開します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>revert</code>	以前のリリースに戻します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>rollovernow</code>	ログ ファイルをロール オーバーします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>saveconfig</code>	設定をディスクに保存します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sbstatus</code>	SenderBase クエリーのステータスを表示します。	C-Series、X-Series
<code>settime</code>	システム クロックを手動で設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>showmessage</code>	キュー内の古い未配信のメッセージを表示します。	C-Series、X-Series
<code>showconfig</code>	すべての設定値を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>showlicense</code>	仮想アプライアンスのライセンス情報を表示します	すべての仮想アプライアンス
<code>showrecipients</code>	キュー内のメッセージを受信者ホスト別または Envelope From アドレス別に表示するか、すべてのメッセージを表示します。	C-Series、X-Series
<code>shutdown</code>	システムをシャットダウンして電源を切ります。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>slblconfig</code>	セーフリスト/ブロックリストの設定値を設定します	C-Series、X-Series

status	システム ステータス (System status)	C-Series、X-Series、M-Series
supportrequest	Cisco TAC にメッセージを送信します	C-Series、X-Series、M-Series
supportrequeststatus	サポート要求のキーワードのバージョン情報を表示します	C-Series、X-Series、M-Series
supportrequestupdate	サポート要求のキーワードの手動更新を要求します	C-Series、X-Series、M-Series
suspend	受信と配信を中断します。	C-Series、X-Series、M-Series
suspenddel	配信を中断します。	C-Series、X-Series、M-Series
suspendlistener	受信を中断します。	C-Series、X-Series、M-Series
systemsetup	最初のシステム設定。	C-Series、X-Series
tail	ログ ファイルの最新部分を継続的に表示します	C-Series、X-Series、M-Series
techsupport	Cisco TAC がシステムにアクセスできるようにします	C-Series、X-Series、M-Series
telnet	リモート ホストに接続します。	C-Series、X-Series、M-Series
tlsverify	リモート ホストに対する発信 TLS 接続を確立し、TLS 接続の問題をデバッグします。	C-Series、X-Series
tophosts	キューのサイズの順に上位のホストを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
topin	着信接続の数の順に上位のホストを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
trace	システムを通過するメッセージのフローを追跡します。	C-Series、X-Series、M-Series
traceroute	リモート ホストへのネットワーク ルートを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
traceroute6	IPv6 を使用するリモート ホストへのネットワーク ルートを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
tzupdate	タイムゾーン ルールを更新します。	C-Series、X-Series、M-Series
updatenow	すべてのコンポーネントを更新します。	C-Series、X-Series、M-Series
upgrade	アップグレードをインストールします。	C-Series、X-Series、M-Series
version	システムのバージョン情報を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
wipedata	ディスクのコア ファイルを消去し、最後のコアダンプ操作のステータスを確認します	C-Series、X-Series、M-Series

■ CLI コマンド (確定が不要なもの)

<code>webcacheflush</code>	URL フィルタリング機能で使用するキャッシュをフラッシュします	C-Series、X-Series、M-Series
<code>websecuritydiagnostics</code>	URL フィルタリングの診断統計情報を表示します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>who</code>	ログイン中のユーザのリストを表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>whoami</code>	現在のユーザ ID を表示します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>workqueue</code>	作業キューの一時停止ステータスを表示および変更します。	C-Series、X-Series

CLI コマンド (確定が必要なもの)

CLI コマンド	説明	実行可能なプラットフォーム
<code>addressconfig</code>	システムで生成するメールの From: アドレスを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>addresslistconfig</code>	アドレス リストを設定します。	C-Series、X-Series
<code>adminaccessconfig</code>	ネットワーク アクセス リストとバナー ログインを設定します。	C-Series、X-Series
<code>aggregatorconfig</code>	シスコのアグリゲータ サーバのアドレスを設定します	C-Series、X-Series
<code>alertconfig</code>	電子メール アラートを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>aliasconfig</code>	電子メール エイリアスを設定します。	C-Series、X-Series
<code>altsrchost</code>	Virtual Gateway™ のマッピングを設定します	C-Series、X-Series
<code>amponfig</code>	高度なマルウェア防御を設定します(ファイル レピュテーションおよび分析)	C-Series、X-Series、M-Series
<code>antispamconfig</code>	Anti-Spam ポリシーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>antivirusconfig</code>	Anti-Virus ポリシーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>bounceconfig</code>	バウンスの動作を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>bvconfig</code>	発信メールのキー設定値を設定し、無効なバウンスの処理方法を設定します。	C-Series、X-Series
<code>callaheadconfig</code>	SMTP コールアヘッド プロファイルを追加、編集、または削除します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>certconfig</code>	セキュリティの証明書とキーを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>clusterconfig</code>	クラスタ関連の設定を実行します。	C-Series、X-Series
<code>deliveryconfig</code>	メール配信を設定します。	C-Series、X-Series
<code>destconfig</code>	[送信先コントロール(Destination Controls)] テーブルのオプションを設定します。	C-Series、X-Series
<code>dictionaryconfig</code>	コンテンツ ディクショナリを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>diskquotaconfig</code>	ディスクの容量を設定します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>dmARCconfig</code>	DMARC の設定値を設定します	C-Series、X-Series
<code>dnsconfig</code>	DNS のセットアップを設定します。	C-Series、X-Series
<code>dnshostprefs</code>	IPv4/IPv6 DNS を設定します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>dnslistconfig</code>	DNS リスト サービスのサポートを設定します。	C-Series、X-Series
<code>domainkeysconfig</code>	DomainKeys のサポートを設定します。	C-Series、X-Series
<code>eccconfig</code>	証明書を取得するのに使用する登録クライアントを設定します	C-Series、X-Series、M-Series

■ CLI コマンド (確定が必要なもの)

<code>emconfig</code>	RSA Enterprise Manager の相互運用性を設定します。	C-Series、X-Series
<code>encryptionconfig</code>	電子メール暗号化を設定します。	C-Series、X-Series
<code>etherconfig</code>	イーサネットの設定値を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>exceptionconfig</code>	ドメイン例外テーブルを設定します。	C-Series、X-Series
<code>featurekeyconfig</code>	機能キーを自動的にチェックし、更新します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>filters</code>	メッセージ処理オプションを設定します。	C-Series、X-Series
<code>generalconfig</code>	ブラウザ設定などの一般的な設定を行います	C-Series、X-Series、M-Series
<code>graymailconfig</code>	グレイメールの検出と安全な配信停止のグローバル設定を設定します	C-Series、X-Series
<code>healthconfig</code>	アプライアンスのさまざまな健全性パラメータのしきい値を設定します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>imageanalysisconfig</code>	IronPort イメージ分析の設定値を設定します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>incomingrelayconfig</code>	着信リレーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>interfaceconfig</code>	イーサネット IP アドレスを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>ldapconfig</code>	LDAP サーバを設定します。	C-Series、X-Series
<code>listenerconfig</code>	メール リスナーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>loadconfig</code>	設定ファイルをロードします。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>localeconfig</code>	多言語対応の設定値を設定します。	C-Series、X-Series
<code>logconfig</code>	ログ ファイルへのアクセスを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>ntpconfig</code>	NTP タイム サーバを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>outbreakconfig</code>	感染フィルタを設定します。	C-Series、X-Series
<code>policyconfig</code>	受信者単位または送信者ベースのポリシーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>quarantineconfig</code>	システムの隔離を設定します。	C-Series、X-Series
<code>reportingconfig</code>	レポートの送信の設定値を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>rollbackconfig</code>	以前に確定された設定の 1 つにロールバックします	C-Series、X-Series、M-Series
<code>routeconfig</code>	IP ルーティング テーブルを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>scanconfig</code>	添付ファイルのスキャン ポリシーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>senderbaseconfig</code>	SenderBase の接続設定値を設定します。	C-Series、X-Series
<code>setgateway</code>	デフォルト ゲートウェイ(ルータ)を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series

<code>sethostname</code>	マシンの名前を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>settz</code>	ローカル タイム ゾーンを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sievechar</code>	RFC 3598 に規定されている Sieve 電子メール フィルタリングの文字を設定します。	C-Series、X-Series
<code>smimeconfig</code>	S/MIME の機能を設定します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>smtpauthconfig</code>	SMTP Auto プロファイルを設定します。	C-Series、X-Series
<code>smtpoutes</code>	永続的なドメイン転送を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>snmpconfig</code>	SNMP の設定	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sshconfig</code>	SSH キーを設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sslconfig</code>	SSL の設定値を設定します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>sslv3config</code>	SSLv3 の有効化/無効化	C-Series、X-Series、M-Series
<code>stripheaders</code>	削除するメッセージ ヘッダーを設定します。	C-Series、X-Series
<code>tcpservices</code>	プロセスによって開かれているファイルに関する情報を表示します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>textconfig</code>	テキスト リソースを設定します。	C-Series、X-Series
<code>trackingconfig</code>	トラッキング システムを設定します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>unsubscribe</code>	グローバル配信停止リストを更新します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>updateconfig</code>	システム更新パラメータを設定します。	C-Series、X-Series
<code>LDAP</code>	システム アップグレード パラメータを設定します (廃止されたコマンド)	
<code>urllistconfig</code>	安全な URL のホワイトリストを設定します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>userconfig</code>	ユーザ アカウントと外部の認証ソースへの接続を管理します。	C-Series、X-Series、M-Series
<code>websecurityadvancedconfig</code>	URL フィルタリングの詳細設定を設定します	C-Series、X-Series、M-Series
<code>websecurityconfig</code>	URL フィルタリングのグローバル設定を設定します	C-Series、X-Series、M-Series



CLI の概要

この章は、次の項で構成されています。

- [コマンドライン インターフェイス \(CLI\) へのアクセス \(2-1 ページ\)](#)
- [バッチ コマンド \(2-6 ページ\)](#)

コマンドライン インターフェイス (CLI) へのアクセス

コマンドライン インターフェイスには、SSH または Telnet のサービスがイネーブルに設定されている IP インターフェイスで SSH または Telnet 経由、またはシリアルポートで端末エミュレーションソフトウェアを使用してアクセスできます。工場出荷時のデフォルトでは、管理ポートに SSH および Telnet が設定されています。これらのサービスをディセーブルにするには、`interfaceconfig` コマンドを使用します。

CLI へのアクセスは、アプライアンスのセットアップ時に選択した管理接続方式によって異なります。工場出荷時のデフォルト ユーザ名およびパスワードを次に示します。当初は、admin ユーザアカウントだけが CLI にアクセスできます。admin アカウントを介してコマンドライン インターフェイスに初回アクセスしたうえで、さまざまな許可レベルの他のユーザを追加できます。System Setup Wizard で、admin アカウントのパスワードを変更するよう要求されます。admin アカウントのパスワードは、`password` コマンドを使用して、任意の時点で直接再設定することもできます。

イーサネットを介して接続する場合は、工場出荷時のデフォルト IP アドレスの 192.168.42.42 を使用して SSH セッションまたは Telnet セッションを開始します。SSH は、ポート 22 を使用するように設定されています。Telnet は、ポート 23 を使用するように設定されています。下記のユーザ名とパスワードを入力します。

シリアル接続を介して接続する場合は、パーソナル コンピュータのシリアル ケーブルが接続されている通信ポートを使用して端末セッションを開始します。詳細については、「Setup and Installation」の章を参照してください。下記のユーザ名とパスワードを入力します。

下記のユーザ名およびパスワードを入力してアプライアンスにログインします。

工場出荷時のデフォルト ユーザ名とパスワード

- ユーザ名 : `admin`
- パスワード : `ironport`

次に例を示します。

```
login: admin
```

```
password: ironport
```

コマンドライン インターフェイスの表記法

ここでは、AsyncOS CLI のルールおよび表記法について説明します。

コマンド プロンプト

最上位のコマンド プロンプトは、完全修飾ホスト名に続いて大なり (>) 記号とスペース 1 つで構成されます。次に例を示します。

```
mail3.example.com>
```

アプライアンスが集中管理機能を使用したクラスタの一部として設定されている場合、CLI のプロンプトが変わって現在のモードを示します。次に例を示します。

```
(Cluster Americas) >
```

または

```
(Machine los_angeles.example.com) >
```

詳細については、ユーザ ガイドの「Centralized Management」を参照してください。

コマンドを実行すると、CLI によりユーザの入力が要求されます。CLI がユーザの入力を待機している場合は、コマンド プロンプトとして、角カッコ ([]) で囲まれたデフォルト入力値の後に大なり (>) 記号が表示されます。デフォルトの入力値がない場合、コマンド プロンプトのカッコ内は空です。

次に例を示します。

```
Please create a fully-qualified hostname for this Gateway  
(Ex: "mail3.example.com"):  
[] > mail3.example.com
```

デフォルト設定がある場合は、コマンド プロンプトのカッコ内にその設定が表示されます。次に例を示します。

```
Ethernet interface:  
1. Data 1  
2. Data 2  
3. Management  
[1]> 1
```

デフォルト設定が表示される場合に **Return** を入力すると、デフォルト値を入力したことになります。

```
Ethernet interface:  
1. Data 1  
2. Data 2  
3. Management  
[1]> (type Return)
```

コマンドの構文

インタラクティブ モードで動作中の場合、CLI コマンド構文は、空白スペースを含めず、引数やパラメータも指定しない単一コマンドで構成されます。次に例を示します。

```
mail3.example.com> systemsetup
```

選択リスト

入力できる複数の選択肢がある場合、コマンドによっては番号付きリストを使用します。プロンプトで選択する番号を入力します。

次に例を示します。

```
Log level:  
1. Error  
2. Warning  
3. Information  
4. Debug  
5. Trace  
[3]> 3
```

Yes/No クエリー

yes または no のオプションがある場合、質問はデフォルト値(カッコ内表示)を付けて表示されます。**Y**、**N**、**Yes**、または **No** で返答できます。大文字と小文字の区別はありません。

次に例を示します。

```
Do you want to enable FTP on this interface? [Y]> n
```

サブコマンド

コマンドによっては、サブコマンドを使用する場合があります。サブコマンドには、NEW、EDIT、および DELETE などの命令があります。EDIT および DELETE の機能の場合、これらのコマンドは、システムですでに設定されているレコードのリストを提供します。

次に例を示します。

```
mail3.example.com> interfaceconfig

Currently configured interfaces:
1. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new interface.
- EDIT - Modify an interface.
- GROUPS - Define interface groups.
- DELETE - Remove an interface.
[]>
```

サブコマンド内からメイン コマンドに戻るには、空のプロンプトで **Enter** または **Return** を入力します。

エスケープ

サブコマンド内でいつでも **Ctrl+C** キーボード ショートカットを使用して、すぐに最上位の CLI に戻ることができます。

履歴

CLI は、セッション中に入力するすべてのコマンドの履歴を保持します。最近使用したコマンドの実行リストをスクロールするには、キーボードの ↑ および ↓ の矢印キーを使用するか、**Ctrl+P** キーと **Ctrl+N** キーを組み合わせで使用します。

```
mail3.example.com> (type the Up arrow key)

mail3.example.com> interfaceconfig (type the Up arrow key)

mail3.example.com> topin (type the Down arrow key)
```

コマンドの補完

コマンドライン インターフェイスは、コマンドの補完をサポートします。あるコマンドの先頭数文字を入力して **Tab** キーを入力すると、CLI によって一意のコマンドのストリングが補完されます。入力した文字が複数のコマンドに該当する場合、CLI はそのセットをさらに「絞り込み」ます。次に例を示します。

```
mail3.example.com> set (type the Tab key)
setgateway, sethostname, setttime, settz
mail3.example.com> seth (typing the Tab again completes the entry with sethostname)
```

CLI の履歴およびファイルの補完機能では、**Enter** または **Return** を入力してコマンドを起動する必要があります。

設定の変更

電子メールの通常の動作を妨げることなく、設定を変更できます。
設定変更は、次の処理を行うまでは有効になりません。

-
- ステップ 1 コマンド プロンプトで `commit` コマンドを発行します。
 - ステップ 2 `commit` コマンドに必要な入力値を指定します。
 - ステップ 3 CLI で `commit` 処理の確認を受け取ります。
-

確定されていない設定に対する変更は記録されますが、`commit` コマンドが実行されるまでは有効になりません。



- (注) 一部のコマンドは `commit` コマンドを実行しなくても有効になります。変更を有効にする前に確定を行う必要があるコマンドの概要については、第1章「[CLI クイック リファレンス ガイド](#)」を参照してください。
-

CLI セッションの終了、システムのシャットダウン、再起動、障害、または `clear` コマンドの発行により、確定されていない変更はクリアされます。

汎用 CLI コマンド

このセクションでは、変更の確定またはクリア、ヘルプへのアクセス、およびコマンドライン インターフェイスの終了に使用するコマンドについて説明します。

設定変更の確定

アプライアンスに対する設定変更の保存には、`commit` コマンドが重要です。設定変更の多くは、`commit` コマンドを入力するまで有効になりません。(変更内容を有効にするために `commit` コマンドを使用する必要がないコマンドも少数あります。`commit` コマンドは、`commit` コマンドまたは `clear` コマンドが最後に発行されてから行われた設定変更に適用されます。コメントとして最大 255 文字を使用できます。変更内容は、タイムスタンプと共に確認を受け取るまでは、確定されたものとして認められません。

`commit` コマンドの後のコメントの入力は任意です。

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
```

```
[> Changed "psinet" IP Interface to a different IP address
```

```
Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
```

```
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```



- (注) 変更を正常に確定するには、最上位のコマンド プロンプトになっている必要があります。コマンド ライン階層の 1 つ上のレベルに移動するには、空のプロンプトで `Return` を入力します。
-

設定変更のクリア

clear コマンドは、commit または clear コマンドが最後に実行された以降に設定に対して行われた変更をすべてクリアします。

```
mail3.example.com> clear

Are you sure you want to clear all changes since the last commit? [Y]> y

Changes cleared: Mon Jan 01 12:00:01 2003
mail3.example.com>
```

コマンドライン インターフェイス セッションの終了

quit コマンドを実行すると、CLI アプリケーションからログアウトします。確定されていない設定変更はクリアされます。quit コマンドは電子メール操作には影響しません。ログアウトはログファイルに記録されず(exit の入力、quit の入力と同じです)。

```
mail3.example.com> quit

Configuration changes entered but not committed.Exiting will lose
changes.
Type 'commit' at the command prompt to commit changes.
Are you sure you wish to exit? [N]> Y
```

コマンドライン インターフェイスでのヘルプの検索

help コマンドを実行すると、使用可能なすべての CLI コマンドが表示され、各コマンドの簡単な説明を参照できます。help コマンドは、コマンド プロンプトで help と入力するか、疑問符(?)を1つ入力して実行できます。

```
mail3.example.com> help
```

バッチコマンド

AsyncOS はバッチ コマンド形式をサポートしているため、一部の CLI コマンドを新しい単一行 CLI 形式で実行できます。この形式を使用すると、タスクの実行に必要な入力を削減でき、よく行う設定タスクを簡単に自動化できます。バッチ コマンドでは、SSH クライアントを使用してコマンドをリモートで実行することもできます。これにより、CLI コマンドのスクリプトを作成し、それを一度に複数のアプライアンスで実行することも簡単にできます。

すべてのコマンドがバッチと同等ではありませんが、すべてのバッチ コマンドは、非バッチ コマンドとして実行できます。

バッチ コマンドの構文は、使用するコマンドによって異なります。使用するコマンドの構文の詳細については、[第3章「コマンド:参考例」](#)の該当する CLI の例を参照してください。

バッチ コマンド例

次の例では、送信者グループの REDLIST が作成されます。さらに、その REDLIST がポリシー THROTTLED に関連付けられ、送信者「possible_spammer.com」が送信者グループに追加されます。このアクションを CLI で実行する場合：

```
example.com> listenerconfig
```

```
Currently configured listeners:
```

1. IncomingMail (on Management, 192.168.42.42/24) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutgoingMail (on Data 2, 192.168.40.42/24) SMTP TCP Port 25 Private

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.

```
[ ]> edit
```

```
Enter the name or number of the listener you wish to edit.
```

```
[ ]> IncomingMail
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.

```
[> HOSTACCESS
```

```
There are currently 4 policies defined.
```

```
There are currently 5 sender groups.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.

```
[> NEW
```

```
1. New Sender Group
```

```
2. New Policy
```

```
[1]> 1
```

```
Enter a name for this sender group. (optional)
```

```
[> REDLIST
```

```
Enter the hosts to add. CIDR addresses such as 10.1.1.0/24 are allowed.
```

```
IP address ranges such as 10.1.1.10-20 are allowed. IP subnets such as  
10.2.3. are allowed.
```

```
Hostnames such as crm.example.com are allowed.
```

```
Partial hostnames such as .example.com are allowed.
```

```
Ranges of SenderBase Reputation scores such as SBR[7.5:10.0] are  
allowed.
```

```
SenderBase Network Owner IDs such as SBO:12345 are allowed.
```

Remote blacklist queries such as `dnslist[query.blacklist.example]` are allowed.

Separate multiple hosts with commas

```
[ ]> possible_spammer.com
```

Select a behavior for this entry.

1. Accept
2. Relay
3. Reject
4. TCP Refuse
5. Continue
6. Policy: ACCEPTED
7. Policy: BLOCKED
8. Policy: THROTTLED
9. Policy: TRUSTED

```
[1]> 8
```

Enter a comment for this sender group.

```
[ ]>
```

There are currently 4 policies defined.

There are currently 6 sender groups.

同じアクションを CLI バッチ コマンドで実行する場合:

```
example.com> listenerconfig edit IncomingMail hostaccess new sendergroup  
REDLIST possible_spammer.com Policy: "THROTTLED"
```




コマンド: 参考例

この章は、次の項で構成されています。

- [高度なマルウェア防御 \(3-2 ページ\)](#)
- [Anti-Spam \(3-7 ページ\)](#)
- [グレイメールの検出と安全な配信停止 \(3-13 ページ\)](#)
- [アンチウイルス \(3-16 ページ\)](#)
- [コマンド ラインの管理 \(3-19 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーション ファイルの管理 \(3-22 ページ\)](#)
- [クラスタの管理 \(3-27 ページ\)](#)
- [データ損失の防止 \(3-29 ページ\)](#)
- [S/MIME セキュリティ サービス \(3-33 ページ\)](#)
- [ドメイン キー \(3-36 ページ\)](#)
- [DMARC 検証 \(3-48 ページ\)](#)
- [DNS \(3-53 ページ\)](#)
- [一般的な管理/トラブルシューティング \(3-62 ページ\)](#)
- [コンテンツ スキャン \(3-121 ページ\)](#)
- [LDAP \(3-122 ページ\)](#)
- [メール配信の設定/モニタリング \(3-130 ページ\)](#)
- [ネットワーキング設定/ネットワーク ツール \(3-167 ページ\)](#)
- [アウトブレイク フィルタ \(3-189 ページ\)](#)
- [ポリシーの実施 \(3-192 ページ\)](#)
- [ロギングとアラート \(3-230 ページ\)](#)
- [レポート \(3-247 ページ\)](#)
- [SenderBase \(3-251 ページ\)](#)
- [SMTP サービスの設定 \(3-252 ページ\)](#)
- [システムのセットアップ \(3-285 ページ\)](#)
- [URL フィルタリング \(3-289 ページ\)](#)
- [ユーザの管理 \(3-294 ページ\)](#)
- [仮想アプライアンスの管理 \(3-299 ページ\)](#)

リストの読み方

コマンドごとに説明と1つ以上の使用例が示されています。「使い方」の欄には、以下のコマンド属性についての説明があります。

-
- ステップ 1** そのコマンドは、アプライアンス上で `commit` コマンドを実行して確定する必要があるかどうか。
 - ステップ 2** そのコマンドは特定のモード(クラスタ、グループ、またはマシン)でのみ実行可能か。
 - ステップ 3** そのコマンドをバッチ形式で実行できるか。

集中管理の詳細については、『*User Guide for AsyncOS for Cisco Email Security Appliances*』を参照してください。

バッチ形式の詳細については、「[CLI の概要](#)」(1 ページ)を参照してください。

高度なマルウェア防御

ampconfig

ファイルレピュテーションフィルタリングとファイル分析Cisco TAC の指導なしで詳細オプションを変更しないでください。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できません。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。詳細については、`help ampconfig` コマンドを入力して、インライン ヘルプを参照してください。

例

- [ファイルレピュテーションとファイル分析の有効化\(3-3 ページ\)](#)
- [パブリック クラウドのファイル分析サーバを使用するための E メール セキュリティ アプライアンスの設定\(3-4 ページ\)](#)
- [\(パブリック クラウドのファイル分析サーバのみ\)アプライアンス グループの設定\(3-4 ページ\)](#)
- [オンプレミスのファイル分析サーバを使用するための E メール セキュリティ アプライアンスの設定\(3-5 ページ\)](#)
- [ローカル ファイルのレピュテーション キャッシュのクリア\(3-6 ページ\)](#)

ファイルレピュテーションとファイル分析の有効化

```
mail.example.com> ampconfig

File Reputation: Disabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Advanced-Malware protection service.
[]> setup

File Reputation: Disabled
Would you like to use File Reputation? [Y]>

Would you like to use File Analysis? [Y]>

File types supported for File Analysis:

1. Microsoft Executables

Do you want to modify the file types selected for File Analysis? [N]>

Specify AMP processing timeout (in seconds)
[120]>

Advanced-Malware protection is now enabled on the system.
Please note: you must issue the 'policyconfig' command (CLI) or Mail
Policies (GUI) to configure advanced malware scanning behavior for
default and custom Incoming Mail Policies.
This is recommended for your DEFAULT policy.

File Reputation: Enabled
File Analysis: Enabled
File types selected for File Analysis:

1. Microsoft Executables

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Advanced-Malware protection service.
- ADVANCED - Set values for AMP parameters (Advanced configuration).
- CLEARCACHE - Clears the local File Reputation cache.
[]>
```

パブリッククラウドのファイル分析サーバを使用するためのEメールセキュリティアプライアンスの設定

```
mail.example.com> ampconfig

File Reputation: Enabled
File Analysis: Enabled
File types selected for File Analysis:
    Microsoft Windows / DOS Executable
Appliance Group ID/Name: Not part of any group yet

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Advanced-Malware protection service.
- ADVANCED - Set values for AMP parameters (Advanced configuration).
- CLEARCACHE - Clears the local File Reputation cache.
[]> advanced

Enter cloud query timeout?
[15]>

Enter cloud domain?
[cloud-domain.com]>

Enter reputation cloud server pool?
[cloud-server-pool.com]>

Do you want use the recommended reputation threshold from cloud service? [Y]>

Choose a file analysis server:
1. AMERICAS (https://americas-fa.com)
2. Private Cloud
[1]>
...
```

(パブリッククラウドのファイル分析サーバのみ)アプライアンスグループの設定

組織のすべてのコンテンツセキュリティアプライアンスで、組織内の任意のアプライアンスから分析用に送信されるファイルに関するクラウド内の詳細なファイル分析結果が表示されるようにするには、すべてのアプライアンスを同じアプライアンスグループに結合する必要があります。

詳細については、ユーザガイドの「File Reputation Filtering and File Analysis」を参照してください。

```
mail.example.com> ampconfig

File Reputation: Enabled
File Analysis: Enabled
File types selected for File Analysis:
    Microsoft Windows / DOS Executable
Appliance Group ID/Name: Not part of any group yet

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Advanced-Malware protection service.
- ADVANCED - Set values for AMP parameters (Advanced configuration).
- SETGROUP - Add this appliance to the group of appliances that can share File Analysis reporting details.
- CLEARCACHE - Clears the local File Reputation cache.
[]> setgroup

Does your organization have multiple Cisco Email, Web, and/or Content Security Management appliances? [N]> Y
```

```
Do you want this appliance to display detailed analysis reports for files uploaded to the
cloud from other appliances in your organization, and vice-versa? [Y]>
```

```
Enter an Analysis Group name.This name is case-sensitive and must be configured
identically on each appliance in the Analysis Group.
[]> FA_Reporting
```

```
Registration is successful with the group name.This does not require commit
File Reputation: Enabled
File Analysis: Enabled
File types selected for File Analysis:
    Microsoft Windows / DOS Executable
Appliance Group ID/Name: FA_Reporting
```

```
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Advanced-Malware protection service.
- ADVANCED - Set values for AMP parameters (Advanced configuration).
- VIEWGROUP - view the group members details.
- CLEARCACHE - Clears the local File Reputation cache.
[]>
```



(注)

アプライアンスグループの設定後は、`setgroup` サブコマンドを使用できません。グループを何らかの理由で変更する必要がある場合は、Cisco TAC に問い合わせる必要があります。
`viewgroup` サブコマンドを使用して、アプライアンスグループの詳細を表示できます。

オンプレミスのファイル分析サーバを使用するためのEメールセキュリティアプライアンスの設定

```
mail.example.com> ampconfig
```

```
File Reputation: Enabled
File Analysis: Enabled
File types selected for File Analysis:
    Microsoft Windows / DOS Executable
```

```
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Advanced-Malware protection service.
- ADVANCED - Set values for AMP parameters (Advanced configuration).
- CLEARCACHE - Clears the local File Reputation cache.
[]> advanced
```

```
Enter cloud query timeout?
[15]>
```

```
Enter cloud domain?
[a.immunet.com]>
```

```
Enter reputation cloud server pool?
[cloud-sa.amp.sourcefire.com]>
```

```
Do you want use the recommended reputation threshold from cloud service? [Y]>
```

```
Choose a file analysis server:
1. AMERICAS (https://panacea.threatgrid.com)
2. Private Cloud
[1]> 2
```

```
Enter file analysis server url?
[1]> https://mycloud.example.com

Certificate Authority:
1. Use Cisco Trusted Root Certificate List
2. Paste certificate to CLI
[1]>

Enter heartbeat interval?
[15]>

Do you want to enable SSL communication (port 443) for file reputation? [N]>

File Reputation: Enabled
File Analysis: Enabled
File types selected for File Analysis:
    Microsoft Windows / DOS Executable

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Advanced-Malware protection service.
- ADVANCED - Set values for AMP parameters (Advanced configuration).
- CLEARCACHE - Clears the local File Reputation cache.
[ ]>
```

ローカルファイルのレピュテーションキャッシュのクリア

```
mail.example.com> ampconfig

File Reputation: Enabled
File Analysis: Enabled
File types selected for File Analysis:
    Microsoft Windows / DOS Executable

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Advanced-Malware protection service.
- ADVANCED - Set values for AMP parameters (Advanced configuration).
- CLEARCACHE - Clears the local File Reputation cache.
[ ]> clearcache

Do you want to clear File Reputation Cache? [N]> y

Cache cleared successfully.
File Reputation: Enabled
File Analysis: Enabled
File types selected for File Analysis:
    Microsoft Windows / DOS Executable

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Advanced-Malware protection service.
- ADVANCED - Set values for AMP parameters (Advanced configuration).
- CLEARCACHE - Clears the local File Reputation cache.
[ ]>
```

Anti-Spam

ここでは、次のコマンドについて説明します。

- [antispamconfig](#)
- [antispamstatus](#)
- [antispamupdate](#)
- [incomingrelayconfig](#)

antispamconfig

説明

Anti-Spam ポリシーを設定します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次に、Anti-Spam 機能の設定例を示します。

```
mail3.example.com> antispamconfig

Choose the operation you want to perform:
- IRONPORT - Configure IronPort Anti-Spam.
- CLOUDMARK - Configure Cloudmark Service Provider Edition.
- MULTISCAN - Configure IronPort Intelligent Multi-Scan.
[]> ironport

IronPort Anti-Spam scanning: Disabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit IronPort Anti-Spam settings.
[]> setup

IronPort Anti-Spam scanning: Disabled
Would you like to use IronPort Anti-Spam scanning? [Y]> y

The IronPort Anti-Spam License Agreement is displayed (if you have not already accepted it).

Do you accept the above IronPort Anti-Spam license agreement? []> y

Increasing the following size settings may result in decreased performance. Please consult documentation for size recommendations based on your environment.

Never scan message larger than: (Add a trailing K for kilobytes, M for megabytes, or no letters for bytes.)
[1M]>
```

```

Always scan message smaller than: (Add a trailing K for kilobytes, M for megabytes, or no
letters for bytes.)
[512K]>

Please specify the IronPort Anti-Spam scanning timeout (in seconds)
[60]>

Would you like to enable regional scanning? [N]>

IronPort Anti-Spam scanning is now enabled on the system.Please note: you must issue the
'policyconfig' command (CLI) or Mail Policies (GUI) to configure
Cisco IronPort scanning behavior for default and custom Incoming and Outgoing Mail
Policies.This is recommended for your DEFAULT policy.

IronPort Anti-Spam scanning: Enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit IronPort Anti-Spam settings.
[ ]>

```

antisпамstatus

説明

Anti-Spam ステータスを表示します。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> antisпамstatus
```

```

Choose the operation you want to perform:
- IRONPORT - Display IronPort Anti-Spam version and rule information.
- CLOUDMARK - Display Cloudmark Service Provider Edition version and rule information.
- MULTISCAN - Display Intelligent Multi-Scan version and rule information.
[ ]> ironport

```

Component	Last Update	Version
CASE Core Files	Never updated	3.4.0-013
CASE Utilities	Never updated	3.4.0-013
Structural Rules	Never updated	3.3.1-009-20141210_214201
Web Reputation DB	Never updated	20141211_111021
Web Reputation Rules	Never updated	20141211_111021-20141211_170330
Content Rules	Never updated	unavailable
Content Rules Update	Never updated	unavailable

```
Last download attempt made on: Never
```

antispamupdate

説明

Anti-Spam ルールおよび関連する CASE コンポーネントの即時更新を手動で要求します。Intelligent Multi-Scan (IMS) が使用する Anti-Spam ルールおよび CASE コンポーネントも対象となります。ただし、IMS が使用するサードパーティ製アンチスパム エンジン対象外です。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> antispamupdate

Choose the operation you want to perform:
- MULTISCAN - Request updates for Intelligent Multi-Scan
- IRONPORT - Request updates for IronPort Anti-Spam
- CLOUDMARK - Request updates for Cloudmark Anti-Spam

[]> ironport

Requesting check for new CASE definitions
```

incomingrelayconfig

説明

incomingrelayconfig コマンドは、着信リレー機能をイネーブルにして設定するために使用します。次の例では、まず着信リレー機能をイネーブルにし、2つのリレーを追加してから、一方を変更し、もう一方を削除しています。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例:着信リレーのイネーブル化と設定

```
mail3.example.com> incomingrelayconfig

Incoming relays: Disabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit update configuration.
- RELAYLIST - Configure incoming relays.
[]> setup

This command helps your Cisco IronPort appliance determine the sender's
originating IP address.

You should ONLY enable this command if your Cisco IronPort appliance is NOT
directly connected to the Internet as the "first hop" in your email
infrastructure.

You should configure this feature if other MTAs or servers are configured at
your network's perimeter to relay mail to your Cisco IronPort appliance.

Do you want to enable and define incoming relays? [N]> y

Incoming relays: Enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit update configuration.
- RELAYLIST - Configure incoming relays.
[]> relaylist

There are no relays defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry
[]> new

Enter a name for this incoming relay (Ex: "first-hop")
[]> first-hop

Enter the IP address of the incoming relay. IPv4 and IPv6 addresses are supported.

For IPv4, CIDR format subnets such as 10.1.1.0/24, IP address ranges such as 10.1.1.10-20,
and subnets such as 10.2.3. are allowed.

For IPv6, CIDR format subnets such as 2001:db8::/32 and IP address ranges such as
2001:db8::1-2001:db8::11 are allowed.

Hostnames such as crm.example.com and partial hostnames such as .example.com are allowed.
[]> 192.168.1.1

Do you want to use the "Received:" header or a custom header to determine the originating
IP address?
1. Use "Received:" header
2. Use a custom header
[1]> 1

Within the "Received:" header, enter the special character or string after which to begin
parsing for the originating IP address:
[from]> [

Within the headers, enter the position of the "Received:" header that contains the
originating IP address:
[1]> 1
```

There is 1 relay defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry
- EDIT - Modify an entry
- DELETE - Remove an entry
- PRINT - Display the table

[> **print**

Incoming	Header	Match	Hops:
relay name:	to parse:	after:	
-----	-----	-----	-----
first-hop	192.168.1.1	Received	[1

There is 1 relay defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry
- EDIT - Modify an entry
- DELETE - Remove an entry
- PRINT - Display the table

[> **new**

Enter a name for this incoming relay (Ex: "first-hop")

[> **second-hop**

Enter the IP address of the incoming relay. IPv4 and IPv6 addresses are supported.

For IPv4, CIDR format subnets such as 10.1.1.0/24, IP address ranges such as 10.1.1.10-20, and subnets such as 10.2.3. are allowed.

For IPv6, CIDR format subnets such as 2001:db8::/32 and IP address ranges such as 2001:db8::1-2001:db8::11 are allowed.

Hostnames such as crm.example.com and partial hostnames such as .example.com are allowed.

[> **192.168.1.2**

Do you want to use the "Received:" header or a custom header to determine the originating IP address?

1. Use "Received:" header
2. Use a custom header

[1]> **2**

Enter the custom header name that contains the originating IP address:

[> x-Connecting-IP

There are 2 relays defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry
- EDIT - Modify an entry
- DELETE - Remove an entry
- PRINT - Display the table

[> **print**

Incoming	Header	Match	Hops:
relay name:	to parse:	after:	
-----	-----	-----	-----
first-hop	192.168.1.1	Received	[1
second-hop	192.168.1.2	x-Connecting-IP	n/a n/a

There are 2 relays defined.

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry
- EDIT - Modify an entry
- DELETE - Remove an entry
- PRINT - Display the table
[ ]> delete

1. first-hop:      192.168.1.1
2. second-hop:    192.168.1.2
Enter the number of the entry you wish to delete:
[1]> 1

Incoming relay "first-hop" deleted.

There is 1 relay defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry
- EDIT - Modify an entry
- DELETE - Remove an entry
- PRINT - Display the table
[ ]>

```

slblconfig

説明

エンド ユーザのセーフリスト/ブロック リストを設定します。



(注)

セーフリスト/ブロック リストを GUI を使用してアプライアンスでイネーブルにし、このコマンドを実行する必要があります。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式 - インポート

バッチ形式

エンド ユーザのセーフリスト/ブロック リストすべてのエントリを、指定のファイルの現在のエントリと置き換えます。

```
slblconfig import <filename> <ignore invalid entries>
```

- filename - インポートしなければならないファイルの名前。ファイルは、アプライアンスの /configuration ディレクトリに格納する必要があります。
- ignore invalid entries - 無効なエントリを無視するかどうかを指定します。「はい(Yes)」または「いいえ(No)」。

バッチ形式 - エクスポート

エンド ユーザのセーフリスト/ブロックリストすべてのエントリをアプライアンスのファイルにエクスポートします。

```
slblconfig export
```

アプライアンスは、次の命名規則を使用して /configuration ディレクトリに CSV ファイルを保存します。

```
slbl<timestamp><serial number>.csv.
```

例: セーフリスト/ブロック リスト エントリのインポート

```
mail.example.com> slblconfig

End-User Safelist/Blocklist: Enabled

Choose the operation you want to perform:
- IMPORT - Replace all entries in the End-User Safelist/Blocklist.
- EXPORT - Export all entries from the End-User Safelist/Blocklist.
[]> import

Currently available End-User Safelist/Blocklist files:
1. slbl.csv
Choose the file to import from.
[1]> 1

Do you want to ignore invalid entries? [Y]> Y

End-User Safelist/Blocklist import has been initiated...
Please wait while this operation executes.

End-User Safelist/Blocklist successfully imported.

Choose the operation you want to perform:
- IMPORT - Replace all entries in the End-User Safelist/Blocklist.
- EXPORT - Export all entries from the End-User Safelist/Blocklist.
[]>
```

グレイメールの検出と安全な配信停止

タスク	コマンド
グレイメールの検出と安全な配信停止のグローバル設定	<code>graymailconfig</code>
グレイメールの検出と安全な配信停止の着信メールポリシーの設定	<code>policyconfig</code>
既存のグレイメール ルールの詳細の表示	<code>graymailstatus</code>
手動でグレイメール ルールの更新の要求	<code>graymailupdate</code>

graymailconfig

説明

グレイメール検出と安全な配信停止のグローバル設定を設定します。



(注) グレイメール検出と安全な配信停止を有効にするには、アンチスパム スキャンをグローバルに有効にする必要があります。これは、IronPort Anti-Spam または Intelligent Multi-Scan 機能のいずれかになります。

グレイメール検出と安全な配信停止のポリシー設定を設定するには、`policyconfig` コマンドを使用します。詳細については、[一括 E メールまたはソーシャル ネットワークの E メールであると識別されたメッセージをドロップする着信ポリシーの作成\(3-221 ページ\)](#)を参照してください。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしています。詳細については、`help graymailconfig` コマンドを入力して、インライン ヘルプを参照してください。

例

```
Graymail Detection: Disabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Graymail.
[ ]> setup

Would you like to use Graymail Detection? [Y]>

Increasing the following size settings may result in decreased performance.
Please consult documentation for size recommendations based on your
environment.

Maximum Message Size to Scan (Add a trailing K for kilobytes, M for megabytes,
or no letters for bytes.):
[1M]>

Timeout for Scanning Single Message(in seconds):
[60]>

Graymail Safe Unsubscribe: Disabled
Would you like to use Graymail Safe Unsubscribe? [Y]>

Graymail Detection and Safe Unsubscribe is now enabled.Please note: The global
settings are recommended only for your DEFAULT mail policy.To configure policy
settings, use the incoming or outgoing policy page on web interface or the
'policyconfig' command in CLI.
```

graymailstatus

説明

既存のグレイメール ルールの詳細を表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> graymailstatus
```

Component	Version	Last Updated
Graymail Library	01.378.53#15	Never updated
Graymail Tools	1.0	Never updated

graymailupdate

説明

手動でグレイメール ルールの更新を要求します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> graymailupdate
```

```
Requesting check for new Graymail updates.
```

アンチウイルス

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [antivirusconfig](#)
- [antivirusstatus](#)
- [antivirusupdate](#)

antivirusconfig

説明

Anti-Virus ポリシーを設定します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次の例では、antivirusconfig コマンドを使用して、システム上で Sophos ウイルス スキャンをイネーブルにし、タイムアウト値を 60 秒に設定しています。アップデート サーバ、アップデート間隔、およびオプションのプロキシ サーバを設定する方法については、「updateconfig」(114 ページ) を参照してください。



(注)

systemsetup コマンドの実行時にライセンス契約に同意しなかった場合、antivirusconfig コマンドを初めて実行するときにライセンス契約書が表示されます。ライセンス契約に同意しなければ、Sophos ウイルス スキャン エンジン はアプライアンスでイネーブルになりません。

```
mail3.example.com> antivirusconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SOPHOS - Configure Sophos Anti-Virus.
- MCAFEE - Configure McAfee Anti-Virus.
[]> sophos
```

```
Sophos Anti-Virus: Disabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Configure Sophos Anti-Virus.
[]> setup
```

```
Sophos Anti-Virus scanning: Disabled
```

```
Would you like to use Sophos Anti-Virus scanning? [Y]> y
```

(ここに初めてライセンス契約書が表示されます。)

```

Please specify the Anti-Virus scanning timeout (in seconds)
[60]> 60

Sophos Anti-Virus scanning is now enabled on the system.

Please note: you must issue the 'policyconfig' command (CLI) or Mail
Policies (GUI) to configure Sophos Anti-Virus scanning behavior for default and custom
Incoming and Outgoing Mail Policies.
This is recommended for your DEFAULT policy.

Sophos Anti-Virus: Enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Sophos Anti-Virus.
[]>

```

Anti-Virus IDE の詳細の表示

AsyncOS では、アプライアンスがダウンロードしたアンチウイルス シグニチャ (IDE ファイル) の詳細なステータスを確認できます。この詳細を表示するには、`antivirusconfig -> detail` サブコマンドを使用します。次に例を示します。

```

mail3.example.com> antivirusconfig

Choose the operation you want to perform:
- SOPHOS - Configure Sophos Anti-Virus.
- MCAFEE - Configure McAfee Anti-Virus.
[]> sophos

Sophos Anti-Virus: Enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure Sophos Anti-Virus.
- STATUS - View Sophos Anti-Virus status.
- DETAIL - View Sophos Anti-Virus detail.
[]> detail

Sophos Anti-Virus:

Product - 3.87
Engine - 2.25.0
Product Date - 01 Nov 2004

Sophos IDEs currently on the system:

'Mkar-E.Ide'           Virus Sig.- 23 Dec 2004 01:24:02
'Rbot-Sd.Ide'          Virus Sig.- 22 Dec 2004 19:10:06
'Santy-A.Ide'          Virus Sig.- 22 Dec 2004 06:16:32
'Bacbanan.Ide'         Virus Sig.- 21 Dec 2004 18:33:58
'Rbot-Sb.Ide'          Virus Sig.- 21 Dec 2004 14:50:46
'Rbotry.Ide'           Virus Sig.- 21 Dec 2004 06:13:40
'Sdbot-Si.Ide'         Virus Sig.- 20 Dec 2004 20:52:04
'Oddbob-A.Ide'         Virus Sig.- 19 Dec 2004 23:34:06
'Rbot-Rw.Ide'          Virus Sig.- 19 Dec 2004 00:50:34
'Worltd.Ide'           Virus Sig.- 18 Dec 2004 07:02:44
'Delf-Jb.Ide'          Virus Sig.- 17 Dec 2004 22:32:08
(...コマンドは続きます...)

```

antivirusstatus

説明

Anti-Virus ステータスを表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> antivirusstatus

Choose the operation you want to perform:
- MCAFEE - Display McAfee Anti-Virus version information
- SOPHOS - Display Sophos Anti-Virus version information
[]> sophos

      SAV Engine Version      3.85
      IDE Serial              2004101801
Engine Update      Mon Sep 27 14:21:25 2004
Last IDE Update    Mon Oct 18 02:56:48 2004
Last Update Attempt      Mon Oct 18 11:11:44 2004
Last Update Success     Mon Oct 18 02:56:47 2004
```

antivirusupdate

説明

ウイルス定義を手動で更新します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> antivirusupdate

Choose the operation you want to perform:
- MCAFEE - Request updates for McAfee Anti-Virus
- SOPHOS - Request updates for Sophos Anti-Virus
[]> sophos

Requesting update of virus definitions
mail3.example.com>
```

コマンドラインの管理

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [commit](#)
- [commitdetail](#)
- [clearchanges](#) または [clear](#)
- [help](#) または [h](#) または ?
- [rollbackconfig](#)
- [quit](#) または [q](#) または [exit](#)

commit

説明

変更を確定します。`commit` コマンドの後のコメントの入力は任意です。

使用方法

確定: 該当なし

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:

[]> Changed "psinet" IP Interface to a different IP ad dress

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

commitdetail

説明

最後の確定に関する詳細情報を表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシンモード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチコマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> commitdetail

Commit at Mon Apr 18 13:46:28 2005 PDT with comments: "Enabled loopback".
mail3.example.com>
```

clearchanges または clear

説明

clear コマンドは、commit または clear コマンドが最後に実行された以降に設定に対して行われた変更をすべてクリアします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシンモード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチコマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> clear

Are you sure you want to clear all changes since the last commit? [Y]> y

Changes cleared: Mon Jan 01 12:00:01 2003
mail3.example.com>
```

help または h または ?

説明

help コマンドを実行すると、使用可能なすべての CLI コマンドが表示され、各コマンドの簡単な説明を参照できます。help コマンドは、コマンド プロンプトで help と入力するか、疑問符(?)を1つ入力して実行できます。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> help
Displays the list of all available commands.
```

rollbackconfig

rollbackconfig コマンドを使用すると、直前に確定した 10 の設定のうち 1 つをロールバックできます。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> rollbackconfig

Previous Commits:
-----
      Committed On              User              Description
-----
1. Fri May 23 06:53:43 2014    admin              new user
2. Fri May 23 06:50:57 2014    admin              rollback
3. Fri May 23 05:47:26 2014    admin
4. Fri May 23 05:45:51 2014    admin              edit user

Enter the number of the config to revert to.
[]> 2

Are you sure you want to roll back the configuration? [N]> y

Reverted to Fri May 23 06:50:57 2014      admin              rollback
Do you want to commit this configuration now? [N]> y

Committed the changes successfully
```

quit または q または exit

説明

quit コマンドを実行すると、CLI アプリケーションからログアウトします。確定されていない設定変更はクリアされます。quit コマンドは電子メール操作には影響しません。ログアウトはログファイルに記録されず(exit の入力は、quit の入力と同じです)。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> quit
```

```
Configuration changes entered but not committed.Exiting will lose changes.  
Type 'commit' at the command prompt to commit changes.  
Are you sure you wish to exit? [N]> Y
```

コンフィギュレーションファイルの管理

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [loadconfig](#)
- [mailconfig](#)
- [resetconfig](#)
- [saveconfig](#)
- [showconfig](#)

loadconfig

説明

コンフィギュレーション ファイルをロードします。



(注)

クラスタ化されたマシンへの設定のロードは GUI を使用する場合にのみサポートされます。手順については、『*User Guide for AsyncOS for Cisco Email Security Appliances*』を参照してください。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できません。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

この例では、新しいコンフィギュレーション ファイルをローカルな場所からインポートします。

```
mail3.example.com> loadconfig

1. Paste via CLI
2. Load from file
[1]> 2

Enter the name of the file to import:
[]> changed.config.xml

Values have been loaded.
Be sure to run "commit" to make these settings active.
mail3.example.com> commit
Please enter some comments describing your changes:
[]> loaded new configuration file

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

この例では、新しい設定ファイルをコマンド ラインに直接貼り付けます(空白行で Ctrl+D を押すと貼り付けコマンドが終了します)。次に、システム セットアップ ウィザードを使用して、デフォルトのホスト名、IP アドレス、およびゲートウェイ情報を変更します。最後に、変更を確定します。

```
mail3.example.com> loadconfig

1. Paste via CLI
2. Load from file
[1]> 1

Paste the configuration file now.
Press CTRL-D on a blank line when done.

[The configuration file is pasted until the end tag </config>. Control-D is entered on a
separate line.]

Values have been loaded.
Be sure to run "commit" to make these settings active.
mail3.example.com> systemsetup

[The system setup wizard is run.]

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> pasted new configuration file and changed default settings via
systemsetup

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

mailconfig

説明

設定をテストする際は、mailconfig コマンドを使用して、systemsetup コマンドで作成したばかりのシステム設定データを含むテスト電子メールをただちに送信できます。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> mailconfig
```

```
Please enter the email address to which you want to send the configuration file.
Separate multiple addresses with commas.
[]> user@example.com
```

```
Choose the password option:
```

1. Mask passwords (Files with masked passwords cannot be loaded using loadconfig command)
 2. Encrypt passwords
 3. Plain passwords
- ```
[1]> 2
```

```
The configuration file has been sent to user@example.com.
```

利用可能なメールボックスに設定を送信して、システムでネットワーク上に電子メールを送信できることを確認します。

## resetconfig

### 説明

アプライアンスを物理的に移動する際、出荷時の初期状態で始めなければならない場合があります。resetconfig コマンドは、すべての設定値を出荷時の初期状態にリセットします。このコマンドを実行すると元に戻せないため、ユニットを移動する場合や、設定の問題を解決する最後の手段としてのみ使用してください。resetconfig コマンドの実行後に CLI に再接続してから systemsetup コマンドを実行することを推奨します。



(注)

resetconfig コマンドは、アプライアンスがオフライン状態にあるときにのみ動作します。resetconfig コマンドが完了すると、systemsetup コマンドを再び実行する前であってもアプライアンスは自動的にオンライン状態に戻ります。resetconfig コマンドを実行する前に電子メールの送信が中断された場合は、resetconfig コマンドが完了したときに電子メールの送信が再試行されます。



## 警告

`resetconfig` コマンドを実行すると、すべてのネットワーク設定が出荷時デフォルト値に戻ります。場合によっては、CLI から切断され、アプライアンスに接続するために使用したサービス (FTP、Telnet、SSH、HTTP、HTTPS) がディセーブルにされ、`userconfig` コマンドで作成した追加のユーザアカウントが削除されます。このコマンドは、シリアル インターフェイスを使用するか、またはデフォルトの Admin ユーザアカウントから管理ポート上のデフォルト設定を使用して CLI に再接続できない場合は使用しないでください。

## 使用方法

**確定:** このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:** このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail3.example.com> suspend

Delay (seconds, minimum 30):
[30]> 45

Waiting for listeners to exit...
Receiving suspended.
Waiting for outgoing deliveries to finish...
Mail delivery suspended.

mail3.example.com> resetconfig

Are you sure you want to reset all configuration values? [N]> Y

All settings have been restored to the factory default.
```

## saveconfig

### 説明

`saveconfig` コマンドは、一意のファイル名を使用してコンフィギュレーション ファイルを configuration ディレクトリに保存します。



## (注)

クラスタ化した環境の場合、このコマンドは、完全なクラスタ設定を保存します。クラスタ化したマシンでこのコマンドを実行するには、コンフィギュレーション モードをクラスタに変更します。

## 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

次の例では、コンフィギュレーション ファイルのパスワードは暗号化され、configuration ディレクトリに保存されます。

```
mail.example.com> saveconfig
```

```
Choose the password option:
```

1. Mask passwords (Files with masked passwords cannot be loaded using loadconfig command)
  2. Encrypt passwords
  3. Plain passwords
- ```
[1]> 2
```

```
File written on machine "mail.example.com" to the location
"/configuration/C100V-4232116C4E14C70C4C7F-7898DA3BD955-20140319T050635.xml".
Configuration saved.
```

showconfig

説明

showconfig コマンドは現在の設定を画面に出力します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次の例では、設定が CLI に表示され、設定のパスワードは暗号化されています。

```
mail.example.com> showconfig
```

```
Choose the password display option:
```

1. Mask passwords (Files with masked passwords cannot be loaded using loadconfig command)
 2. Encrypt passwords
 3. Plain passwords
- ```
[1]> 2
```

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<!DOCTYPE config SYSTEM "config.dtd">
```

```

<!--
Product: Cisco C100V Email Security Virtual Appliance
Model Number: C100V
Version: 9.0.0-038
Serial Number: 4232116C4E14C70C4C7F-7898DA3BD955
Number of CPUs: 2
Memory (MB): 6144
Current Time: Wed Mar 19 05:30:05 2014
-->
<config>
<!--

* Network Configuration *

-->
[The remainder of the configuration file is printed to the screen.]

```

## クラスタの管理

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [clusterconfig](#)

### clusterconfig

#### 説明

`clusterconfig` コマンドは、クラスタ関連の設定を指定するために使用します。クラスタに属していないマシンで `clusterconfig` を実行した場合は、既存のクラスタに参加するか、新しいクラスタを作成するかを選択できます。

`clusterconfig` コマンドには、次のサブコマンドが用意されています。

#### 非クラスタ コマンド

次のコマンドは、クラスタに属していない場合に使用できます。

- `clusterconfig new <name>`: 指定された名前 で新しいクラスタを作成します。このマシンは、このクラスタおよび「Main Group」と呼ばれるデフォルトのクラスタグループのメンバになります。  
 <name>: 新しいクラスタの名前。
- `clusterconfig join [--port=xx] <ip_of_remote_cluster> [<admin_password>]<groupname>`: このマシンをクラスタに追加します。  
 <ip\_of\_remote\_cluster>: クラスタ内の別のマシンの IP アドレス。  
 <admin\_password >: クラスタの admin パスワード。CCS を使用してクラスタに参加する場合、このパラメータを指定する必要はありません。  
 <groupname>: 参加するグループの名前。  
 <port>: 接続するリモート マシンのポート (デフォルトは 22)。
- `clusterconfig prepjoin print`  
 このマシンを CCS ポート経由でクラスタに参加させるための準備に必要な情報を表示します。

### クラスタ コマンド

次のコマンドは、クラスタに属している場合に使用できます。

- `clusterconfig addgroup <groupname>`:新しいクラスタ グループを作成します。グループはメンバが含まれていない空の状態で作成されます。
- `clusterconfig renamegroup <old_groupname> <new_groupname>`:クラスタ グループの名前を変更します。
- `clusterconfig deletegroup <groupname> [new_groupname]`:クラスタ グループを削除します。  
     <groupname>:削除するクラスタ グループの名前。  
     <new\_groupname>:元のグループのマシンを追加するクラスタ グループ。
- `clusterconfig setgroup <machinename> <groupname>`:マシンが属するグループを設定(または変更)します。  
     <machinename>:設定するマシンの名前。  
     <groupname>:マシンを設定するグループ。
- `clusterconfig removemachine <machinename>`:クラスタからマシンを削除します。
- `clusterconfig setname <name>`:クラスタの名前を指定された名前に変更します。
- `clusterconfig list`:現在クラスタに属しているすべてのマシンを表示します。
- `clusterconfig connstatus`:現在クラスタに属しているすべてのマシンを表示し、切断されたマシンのルーティングの詳細を追加します。
- `clusterconfig disconnect <machinename>`:マシンを一時的にクラスタから切断します。  
     <machinename>:切断するマシンの名前。
- `clusterconfig reconnect <machinename>`:「disconnect」コマンドによって切断されていたマシンとの接続を復元します。
- `clusterconfig prepjoin new <serial_number> <hostname> <user_key>`:CCS ポート経由でクラスタに参加する新しいホストを追加します。  
     <serial\_number>:追加するマシンのシリアル番号。  
     <hostname>:追加するマシンのホスト名。  
     <user\_key>:「prepjoin print」コマンドによって取得された、追加するマシンのSSH ユーザ キー。
- `clusterconfig prepjoin delete <serial_number|hostname>`:追加対象として指定されていたホストを「prepjoin new」コマンドから削除します。このパラメータが必要となるのは、後でホストを追加しないことにした場合だけです。ホストが正常にクラスタに追加されると、そのホストの prepjoin 情報が自動的に削除されます。

## 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはクラスタ モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

clusterconfig コマンドとその使用方法の説明については、『*User Guide for AsyncOS for Cisco Email Security Appliances*』を参照してください。

# データ損失の防止

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [dlprolback](#)
- [dlpstatus](#)
- [dlpupdate](#)
- [emconfig](#)
- [emdiagnostic](#)

## dlprolback

### 説明

以前のバージョンへのロールバック DLP エンジンと設定。



(注)

dlprolback コマンドを使用する前に、GUI の DLP Global Settings ページで DLP を設定しておく必要があります。



警告

このコマンドは、古い DLP ポリシーにアプライアンスを返します。DLP スキャンの再起動を可能にするには、発信メール ポリシーの DLP ポリシーを再度イネーブルにする必要があります。

## 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドは、クラスタ、グループ、またはマシンの各モードで使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail.example.com> dlprollback
```

```
This will revert to older DLP policies.
```

```
IMPORTANT: After rollback, you must re-enable DLP policies in Outbound Mail Policies so that DLP scanning can be resumed successfully.
```

```
Do you wish to rollback? [N]> Y
```

```
Requesting rollback for DLP engine.
```

```
Re-enable DLP policies in Outbound Mail Policies when rollback is completed (Please check rollback status in mail logs)
```

## dlpstatus

DLP エンジンの要求バージョン情報。



(注)

dlpstatus コマンドを使用する前に、GUI の DLP Global Settings ページで DLP を設定しておく必要があります。

## 使用方法

**確定:** このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:** このコマンドは、クラスタ、グループ、またはマシンの各モードで使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail.example.com> dlpstatus
```

| Component      | Version  | Last Updated  |
|----------------|----------|---------------|
| RSA DLP Engine | 3.0.2.31 | Never updated |

## dlpupdate

### 説明

RSA DLP エンジンの更新。



(注)

dlpupdate コマンドを使用する前に、GUI の DLP Global Settings ページで DLP を設定しておく必要があります。

## 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドは、クラスタ、グループ、またはマシンの各モードで使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

変更が検出されない場合でも `dlpupdate` コマンドのバッチ形式が DLP エンジンを一時的に更新します。

```
dlpupdate [force]
```

## 例

```
mail.example.com> dlpupdate
Checking for available updates.This may take a few seconds..
Could not check for available updates.Please check your Network and Service Updates
settings and retry.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Enable or disable automatic updates for DLP Engine.
[]> setup

Automatic updates for DLP are disabled
Do you wish to enable automatic updates for DLP Engine? [N]> y

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Enable or disable automatic updates for DLP Engine.
[]>
```

## emconfig

### 説明

RSA Enterprise Manager の相互運用性を設定します。



(注)

`emconfig` コマンドを使用する前に、GUI の DLP Global Settings ページで RSA Enterprise Manager を設定しておく必要があります。CLI では、この機能をイネーブルにすることはできず、既存の設定の編集のみが可能です。

## 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドは、クラスタ、グループ、またはマシンの各モードで使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## バッチ形式

E メール セキュリティ アプライアンスと RSA Enterprise Manager との接続を設定するには:

```
emconfig setup [options]
```

**表 3-1** *emconfig* のセットアップ オプション

| オプション                      | 説明                                                                                |
|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| <code>--remote_host</code> | RSA Enterprise Manager のホスト名または IP アドレス。                                          |
| <code>--remote_port</code> | RSA Enterprise Manager に接続するポート。                                                  |
| <code>--local_port</code>  | ESA 上で Enterprise Manager に接続するポート。                                               |
| <code>--enable_ssl</code>  | RSA Enterprise Manager との SSL 通信をイネーブルにします。<br>イネーブルにするには 1、ディセーブルにするには 0 を使用します。 |

## RSA Enterprise Manager への接続の例

```
vm10esa0031.qa> emconfig

RSA Enterprise Manager connection status is: "UNKNOWN"

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit RSA Enterprise Manager interop config.
[]> setup

RSA Enterprise Manager: test.example.com:20000
Local port for EM to connect to: 20002
SSL Communication to RSA EM: disabled
Enter hostname of RSA Enterprise Manager:
[test.example.com]> em.example.com

Enter port number of RSA Enterprise Manager:
[20000]>

Enter local port for EM to connect:
[20002]>

Enable SSL communication to EM [N]>

Advanced Settings:
 RSA Enterprise Manager GUID: emlocalsite
 Device Vendor name: Cisco Systems
```

```
Device Status Interval: 5 seconds
Polling Cycle Interval: 30 seconds
Connection Throttle Interval: 0 milliseconds
Max event archive size: 31457280 bytes
Max files in event archive: 50
Max file size in event archive: 10485760 MB
Max size of event.xml file: 1048576 MB
Interoperability subsystem heartbeat interval: 500 milliseconds
Heartbeat service attempts before failing: 3
Connection timeout duration: 30 seconds
Command status timeout duration: 30 seconds
Max chunk size: 1000
Msg exchange cycle: 1
Do you want to change advanced settings? [N]>
```

```
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit RSA Enterprise Manager interop config.
[]>
```

## emdiagnostic

### 説明

ESA の RSA EM の診断ツール。

### 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## S/MIME セキュリティ サービス

### smimeconfig

### 説明

送信プロファイル、公開キーの設定など、S/MIME の設定を設定します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

- [署名と暗号化のための送信プロファイルの作成 \(3-34 ページ\)](#)
- [暗号化の公開キーの追加 \(3-35 ページ\)](#)

## 署名と暗号化のための送信プロファイルの作成

次の例では、S/MIME を使用する署名および暗号化メッセージの送信プロファイルを作成方法を示しています。

```
mail.example.com> smimeconfig

Choose the operation you want to perform:
- GATEWAY - Manage S/MIME gateway configuration.
[]> gateway

Choose the operation you want to perform:
- VERIFICATION - Manage S/MIME Public Keys.
- SENDING - Manage S/MIME gateway sending profiles.
[]> sending

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new S/MIME sending profile.
- EDIT - Edit a S/MIME sending profile.
- RENAME - Rename a S/MIME sending profile.
- DELETE - Delete a S/MIME sending profile.
- IMPORT - Import a S/MIME sending profile from a file
- EXPORT - Export a S/MIME sending profile to a file
- PRINT - Display S/MIME sending profiles.
[]> new

Enter a name for this profile:
> hr_sign_and_encrypt

1. Encrypt
2. Sign
3. Sign/Encrypt
4. Triple
Enter S/MIME mode:
[2]> 3

1. smime_signing

Select S/MIME certificate to sign:
[1]>

1. Detached
2. Opaque
Enter S/MIME sign mode:
[1]>

1. Bounce
2. Drop
3. Split
Enter S/MIME action:
[1]> 3

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new S/MIME sending profile.
- EDIT - Edit a S/MIME sending profile.
- RENAME - Rename a S/MIME sending profile.
- DELETE - Delete a S/MIME sending profile.
```

```

- IMPORT - Import a S/MIME sending profile from a file
- EXPORT - Export a S/MIME sending profile to a file
- PRINT - Display S/MIME sending profiles.
[]> print

S/MIME Sending Profiles
Name Certificate S/MIME Mode Sign Mode Action

hr_sign_a smime_signing Sign/Encrypt Detached Split

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new S/MIME sending profile.
- EDIT - Edit a S/MIME sending profile.
- RENAME - Rename a S/MIME sending profile.
- DELETE - Delete a S/MIME sending profile.
- IMPORT - Import a S/MIME sending profile from a file
- EXPORT - Export a S/MIME sending profile to a file
- PRINT - Display S/MIME sending profiles.
[]>

```

### 暗号化の公開キーの追加

次に、メッセージの暗号化のために、アプライアンスに受信者の S/MIME 証明書の公開キーを追加する例を示します。

```

mail.example.com> smimeconfig

Choose the operation you want to perform:
- GATEWAY - Manage S/MIME gateway configuration.
[]> gateway

Choose the operation you want to perform:
- VERIFICATION - Manage S/MIME Public Keys.
- SENDING - Manage S/MIME gateway sending profiles.
[]> verification

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new S/MIME Public Key.
- IMPORT - Import the list of S/MIME Public Keys from a file.
[]> new

Enter a name for this profile:
> hr_signing

1. Import
2. Paste
Choose one of the options for the certificate introducing:
[2]>

Paste public certificate in PEM format (end with '.'):
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDdDCCALygAwIBAgIBDTANBgkqhkiG9w0BAQUFADCB1jELMAkGA1UEBhMCSU4x
CzAJBgNVBAG...
-----END CERTIFICATE-----
.
C=IN,ST=KA,L=BN,O=Cisco,OU=stg,CN=cert_for_enc,emailAddress=admin@example.com

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new S/MIME Public Key.
- EDIT - Edit a S/MIME Public Key.
- RENAME - Rename a S/MIME Public Key.
- DELETE - Delete a S/MIME Public Key.
- IMPORT - Import the list of S/MIME Public Keys from a file.

```

```
- EXPORT - Export the list of S/MIME Public Keys to a file.
- PRINT - Display S/MIME Public Keys.
[]> print
```

```
S/MIME Public Keys
Name Emails Domains Remaining

hr_signin admin@vm30bsd0008.ibqa dns.vm30bsd0008.ibqa 145 days
```

## ドメインキー

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [domainkeysconfig](#)

## domainkeysconfig

### 説明

DomainKeys/DKIM のサポートを設定します。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### バッチ形式:署名プロファイル

domainkeysconfig コマンドのバッチ形式は、署名プロファイルの作成、編集、または削除で使用できます。

- DomainKeys/DKIM 署名プロファイルの追加

```
domainkeysconfig profiles signing new <name> <type> <domain>
<selector> <user-list> [options]
```

表 3-2 domainkeysconfig の新しい署名プロファイル引数

| 引数       | 説明                                                    |
|----------|-------------------------------------------------------|
| <name>   | ドメイン プロファイルの名前。                                       |
| <type>   | ドメインのタイプ。dk または dkim です。                              |
| <domain> | ドメイン プロファイルのドメイン フィールド。これは、DomainKeys 署名の a タグを形成します。 |

表 3-2 domainkeysconfig の新しい署名プロファイル引数(続き)

| 引数               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <selector>       | ドメインプロファイルのセレクタフィールド。これは、DomainKeys 署名の s タグを形成します。                                                                                                                                                                                                                     |
| <user-list>      | ドメインプロファイルユーザのカンマ区切りリスト。ユーザは、特定のドメインプロファイルを使用して電子メールに署名する必要があるかどうかを判断するために、電子メールアドレスとの照合に使用されます。すべてのドメインユーザと一致させるには、特別なキーワード all を使用します。                                                                                                                                |
| <b>[options]</b> |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| --key_name       | 署名に使用する秘密キーの名前。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| --canon          | DK で署名するとき使用する標準化アルゴリズム。現在サポートされているアルゴリズムは simple と nofws です。デフォルトは nofws です。                                                                                                                                                                                           |
| --body_canon     | DKIM で署名するとき使用する、本文の標準化アルゴリズム。現在サポートされているアルゴリズムは simple と relaxed です。デフォルトは simple です。                                                                                                                                                                                  |
| --header_canon   | DKIM で署名するとき使用する、ヘッダーの標準化アルゴリズム。現在サポートされているアルゴリズムは simple と relaxed です。デフォルトは simple です。                                                                                                                                                                                |
| --body_length    | 署名の計算に使用する、標準化した本文のバイト数。DKIM プロファイルでのみ使用します。この値は、使用すると署名の i タグになります。デフォルトでは使用されません。                                                                                                                                                                                     |
| --headers_select | 署名のヘッダーを選択する方法を指定します。DKIM プロファイルでのみ使用します。all、standard、standard_and_custom のいずれかです。all はすべての非反復ヘッダーに署名することを意味します。standard は、Subject、From、To、Sender、MIME などの既知のヘッダーの事前定義のセットに署名することを意味します。standard_and_custom は、既知のヘッダーおよびユーザ定義のヘッダーのセットに署名することを意味します。デフォルトは standard です。 |
| --custom_headers | 署名するヘッダーのユーザ定義セット。headers_select が standard_and_custom の場合に、DKIM プロファイルでのみ使用します。デフォルトは空のセットです。                                                                                                                                                                          |
| --i_tag          | 署名に i タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は yes または no です。デフォルトは yes です。                                                                                                                                                                                                            |

表 3-2 domainkeysconfig の新しい署名プロファイル引数(続き)

| 引数                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>--agent_identity</code>  | ユーザまたはユーザの代わりにこのメッセージに署名する代理人の ID。構文は標準の電子メールアドレスですが、ローカル部分は省略してもかまいません。このアドレスのドメイン部分は、<domain> またはそのサブドメインとする必要があります。このオプションは、 <code>--i_tag</code> の値を <code>yes</code> に設定している場合にのみ適用されます。デフォルトは、ローカル部分を空にして、その後に <code>@</code> と <domain> を続けて記述した値です。 |
| <code>--q_tag</code>           | 署名に <code>q</code> タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は <code>yes</code> または <code>no</code> です。デフォルトは <code>yes</code> です。                                                                                                                                            |
| <code>--t_tag</code>           | 署名に <code>t</code> タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は <code>yes</code> または <code>no</code> です。デフォルトは <code>yes</code> です。                                                                                                                                            |
| <code>--x_tag</code>           | 署名に <code>x</code> タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は <code>yes</code> または <code>no</code> です。デフォルトは <code>yes</code> です。                                                                                                                                            |
| <code>--expiration_time</code> | 署名が失効するまでの時間(秒)です。DKIM プロファイルでのみ使用します。この値は、署名の <code>x</code> タグと <code>t</code> タグの差になります。このオプションは、 <code>--x_tag</code> の値を <code>yes</code> に設定している場合にのみ適用されます。デフォルトは 31536000 秒(1年)です。                                                                  |
| <code>--z_tag</code>           | 署名に <code>z</code> タグを追加するかどうかを指定します。指定できる値は <code>yes</code> または <code>no</code> です。デフォルトは <code>no</code> です。                                                                                                                                             |

- 署名プロファイルの編集:

```
domainkeysconfig profiles signing edit <name>
[signing-profile-options]
```

署名プロファイルのオプション:

- rename <name>
- domain <domain>
- selector <selector>
- canonicalization <canon>
- canonicalization <header\_canon> <body\_canon>
- key <key\_name>
- bodylength <body\_length>
- headersselect <header\_select>
- customheaders <custom\_headers>
- itag <i\_tag> [<agent\_identity>]
- qtag <q\_tag>

- ttag <t\_tag>
  - xtag <x\_tag> [<expiration\_time>]
  - ztag <z\_tag>
  - new <user-list>
  - delete <user-list>
  - print
  - clear
- 署名プロファイルの削除:  

```
domainkeysconfig profiles signing delete <name>
```
  - 署名プロファイルの一覧表示:  

```
domainkeysconfig profiles signing list
```
  - 署名プロファイルの詳細出力:  

```
domainkeysconfig profiles signing print <name>
```
  - 署名プロファイルのテスト:  

```
domainkeysconfig profiles signing test <name>
```
  - 署名プロファイルのローカル コピーのインポート:  

```
domainkeysconfig profiles signing import <filename>
```
  - アプライアンスにある署名プロファイルのコピーのエクスポート:  

```
domainkeysconfig profiles signing export <filename>
```
  - アプライアンスにあるすべての署名プロファイルの削除:  

```
domainkeysconfig profiles signing clear
```

## バッチ形式: 検証プロファイル

- 新しい DKIM 検証プロファイルの作成:  

```
domainkeysconfig profiles verification new <name>
<verification-profile-options>
```

表 3-3 domainkeysconfig の検証プロファイル オプション

| 引数                                       | 説明                                                                                                                                        |
|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>--name</code>                      | DKIM 検証プロファイルの名前。                                                                                                                         |
| <code>--min_key_size</code>              | 受け入れる最小キー。指定できるキーの長さは 512、768、1024、1536、および 2048 です(単位はビット)。デフォルトは 512 です。                                                                |
| <code>--max_key_size</code>              | 受け入れる最大キー。指定できるキーの長さは 512、768、1024、1536、および 2048 です(単位はビット)。デフォルトは 2048 です。                                                               |
| <code>--max_signatures_num</code>        | メッセージの中で検証できる署名の最大数。任意の正数を指定できます。デフォルトは 5 です。                                                                                             |
| <code>--key_query_timeout</code>         | キー クエリーがタイムアウトするまでの時間(秒)です。任意の正数を指定できます。デフォルトは 10 です。                                                                                     |
| <code>--max_systemtime_divergence</code> | 送信者の時計と検証者の時計との間に許容できる非同期量(秒)です。任意の正数を指定できます。デフォルトは 60 です。                                                                                |
| <code>--use_body_length</code>           | 本文の長さのパラメータを使用するかどうかを指定します。指定できる値は <code>yes</code> または <code>no</code> です。デフォルトは <code>yes</code> です。                                    |
| <code>--tempfail_action</code>           | 一時的な障害の場合は、SMTP のアクションを実行します。指定できる値は <code>accept</code> または <code>reject</code> です。デフォルトは <code>accept</code> です。                        |
| <code>--tempfail_response_code</code>    | 一時的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答コードです。指定できる値は 4xx 形式の番号です。デフォルトは 451 です。                                                                 |
| <code>--tempfail_response_text</code>    | 一時的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答テキストです。デフォルトは、「#4.7.5 Unable to verify signature - key server unavailable(署名を検証できません。キー サーバが見つかりません)」です。 |
| <code>--permfail_action</code>           | 永続的な障害の場合は、SMTP のアクションを実行します。指定できる値は <code>accept</code> または <code>reject</code> です。デフォルトは <code>accept</code> です。                        |
| <code>--permfail_response_code</code>    | 永続的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答コードです。指定できる値は 5xx 形式の番号です。デフォルトは 550 です。                                                                 |
| <code>--permfail_response_text</code>    | 永続的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答テキストです。デフォルトは「#5.7.5 DKIM unauthenticated mail is prohibited (DKIM 未認証のメールは禁止されています)」です。                 |

- 検証プロファイルの編集:

```
domainkeysconfig profiles verification edit <name>
<verification-profile-options>
```

- 検証プロファイルの削除:

```
domainkeysconfig profiles verification delete <name>
```

- 既存の検証プロファイルの詳細出力:

```
domainkeysconfig profiles verification print <name>
```

- 既存の検証プロファイルの一覧表示:

```
domainkeysconfig profiles verification list
```

- ローカルマシンにある検証プロファイルファイルのインポート:

```
domainkeysconfig profiles verification import <filename>
```

- アプライアンスにある検証プロファイルのインポート:

```
domainkeysconfig profiles verification export <filename>
```

- アプライアンスにあるすべての既存検証プロファイルの削除:

```
domainkeysconfig profiles verification clear
```

## バッチ形式:署名キー

- 新しい署名キーの作成:

```
domainkeysconfig keys new <key_name> <key-options>
```

表 3-4 *domainkeysconfig* の署名キー オプション

| 引数                          | 説明                                                            |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------|
| <code>--generate_key</code> | 秘密キーを生成します。指定できるキーの長さは 512、768、1024、1536、および 2048 です(単位はビット)。 |

表 3-4 domainkeysconfig の署名キー オプション(続き)

| 引数                        | 説明                                                                                                         |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>--use_key</code>    | 指定された秘密キーを使用します。                                                                                           |
| <code>--public_key</code> | 指定された秘密キーに一致する公開キーを取得して画面に出力するためのフラグ。<br>--generate_key を先に指定している場合は、まず新しい秘密キーが生成され、続いてそれに一致する公開キーが表示されます。 |

- 署名キーの編集:

```
domainkeysconfig keys edit <key_name> key <key-options>
```

- 既存の署名キーの名前変更:

```
domainkeysconfig keys edit <key_name> rename <key_name>
```

- 公開キーを指定するには:

```
domainkeysconfig keys publickey <key_name>
```

- キーの削除:

```
domainkeysconfig keys delete <key_name>
```

- すべての署名キーの一覧表示:

```
domainkeysconfig keys list
```

- 指定の署名キーに関するすべての情報の表示:

```
domainkeysconfig keys print <key_name>
```

- ローカルマシンにある署名キーのインポート:

```
domainkeysconfig keys import <filename>
```

- アプライアンスにある署名キーのエクスポート:

```
domainkeysconfig keys export <filename>
```

- アプライアンスにあるすべての署名キーの削除:

```
domainkeysconfig keys clear
```

## バッチ形式:キーまたはプロファイルの検索

- プロファイルの署名キーの検索

```
domainkeysconfig search <search_text>
```

## バッチ形式:グローバル設定

- アプライアンスでの DomainKeys/DKIM のグローバル設定の変更:

```
domainkeysconfig setup <setup_options>
```

指定できるオプションは次のとおりです。

- `--sign_generated_msgs`:システムで生成されたメッセージに署名するかどうかを指定します。指定できる値は `yes` または `no` です。

## 例:CLIによるドメインキーの設定

アプライアンス上のドメインキーを設定するには、CLIで `domainkeysconfig` コマンドを使用します。

`domainkeysconfig` は、[メールポリシー (Mail Policies)] -> [ドメインキー (Domain Keys)] ページ内の機能をすべて備えています。このコマンドでは、サンプルドメインキー DNS TXT レコードを生成することもできます。サンプルドメインキー DNS TXT レコードの生成の詳細については、[サンプルドメインキー DNS TXT レコードの作成 \(3-46 ページ\)](#) を参照してください。

この例では、キーを生成し、ドメインプロファイルを作成します。

```
mail3.example.com> domainkeysconfig
```

```
Number of DK/DKIM Signing Profiles: 0
Number of Signing Keys: 0
Number of DKIM Verification Profiles: 1
Sign System-Generated Messages: Yes
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- PROFILES - Manage domain profiles.
- KEYS - Manage signing keys.
- SETUP - Change global settings.
- SEARCH - Search for domain profile or key.

```
[]> keys
```

```
No signing keys are defined.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new signing key.
- IMPORT - Import signing keys from a file.

```
[]> new
```

```
Enter a name for this signing key:
```

```
[]> testkey
```

1. Generate a private key
2. Enter an existing key

```
[1]>
```

```

Enter the size (in bits) of this signing key:
1. 512
2. 768
3. 1024
4. 1536
5. 2048
[3]>

```

```
New key "testkey" created.
```

```
There are currently 1 signing keys defined.
```

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new signing key.
- EDIT - Modify a signing key.
- PUBLICKEY - Create a publickey from a signing key.
- DELETE - Delete a signing key.
- PRINT - Display signing keys.
- LIST - List signing keys.
- IMPORT - Import signing keys from a file.
- EXPORT - Export signing keys to a file.
- CLEAR - Clear all signing keys.
[1]>

```

```

Number of DK/DKIM Signing Profiles: 0
Number of Signing Keys: 1
Number of DKIM Verification Profiles: 1
Sign System-Generated Messages: Yes

```

```

Choose the operation you want to perform:
- PROFILES - Manage domain profiles.
- KEYS - Manage signing keys.
- SETUP - Change global settings.
- SEARCH - Search for domain profile or key.
[1]> profiles

```

```

Choose the operation you want to perform:
- SIGNING - Manage signing profiles.
- VERIFICATION - Manage verification profiles.
[1]> signing

```

```
No domain profiles are defined.
```

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new domain profile.
- IMPORT - Import domain profiles from a file.
[1]> new

```

```

Enter a name for this domain profile:
[1]> Example

```

```

Enter type of domain profile:
1. dk
2. dkim
[2]>

```

```

The domain field forms the basis of the public-key query. The value in
this field MUST match the domain of the sending email address or MUST
be one of the parent domains of the sending email address. This value
becomes the "d" tag of the Domain-Keys signature.
Enter the domain name of the signing domain:

```

```
[1]> example.com
```

Selectors are arbitrary names below the "\_domainkey." namespace. A selector value and length MUST be legal in the DNS namespace and in email headers with the additional provision that they cannot contain a semicolon. This value becomes the "s" tag of the DomainKeys Signature.

Enter selector:

```
[1]> test
```

The private key which is to be used to sign messages must be entered. A corresponding public key must be published in the DNS following the form described in the DomainKeys documentation. If a key is not immediately available, a key can be entered at a later time.

Select the key-association method:

1. Create new key
2. Paste in key
3. Enter key at later time
4. Select existing key

```
[1]> 4
```

Enter the name or number of a signing key.

1. testkey

```
[1]>
```

The canonicalization algorithm is the method by which the headers and content are prepared for presentation to the signing algorithm. Possible choices are "simple" and "relaxed".

Select canonicalization algorithm for body:

1. simple
2. relaxed

```
[1]> 1
```

How would you like to sign headers:

1. Sign all existing, non-repeatable headers (except Return-Path header).
2. Sign "well-known" headers (Date, Subject, From, To, Cc, Reply-To, Message-ID, Sender, MIME headers).
3. Sign "well-known" headers plus a custom list of headers.

```
[2]>
```

Body length is a number of bytes of the message body to sign.

This value becomes the "l" tag of the signature.

Which body length option would you like to use?

1. Whole body implied. No further message modification is possible.
2. Whole body auto-determined. Appending content is possible.
3. Specify a body length.

```
[1]>
```

Would you like to fine-tune which tags should be used in the DKIM Signature? (yes/no) [N]>

Finish by entering profile users. The following types of entries are allowed:

- Email address entries such as "joe@example.com".
- Domain entries such as "example.com".
- Partial domain entries such as ".example.com". For example, a partial domain of ".example.com" will match "sales.example.com". This sort of entry will not match the root domain ("example.com").

```

- Leave blank to match all domain users.
Enter user for this signing profile:
[]> sales.example.com

Do you want to add another user? [N]>

There are currently 1 domain profiles defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new domain profile.
- EDIT - Modify a domain profile.
- DELETE - Delete a domain profile.
- PRINT - Display domain profiles.
- LIST - List domain profiles.
- TEST - Test if a domain profile is ready to sign.
- DNSTXT - Generate a matching DNS TXT record.
- IMPORT - Import domain profiles from a file.
- EXPORT - Export domain profiles to a file.
- CLEAR - Clear all domain profiles.
[]>

Choose the operation you want to perform:
- SIGNING - Manage signing profiles.
- VERIFICATION - Manage verification profiles.
[]>

Number of DK/DKIM Signing Profiles: 1
Number of Signing Keys: 1
Number of DKIM Verification Profiles: 1
Sign System-Generated Messages: Yes

Choose the operation you want to perform:
- PROFILES - Manage domain profiles.
- KEYS - Manage signing keys.
- SETUP - Change global settings.
- SEARCH - Search for domain profile or key.
[]>

```

## サンプルドメインキー DNS TXT レコードの作成

```

mail3.example.com> domainkeysconfig

Number of DK/DKIM Signing Profiles: 1
Number of Signing Keys: 1
Number of DKIM Verification Profiles: 1
Sign System-Generated Messages: Yes

Choose the operation you want to perform:
- PROFILES - Manage domain profiles.
- KEYS - Manage signing keys.
- SETUP - Change global settings.
- SEARCH - Search for domain profile or key.
[]> profiles

Choose the operation you want to perform:
- SIGNING - Manage signing profiles.
- VERIFICATION - Manage verification profiles.
[]> signing

```

There are currently 1 domain profiles defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new domain profile.
- EDIT - Modify a domain profile.
- DELETE - Delete a domain profile.
- PRINT - Display domain profiles.
- LIST - List domain profiles.
- TEST - Test if a domain profile is ready to sign.
- DNSTXT - Generate a matching DNS TXT record.
- IMPORT - Import domain profiles from a file.
- EXPORT - Export domain profiles to a file.
- CLEAR - Clear all domain profiles.

[> dnstxt

Enter the name or number of a domain profile.

1. Example

[1]>

The answers to the following questions will be used to construct DKIM text record for DNS. It can be used to publish information about this profile.

Do you wish to constrain the local part of the signing identities ("i=" tag of "DKIM-Signature" header field) associated with this domain profile? [N]>

Do you wish to include notes that may be of interest to a human (no interpretation is made by any program)? [N]>

The "testing mode" can be set to specify that this domain is testing DKIM and that unverified email must not be treated differently from verified email.

Do you want to indicate the "testing mode"? [N]>

Do you wish to disable signing by subdomains of this domain? [N]>

The DKIM DNS TXT record is:

```
test._domainkey.example.com. IN TXT "v=DKIM1;
p=MIGfMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4GNADCBiQKBgQDX5dOG9J8rXreA/uPtYr5lrCTCqR+q1S5Gm1f00plAzSuB2Bv0
nxZ5Nr+se0T+k7mYDP0FSUHyWaOv0+kCcum7fFRjS3E0F9gLpbIdH5vzOCKp/w7hdjPy3q6PSgJVtqvQ6v9E8k5Ui7
C+DF6KvJUimJSY5sbu2zmm9rKAH5m7FwIDAQAB;"
```

There are currently 1 domain profiles defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new domain profile.
- EDIT - Modify a domain profile.
- DELETE - Delete a domain profile.
- PRINT - Display domain profiles.
- LIST - List domain profiles.
- TEST - Test if a domain profile is ready to sign.
- DNSTXT - Generate a matching DNS TXT record.
- IMPORT - Import domain profiles from a file.
- EXPORT - Export domain profiles to a file.
- CLEAR - Clear all domain profiles.

[>

```
Choose the operation you want to perform:
- SIGNING - Manage signing profiles.
- VERIFICATION - Manage verification profiles.
[]>
```

```
Number of DK/DKIM Signing Profiles: 1
Number of Signing Keys: 1
Number of DKIM Verification Profiles: 1
Sign System-Generated Messages: Yes
```

```
Choose the operation you want to perform:
- PROFILES - Manage domain profiles.
- KEYS - Manage signing keys.
- SETUP - Change global settings.
- SEARCH - Search for domain profile or key.
[]>
```

## DMARC 検証

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [dmarcconfig](#)

### dmarcconfig

#### 説明

DMARC の設定値を設定します。

#### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

#### バッチ形式:DMARC 検証プロファイル

dmarcconfig のバッチ形式は、検証プロファイルの作成、編集、削除、およびグローバル設定の変更で使用できます。

## DMARC 検証プロファイルの追加

```
dmarcconfig profiles new <name> [options]
```

| 引数                            | 説明                                                                                                |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <name>                        | DMARC プロファイルの名前。                                                                                  |
| [options]                     |                                                                                                   |
| --rejectpolicy_action         | DMARC レコード内のポリシーが「拒否」のときに AsyncOS が実行する必要があるメッセージアクション。可能な値は、“reject”、“quarantine”、または “none” です。 |
| --rejectpolicy_response_code  | 拒否されたメッセージの SMTP 応答コード。デフォルト値は 550 です。                                                            |
| --rejectpolicy_response_text  | 拒否されたメッセージの SMTP 応答テキスト。デフォルト値は “#5.7.1 DMARC unauthenticated mail is prohibited.” です。            |
| --rejectpolicy_quarantine     | DMARC 検証に失敗したメッセージの隔離。                                                                            |
| --quarantinepolicy_action     | DMARC レコード内のポリシーが隔離のときに AsyncOS が実行する必要があるメッセージアクション。可能な値は、“quarantine” または “none” です。            |
| --quarantinepolicy_quarantine | DMARC 検証に失敗したメッセージの隔離。                                                                            |
| --tempfail_action             | DMARC 検証中に一時的な障害が発生したメッセージに対して AsyncOS が実行する必要があるメッセージアクション。指定できる値は “accept” または “reject” です。     |
| --tempfail_response_code      | 一時的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答コードです。デフォルト値は 451 です。                                            |
| --tempfail_response_text      | 一時的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答テキストです。デフォルト値は “#4.7.1 Unable to perform DMARC verification” です。 |
| --permfail_action             | DMARC 検証中に永続的な障害が発生したメッセージに対して AsyncOS が実行する必要があるメッセージアクション。指定できる値は “accept” または “reject” です。     |
| --permfail_response_code      | 永続的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答コードです。デフォルト値は 550 です。                                            |
| --permfail_response_text      | 永続的な障害が発生した場合、拒否されたメッセージの SMTP 応答テキストです。デフォルト値は “#5.7.1 DMARC verification failed” です。            |

## DMARC 検証プロファイルの編集

```
dmarcconfig profiles edit <name> [options]
```

## DMARC 検証プロファイルの削除

```
dmarcconfig profiles delete <name>
```

## すべての DMARC の検証プロファイルの削除

```
dmarcconfig profiles clear
```

## DMARC 検証プロファイルの詳細の表示

```
dmarcconfig profiles print <name>
```

## DMARC 検証プロファイルのエクスポート

```
dmarcconfig profiles export <filename>
```

## DMARC 検証プロファイルのインポート

```
dmarcconfig profiles import <filename>
```

## グローバル設定の変更

```
dmarcconfig setup [options]
```

| オプション                             | 説明                                                                                                                                      |
|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>--report_schedule</code>    | AsyncOS が DMARC 集計レポートを生成する時間。                                                                                                          |
| <code>--error_reports</code>      | DMARC 集計レポート サイズが 10 MB または DMARC レコードの RUA タグで指定されたサイズを超えた場合に、配信エラーレポートをドメイン所有者に送信する。                                                  |
| <code>--org_name</code>           | DMARC 集計レポートを生成するエンティティ。これにはドメイン名を指定する必要があります。                                                                                          |
| <code>--contact_info</code>       | DMARC 集計レポートを受け取ったドメイン所有者がレポートを生成したエンティティと連絡を取る場合の、追加の連絡先情報(組織のカスタマー サポートの詳細など)。                                                        |
| <code>--copy_reports</code>       | すべての DMARC 集計レポートのコピーを特定のユーザ(集計レポートの分析を実行する内部ユーザなど)に送信します。電子メールアドレスを入力します。複数の場合はカンマで区切ります。                                              |
| <code>--bypass_addresslist</code> | 特定の送信者から受信したメッセージの DMARC 検証をスキップします(アドレス リスト)。<br><b>(注)</b> 完全な E メール アドレスで作成されるアドレス リストのみを選択できます。                                     |
| <code>--bypass_headers</code>     | 特定のヘッダー フィールド名を含むメッセージの DMARC 検証をスキップします。たとえば、メーリング リストや信頼できるフォワーダからのメッセージの DMARC 検証をスキップするには、このオプションを使用します。ヘッダーを入力します。複数の場合はカンマで区切ります。 |

## 例

次に、DMARC 検証プロファイルを設定し、DMARC 検証プロファイルのグローバル設定を編集する例を示します。

```
mail.example.com> dmarcconfig
```

```
Number of DMARC Verification Profiles: 1
Daily report generation time is: 00:00
Error reports enabled: No
Reports sent on behalf of:
Contact details for reports:
Send a copy of aggregate reports to: None Specified
Bypass DMARC verification for senders from addresslist: None Specified
Bypass DMARC verification for messages with header fields: None Specified
```

```
Choose the operation you want to perform:
- PROFILES - Manage DMARC verification profiles.
- SETUP - Change global settings.
[]> profiles

There are currently 1 DMARC verification profiles defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new DMARC verification profile.
- EDIT - Modify a DMARC verification profile.
- DELETE - Delete a DMARC verification profile.
- PRINT - Display DMARC verification profiles.
- IMPORT - Import DMARC verification profiles from a file.
- EXPORT - Export DMARC verification profiles to a file.
- CLEAR - Clear all DMARC verification profiles.
[]> new

Enter the name of the new DMARC verification profile:
[]> dmarc_ver_profile_1

Select the message action when the policy in DMARC record is reject:
1. No Action
2. Quarantine the message
3. Reject the message
[3]> 1

Select the message action when the policy in DMARC record is quarantine:
1. No Action
2. Quarantine the message
[2]> 2

Select the quarantine for messages that fail DMARC verification (when the DMARC policy is
quarantine).
1. Policy
[1]> 1

What SMTP action should be taken in case of temporary failure?
1. Accept
2. Reject
[1]> 2

Enter the SMTP response code for rejected messages in case of temporary failure.
[451]>

Enter the SMTP response text for rejected messages in case of temporary failure. Type
DEFAULT to use the default response text '#4.7.1 Unable to perform
DMARC verification.'
[#4.7.1 Unable to perform DMARC verification.]>

What SMTP action should be taken in case of permanent failure?
1. Accept
2. Reject
[1]> 2

Enter the SMTP response code for rejected messages in case of permanent failure.
[550]>

Enter the SMTP response text for rejected messages in case of permanent failure. Type
DEFAULT to use the default response text '#4.7.1 Unable to perform
DMARC verification.'
[#5.7.1 DMARC verification failed.]>

There are currently 2 DMARC verification profiles defined.
```

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new DMARC verification profile.
- EDIT - Modify a DMARC verification profile.
- DELETE - Delete a DMARC verification profile.
- PRINT - Display DMARC verification profiles.
- IMPORT - Import DMARC verification profiles from a file.
- EXPORT - Export DMARC verification profiles to a file.
- CLEAR - Clear all DMARC verification profiles.
[]>

Number of DMARC Verification Profiles: 2
Daily report generation time is: 00:00
Error reports enabled: No
Reports sent on behalf of:
Contact details for reports:
Send a copy of aggregate reports to: None Specified
Bypass DMARC verification for senders from addresslist: None Specified
Bypass DMARC verification for messages with header fields: None Specified

Choose the operation you want to perform:
- PROFILES - Manage DMARC verification profiles.
- SETUP - Change global settings.
[]> setup

Would you like to modify DMARC report settings?(Yes/No) [N]> y

Enter the time of day to generate aggregate feedback reports.Use 24-hour format (HH:MM).
[00:00]>

Would you like to send DMARC error reports?(Yes/No) [N]> y

Enter the entity name responsible for report generation.This is added to the DMARC
aggregate reports.
[]> example.com

Enter additional contact information to be added to DMARC aggregate reports.This could be
an email address, URL of a website with additional help, a phone
number etc.
[]> http://dmarc.example.com

Would you like to send a copy of all aggregate reports?(Yes/No) [N]>

Would you like to bypass DMARC verification for an addresslist?(Yes/No) [N]>

Would you like to bypass DMARC verification for specific header fields?(Yes/No) [N]> y

Choose the operation you want to perform:
- ADD - Add a header field to the verification-bypass list.
[]> add

Enter the header field name
[]> List-Unsubscribe

DMARC verification is configured to bypass DMARC verification for messages containing the
following header fields.
1.List-Unsubscribe

Choose the operation you want to perform:
- ADD - Add a header field to the verification-bypass list.
- REMOVE - Remove a header field from the list.
[]> add

Enter the header field name
[]> List-ID

```

```
DMARC verification is configured to bypass DMARC verification for messages containing the following header fields.
```

1. List-Unsubscribe
2. List-ID

```
Choose the operation you want to perform:
```

- ADD - Add a header field to the verification-bypass list.
  - REMOVE - Remove a header field from the list.
- ```
[ ]>
```

```
Number of DMARC Verification Profiles: 2
```

```
Daily report generation time is: 00:00
```

```
Error reports enabled: Yes
```

```
Reports sent on behalf of: example.com
```

```
Contact details for reports: http://dmarc.example.com
```

```
Send a copy of aggregate reports to: None Specified
```

```
Bypass DMARC verification for senders from addresslist: None Specified
```

```
Bypass DMARC verification for messages with header fields: List-Unsubscribe, List-ID
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- PROFILES - Manage DMARC verification profiles.
- SETUP - Change global settings.

```
[ ]>
```

DNS

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [dig](#)
- [dnsconfig](#)
- [dnsflush](#)
- [dnshostprefs](#)
- [dnslistconfig](#)
- [dnslisttest](#)
- [dnsstatus](#)

dig

説明

DNS サーバ上でレコードをルックアップします

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

dig コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- DNS サーバ上でレコードをルックアップします

```
dig [options] [@<dns_ip>] [qtype] <hostname>
```

- DNS サーバ上で、指定された IP アドレスに対する逆ルックアップを実行します。

```
dig -x <reverse_ip> [options] [@<dns_ip>]
```

これらは dig コマンドのバッチ形式で利用可能なオプションです。

-s <source_ip>:送信元 IP アドレスを指定します。

-t:TCP のクエリを作成します。

-u:UDP のクエリを作成します(デフォルト)。

dns_ip:この IP アドレスで DNS サーバにクエリします。

qtype:クエリ タイプ。A、PTR、CNAME、MX、SOA、NS、TXT。

hostname:ユーザが検索するレコード。

Reverse_ip:リバース ルックアップ IP アドレス。

dns_ip:この IP アドレスで DNS サーバにクエリします。

例

次の例では、ルックアップする DNS サーバを明示的に指定しています。

```
mail.com> dig @111.111.111.111 example.com MX
```

```
; <<>> DiG 9.4.3-P2 <<>> @111.111.111.111 example.com MX
; (1 server found)
;; global options: printcmd
;; Got answer:
;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 18540
;; flags: qr aa rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 1, ADDITIONAL: 3

;; QUESTION SECTION:
example.com.                IN      MX

;; ANSWER SECTION:
mexample.com.              10800  IN      MX      10 mexample.com.

;; AUTHORITY SECTION:
example.com.               10800  IN      NS      test.example.com.

;; ADDITIONAL SECTION:
example.com.10800 IN      A       111.111.111.111
```

```
example.com.10800 IN      AAAA   2620:101:2004:4201::bd
example.com.   300    IN      A      111.111.111.111

;; Query time: 6 msec
;; SERVER: 10.92.144.4#53(10.92.144.4)
;; WHEN: Fri Dec 9 23:37:42 2011
;; MSG SIZE rcvd: 143
```



(注) このコマンドを使用するときに DNS サーバを明示的に指定しない場合は、`dig` コマンドによって Authority セクションと Additional セクションの情報が絞り込まれます。

dnsconfig

説明

DNS のセットアップを設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

`dnsconfig` コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- ローカル ネーム サーバ キャッシュを使用するための DNS の設定:

```
dnsconfig parent new <ns_ip> <priority>
```

コマンドの引数:

- `<ns_ip>`:ネーム サーバの IP アドレス。複数の IP アドレスはカンマで区切って指定します。
- `<priority>`:このエントリの優先順位。

- ローカル ネーム サーバ キャッシュの削除:

```
dnsconfig parent delete <ns_ip>
```

- 特定のドメインに使用するための代替 DNS キャッシュの設定:

```
dnsconfig alt new <domains> <ns_ip>
```



(注) インターネットのルート ネーム サーバを使用している場合は使用できません。

コマンドの引数:

- <ns_ip>:ネーム サーバの IP アドレス。複数の IP アドレスはカンマで区切って指定します。
- <domains>:ドメインのカンマ区切りリスト。
- 特定のドメインの代替 DNS キャッシュの削除:

```
dnsconfig alt delete <domain>
```

- インターネットのルート ネーム サーバを使用するための DNS の設定:

```
dnsconfig roots new <ns_domain> <ns_name> <ns_ip>
```

ネーム サーバの引数:

- <ns_domain>:優先して使用するドメイン。
- <ns_name>:ネーム サーバの名前。
- <ns_ip>:ネーム サーバの IP アドレス。



(注) ドメインに対する代替ネーム サーバを指定することで、特定のドメインよりも優先させることができます。

- ネーム サーバの削除:

```
dnsconfig roots delete <ns_domain> [ns_name]
```



(注) 削除するときに ns_name を指定しないと、該当のドメインのすべてのネーム サーバが削除されます。

- すべての DNS 設定の消去、およびインターネットのルート サーバを使用するためのシステムの自動設定:

```
dnsconfig roots
```

現在の DNS 設定の表示

```
dnsconfig print
```

例

各ユーザ指定の DNS サーバには、次の情報が必要です。

- ホストネーム
- IP アドレス
- 権限のあるドメイン(代替サーバのみ)

dnsconfig コマンドでは、次の 4 つのサブコマンドを使用できます。

表 3-5 dnsconfig コマンドのサブコマンド

構文	説明
new	特定のドメインに使用する新しい代替 DNS サーバまたはローカル DNS サーバを追加します。
delete	代替サーバまたはローカル DNS サーバを削除します。
edit	代替サーバまたはローカル DNS サーバを変更します。
setup	インターネット ルート DNS サーバまたはローカル DNS サーバを切り替えます。

```
mail3.example.com> dnsconfig
```

```
Currently using the Internet root DNS servers.
```

```
Alternate authoritative DNS servers:
```

```
1. com: dns.example.com (10.1.10.9)
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new server.
- EDIT - Edit a server.
- DELETE - Remove a server.
- SETUP - Configure general settings.

```
[ ]> setup
```

```
Do you want the Gateway to use the Internet's root DNS servers or would you like it to use your own DNS servers?
```

1. Use Internet root DNS servers
2. Use own DNS cache servers

```
[1]> 1
```

```
Choose the IP interface for DNS traffic.
```

1. Auto
2. Management (10.92.149.70/24: mail3.example.com)

```
[1]>
```

```
Enter the number of seconds to wait before timing out reverse DNS lookups.
```

```
[20]>
```

```
Enter the minimum TTL in seconds for DNS cache.
```

```
[1800]>
```

```
Currently using the Internet root DNS servers.
```

```
Alternate authoritative DNS servers:
```

```
1. com: dns.example.com (10.1.10.9)
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new server.
- EDIT - Edit a server.
- DELETE - Remove a server.
- SETUP - Configure general settings.

```
[ ]>
```

特定のドメインの代替 DNS サーバの追加

特定のローカルドメインを除き、すべての DNS クエリーでインターネット ルート サーバを使用するようにアプライアンスを設定できます。

```
mail3.example.com> dnsconfig

Currently using the Internet root DNS servers.

No alternate authoritative servers configured.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new server.
- SETUP - Configure general settings.
[ ]> new

Please enter the domain this server is authoritative for. (Ex: "com").
[ ]> example.com

Please enter the fully qualified hostname of the DNS server for the domain "example.com".
(Ex: "dns.example.com").
[ ]> dns.example.com

Please enter the IP address of dns.example.com.
[ ]> 10.1.10.9

Currently using the Internet root DNS servers.

Alternate authoritative DNS servers:
1. com: dns.example.com (10.1.10.9)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new server.
- EDIT - Edit a server.
- DELETE - Remove a server.
- SETUP - Configure general settings.
[ ]>
```

独自の DNS キャッシュ サーバの使用

独自の DNS キャッシュ サーバを使用するようにアプライアンスを設定できます。

```
mail3.example.com> dnsconfig

Currently using the Internet root DNS servers.

Alternate authoritative DNS servers:
1. com: dns.example.com (10.1.10.9)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new server.
- EDIT - Edit a server.
- DELETE - Remove a server.
- SETUP - Configure general settings.
[ ]> setup

Do you want the Gateway to use the Internet's root DNS servers or would you like
it to use your own DNS servers?
1. Use Internet root DNS servers
2. Use own DNS cache servers
[1]> 2
```

```
Please enter the IP address of your DNS server.
Separate multiple IPs with commas.
[ ]> 10.10.200.03

Please enter the priority for 10.10.200.3.
A value of 0 has the highest priority.
The IP will be chosen at random if they have the same priority.
[0]> 1

Choose the IP interface for DNS traffic.
1. Auto
2. Management (192.168.42.42/24)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)
[1]> 1

Enter the number of seconds to wait before timing out reverse DNS lookups.
[20]>

Enter the minimum TTL in seconds for DNS cache.
[1800]>

Currently using the local DNS cache servers:
1. Priority: 1 10.10.200.3

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new server.
- EDIT - Edit a server.
- DELETE - Remove a server.
- SETUP - Configure general settings.
[ ]>
```

dnsflush

説明

DNS キャッシュからすべてのエントリをクリアします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> dnsflush
Are you sure you want to clear out the DNS cache? [N]> Y
```

dnshostprefs

説明

IPv4/IPv6 DNS を設定します

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> dnshostprefs
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add new domain override.
- SETDEFAULT - Set the default behavior.

```
[>] new
```

```
Enter the domain you wish to configure.
```

```
[>] example.com
```

```
How should the appliance sort IP addresses for this domain?
```

1. Prefer IPv4
2. Prefer IPv6
3. Require IPv4
4. Require IPv6

```
[2]> 3
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add new domain override.
- SETDEFAULT - Set the default behavior.

```
[>] setdefault
```

```
How should the appliance sort IP addresses?
```

1. Prefer IPv4
2. Prefer IPv6
3. Require IPv4
4. Require IPv6

```
[2]> 1
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add new domain override.
- SETDEFAULT - Set the default behavior.

```
[>]
```

dnslistconfig

説明

DNS リスト サービスのサポートを設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> dnslistconfig

Current DNS List Settings:
Negative Response TTL: 1800 seconds
DNS List Query Timeout: 3 seconds

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure general settings.
[]> setup

Enter the cache TTL for negative responses in seconds:
[1800]> 1200

Enter the query timeout in seconds:
[3]>

Settings updated.

Current DNS List Settings:
Negative Response TTL: 1200 seconds
DNS List Query Timeout: 3 seconds

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure general settings.
[]>
```

dnslisttest

説明

DNS ベースのリスト サービスの DNS ルックアップをテストします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> dnslisttest

Enter the query server name:
[ ]> mail4.example.com

Enter the test IP address to query for:
[127.0.0.2]> 10.10.1.11

Querying: 10.10.1.11.mail4.example.com
Result: MATCHED
```

dnsstatus

説明

DNS 統計情報を表示します。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> dnsstatus

Status as of: Mon Apr 18 10:58:07 2005 PDT

Counters:
DNS Requests          1,115      1,115      1,115
Network Requests      186         186         186
Cache Hits             1,300      1,300      1,300
Cache Misses           1            1            1
Cache Exceptions       0            0            0
Cache Expired          185         185         185
```

一般的な管理/トラブルシューティング

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [addressconfig](#)
- [adminaccessconfig](#)
- [certconfig](#)
- [date](#)
- [diagnostic](#)
- [diskquotaconfig](#)

- `ecconfig`
- `ecstatus`
- `ecupdate`
- `encryptionconfig`
- `encryptionstatus`
- `encryptionupdate`
- `featurekey`
- `featurekeyconfig`
- `generalconfig`
- `healthcheck`
- `healthconfig`
- `ntpconfig`
- `reboot`
- `replugstatus`
- `replugstatus`
- `resume`
- `resumedel`
- `resumelistener`
- `revert`
- `settime`
- `settz`
- `shutdown`
- `sshconfig`
- `status`
- `supportrequest`
- `supportrequeststatus`
- `supportrequestupdate`
- `suspend`
- `suspenddel`
- `suspendlistener`
- `tcpservices`
- `techsupport`
- `tlsverify`
- `trace`
- `trackingconfig`
- `updateconfig`
- `updatenow`
- `upgrade`

- [version](#)
- [wipedata](#)

[仮想アプライアンスの管理\(3-299 ページ\)](#)も参照してください。

addressconfig

説明

`addressconfig` コマンドは、**From:** アドレス ヘッダーを設定するために使用します。**From:** アドレスの表示、ユーザ、およびドメイン名を指定できます。ドメイン名に仮想ゲートウェイドメインの使用を選択することもできます。次の状況では、AsyncOS によって生成されたメールには `addressconfig` コマンドを使用します。

- Anti-Virus 通知
- バウンス
- DMARC フィードバック レポート (DMARC Feedback Reports)
- 通知 (`notify()` および `notify-copy()` フィルタの動作)
- 隔離メッセージ(および隔離管理機能における「コピー送信」)
- レポート
- その他のすべてのメッセージ

次の例では、通知の **From:** アドレスを Mail Delivery System [`MAILER-DAEMON@domain`] (デフォルト)から Notifications [`Notification@example.com`] に変更します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> addressconfig

Current anti-virus from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
Current bounce from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
Current notify from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
Current quarantine from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
Current DMARC reports from: "DMARC Feedback" <MAILER-DAEMON@domain>
Current all other messages from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>

Choose the operation you want to perform:
- AVFROM - Edit the anti-virus from address.
- BOUNCEFROM - Edit the bounce from address.
- NOTIFYFROM - Edit the notify from address.
- QUARANTINEFROM - Edit the quarantine bcc from address.
- DMARCFROM - Edit the DMARC reports from address.
- OTHERFROM - Edit the all other messages from address.
[ ]> notifyfrom
```

```
Please enter the display name portion of the "notify from" address
["Mail Delivery System"]> Notifications

Please enter the user name portion of the "notify from" address
[MAILER-DAEMON]> Notification

Do you want the virtual gateway domain used for the domain? [Y]> n

Please enter the domain name portion of the "notify from" address
[]> example.com

Current anti-virus from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
Current bounce from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
Current notify from: Notifications <Notification@example.com>
Current quarantine from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>
Current DMARC reports from: "DMARC Feedback" <MAILER-DAEMON@domain>
Current all other messages from: "Mail Delivery System" <MAILER-DAEMON@domain>

Choose the operation you want to perform:
- AVFROM - Edit the anti-virus from address.
- BOUNCEFROM - Edit the bounce from address.
- NOTIFYFROM - Edit the notify from address.
- QUARANTINEFROM - Edit the quarantine bcc from address.
- DMARCFROM - Edit the DMARC reports from address.
- OTHERFROM - Edit the all other messages from address.
[]>
```

adminaccessconfig

説明

次を設定する場合に adminaccessconfig コマンドを使用します。

- 管理者のログイン メッセージ(バナー)。
- アプライアンスの管理インターフェイスへの IP ベースのアクセス。
- Web インターフェイスのクロスサイト リクエスト偽造保護。
- HTTP 要求でホスト ヘッダーを使用するオプション。
- Web インターフェイスおよび CLI セッションの非アクティブ タイムアウト。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

adminaccessconfig コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- すべての IP アドレスにアクセスを許可するか、特定の IP アドレス/サブネット/範囲にアクセスを制限するかの選択

```
adminaccessconfig ipaccess <all/restrict/proxyonly/proxy>
```

- 新しい IP アドレス/サブネット/範囲の追加

```
adminaccessconfig ipaccess new <address>
```

- 既存の IP アドレス/サブネット/範囲の編集

```
adminaccessconfig ipaccess edit <oldaddress> <newaddress>
```

- 既存の IP アドレス/サブネット/範囲の削除

```
adminaccessconfig ipaccess delete <address>
```

- IP アドレス/サブネット/範囲のリストの出力

```
adminaccessconfig ipaccess print
```

- 既存のすべての IP アドレス/サブネット/範囲の削除

```
adminaccessconfig ipaccess clear
```

- ログイン バナーの出力

```
adminaccessconfig banner print
```

- アプライアンス上にあるファイルからのログイン バナーのインポート

```
adminaccessconfig banner import <filename>
```

- 既存のログイン バナーの削除

```
adminaccessconfig banner clear
```

- 初期画面バナーの出力

```
adminaccessconfig welcome print
```

- アプライアンス上にあるファイルからの初期画面バナーのインポート

```
adminaccessconfig welcome import <filename>
```

- 既存の初期画面バナーの削除

```
adminaccessconfig welcome clear
```

- 初期画面バナーのエクスポート

```
adminaccessconfig welcome export <filename>
```

- 許可されたプロキシの IP アドレスの追加

```
adminaccessconfig ipaccess proxylist new <address>
```

- 許可されたプロキシの IP アドレスの編集

```
adminaccessconfig ipaccess proxylist edit <oldaddress> <newaddress>
```

- 許可されたプロキシの IP アドレスの削除

```
adminaccessconfig ipaccess proxylist delete <address>
```

- すべての既存の許可されたプロキシの IP アドレスの削除

```
adminaccessconfig ipaccess proxylist clear
```

- 送信元 IP アドレスを含むヘッダー名の設定

```
adminaccessconfig ipaccess proxy-header <header name>
```

- Web インターフェイスのクロスサイト リクエスト偽造保護の有効化または無効化

```
adminaccessconfig csrf <enable|disable>
```

- Web インターフェイスのクロスサイト リクエスト偽造保護が有効かどうかの確認

```
adminaccessconfig csrf print
```

- Web インターフェイスのセッション タイムアウトの設定

```
adminaccessconfig timeout gui <value>
```

- CLI セッション タイムアウトの設定

```
adminaccessconfig timeout cli <value>
```

例: ネットワーク アクセス リストの設定

E メール セキュリティ アプライアンスにアクセスするユーザの IP アドレスを制御できます。ユーザは、定義したアクセス リストの IP アドレスを持つすべてのマシンから、アプライアンスにアクセスできます。ネットワーク アクセス リストを作成する際は、IP アドレス、サブネット、または CIDR アドレスを指定できます。

AsyncOS では、現在のマシンの IP アドレスがネットワーク アクセス リストに含まれていない場合に警告を表示します。現在のマシンの IP アドレスがリストにない場合、変更をコミットするとアプライアンスにアクセスできなくなります。

次の例では、アプライアンスへのネットワーク アクセスを 2 つの IP アドレス セットに制限します。

```
mail.example.com> adminaccessconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- BANNER - Configure login message (banner) for appliance administrator login.
- WELCOME - Configure welcome message (post login message) for appliance administrator login.
- IPACCESS - Configure IP-based access for appliance administrative interface.
- CSRF - Configure web UI Cross-Site Request Forgeries protection.
- HOSTHEADER - Configure option to use host header in HTTP requests.
- TIMEOUT - Configure GUI and CLI session inactivity timeout.

```
[ ]> ipaccess
```

```
Current mode: Allow All.
```

```
Please select the mode:
```

- ALL - All IP addresses will be allowed to access the administrative interface.
- RESTRICT - Specify IP addresses/Subnets/Ranges to be allowed access.
- PROXYONLY - Specify IP addresses/Subnets/Ranges to be allowed access through proxy.
- PROXY - Specify IP addresses/Subnets/Ranges to be allowed access through proxy or directly.

```
[ ]> restrict
```

```
List of allowed IP addresses/Subnets/Ranges:
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new IP address/subnet/range.

```
[ ]> new
```

```
Please enter IP address, subnet or range.
```

```
[ ]> 192.168.1.2-100
```

```
List of allowed IP addresses/Subnets/Ranges:
```

```
1. 192.168.1.2-100
```

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new IP address/subnet/range.
- EDIT - Modify an existing entry.
- DELETE - Remove an existing entry.
- CLEAR - Remove all the entries.
[ ]> new

Please enter IP address, subnet or range.
[ ]> 192.168.255.12

List of allowed IP addresses/Subnets/Ranges:

1. 192.168.1.2-100
2. 192.168.255.12

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new IP address/subnet/range.
- EDIT - Modify an existing entry.
- DELETE - Remove an existing entry.
- CLEAR - Remove all the entries.
[ ]>

Warning: The host you are currently using [72.163.202.175] is not included in the User
Access list.Excluding it will prevent your
host from connecting to the administrative interface.Are you sure you want to continue?
[N]> Y

Current mode: Restrict.
Please select the mode:
- ALL - All IP addresses will be allowed to access the administrative interface.
- RESTRICT - Specify IP addresses/Subnets/Ranges to be allowed access.
- PROXYONLY - Specify IP addresses/Subnets/Ranges to be allowed access through proxy.
- PROXY - Specify IP addresses/Subnets/Ranges to be allowed access through proxy or
directly.
[ ]>

```

例: ログインバナーの設定

ユーザが SSH、Telnet、FTP、または Web UI からログインしようとした際に、「ログインバナー」と呼ばれるメッセージを表示するように E メールセキュリティ アプライアンスを設定できます。ログインバナーは、CLI でログインプロンプトの上部に表示され、GUI でログインプロンプトの右側に表示されるカスタマイズ可能なテキストです。ログインバナーを使用して、内部のセキュリティ情報またはアプライアンスのベストプラクティスに関する説明を表示できます。たとえば、許可しないアプライアンスの使用を禁止する簡単な注意文言を作成したり、ユーザがアプライアンスに対して行った変更を確認する企業の権利に関する詳細な警告を作成したりできます。

ログインバナーは、80 x 25 のコンソールに収まるように最大 2000 文字になっています。ログインバナーは、アプライアンスの /data/pub/configuration ディレクトリにあるファイルからインポートできます。バナーを作成したら、変更内容を確定します。

次の例では、アプライアンスにログインバナー「Use of this system in an unauthorized manner is prohibited」を追加します。

```
mail.example.com> adminaccessconfig
```

```

Choose the operation you want to perform:
- BANNER - Configure login message (banner) for appliance administrator login.
- WELCOME - Configure welcome message (post login message) for appliance administrator
login.
- IPACCESS - Configure IP-based access for appliance administrative interface.

```

```

- CSRF - Configure web UI Cross-Site Request Forgeries protection.
- HOSTHEADER - Configure option to use host header in HTTP requests.
- TIMEOUT - Configure GUI and CLI session inactivity timeout.
[]> banner

A banner has not been defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a banner to display at login.
- IMPORT - Import banner text from a file.
[]> new

Enter or paste the banner text here. Enter CTRL-D on a blank line to end.
Use of this system in an unauthorized manner is prohibited.
^D

Choose the operation you want to perform:
- BANNER - Configure login message (banner) for appliance administrator login.
- WELCOME - Configure welcome message (post login message) for appliance administrator
login.
- IPACCESS - Configure IP-based access for appliance administrative interface.
- CSRF - Configure web UI Cross-Site Request Forgeries protection.
- HOSTHEADER - Configure option to use host header in HTTP requests.
- TIMEOUT - Configure GUI and CLI session inactivity timeout.
[]> banner

Banner: Use of this system in an unauthorized manner is prohibited.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a banner to display at login.
- IMPORT - Import banner text from a file.
- DELETE - Remove the banner.
[]>

```

例: Web インターフェイスおよび CLI セッション タイムアウトの設定

次の例では、Web インターフェイスと CLI セッション タイムアウトを 32 分に設定します。



(注)

CLI セッション タイムアウトは、セキュア シェル (SSH)、SCP、および直接シリアル接続を使用する接続にだけ適用されます。CLI セッション タイムアウト時に確定されていない設定変更はすべて失われます。設定を変更したらすぐに確定してください。

```

mail.example.com> adminaccessconfig

Choose the operation you want to perform:
- BANNER - Configure login message (banner) for appliance administrator login.
- WELCOME - Configure welcome message (post login message) for appliance administrator
login.
- IPACCESS - Configure IP-based access for appliance administrative interface.
- CSRF - Configure web UI Cross-Site Request Forgeries protection.
- HOSTHEADER - Configure option to use host header in HTTP requests.
- TIMEOUT - Configure GUI and CLI session inactivity timeout.
[]> timeout

Enter WebUI inactivity timeout(in minutes):
[30]> 32

Enter CLI inactivity timeout(in minutes):
[30]> 32

```

```

Choose the operation you want to perform:
- BANNER - Configure login message (banner) for appliance administrator login.
- WELCOME - Configure welcome message (post login message) for appliance administrator
login.
- IPACCESS - Configure IP-based access for appliance administrative interface.
- CSRF - Configure web UI Cross-Site Request Forgeries protection.
- HOSTHEADER - Configure option to use host header in HTTP requests.
- TIMEOUT - Configure GUI and CLI session inactivity timeout.
[]>

mail.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> Changed WebUI and CLI session timeout values

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]>

Changes committed: Wed Mar 12 08:03:21 2014 GMT

```



(注)

変更を確定した後、新しい CLI セッション タイムアウトは次回以降のログイン時にだけ反映されます。

certconfig

説明

セキュリティの証明書とキーを設定します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例: 証明書の貼り付け

次の例では、証明書と秘密キーを貼り付けることによって証明書をインストールします。

```

mail3.example.com> certconfig

Choose the operation you want to perform:
- CERTIFICATE - Import, Create a request, Edit or Remove Certificate Profiles
- CERTAUTHORITY - Manage System and Customized Authorities
- CRL - Manage Certificate Revocation Lists

[]> certificate

List of Certificates
Name          Common Name          Issued By          Status          Remaining
-----
Demo          Cisco Appliance Demo Cisco Appliance Demo Active          3467 days

```

```

Choose the operation you want to perform:
- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file
- PASTE - Paste a certificate into the CLI
- NEW - Create a self-signed certificate and CSR
- PRINT - View certificates assigned to services
[ ]> paste

Enter a name for this certificate profile:
> partner.com

Paste public certificate in PEM format (end with '.'):
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIICLDCCAQAwDQYJKoZIhvcNAQEEBQAwwAaAxCzAJBgNVBAYTAlBUMRMwEQYD
VQQLIExpwRdWVlbnNsYW5kMQ8wDQYDVQQHEwZMaXN1bn2ExFzAVBgNVBAoTDk51dXJv
bmlvLlBMBZGZEUmRgwFgYDVQQLLEw9EZkN1bnZvbHJpbWVudG8xGzAZBgNVBAMTEmJy
dXR1cy5uZXVyb25pby5wdDEbMBkGCSqGSIb3DQEJARYMc2FtcG9AaWtpLmZpMB4X
DTk2MDkwNTAzNDIOM1oXDk2MTAwNTAzNDIOM1owGAaAxCzAJBgNVBAYTAlBUMRMw
EQYDVQQLIExpwRdWVlbnNsYW5kMQ8wDQYDVQQHEwZMaXN1bn2ExFzAVBgNVBAoTDk51
dXJvbnmlvLlBMBZGZEUmRgwFgYDVQQLLEw9EZkN1bnZvbHJpbWVudG8xGzAZBgNVBAMT
EmJydXR1cy5uZXVyb25pby5wdDEbMBkGCSqGSIb3DQEJARYMc2FtcG9AaWtpLmZp
MFwwDQYJKoZIhvcNAQEBBQADSwAwSAJBAL7+aty3S1iBA/+yxjxv4q1MUTd1kjNw
L41YKbpzzlmC5beaQXeq2RmGMTXU+mDvuqItjVHOK3DvPK71TcSGftUCAwEAATAN
BgkqhkiG9w0BAQQFAANBAFqPEKfjk6T6CKTHvaQeEAsX0/8YHPHQH/9AnhSjrwuX
9EBc0n6bVGhN7XaXd6sJ7dym9sbsWxb+pJdurnkxjx4=
-----END CERTIFICATE-----
.
C=PT,ST=Queensland,L=Lisboa,O=Neuronio,
Lda.,OU=Desenvolvimento,CN=brutus.partner.com,emailAddress=admin@example.com

Paste private key in PEM format (end with '.'):
-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
MIIBPAIBAAJBAL7+aty3S1iBA/+yxjxv4q1MUTd1kjNwL41YKbpzzlmC5beaQXeq
2RmGMTXU+mDvuqItjVHOK3DvPK71TcSGftUCAwEAQAQJBALjK+jc2+iihI98riEF
oudmknziSRTYjnwjx8mCoAjPwviB3c742e03FG4/soi1jD9A5aliHEOXfuzloenr
8IECIQD3B5+01+68BA/6d76iUNqAAV8dJGTzvxncXycnxPQydQIhAMxt4trUI3nc
a+U8YL2HPFA3gmhBsSICbq2OptOCnM7hAiEA6Xi3JIQECob8YwkRj29DU3/4WYD7
WLPgsQpwolGuSPeCICGsnWH5oaeD9t9jbfFoSfhJvv0IZmxdcLpRcpslpeWBBaIEA
6/5B8J0GHdJq89FhwEG/H2eVVUYu5y/ad6sgcm+0Avg=
-----END RSA PRIVATE KEY-----
.

Do you want to add an intermediate certificate? [N]> n

List of Certificates
Name          Common Name          Issued By          Status          Remaining
-----
partner.c     brutus.partner.com   brutus.partner     Active          30 days
Demo         Cisco Appliance Demo Cisco Appliance Demo Active          3467 days

Choose the operation you want to perform:
- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file
- PASTE - Paste a certificate into the CLI
- NEW - Create a self-signed certificate and CSR
- EDIT - Update certificate or view the signing request
- EXPORT - Export a certificate
- DELETE - Remove a certificate
- PRINT - View certificates assigned to services
[ ]>

Choose the operation you want to perform:
- CERTIFICATE - Import, Create a request, Edit or Remove Certificate Profiles
- CERTAUTHORITY - Manage System and Customized Authorities
- CRL - Manage Certificate Revocation Lists

```

```
[ ]>

mail3.example.com> commit
Please enter some comments describing your changes:
[ ]> Installed certificate and key for receiving, delivery, and https

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

例: 自己署名証明書の作成

次の例では、自己署名証明書を作成します。

```
mail3.example.com> certconfig

Choose the operation you want to perform:
- CERTIFICATE - Import, Create a request, Edit or Remove Certificate Profiles
- CERTAUTHORITY - Manage System and Customized Authorities
- CRL - Manage Certificate Revocation Lists

[ ]> certificate

List of Certificates
Name          Common Name          Issued By          Status          Remaining
-----
partner.c    brutus.neuronio.pt   brutus.neuronio.pt  Expired         -4930
H (days)
Demo         Cisco Appliance Demo Cisco Appliance Demo Active           3467 days

Choose the operation you want to perform:
- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file
- PASTE - Paste a certificate into the CLI
- NEW - Create a self-signed certificate and CSR
- EDIT - Update certificate or view the signing request
- EXPORT - Export a certificate
- DELETE - Remove a certificate
- PRINT - View certificates assigned to services
[ ]> new

1. Create a self-signed certificate and CSR
2. Create a self-signed SMIME certificate and CSR
[1]> 1

Enter a name for this certificate profile:
> example.com

Enter Common Name:
> example.com

Enter Organization:
> Example

Enter Organizational Unit:
> Org

Enter Locality or City:
> San Francisoc

Enter State or Province:
> CA
```

```

Enter Country (2 letter code):
> US

Duration before expiration (in days):
[3650]>

1. 1024
2. 2048
Enter size of private key:
[2]>

Do you want to view the CSR? [Y]> y

-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----
MIICrTCCAZUCAQAwaDELMAkGA1UEBhMCVVMxFDASBgNVBAMTC2V4YW1wbGUuY29t
MRYwFAYDVQQHEW1TYW4gRnJhbmNpc29jMRAwDgYDVQQKEWdleGFtcGx1MQswCQYD
VQQIEwJDQTEEMMAoGA1UECzMdb3JnMIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIB
CgKCAQEANwamZyX7VgTZka/x1I5HHRN9V2MPKXoLq7FjzUtiIDwznElrKIuJovw
Svonle6GvFlUHfjv8B3WobOzk5Ny6btKjwPrBfaY+qr7rzM41AQKHM+P61+lZnPU
P05N9RCkLP4XsUuyY6Ca1WLtiPIgaq2fr8Y0JX/kesZcGOqlde66pN+xJIHHVadD
oopOgqi6SLNfAzJu/HEu/fnSujG4nhF0ZG1OpVUx4fg33NwZ4wV10XBk3GrOjbbA
ih9ozAwfNzxb57amtXEJk+pW+co3uEHLJIOPdih9SHzn/UVU4hiu8rSQR19sDApp
kfdWcfaDLf9tnQJPWSYoCh0USgCc8QIDAQABoAAwDQYJKoZIhvcNAQEFBQADggEB
AGiVhyMAZuHSv9yA08kJCmrg089yRlnDUXDDo6IrODVKx4hHTiOanOPu1nsThSvH
7xV4xR35T/QV0U3yPrL6bJbbwMySOLIRTjsUcwZNjOE1xMM5EkBM2BOI5rs4159g
FhHVejhG1LyyUDL0U82wsSLMqLFH1IT63tzwVmRiIXmAu/lHYci3+vctb+sopnN1
lY10Iuj+EgqWNRBNnKXLTdXkzhELOd8vZEqSAfBWyjZ2mECzc7SG3evqkw/OGlk
AilNXHayiGjeY+UfWzF/HBSekSjtQu6hIv6JpBSY/MnYU4t1lExqD+GX3lru4xc4
zDas2rS/Pbpn73Lf503nmsw=
-----END CERTIFICATE REQUEST-----

List of Certificates
Name          Common Name          Issued By          Status          Remaining
-----
example.c     example.com          example.com        Valid           3649 days
partner.c    brutus.partner.com  brutus.partner.com Valid           30 days
Demo         Cisco Appliance Demo Cisco Appliance Demo Active           3467 days

Choose the operation you want to perform:
- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file
- PASTE - Paste a certificate into the CLI
- NEW - Create a self-signed certificate and CSR
- EDIT - Update certificate or view the signing request
- EXPORT - Export a certificate
- DELETE - Remove a certificate
- PRINT - View certificates assigned to services
[]>

```

例: 自己署名 S/MIME 署名証明書の作成

次に、署名メッセージの自己署名 S/MIME 証明書を作成する例を示します。

```
vm10esa0031.qa> certconfig
```

```

Choose the operation you want to perform:
- CERTIFICATE - Import, Create a request, Edit or Remove Certificate Profiles
- CERTAUTHORITY - Manage System and Customized Authorities
- CRL - Manage Certificate Revocation Lists
[]> certificate

```

```
List of Certificates
Name          Common Name          Issued By          Status          Remaining
-----
Demo          Cisco Appliance Demo Cisco Appliance Demo Active           3329 days
```

```
Choose the operation you want to perform:
- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file
- PASTE - Paste a certificate into the CLI
- NEW - Create a self-signed certificate and CSR
- PRINT - View certificates assigned to services
[]> new
```

```
1. Create a self-signed certificate and CSR
2. Create a self-signed SMIME certificate and CSR
[1]> 2
```

```
Enter a name for this certificate profile:
> smime_signing
```

```
Enter Common Name:
> CN
```

```
Enter Organization:
> ORG
```

```
Enter Organizational Unit:
> OU
```

```
Enter Locality or City:
> BN
```

```
Enter State or Province:
> KA
```

```
Enter Country (2 letter code):
> IN
```

```
Duration before expiration (in days):
[3650]>
```

```
1. 1024
2. 2048
Enter size of private key:
[2]>
```

```
Enter email address for 'subjectAltName' extension:
[]> admin@example.com
```

```
Add another member? [Y]> n
```

```
Begin entering domain entries for 'subjectAltName'.
```

```
Enter the DNS you want to add.
[]> domain.com
```

```
Add another member? [Y]> n
```

```
Do you want to view the CSR? [Y]> n
```

```
List of Certificates
Name          Common Name          Issued By          Status          Remaining
-----
smime_sig     CN                   CN                 Valid           3649 days
Demo          Cisco Appliance Demo Cisco Appliance Demo Active           3329 days
```

```
Choose the operation you want to perform:
- IMPORT - Import a certificate from a local PKCS#12 file
- PASTE - Paste a certificate into the CLI
- NEW - Create a self-signed certificate and CSR
- EDIT - Update certificate or view the signing request
- EXPORT - Export a certificate
- DELETE - Remove a certificate
- PRINT - View certificates assigned to services
[]>
```

date

説明

現在の日時を表示します

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> date

Tue Mar 10 11:30:21 2015 GMT
```

diagnostic

説明

diagnostic コマンドは次のために使用します。

- さまざまなユーティリティを使用した、ハードウェアとネットワークの問題のトラブルシューティング
- RAID の状態のチェック
- ARP キャッシュの表示
- LDAP、DNS、および ARP キャッシュのクリア
- SMTP テスト メッセージの送信

diagnostic コマンドの使用

diagnostic サブメニューでは、次のコマンドを使用できます。

表 3-6 diagnostic サブコマンド

オプション	サブコマンド	アベイラビリティ
RAID	1. ディスク検証の実行	C30 および C60 でのみ使用可能。
	2. 実行中のタスクのモニタ	
	3. ディスク検証結果の表示	
DISK_USAGE (廃止)	サブコマンドなし	このコマンドはすでに廃止されています。代わりに、diskquotaconfig コマンドを使用します。
NETWORK	FLUSH	C-Series、X-Series、M-Series
	ARPSHOW	
	SMTTPING	
	TCPDUMP	
REPORTING	DELETEDB	C-Series、X-Series、M-Series
	無効	
TRACKING	DELETEDB	C-Series、X-Series、M-Series
	DEBUG	
RELOAD	サブコマンドなし	C-Series、X-Series、M-Series

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイルシステムにアクセスする必要があります。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

diagnostic コマンドのバッチ形式を使用すると、RAID の状態のチェック、キャッシュのクリア、ARP キャッシュの内容の表示を実行できます。バッチ コマンドとして実行するには、次の形式を使用します。

次の操作のためにバッチ形式を使用します。

- RAID の状態のチェック

```
diagnostic raid
```

- ARP キャッシュの内容の表示

```
diagnostic network arpshow
```

- NDP キャッシュの内容の表示

```
diagnostic network ndpshow
```

- LDAP、DNS、ARP、および NDP キャッシュのクリア

```
diagnostic network flush
```

- レポート データベースのリセットおよび削除

```
diagnostic reporting deletedb
```

- レポート デーモンの有効化

```
diagnostic reporting enable
```

- レポート デーモンの無効化

```
diagnostic reporting disable
```

- トラッキング データベースのリセットおよび削除

```
diagnostic tracking deletedb
```

- 最初の製造元の値に設定をリセット

```
diagnostic reload
```

例:ARP キャッシュの表示とクリア

次の例では、`diagnostic` コマンドを使用して、ARP キャッシュの内容を表示し、ネットワークに関連するすべてのキャッシュをフラッシュします。

```
mail.example.com> diagnostic
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- RAID - Disk Verify Utility.
- DISK_USAGE - Check Disk Usage.
- NETWORK - Network Utilities.
- REPORTING - Reporting Utilities.
- TRACKING - Tracking Utilities.
- RELOAD - Reset configuration to the initial manufacturer values.
[> network
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- FLUSH - Flush all network related caches.
- ARPSHOW - Show system ARP cache.
- NDPSHOW - Show system NDP cache.
- SMTPPING - Test a remote SMTP server.
- TCPDUMP - Dump ethernet packets.
[> arpshow
```

```
System ARP cache contents:

(10.76.69.3) at 00:1e:bd:28:97:00 on em0 expires in 1193 seconds [ethernet]
(10.76.69.2) at 00:1e:79:af:f4:00 on em0 expires in 1192 seconds [ethernet]
(10.76.69.1) at 00:00:0c:9f:f0:01 on em0 expires in 687 seconds [ethernet]
(10.76.69.149) at 00:50:56:b2:0e:2b on em0 permanent [ethernet]

Choose the operation you want to perform:
- FLUSH - Flush all network related caches.
- ARPSHOW - Show system ARP cache.
- NDPSHOW - Show system NDP cache.
- SMTTPPING - Test a remote SMTP server.
- TCPDUMP - Dump ethernet packets.
[]> flush

Flushing LDAP cache.
Flushing DNS cache.
Flushing system ARP cache.
10.76.69.3 (10.76.69.3) deleted
10.76.69.2 (10.76.69.2) deleted
10.76.69.1 (10.76.69.1) deleted
10.76.69.149 (10.76.69.149) deleted
Flushing system NDP cache.
fe80::250:56ff:feb2:e2d%em2 (fe80::250:56ff:feb2:e2d%em2) deleted
fe80::250:56ff:feb2:e2c%em1 (fe80::250:56ff:feb2:e2c%em1) deleted
fe80::250:56ff:feb2:e2b%em0 (fe80::250:56ff:feb2:e2b%em0) deleted

Network reset complete.
```

例:別のメールサーバとの接続の検証

次の例では、`diagnostic` コマンドを使用して別のメールサーバとの接続をチェックします。メールサーバをテストするには、サーバに対してメッセージを送信するか、`ping` を実行します。

```
mail.example.com> diagnostic

Choose the operation you want to perform:
- RAID - Disk Verify Utility.
- NETWORK - Network Utilities.
- REPORTING - Reporting Utilities.
- TRACKING - Tracking Utilities.
- RELOAD - Reset configuration to the initial manufacturer values.
[]> network

Choose the operation you want to perform:
- FLUSH - Flush all network related caches.
- ARPSHOW - Show system ARP cache.
- NDPSHOW - Show system NDP cache.
- SMTTPPING - Test a remote SMTP server.
- TCPDUMP - Dump ethernet packets.
[]> smtpping

Enter the hostname or IP address of the SMTP server:
[mail.example.com]> mail.com

The domain you entered has MX records.
Would you like to select an MX host to test instead? [Y]> y
```

```

Select an MX host to test.
1. mx00.gmx.com
2. mx01.gmx.com
[1]>

Select a network interface to use for the test.
1. Management
2. auto
[2]> 1

Do you want to type in a test message to send?If not, the connection will be tested but no
email will be sent. [N]>

Starting SMTP test of host mx00.gmx.com.
Resolved 'mx00.gmx.com' to 74.208.5.4.
Unable to connect to 74.208.5.4.

```

例:最初の製造元の値にアプライアンス設定をリセット

次に、最初の製造元の値にアプライアンスの設定をリセットする例を示します。

```

mail.example.com> diagnostic

Choose the operation you want to perform:
- RAID - Disk Verify Utility.
- NETWORK - Network Utilities.
- REPORTING - Reporting Utilities.
- TRACKING - Tracking Utilities.
- RELOAD - Reset configuration to the initial manufacturer values.

[ ]> reload

This command will remove all user settings and reset the entire device.

If this is a Virtual Appliance, all feature keys will be removed,
and the license must be reapplied.
Are you sure you want to continue? [N]> Y
Are you *really* sure you want to continue? [N]> Y
Do you want to wipe also?[N]> Y

```

diskquotaconfig

レポートと追跡、隔離、ログ ファイル、パケット キャプチャ、およびコンフィギュレーション ファイル用のディスク領域割り当てを表示または設定します。

この機能の詳細については、『*User Guide for AsyncOS for Cisco Email Security Appliances*』を参照してください。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

```
diskquotaconfig <feature> <quota> [<feature> <quota> [<feature> <quota> [<feature>
<quota>]]]
```

<feature> の有効値は、euq、pvo、tracking、reporting です。

<quota> の有効値は整数です。

例

```
.example.com > diskquotaconfig
```

Service	Disk Usage(GB)	Quota(GB)
Spam Quarantine (EUQ)	1	1
Policy, Virus & Outbreak Quarantines	1	3
Reporting	5	10
Tracking	1	10
Miscellaneous Files	5	30
System Files Usage : 5 GB		
User Files Usage : 0 GB		
Total	13	54 of 143

Choose the operation you want to perform:

- EDIT - Edit disk quotas

```
[ ]> edit
```

Enter the number of the service for which you would like to edit disk quota:

1. Spam Quarantine (EUQ)
2. Policy, Virus & Outbreak Quarantines
3. Reporting
4. Tracking
5. Miscellaneous Files

```
[1]> 1
```

Enter the new disk quota -

```
[1]> 1
```

Disk quota for Spam Quarantine (EUQ) changed to 1

Service	Disk Usage(GB)	Quota(GB)
Spam Quarantine (EUQ)	1	1
Policy, Virus & Outbreak Quarantines	1	3
Reporting	5	10
Tracking	1	10
Miscellaneous Files	5	30
System Files Usage : 5 GB		
User Files Usage : 0 GB		
Total	13	54 of 143

Choose the operation you want to perform:

- EDIT - Edit disk quotas

```
[ ]>
```

ecconfig

URL フィルタリング機能で使用する証明書の取得に使用する登録クライアントを設定またはクリアします。

シスコのサポートから指示がない場合は、このコマンドを使用しないでください。

エント리는、<hostname:port> または <IPv4 address:port> の形式にする必要があります。ポートはオプションです。

デフォルト サーバを指定するには、`ecconfig server default` と入力します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、クラスタ内のすべてのレベルで使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

- デフォルト以外の登録クライアント サーバを指定するには:
> `ecconfig server <server_name:port>`

デフォルトの登録クライアント サーバを使用するには:

> `ecconfig server default`

例

```
mail.example.com> ecconfig
```

```
Enrollment Server: Not Configured (Use Default)
```

```
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure the Enrollment Server
[]> setup
```

```
Do you want to use non-default Enrollment server?
```

```
WARNING: Do not configure this option without the assistance of Cisco Support.
Incorrect configuration can impact the services using certificates from the Enrollment
server. [N]> y
```

```
[]> 192.0.2.1
```

```
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure the Enrollment Server
[]>
```

ecstatus

URL フィルタリング機能で使用する証明書を自動的に取得するのに使用される、登録クライアントの現在のバージョンを表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> ecstatus
Component                Version    Last Updated
Enrollment Client        1.0.2-046  Never updated
```

ecupdate

URL フィルタリング機能で使用する証明書を自動的に取得するのに使用される、登録クライアントを手動で更新します。通常、この更新は自動的に行われます。シスコのサポートから指示がない場合は、このコマンドを使用しないでください。

`force` パラメータ (`ecupdate [force]`) を使用した場合、変更が検出されなくても、クライアントが更新されます。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

```
> ecupdate [force]
```

例

```
mail.example.com> ecupdate
Requesting update of Enrollment Client.
```

encryptionconfig

電子メール暗号化を設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次に、暗号化プロファイルを変更する例を示します。

```
mail.example.com> encryptionconfig
```

```
IronPort Email Encryption: Enabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Enable/Disable IronPort Email Encryption
- PROFILES - Configure email encryption profiles
- PROVISION - Provision with the Cisco Registered Envelope Service
[]> setup
```

```
PXE Email Encryption: Enabled
```

```
Would you like to use PXE Email Encryption?[Y]>
```

```
WARNING: Increasing the default maximum message size(10MB) may result in
decreased performance.Please consult documentation for size recommendations
based on your environment.
```

```
Maximum message size for encryption: (Add a trailing K for kilobytes, M for
megabytes, or no letters for bytes.)
[10M]>
```

```
Enter the email address of the encryption account administrator
[administrator@example.com]>
```

```
IronPort Email Encryption: Enabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Enable/Disable IronPort Email Encryption
- PROFILES - Configure email encryption profiles
- PROVISION - Provision with the Cisco Registered Envelope Service
[]> profiles
```

```
Proxy: Not Configured
```

Profile Name	Key Service	Proxied	Provision Status
HIPAA	Hosted Service	No	Not Provisioned

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new encryption profile
- EDIT - Edit an existing encryption profile
- DELETE - Delete an encryption profile
- PRINT - Print all configuration profiles
- CLEAR - Clear all configuration profiles
- PROXY - Configure a key server proxy
[]> edit
```

```

1. HIPAA
Select the profile you wish to edit:
[1]> 1

Profile name: HIPAA
External URL: https://res.cisco.com
Encryption algorithm: ARC4
Payload Transport URL: http://res.cisco.com
Envelope Security: High Security
Return receipts enabled: Yes
Secure Forward enabled: No
Secure Reply All enabled: No
Suppress Applet: No
URL associated with logo image: <undefined>
Encryption queue timeout: 14400
Failure notification subject: [ENCRYPTION FAILURE]
Failure notification template: System Generated
Filename for the envelope: securedoc_${date}T${time}.html
Use Localized Envelope: No
Text notification template: System Generated
HTML notification template: System Generated

Choose the operation you want to perform:
- NAME - Change profile name
- EXTERNAL - Change external URL
- ALGORITHM - Change encryption algorithm
- PAYLOAD - Change the payload transport URL
- SECURITY - Change envelope security
- RECEIPT - Change return receipt handling
- FORWARD - Change "Secure Forward" setting
- REPLYALL - Change "Secure Reply All" setting
- LOCALIZED_ENVELOPE - Enable or disable display of envelopes in languages
other than English
- APPLET - Change applet suppression setting
- URL - Change URL associated with logo image
- TIMEOUT - Change maximum time message waits in encryption queue
- BOUNCE_SUBJECT - Change failure notification subject
- FILENAME - Change the file name of the envelope attached to the encryption
notification.
[ ]> security

1. High Security (Recipient must enter a password to open the encrypted
message, even if credentials are cached ("Remember Me" selected).)
2. Medium Security (No password entry required if recipient credentials are
cached ("Remember Me" selected).)
3. No Password Required (The recipient does not need a password to open the
encrypted message.)
Please enter the envelope security level:
[1]> 1

Profile name: HIPAA
External URL: https://res.cisco.com
Encryption algorithm: ARC4
Payload Transport URL: http://res.cisco.com
Envelope Security: High Security
Return receipts enabled: Yes
Secure Forward enabled: No
Secure Reply All enabled: No
Suppress Applet: No
URL associated with logo image: <undefined>
Encryption queue timeout: 14400
Failure notification subject: [ENCRYPTION FAILURE]
Failure notification template: System Generated
Filename for the envelope: securedoc_${date}T${time}.html

```

```
Use Localized Envelope: No
Text notification template: System Generated
HTML notification template: System Generated
```

```
Choose the operation you want to perform:
- NAME - Change profile name
- EXTERNAL - Change external URL
- ALGORITHM - Change encryption algorithm
- PAYLOAD - Change the payload transport URL
- SECURITY - Change envelope security
- RECEIPT - Change return receipt handling
- FORWARD - Change "Secure Forward" setting
- REPLYALL - Change "Secure Reply All" setting
- LOCALIZED_ENVELOPE - Enable or disable display of envelopes in languages
other than English
- APPLET - Change applet suppression setting
- URL - Change URL associated with logo image
- TIMEOUT - Change maximum time message waits in encryption queue
- BOUNCE_SUBJECT - Change failure notification subject
- FILENAME - Change the file name of the envelope attached to the encryption
notification.
[]> forward
```

```
Would you like to enable "Secure Forward"? [N]> y
```

```
Profile name: HIPAA
External URL: https://res.cisco.com
Encryption algorithm: ARC4
Payload Transport URL: http://res.cisco.com
Envelope Security: High Security
Return receipts enabled: Yes
Secure Forward enabled: Yes
Secure Reply All enabled: No
Suppress Applet: No
URL associated with logo image: <undefined>
Encryption queue timeout: 14400
Failure notification subject: [ENCRYPTION FAILURE]
Failure notification template: System Generated
Filename for the envelope: securedoc_${date}T${time}.html
Use Localized Envelope: No
Text notification template: System Generated
HTML notification template: System Generated
```

```
Choose the operation you want to perform:
- NAME - Change profile name
- EXTERNAL - Change external URL
- ALGORITHM - Change encryption algorithm
- PAYLOAD - Change the payload transport URL
- SECURITY - Change envelope security
- RECEIPT - Change return receipt handling
- FORWARD - Change "Secure Forward" setting
- REPLYALL - Change "Secure Reply All" setting
- LOCALIZED_ENVELOPE - Enable or disable display of envelopes in languages
other than English
- APPLET - Change applet suppression setting
- URL - Change URL associated with logo image
- TIMEOUT - Change maximum time message waits in encryption queue
- BOUNCE_SUBJECT - Change failure notification subject
- FILENAME - Change the file name of the envelope attached to the encryption
notification.
[]>
```

```
Proxy: Not Configured
```

Profile Name	Key Service	Proxied	Provision Status
-----	-----	-----	-----
HIPAA	Hosted Service	No	Not Provisioned

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new encryption profile
- EDIT - Edit an existing encryption profile
- DELETE - Delete an encryption profile
- PRINT - Print all configuration profiles
- CLEAR - Clear all configuration profiles
- PROXY - Configure a key server proxy
[]>
```

```
IronPort Email Encryption: Enabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Enable/Disable IronPort Email Encryption
- PROFILES - Configure email encryption profiles
- PROVISION - Provision with the Cisco Registered Envelope Service
[]>
```

encryptionstatus

説明

`encryptionstatus` コマンドは、E メール セキュリティ アプライアンス上の PXE エンジンとドメイン マッピング ファイルのバージョンとコンポーネントが最後に更新された日時を表示します。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> encryptionstatus
```

Component	Version	Last Updated
PXE Engine	6.7.1	17 Nov 2009 00:09 (GMT)
Domain Mappings File	1.0.0	Never updated

encryptionupdate

説明

`encryptionupdate` コマンドは、E メール セキュリティ アプライアンス上の PXE エンジンの更新を要求します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> encryptionupdate

Requesting update of PXE Engine.
```

featurekey

説明

featurekey コマンドは、システム上でキーによってイネーブルになっているすべての機能とキーに関連する情報を表示します。また、キーを使用して機能を有効にしたり、新しい機能キーをチェックしたりすることもできます。

仮想アプライアンスについては [loadlicense](#) および [showlicense](#) も参照してください。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

この例では、featurekey コマンドを使用して新しい機能キーをチェックします。

```
mail3.example.com> featurekey
Module                               Quantity  Status    Remaining  Expiration Date
Outbreak Filters                     1         Active    28 days    Tue Feb 25 06:40:53
2014
IronPort Anti-Spam                   1         Dormant   30 days    Wed Feb 26 07:56:57
2014
Sophos Anti-Virus                    1         Active    26 days    Sun Feb 23 02:27:48
2014
Bounce Verification                  1         Dormant   30 days    Wed Feb 26 07:56:57
2014
Incoming Mail Handling                1         Active    20 days    Sun Feb 16 08:55:58
2014
IronPort Email Encryption             1         Dormant   30 days    Wed Feb 26 07:56:57
2014
RSA Email Data Loss Prevention        1         Active    25 days    Fri Feb 21 10:07:10
2014
McAfee                                1         Dormant   30 days    Wed Feb 26 07:56:57
2014
```

```
Choose the operation you want to perform:
- ACTIVATE - Activate a (pending) key.
- CHECKNOW - Check now for new feature keys.
[]> checknow
No new feature keys are available.
```

featurekeyconfig

説明

featurekeyconfig コマンドでは、使用可能なキーのダウンロードとマシン上のキーの更新を自動的に行うようにマシンを設定できます。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

この例では、featurekeyconfig コマンドを使用して autoactivate および autocheck 機能をイネーブルにします。

```
mail3.example.com> featurekeyconfig

Automatic activation of downloaded keys: Disabled
Automatic periodic checking for new feature keys: Disabled
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit feature key configuration.
[]> setup

Automatic activation of downloaded keys: Disabled
Automatic periodic checking for new feature keys: Disabled

Choose the operation you want to perform:
- AUTOACTIVATE - Toggle automatic activation of downloaded keys.
- AUTOCHECK - Toggle automatic checking for new feature keys.
[] > autoactivate

Do you want to automatically apply downloaded feature keys? [N]> y

Automatic activation of downloaded keys: Enabled
Automatic periodic checking for new feature keys: Disabled
Choose the operation you want to perform:
- AUTOACTIVATE - Toggle automatic activation of downloaded keys.
- AUTOCHECK - Toggle automatic checking for new feature keys.

[]> autocheck

Do you want to periodically query for new feature keys? [N]> y

Automatic activation of downloaded keys: Enabled
Automatic periodic checking for new feature keys: Enabled
```

generalconfig

説明

generalconfig コマンドを使用するとブラウザを設定できます。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。詳細については、help generalconfig コマンドを入力して、インライン ヘルプを参照してください。

例: Internet Explorer 互換性モードのオーバーライドの設定

次に、IE 互換性モードをオーバーライドする例を示します。

```
mail.example.com> generalconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- IEVERRIDE - Configure Internet Explorer Compatibility Mode Override
[]> ieoverride
```

```
For better web interface rendering, we recommend that you enable Internet Explorer Compatibility Mode Override. However, if enabling this feature is against your organizational policy, you may disable this feature.
```

```
Internet Explorer Compatibility Mode Override is currently disabled.
```

```
Would you like to enable Internet Explorer Compatibility Mode Override? [N]y
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- IEVERRIDE - Configure Internet Explorer Compatibility Mode Override
[]>
```

healthcheck

説明

E メール セキュリティ アプライアンスの状態を確認します。ヘルス チェックにより現在のステータス ログの履歴データ (最大 3 カ月) が分析され、アプライアンスの状態が判断されます。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> healthcheck

Analyzing the system to determine current health of the system.
The analysis may take a while, depending on the size of the historical data.

System analysis is complete.
The analysis indicates that the system has experienced the following issue(s) recently:
Entered Resource conservation mode
Delay in mail processing
High CPU usage
High memory usage

Based on this analysis,
we recommend you to contact Cisco Customer Support before upgrading.
```

healthconfig

説明

CPU 使用率、ワーク キューの最大メッセージ数など、アプライアンスのさまざまな健全性パラメータのしきい値を設定します

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> healthconfig

Choose the operation you want to perform:
- WORKQUEUE - View and edit workqueue-health configuration.
- CPU - View and edit CPU-health configuration.
- SWAP - View and edit swap-health configuration.
[ ]> workqueue

Number of messages in the workqueue : 0
Current threshold on the workqueue size : 500
Alert when exceeds threshold : Disabled
Do you want to edit the settings? [N]> y

Please enter the threshold value for number of messages in work queue.
[500]> 550

Do you want to receive alerts if the number of messages in work queue exceeds
threshold value? [N]> n
```

```

Choose the operation you want to perform:
- WORKQUEUE - View and edit workqueue-health configuration.
- CPU - View and edit CPU-health configuration.
- SWAP - View and edit swap-health configuration.
[ ]> cpu

Overall CPU usage : 0 %
Current threshold on the overall CPU usage: 85 %
Alert when exceeds threshold : Disabled
Do you want to edit the settings? [N]> y

Please enter the threshold value for overall CPU usage (in percent)
[85]> 90

Do you want to receive alerts if the overall CPU usage exceeds threshold value?[N]> n

Choose the operation you want to perform:
- WORKQUEUE - View and edit workqueue-health configuration.
- CPU - View and edit CPU-health configuration.
- SWAP - View and edit swap-health configuration.
[ ]> swap

Number of pages swapped from memory in a minute : 0
Current threshold on the number of pages swapped from memory per minute : 5000
Alert when exceeds threshold : Disabled
Do you want to edit the settings? [N]> y

Please enter the threshold value for number of pages swapped from memory in a
minute.
[5000]> 5500

Do you want to receive alerts if number of pages swapped from memory in a
minute exceeds the threshold? [N]> n

Choose the operation you want to perform:
- WORKQUEUE - View and edit workqueue-health configuration.
- CPU - View and edit CPU-health configuration.
- SWAP - View and edit swap-health configuration.
[ ]>

```

ntpconfig

説明

ntpconfig コマンドでは、ネットワーク タイム プロトコル (NTP) を使用してシステム クロックを他のコンピュータと同期するように、AsyncOS を設定します。NTP をオフにするには、settime コマンドを使用します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> ntpconfig

Currently configured NTP servers:
1. time.ironport.com

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a server.
- DELETE - Remove a server.
- SOURCEINT - Set the interface from whose IP address NTP queries should originate.

[]> new

Please enter the fully qualified hostname or IP address of your NTP server.
[]> ntp.example.com

Currently configured NTP servers:
1. time.ironport.com
2. bitsy.mit.edi

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a server.
- DELETE - Remove a server.
- SOURCEINT - Set the interface from whose IP address NTP queries should
originate.
[]> sourceint

When initiating a connection to an NTP server, the outbound IP address
used is chosen automatically.
If you want to choose a specific outbound IP address, please select
its interface name now.
1. Auto
2. Management (172.19.0.11/24: elroy.run)
3. PrivateNet (172.19.1.11/24: elroy.run)
4. PublicNet (172.19.2.11/24: elroy.run)
[1]> 1

Currently configured NTP servers:
1. time.ironport.com
2. bitsy.mit.edi

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a server.
- DELETE - Remove a server.
- SOURCEINT - Set the interface from whose IP address NTP queries should originate.
[]>

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> Added new NTP server

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

reboot

説明

アプライアンスを再起動します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> reboot

Enter the number of seconds to wait before abruptly closing connections.
[30]>

Waiting for listeners to exit...
Receiving suspended.
Waiting for outgoing deliveries to finish...
Mail delivery suspended.
```

repengstatus

説明

レピュテーション エンジンのバージョン情報を要求します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> repengstatus

Component                Last Update                Version
Reputation Engine        28 Jan 2014 23:47 (GMT +00:00)  1
Reputation Engine Tools  28 Jan 2014 23:47 (GMT +00:00)  1
```

resume

説明

受信と配信を再開します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> resume

Receiving resumed for Listener 1.
Mail delivery resumed.
Mail delivery for individually suspended domains must be resumed individually.
```

resumedel

説明

配信を再開します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> resumedel

Currently suspended domains:
1. domain1.com
2. domain2.com
3. domain3.com

Enter one or more domains [comma-separated] to which you want to resume delivery.
[ALL]> domain1.com, domain2.com

Mail delivery resumed.
```

resumelistener

説明

リスナーでの受信を再開します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> resumelistener

Choose the listener(s) you wish to resume.
Separate multiple entries with commas.
1. All
2. InboundMail
3. OutboundMail
[1]> 1

Receiving resumed.
mail3.example.com>
```

revert

説明

以前のリリースに戻します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> revert

This command will revert the appliance to a previous version of AsyncOS.

WARNING: Reverting the appliance is extremely destructive.
The following data will be destroyed in the process:
- all configuration settings (including listeners)
- all log files
```

- all databases (including messages in Virus Outbreak and Policy quarantines)
- all reporting data (including saved scheduled reports)
- all message tracking data
- all IronPort Spam Quarantine message and end-user safelist/blocklist data

Only the network settings will be preserved.

Before running this command, be sure you have:

- saved the configuration file of this appliance (with passwords unmasked)
- exported the IronPort Spam Quarantine safelist/blocklist database to another machine (if applicable)
- waited for the mail queue to empty

Reverting the device causes an immediate reboot to take place. After rebooting, the appliance reinitializes itself and reboots again to the desired version.

```

Available versions
=====
1.9.1.0-019
Please select an AsyncOS version [1]:
Do you want to continue? [N]>

```

settime

説明

settime コマンドでは、NTP サーバを使用していない場合に時刻を手動で設定できます。このコマンドを実行すると、NTP を停止して手動でシステム クロックを設定するかどうか尋ねられます。時刻は **MM/DD/YYYY HH:MM:SS** の形式で入力します。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```

mail3.example.com> settime

WARNING: Changes to system time will take place immediately
and do not require the user to run the commit command.
Current time 09/23/2001 21:03:53.
This machine is currently running NTP.
In order to manually set the time, NTP must be disabled.
Do you want to stop NTP and manually set the time? [N]> Y

Please enter the time in MM/DD/YYYY HH:MM:SS format.
[ ]> 09/23/2001 21:03:53

Time set to 09/23/2001 21:03:53.

```

setz

説明

ローカル タイムゾーンを設定します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> setz

Current time zone: Etc/GMT
Current time zone version: 2010.02.0

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Set the local time zone.
[ ]> setup

Please choose your continent:
1. Africa
2. America
[ ... ]
11. GMT Offset
[2]> 2

Please choose your country:
1. Anguilla
[ ... ]
45. United States
46. Uruguay
47. Venezuela
48. Virgin Islands (British)
49. Virgin Islands (U.S.)
[45]> 45

Please choose your timezone:
1. Alaska Time (Anchorage)
2. Alaska Time - Alaska panhandle (Juneau)
[ ... ]
21. Pacific Time (Los_Angeles)
[21]> 21

Current time zone: America/Los_Angeles

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Set the local time zone.
[ ]>
```

shutdown

説明

システムをシャットダウンして電源を切ります。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> shutdown

Enter the number of seconds to wait before forcibly closing connections.
[30]>

System shutting down.Please wait while the queue is being closed...

Closing CLI connection.
The system will power off automatically.
Connection to mail.example.com closed.
```

sshconfig

説明

SSH サーバおよびユーザ キー設定を設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドはクラスタ モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

リポート:変更を有効にするために、リポートが必要です。

例

次の例では、管理者アカウントの新規公開キーをインストールします。

```
mail.example.com> sshconfig

Choose the operation you want to perform:
- SSHD - Edit SSH server settings.
- USERKEY - Edit SSH User Key settings
[ ]> userkey
```

```

Currently installed keys for admin:

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new key.
- USER - Switch to a different user to edit.
[> new

Please enter the public SSH key for authorization.
Press enter on a blank line to finish.
[-paste public key for user authentication here-]

Choose the operation you want to perform:
- SSHD - Edit SSH server settings.
- USERKEY - Edit SSH User Key settings
[>

```

次の例は、SSH サーバ構成を編集する方法を示しています。

```

mail.example.com> sshconfig

Choose the operation you want to perform:
- SSHD - Edit SSH server settings.
- USERKEY - Edit SSH User Key settings
[> sshd

ssh server config settings:
Public Key Authentication Algorithms:
    rsa1
    ssh-dss
    ssh-rsa
Cipher Algorithms:
    aes128-ctr
    aes192-ctr
    aes256-ctr
    arcfour256
    arcfour128
    aes128-cbc
    3des-cbc
    blowfish-cbc
    cast128-cbc
    aes192-cbc
    aes256-cbc
    arcfour
    rijndael-cbc@lysator.liu.se
MAC Methods:
    hmac-md5
    hmac-sha1
    umac-64@openssh.com
    hmac-ripemd160
    hmac-ripemd160@openssh.com
    hmac-sha1-96
    hmac-md5-96
Minimum Server Key Size:
    1024
KEX Algorithms:
    diffie-hellman-group-exchange-sha256
    diffie-hellman-group-exchange-sha1
    diffie-hellman-group14-sha1
    diffie-hellman-group1-sha1

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Setup SSH server configuration settings
[> setup

```

```
Enter the Public Key Authentication Algorithms do you want to use
[rsa1,ssh-dss,ssh-rsa]>

Enter the Cipher Algorithms do you want to use
[aes128-ctr,aes192-ctr,aes256-ctr,arcfour256,arcfour128,aes128-cbc,3des-cbc,blowfish-cbc,cast128-cbc,aes192-cbc,aes256-cbc,arcfour,rijndael-cbc@lysator.liu.se]>

Enter the MAC Methods do you want to use
[hmac-md5,hmac-sha1,umac-64@openssh.com,hmac-ripemd160,hmac-ripemd160@openssh.com,hmac-sha1-96,hmac-md5-96]>

Enter the Minimum Server Key Size do you want to use
[1024]>

Enter the KEX Algorithms do you want to use
[diffie-hellman-group-exchange-sha256,diffie-hellman-group-exchange-sha1,diffie-hellman-group14-sha1,diffie-hellman-group1-sha1]>

ssh server config settings:
Public Key Authentication Algorithms:
    rsa1
    ssh-dss
    ssh-rsa
Cipher Algorithms:
    aes128-ctr
    aes192-ctr
    aes256-ctr
    arcfour256
    arcfour128
    aes128-cbc
    3des-cbc
    blowfish-cbc
    cast128-cbc
    aes192-cbc
    aes256-cbc
    arcfour
    rijndael-cbc@lysator.liu.se
MAC Methods:
    hmac-md5
    hmac-sha1
    umac-64@openssh.com
    hmac-ripemd160
    hmac-ripemd160@openssh.com
    hmac-sha1-96
    hmac-md5-96
Minimum Server Key Size:
    1024
KEX Algorithms:
    diffie-hellman-group-exchange-sha256
    diffie-hellman-group-exchange-sha1
    diffie-hellman-group14-sha1
    diffie-hellman-group1-sha1

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Setup SSH server configuration settings
[]>

Choose the operation you want to perform:
- SSHD - Edit SSH server settings.
- USERKEY - Edit SSH User Key settings
[]>
```

status

説明

システム ステータスを表示します。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> status

Status as of:                Thu Oct 21 14:33:27 2004 PDT
Up since:                    Wed Oct 20 15:47:58 2004 PDT (22h 45m 29s)
Last counter reset:         Never
System status:              Online
Oldest Message:             4 weeks 46 mins 53 secs

Feature - McAfee:            161 days
[....]
Feature - Outbreak Filters: 161 days

Counters:
  Receiving
    Messages Received        62,049,822      290,920      62,049,822
    Recipients Received     62,049,823      290,920      62,049,823
  Rejection
    Rejected Recipients     3,949,663       11,921       3,949,663
    Dropped Messages        11,606,037        219          11,606,037
  Queue
    Soft Bounced Events    2,334,552       13,598       2,334,552
  Completion
    Completed Recipients    50,441,741     332,625     50,441,741
  Current IDs
    Message ID (MID)                          99524480
    Injection Conn. ID (ICID)                  51180368
    Delivery Conn. ID (DCID)                   17550674

Gauges:
  Connections
    Current Inbound Conn.      0
    Current Outbound Conn.    14
  Queue
    Active Recipients          1
    Messages In Work Queue    0
    Kilobytes Used             92
    Kilobytes Free             8,388,516
  Quarantine
    Messages In Quarantine
      Policy, Virus and Outbreak 0
    Kilobytes In Quarantine
      Policy, Virus and Outbreak 0
```

supportrequest

説明

シスコのカスタマー サポートにメッセージを送信します。このコマンドを使用するには、アプライアンスがインターネットに電子メールを送信する必要があります。トラブル チケットが自動的に作成されます。また、サポート要求を既存のトラブル チケットに関連付けることもできます。

アプライアンスからシスコ テクニカル サポートに直接アクセスするには、Cisco.com ユーザ ID がこのアプライアンスのサービス契約に関連付けられている必要があります。Cisco.com プロファイルに現在関連付けられているサービス契約の一覧を参照するには、Cisco.com Profile Manager (<https://sso.cisco.com/auth/forms/CDCLogin.html>) にアクセスしてください。Cisco.com のユーザ ID がない場合は、登録して ID を取得してください。オンライン ヘルプのアカウントの登録に関する情報か、お使いのリリースのユーザガイドを参照してください。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスする必要があります。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次に、既存のサポート チケットに関連しないサポート要求の例を示します。

```
mail.example.com> supportrequest

Please Note:
If you have an urgent issue, please call one of our worldwide Support Centers
(www.cisco.com/support). Use this command to open a technical support request
for issues that are not urgent, such as:
- Request for information.
- Problem for which you have a work-around, but would like an alternative
solution.

Do you want to send the support request to supportrequest@mail.ga?
[Y]>

Do you want to send the support request to additional recipient(s)?
[N]>

Is this support request associated with an existing support ticket?
[N]>

Please select a technology related to this support request:
1. Security - Email and Web
2. Security - Management
[1]> 1

Please select a subtechnology related to this support request:
1. Cisco Email Security Appliance (C1x0,C3x0, C6x0, X10x0) - Misclassified
Messages
2. Cisco Email Security Appliance (C1x0,C3x0, C6x0, X10x0) - SBRS
```

```
3. Cisco Email Security Appliance (C1x0,C3x0, C6x0, X10x0) - Other
4. Email Security Appliance - Virtual
[1]> 3
```

Please select the problem category:

```
1. Upgrade
2. Operate
3. Configure
4. Install
[1]> 3
```

Please select a problem sub-category:

```
1. Error Messages, Logs, Debugs
2. Software Failure
3. Interoperability
4. Configuration Assistance
5. Install, Uninstall or Upgrade
6. Hardware Failure
7. Licensing
8. Data Corruption
9. Software Selection/Download Assistance
10. Password Recovery
[1]> 5
```

Please enter a subject line for this support request:

```
[ ]> <Subject line for support request>
```

Please enter a description of your issue, providing as much detail as possible to aid in diagnosis:

```
[ ]> <Description of issue>
```

It is important to associate all your service contracts with your Cisco.com profile (CCO ID) in order for you to receive complete access to support and services from Cisco. Please follow the URLs below to associate your contract coverage on your Cisco.com profile. If you do not have a CCO ID, please follow the URL below to create a CCO ID.

How to create a CCO ID:

<https://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>

How to associate your CCO ID with contract:

https://tools.cisco.com/RPFA/profile/profile_management.do

Frequently Asked Question:

http://www.cisco.com/web/ordering/cs_info/faqs/index.html

Select the CCOID

```
1. New CCOID
[1]>
```

Please enter the CCOID of the contact person :

```
[ ]> your name
```

The CCO ID may contain alphabets, numbers and '@', '.', '-' and '_' symbols.

Please enter the CCOID of the contact person :

```
[ ]> me@example.com
```

Please enter the name of the contact person :

```
[ ]> yourname
```

Please enter your email address:

```
[ ]> me@example.com
```

Please enter the contract ID:

```
[ ]> 1234
```

```
Please enter any additional contact information (e.g. phone number):  
[]>  
  
Please wait while configuration information is generated...  
  
Do you want to print the support request to the screen?  
[N]>
```

supportrequeststatus

説明

Cisco TAC のサポートを要求するための、サポート要求キーワード バージョン情報を表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> supportrequeststatus  
  
Component                Version    Last Updated  
Support Request          1.0       Never updated
```

supportrequestupdate

説明

Cisco TAC のサポートを要求するための、サポート要求キーワードの手動アップデートを要求します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> supportrequestupdate  
  
Requesting update of Support Request Keywords.
```

suspend

説明

受信と配信を中断します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> suspend

Enter the number of seconds to wait before abruptly closing connections.
[30]> 45

Waiting for listeners to exit...
Receiving suspended for Listener 1.
Waiting for outgoing deliveries to finish...
Mail delivery suspended.
mail3.example.com>
```

suspenddel

説明

配信を中断します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> suspenddel

Enter the number of seconds to wait before abruptly closing connections.
[30]>

Enter one or more domains [comma-separated] to which you want to suspend delivery.
[ALL]> domain1.com, domain2.com, domain3.com

Waiting for outgoing deliveries to finish...
Mail delivery suspended.
```

suspendlistener

説明

受信を中断します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> suspendlistener

Choose the listener(s) you wish to suspend.
Separate multiple entries with commas.
1. All
2. InboundMail
3. OutboundMail
[1]> 1

Enter the number of seconds to wait before abruptly closing connections.
[30]>

Waiting for listeners to exit...
Receiving suspended.
mail3.example.com>
```

tcpservices

説明

プロセスによって開かれているファイルに関する情報を表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.cisco.com> tcpservices

System Processes (Note: All processes may not always be present)
ftpd.main      - The FTP daemon
ginetd        - The INET daemon
interface     - The interface controller for inter-process communication
```

```

ipfw          - The IP firewall
slapd         - The Standalone LDAP daemon
sntpd        - The SMTP daemon
sshd         - The SSH daemon
syslogd      - The system logging daemon
winbindd     - The Samba Name Service Switch daemon

Feature Processes
euq_webui    - GUI for ISQ
gui          - GUI process
hermes       - MGA mail server
postgres    - Process for storing and querying quarantine data
splunkd     - Processes for storing and querying Email Tracking data

COMMAND      USER          TYPE  NODE  NAME
interface    root          IPv4  TCP   127.0.0.1:53
postgres     pgsq         IPv4  TCP   127.0.0.1:5432
qabackdoo    root         IPv4  TCP   *:8123
ftpd.main    root         IPv4  TCP   10.1.1.0:21
euq_webui    root         IPv4  TCP   10.1.1.0:83
euq_webui    root         IPv6  TCP   [2001:db8::]:83
gui          root         IPv4  TCP   172.29.181.70:80
gui          root         IPv4  TCP   10.1.1.0:80
gui          root         IPv6  TCP   [2001:db8::]:80
gui          root         IPv4  TCP   172.29.181.70:443
gui          root         IPv4  TCP   10.1.1.0:443
gui          root         IPv6  TCP   [2001:db8::]:443
ginetd       root         IPv4  TCP   172.29.181.70:22
ginetd       root         IPv4  TCP   10.1.1.0:22
ginetd       root         IPv6  TCP   [2001:db8::]:22
ginetd       root         IPv4  TCP   10.1.1.0:2222
ginetd       root         IPv6  TCP   [2001:db8::]:2222
hermes       root         IPv4  TCP   172.29.181.70:25
splunkd      root         IPv4  TCP   127.0.0.1:8089
splunkd      root         IPv4  TCP   127.0.0.1:9997
api_serve    root         IPv4  TCP   10.1.1.0:6080
api_serve    root         IPv6  TCP   [2001:db8::]:6080
api_serve    root         IPv4  TCP   10.1.1.0:6443
api_serve    root         IPv6  TCP   [2001:db8::]:6443
java         root         IPv6  TCP   [::127.0.0.1]:9999

```

techsupport

説明

Cisco TAC がシステムにアクセスできるようにします。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> techsupport

Service Access currently disabled.
Serial Number: XXXXXXXXXXXX-XXXXXXX

Choose the operation you want to perform:
- SSHACCESS - Allow a Cisco IronPort Customer Support representative to remotely access
your system, without establishing a tunnel.
- TUNNEL - Allow a Cisco IronPort Customer Support representative to remotely access your
system, and establish a secure tunnel for communication.
- STATUS - Display the current techsupport status.
[]> sshaccess

A random seed string is required for this operation

1. Generate a random string to initialize secure communication (recommended)
2. Enter a random string
[1]> 1

Are you sure you want to enable service access? [N]> y

Service access has been ENABLED.Please provide the string:

QT22-JQZF-YAQL-TL8L-8@2L-95

to your Cisco IronPort Customer Support representative.

Service Access currently ENABLED (0 current service logins).
Tunnel option is not active.

Serial Number: XXXXXXXXXXXX-XXXXXXX

Choose the operation you want to perform:
- DISABLE - Prevent customer service representatives from remotely accessing your system.
- STATUS - Display the current techsupport status.
[]>
```

tlsverify

説明

発信 TLS 接続を必要に応じて確立し、宛先ドメインに関する TLS 接続の問題をデバッグします。接続を確立するには、検証するドメインと宛先ホストを指定します。AsyncOS は、必要な(検証)TLS 設定に基づいて TLS 接続を確認します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

`tlsverify` コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行し、特定のホスト名との TLS 接続をチェックできます。

```
tlsverify <domain> <hostname>[:<port>]
```

例

```
mail3.example.com> tlsverify

Enter the TLS domain to verify against:
[> example.com

Enter the destination host to connect to. Append the port (example.com:26) if you are not
connecting on port 25:
[example.com]> mxe.example.com:25

Connecting to 1.1.1.1 on port 25.
Connected to 1.1.1.1 from interface 10.10.10.10.
Checking TLS connection.
TLS connection established: protocol TLSv1, cipher RC4-SHA.
Verifying peer certificate.
Verifying certificate common name mxe.example.com.
TLS certificate match mxe.example.com
TLS certificate verified.
TLS connection to 1.1.1.1 succeeded.

TLS successfully connected to mxe.example.com.
TLS verification completed.
```

trace

説明

システムを通過するメッセージのフローを追跡します。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> trace

Enter the source IP
[> 192.168.1.1

Enter the fully qualified domain name of the source IP
[> example.com
```

```
Select the listener to trace behavior on:
1. InboundMail
2. OutboundMail
[1]> 1

Fetching default SenderBase values...
Enter the SenderBase Org ID of the source IP.The actual ID is N/A.
[N/A]>

Enter the SenderBase Reputation Score of the source IP.The actual score is N/A.
[N/A]>

Enter the Envelope Sender address:
[]> pretend.sender@example.net

Enter the Envelope Recipient addresses.Separate multiple addresses by commas.
[]> admin@example.com

Load message from disk? [Y]> n

Enter or paste the message body here.Enter '.' on a blank line to end.
Subject: Hello
This is a test message.
.
HAT matched on unnamed sender group, host ALL
- Applying $ACCEPTED policy (ACCEPT behavior).
- Maximum Message Size: 100M (Default)
- Maximum Number Of Connections From A Single IP: 1000 (Default)
- Maximum Number Of Messages Per Connection: 1,000 (Default)
- Maximum Number Of Recipients Per Message: 1,000 (Default)
- Maximum Recipients Per Hour: 100 (Default)
- Use SenderBase For Flow Control: Yes (Default)
- Spam Detection Enabled: Yes (Default)
- Virus Detection Enabled: Yes (Default)
- Allow TLS Connections: No (Default)

Processing MAIL FROM:
- Default Domain Processing: No Change

Processing Recipient List:
Processing admin@ironport.com
- Default Domain Processing: No Change
- Domain Map: No Change
- RAT matched on admin@ironport.com, behavior = ACCEPT
- Alias expansion: No Change

Message Processing:
- No Virtual Gateway(tm) Assigned
- No Bounce Profile Assigned

Domain Masquerading/LDAP Processing:
- No Changes.

Processing filter 'always_deliver':
Evaluating Rule: rcpt-to == "@mail.qa"
Result = False
Evaluating Rule: rcpt-to == "ironport.com"
Result = True
Evaluating Rule: OR
Result = True
Executing Action: deliver()

Footer Stamping:
- Not Performed
```

```

Inbound Recipient Policy Processing: (matched on Management Upgrade policy)
Message going to:  admin@ironport.com

AntiSpam Evaluation:
- Not Spam

AntiVirus Evaluation:
- Message Clean.
- Elapsed Time = '0.000 sec'

Outbreak Filter Evaluation:
- No threat detected

Message Enqueued for Delivery

Would you like to see the resulting message? [Y]> y

Final text for messages matched on policy Management Upgrade
Final Envelope Sender:  pretend.sender@example.doma
Final Recipients:
- admin@ironport.com

Final Message Content:

Received: from remotehost.example.com (HELO TEST) (1.2.3.4)
  by stacy.qa with TEST; 19 Oct 2004 00:54:48 -0700
Message-Id: <3i93q9$@Management>
X-IronPort-AV: i="3.86,81,1096873200";
  d="scan'208"; a="0:sNHT0"
Subject: hello

This is a test message.

Run through another debug session? [N]>

```



(注)

trace を使用するときには、貼り付けられたメッセージのヘッダーと本文の両方を CLI に含める必要があります。

trackingconfig

説明

トラッキングシステムを設定します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> trackingconfig

Message Tracking service status: Message Tracking is enabled.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Enable Message Tracking for this appliance.
[]> setup

Would you like to use the Message Tracking Service? [Y]>

Do you want to use Centralized Message Tracking for this appliance? [N]>

Would you like to track rejected connections? [N]>

Message Tracking service status: Local Message Tracking is enabled.
Rejected connections are currently not being tracked.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Enable Message Tracking for this appliance.
[]>
```

tzupdate

説明

タイムゾーン ルールを更新します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト(ユーザがログインしたマシン)でのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

tzupdate コマンドのバッチ形式を使用すると、変更が検出されない場合でも、すべてのタイムゾーン ルールが強制的に更新されます。

```
tzupdate [force]
```

例

```
mail.example.com> tzupdate

Requesting update of Timezone Rules
```

updateconfig

説明

システム更新パラメータを設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

- [アップデータ サーバから更新プログラムをダウンロードするようにアプライアンスを設定 \(3-114 ページ\)](#)
- [アップデータ サーバの証明書の有効性を検証するようにアプライアンスを設定 \(3-117 ページ\)](#)
- [プロキシ サーバとの通信を信頼するようにアプライアンスを設定 \(3-118 ページ\)](#)

アップデータ サーバから更新プログラムをダウンロードするようにアプライアンスを設定

次の例では、updateconfig コマンドを使用して、アプライアンスがシスコ サーバからアップデータ イメージをダウンロードし、ローカル サーバから使用可能な AsyncOS アップグレードのリストをダウンロードするように設定します。

```
mail.example.com> updateconfig

Service (images):                               Update URL:
-----
Feature Key updates                             http://downloads.ironport.com/asyncos
Timezone rules                                  Cisco IronPort Servers
Enrollment Client Updates                      Cisco IronPort Servers
Support Request updates                        Cisco IronPort Servers
Cisco IronPort AsyncOS upgrades               Cisco IronPort Servers

Service (list):                                  Update URL:
-----
Timezone rules                                  Cisco IronPort Servers
Enrollment Client Updates                      Cisco IronPort Servers
Support Request updates                        Cisco IronPort Servers

Service (list):                                  Update URL:
-----
Cisco IronPort AsyncOS upgrades               Cisco IronPort Servers

Update interval: 5m

Proxy server: not enabled

HTTPS Proxy server: not enabled
```

```

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit update configuration.
- VALIDATE_CERTIFICATES - Validate update server certificates
- TRUSTED_CERTIFICATES - Manage trusted certificates for updates
[1]> setup

For the following services, please select where the system will download updates from:
Service (images):                                Update URL:

-----
Feature Key updates
http://downloads.ironport.com/asyncos

1. Use Cisco IronPort update servers (http://downloads.ironport.com)
2. Use own server
[1]>

For the following services, please select where the system will download updates from
(images):
Service (images):                                Update URL:

-----
Timezone rules                                   Cisco IronPort Servers
Enrollment Client Updates                       Cisco IronPort Servers
Support Request updates                         Cisco IronPort Servers

1. Use Cisco IronPort update servers
2. Use own server
[1]>

For the following services, please select where the system will download updates from
(images):
Service (images):                                Update URL:

-----
Cisco IronPort AsyncOS upgrades                 Cisco IronPort Servers

1. Use Cisco IronPort update servers
2. Use own server
[1]>

For the following services, please select where the system will download the list of
available
updates from:
Service (list):                                  Update URL:

-----
Timezone rules                                   Cisco IronPort Servers
Enrollment Client Updates                       Cisco IronPort Servers
Support Request updates                         Cisco IronPort Servers

1. Use Cisco IronPort update servers
2. Use own update list
[1]>

For the following services, please select where the system will download the list of
available
updates from:
Service (list):                                  Update URL:

-----
Cisco IronPort AsyncOS upgrades                 Cisco IronPort Servers

```

```

1. Use Cisco IronPort update servers
2. Use own update list
[1]>

```

Enter the time interval between checks for new:

- Timezone rules
- Enrollment Client Updates (used to fetch certificates for URL Filtering)
- Support Request updates

Use a trailing 's' for seconds, 'm' for minutes or 'h' for hours. The minimum valid update time is 30s or enter '0' to disable automatic updates (manual updates will still be available for individual services).

```
[5m]>
```

When initiating a connection to the update server the originating IP interface is chosen automatically. If you want to choose a specific interface, please specify it now.

```

1. Auto
2. Management (10.76.69.149/24: vm30esa0086.ibqa)
[1]>

```

Do you want to set up a proxy server for HTTP updates for ALL of the following services:

- Feature Key updates
- Timezone rules
- Enrollment Client Updates (used to fetch certificates for URL Filtering)
- Support Request updates
- Cisco IronPort AsyncOS upgrades

```
[N]>
```

Do you want to set up an HTTPS proxy server for HTTPS updates for ALL of the following services:

- Feature Key updates
- Timezone rules
- Enrollment Client Updates (used to fetch certificates for URL Filtering)
- Support Request updates
- Cisco IronPort AsyncOS upgrades
- SenderBase Network Participation sharing

```
[N]>
```

```

Service (images):                               Update URL:
-----
Feature Key updates                             http://downloads.ironport.com/asyncos
Timezone rules                                  Cisco IronPort Servers
Enrollment Client Updates                       Cisco IronPort Servers
Support Request updates                         Cisco IronPort Servers
Cisco IronPort AsyncOS upgrades                 Cisco IronPort Servers

Service (list):                                  Update URL:
-----
Timezone rules                                  Cisco IronPort Servers
Enrollment Client Updates Cisco IronPort Servers
Support Request updates                         Cisco IronPort Servers

Service (list):                                  Update URL:
-----
Cisco IronPort AsyncOS upgrades                 Cisco IronPort Servers

Update interval: 5m

```

```

Proxy server: not enabled

HTTPS Proxy server: not enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit update configuration.
- VALIDATE_CERTIFICATES - Validate update server certificates
- TRUSTED_CERTIFICATES - Manage trusted certificates for updates
[]>

```

アップデータ サーバの証明書の有効性を検証するようにアプライアンスを設定

このオプションを設定すると、アプライアンスがシスコのアップデータ サーバと通信するたびに、アップデータ サーバの証明書の有効性が確認されます。検証に失敗した場合は、更新プログラムはダウンロードされず、詳細がアップデータのログに記録されます。次に、このオプションを設定する例を示します。

```

mail.example.com> updateconfig

Service (images):                                Update URL:
-----
Feature Key updates                             http://downloads.ironport.com/asyncos
Timezone rules                                  Cisco IronPort Servers
Enrollment Client Updates                       Cisco IronPort Servers
Support Request updates                         Cisco IronPort Servers
Cisco IronPort AsyncOS upgrades                Cisco IronPort Servers

Service (list):                                  Update URL:
-----
Timezone rules                                  Cisco IronPort Servers
Enrollment Client Updates                       Cisco IronPort Servers
Support Request updates                         Cisco IronPort Servers

Service (list):                                  Update URL:
-----
Cisco IronPort AsyncOS upgrades                Cisco IronPort Servers

Update interval: 5m

Proxy server: not enabled

HTTPS Proxy server: not enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit update configuration.
- VALIDATE_CERTIFICATES - Validate update server certificates
- TRUSTED_CERTIFICATES - Manage trusted certificates for updates
[]> validate_certificates

```

```

Should server certificates from Cisco update servers be validated?
[Yes]>

```

```

Service (images):                                Update URL:
-----
Feature Key updates                             http://downloads.ironport.com/asyncos
Timezone rules                                  Cisco IronPort Servers
Enrollment Client Updates                       Cisco IronPort Servers
Support Request updates                         Cisco IronPort Servers
Cisco IronPort AsyncOS upgrades                Cisco IronPort Servers

```

```

Service (list):
-----
Timezone rules
Enrollment Client Updates
Support Request updates
Update URL:
-----
Cisco IronPort Servers
Cisco IronPort Servers
Cisco IronPort Servers

Service (list):
-----
Cisco IronPort AsyncOS upgrades
Update URL:
-----
Cisco IronPort Servers

Update interval: 5m

Proxy server: not enabled

HTTPS Proxy server: not enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit update configuration.
- VALIDATE_CERTIFICATES - Validate update server certificates
- TRUSTED_CERTIFICATES - Manage trusted certificates for updates
[]>

```

プロキシサーバとの通信を信頼するようにアプライアンスを設定

透過的でないプロキシサーバを使用している場合、プロキシ証明書の署名に使用する CA 証明書をアプライアンスに追加できます。これにより、アプライアンスはプロキシサーバ通信を信頼します。次に、このオプションを設定する例を示します。

```

...
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Edit update configuration.
- VALIDATE_CERTIFICATES - Validate update server certificates
- TRUSTED_CERTIFICATES - Manage trusted certificates for updates
[]> trusted_certificates

Choose the operation you want to perform:
- ADD - Upload a new trusted certificate for updates.
[]> add

Paste certificates to be trusted for secure updater connections, blank to quit
Trusted Certificate for Updater:
Paste cert in PEM format (end with '.'):
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MMIICiDCCAfGgAwIBAgIBATANBgkqhkiG9w0BAQUFADCBgDELMAkGA1UEBhMCSU4x
DDAKBgNVBAgTA0tBUjENM.....
-----END CERTIFICATE-----
.

Choose the operation you want to perform:
- ADD - Upload a new trusted certificate for updates.
- LIST - List trusted certificates for updates.
- DELETE - Delete a trusted certificate for updates.
[]>

```

updatenow

説明

すべてのシステム サービス コンポーネントの更新を要求します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

updatenow コマンドのバッチ形式を使用すると、変更が検出されない場合でも、アプライアンス上のすべてのコンポーネントを更新できます。

```
updatenow [force]
```

例

```
mail3.example.com> updatenow  
Success - All component updates requested
```

version

説明

システムのバージョン情報を表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> version  
  
Current Version  
=====  
Product: Cisco C100V Email Security Virtual Appliance  
Model: C100V  
Version: 9.1.0-019
```

```
Build Date: 2015-02-17
Install Date: 2015-02-19 05:17:56
Serial #: 421C73B18CFB05784A83-B03A99E71ED8
BIOS: 6.00
CPUs: 2 expected, 2 allocated
Memory: 6144 MB expected, 6144 MB allocated
RAID: NA
RAID Status: Unknown
RAID Type: NA
BMC: NA
```

wipedata

説明

ディスクのコア ファイルを消去し、最後のコアダンプ操作のステータスを確認するのに `wipedata` コマンドを使用します。



(注)

データ サイズに応じて、消去アクションは、時間がかかることがあり、操作が完了するまで、システム パフォーマンスに影響を与えることがあります。

使用方法

確定: このコマンドに「`commit`」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> wipedata
```

```
Wiping data may take a while and can affect system performance till it completes.
```

```
Choose the operation you want to perform:
- STATUS - Display status of last command run
- COREDUMP - Wipe core files on disk
[]> coredump
```

```
wipedata: In progress
mail.example.com> wipedata
```

```
Wiping data may take a while and can affect system performance till it completes.
```

```
Choose the operation you want to perform:
- STATUS - Display status of last command run
- COREDUMP - Wipe core files on disk
[]> status
```

```
Last wipedata status: Successful
```

upgrade

説明

upgrade CLI コマンドは、使用可能なアップグレードのリストを表示し、ユーザが指定したバージョンに AsyncOS システムをアップグレードします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> upgrade
```

```
Upgrades available:
```

```
1. AsyncOS (**DON'T TOUCH!**)4.0.8 upgrade, 2005-05-09 Build 900
2. AsyncOS 4.0.8 upgrade, 2005-08-12 Build 030
.....
45. SenderBase Network Participation Patch
[45]>
```

```
Performing an upgrade will require a reboot of the system after the upgrade is applied.
Do you wish to proceed with the upgrade? [Y]> Y
```

コンテンツ スキャン

- [contentscannerstatus \(3-121 ページ\)](#)
- [contentscannerupdate \(3-122 ページ\)](#)

contentscannerstatus

コンテンツ スキャン エンジンのバージョン情報を表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> contentscannerstatus
```

Component	Version	Last Updated
Content Scanner Tools	11.2.1884.970097	Never updated

contentscannerupdate

コンテンツ スキャン エンジンの手動アップデートを要求します。「force」パラメータを使用すると、更新は変更が検出されなくても実行されます。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> contentscannerupdate force  
  
Requesting forced update for Content Scanner.
```

LDAP

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [ldapconfig](#)
- [ldapflush](#)
- [ldaptest](#)
- [sievechar](#)

ldapconfig

説明

LDAP サーバを設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例:新しいLDAPサーバプロファイルの作成

次の例では、`ldapconfig` コマンドを使用して、アプライアンスのバインド先となる LDAP サーバを定義し、受信者受け入れ (`ldapaccept` サブコマンド)、ルーティング (`ldaprouting` サブコマンド)、マスカレード (`masquerade` サブコマンド)、スパム隔離のエンドユーザ認証 (`isqauth` サブコマンド)、およびスパム通知のエイリアス統合 (`isqalias` サブコマンド)のクエリを設定します。

まず、「PublicLDAP」というニックネームを `mldapserver.example.com` LDAP サーバに与えます。クエリの送信先は、ポート 3268 (デフォルト値) です。`example.com` の検索ベースが定義され (`dc=example,dc=com`)、受信者受け入れ、メール再ルーティング、およびマスカレードのクエリが定義されます。この例のクエリは、期限切れのインターネットドラフト `draft-lachman-laser-ldap-mail-routing-xx.txt` で定義された `inetLocalMailRecipient` 補助オブジェクトクラス (「Laser 仕様」としても知られる) を使用する、OpenLDAP ディレクトリ設定に似ています。(このドラフトのバージョンは、OpenLDAP のソース ディストリビューションに含まれています)。この例では、メールの再ルーティング クエリでクエリされる受信者に使用する代替メールホストが `mailForwardingAddress` であることに注意してください。クエリー名では、大文字と小文字が区別されます。正しい結果が返されるようにするには、正確に一致している必要があります。

```
mail3.example.com> ldapconfig

No LDAP server configurations.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new server configuration.
- SETUP - Configure LDAP options.
[]> new

Please create a name for this server configuration (Ex: "PublicLDAP"):
[]> PublicLDAP

Please enter the hostname:
[]> myldapserver.example.com

Use SSL to connect to the LDAP server? [N]> n

Select the authentication method to use for this server configuration:
1. Anonymous
2. Password based
[1]> 2

Please enter the bind username:
[cn=Anonymous]>

Please enter the bind password:
[]>

Connect to LDAP server to validate setting? [Y]

Connecting to the LDAP server, please wait...
Select the server type to use for this server configuration:
1. Active Directory
2. OpenLDAP
3. Unknown or Other
[3]> 1

Please enter the port number:
[3268]> 3268

Please enter the base:
[dc=example,dc=com]> dc=example,dc=com
```

```
Name: PublicLDAP
Hostname: myldapserver.example.com Port 3268
Server Type: Active Directory
Authentication Type: password
Base: dc=example,dc=com
```

```
Choose the operation you want to perform:
- SERVER - Change the server for the query.
- TEST - Test the server configuration.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or
bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.
- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.
- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- CERTAUTH - Configure certificate authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.
[]> ldapaccept
```

```
Please create a name for this query:
[PublicLDAP.ldapaccept]> PublicLDAP.ldapaccept
```

```
Enter the LDAP query string:
[(proxyAddresses=smt:{a})]> (proxyAddresses=smt:{a})
```

```
Do you want to test this query? [Y]> n
```

```
Name: PublicLDAP
Hostname: myldapserver.example.com Port 3268
Server Type: Active Directory
Authentication Type: password
Base: dc=example,dc=com
```

```
LDAPACCEPT: PublicLDAP.ldapaccept
Choose the operation you want to perform:
- SERVER - Change the server for the query.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or
bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.
- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.
- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.
[]> ldaprouting
```

```
Please create a name for this query:
[PublicLDAP.routing]> PublicLDAP.routing
```

```
Enter the LDAP query string:
[(mailLocalAddress={a})]> (mailLocalAddress={a})
```

```
The query requires one of the attributes below.Please make a selection.
[1] Configure MAILROUTINGADDRESS only - Rewrite the Envelope Recipient (and
leave MAILHOST unconfigured)?
[2] Configure MAILHOST only - Send the messages to an alternate mail host
(and leave MAILROUTINGADDRESS unconfigured)?
[3] Configure both attributes
[]> 1
```

```
Enter the attribute which contains the full rfc822 email address for the
recipients.
[mailRoutingAddress]> mailRoutingAddress

Do you want to test this query? [Y]> n

Name: PublicLDAP
Hostname: myldapservers.example.com Port 3268
Server Type: Active Directory
Authentication Type: password
Base: dc=example,dc=com
LDAPACCEPT: PublicLDAP.ldapaccept
LDAPROUTING: PublicLDAP.routing

Choose the operation you want to perform:
- SERVER - Change the server for the query.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or
bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.
- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.
- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.
[]> masquerade

Please create a name for this query:
[PublicLDAP.masquerade]> PublicLDAP.masquerade

Enter the LDAP query string:
[(mailRoutingAddress={a})]> (mailRoutingAddress={a})

Enter the attribute which contains the externally visible full rfc822 email address.
[]> mailLocalAddress

Do you want the results of the returned attribute to replace the entire friendly portion
of the original recipient? [N]> n

Do you want to test this query? [Y]> n

Name: PublicLDAP
Hostname: myldapservers.example.com Port 3268
Server Type: Active Directory
Authentication Type: password
Base: dc=example,dc=com
LDAPACCEPT: PublicLDAP.ldapaccept
LDAPROUTING: PublicLDAP.routing
MASQUERADE: PublicLDAP.masquerade

Choose the operation you want to perform:
- SERVER - Change the server for the query.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or
bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.
- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.
- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.
[]> isqauth
```

```

Please create a name for this query:
[PublicLDAP.isqauth]> PublicLDAP.isqauth

Enter the LDAP query string:
[(sAMAccountName={u})]> (sAMAccountName={u})

Enter the list of email attributes.
[> mail,proxyAddresses

Do you want to activate this query? [Y]> y

Do you want to test this query? [Y]> y

User identity to use in query:
[> admin@example.com

Password to use in query:
[> password

LDAP query test results:
LDAP Server: myldapserver.example.com
Query: PublicLDAP.isqauth
User: admin@example.com
Action: match positive

LDAP query test finished.

Name: PublicLDAP
Hostname: myldapserver.example.com Port 3268
Server Type: Active Directory
Authentication Type: password
Base: dc=example,dc=com
LDAPACCEPT: PublicLDAP.ldapaccept
LDAPROUTING: PublicLDAP.routing
MASQUERADE: PublicLDAP.masquerade
ISQAUTH: PublicLDAP.isqauth [active]

Choose the operation you want to perform:
- SERVER - Change the server for the query.
- LDAPACCEPT - Configure whether a recipient address should be accepted or
bounced/dropped.
- LDAPROUTING - Configure message routing.
- MASQUERADE - Configure domain masquerading.
- LDAPGROUP - Configure whether a sender or recipient is in a specified group.
- SMTPAUTH - Configure SMTP authentication.
- EXTERNALAUTH - Configure external authentication queries.
- ISQAUTH - Configure Spam Quarantine End-User Authentication Query.
- ISQALIAS - Configure Spam Quarantine Alias Consolidation Query.
[>

Current LDAP server configurations:
1.PublicLDAP: (myldapserver.example.com:3268)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new server configuration.
- SETUP - Configure LDAP options.
- EDIT - Modify a server configuration.
- DELETE - Remove a server configuration.
[>

```

例:グローバル設定の指定

この例では、TLS 接続の証明書を含む LDAP グローバル設定を指定します。

```
mail3.example.com> ldapconfig
```

```
No LDAP server configurations.
```

```
Choose the operation you want to perform:  
- NEW - Create a new server configuration.  
- SETUP - Configure LDAP options.  
[]> setup
```

```
Choose the IP interface for LDAP traffic.  
1. Auto  
2. Management (10.92.145.175/24: esx16-esa01.qa)  
[1]> 1
```

```
LDAP will determine the interface automatically.
```

```
Should group queries that fail to complete be silently treated as having  
negative results? [Y]>
```

```
The "Demo" certificate is currently configured.You may use "Demo", but this will not be  
secure.
```

```
1. partner.com  
2. Demo  
Please choose the certificate to apply:  
[1]> 1
```

```
No LDAP server configurations.
```

```
Choose the operation you want to perform:  
- NEW - Create a new server configuration.  
- SETUP - Configure LDAP options.  
[]>
```

ldapflush

説明

キャッシュされている LDAP の結果をフラッシュします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> ldapflush

Are you sure you want to flush any cached LDAP results? [N]> y

Flushing cache
mail3.example.com>
```

ldaptest

説明

1つのLDAPクエリーテストを実行します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

バッチコマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

この例では、ldaptest コマンドを使用して、設定済みのLDAPサーバ設定の受信者受け入れクエリーだけをテストします。受信者アドレス「admin@example.com」はこのテストに合格しますが、受信者アドレス「bogus@example.com」は不合格になります。

```
mail3.example.com> ldaptest

Select which LDAP query to test:
1. PublicLDAP.ldapaccept
[1]> 1
Address to use in query:
[]> admin@example.com

LDAP query test results:

      Query: PublicLDAP.ldapaccept
Argument: admin@example.com
      Action: pass

LDAP query test finished.
mail3.example.com> ldaptest

Select which LDAP query to test:
1. PublicLDAP.ldapaccept
[1]> 1
Address to use in query:
[]> bogus@example.com

LDAP query test results:

      Query: PublicLDAP.ldapaccept
Argument: bogus@example.com
```

```
Action: drop or bounce (depending on listener settings)
Reason: no matching LDAP record was found
LDAP query test finished.
mail3.example.com>
```

sievechar

説明

RFC 3598 に規定されている Sieve 電子メールフィルタリングに使用する文字を設定またはディセーブルにします。Sieve 文字は LDAP 承認クエリーと LDAP 再ルーティングクエリーでのみ認識されることに注意してください。システムの他の部分は、完全な電子メールアドレスを操作対象とします。

使用できる文字は、`-_+=/^#` です。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシンモード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチコマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

この例では、`sievechar` コマンドを使用して、`+` を承認クエリーおよび LDAP 再ルーティングクエリーで認識される Sieve 文字として定義します。

```
mail3.example.com> sievechar
```

```
Sieve Email Filtering is currently disabled.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Set the separator character.
```

```
[ ]> setup
```

```
Enter the Sieve Filter Character, or a space to disable Sieve Filtering.
```

```
[ ]> +
```

```
Sieve Email Filter is enabled, using the '+' character as separator.
```

```
This applies only to LDAP Accept and LDAP Reroute Queries.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- SETUP - Set the separator character.
```

```
[ ]>
```

メール配信の設定/モニタリング

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [addresslistconfig](#)
- [aliasconfig](#)
- [archivemessage](#)
- [altsrchoost](#)
- [bounceconfig](#)
- [bouncerecipients](#)
- [bvconfig](#)
- [deleterecipients](#)
- [deliveryconfig](#)
- [delivernow](#)
- [destconfig](#)
- [hostrate](#)
- [hoststatus](#)
- [imageanalysisconfig](#)
- [oldmessage](#)
- [rate](#)
- [redirectrecipients](#)
- [resetcounters](#)
- [removemessage](#)
- [showmessage](#)
- [showrecipients](#)
- [status](#)
- [tophosts](#)
- [topin](#)
- [unsubscribe](#)
- [workqueue](#)

addresslistconfig

説明

アドレス リストを設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

addresslistconfig コマンドのバッチ形式を使用して、新しいアドレス リストの作成、既存のアドレス リストの編集、アドレス リストの一覧出力、アドレス リストの削除、アドレス リストの中で競合しているアドレスの検出が可能です。

- 新しいアドレス リストの追加:

```
addresslistconfig new <name> --descr=<description>
--addresses=<address1,address2,...>
```

- 既存のアドレス リストの編集:

```
addresslistconfig edit <name> --name=<new-name> --descr=<description>
--addresses=<address1,address2,...>
```

- アドレス リストの削除:

```
addresslistconfig delete <name>
```

- アドレス リストの一覧出力:

```
addresslistconfig print <name>
```

- アドレス リストの中で競合しているアドレスの検出:

```
addresslistconfig conflicts <name>
```

例

```
mail.example.com> addresslistconfig

No address lists configured.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new server configuration.
[ ]> new

Enter a name for the address list:
> add-list1

Enter a description for the address list:
> This is a sample address list.
```

```

Do you want to enter only full Email Addresses? [N]> Y

Enter a comma separated list of addresses:
(e.g.: user@example.com)
> user1@example.com, user2@example.com

Address list "add-list1" added.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new server configuration.
- EDIT - Modify an address list.
- DELETE - Remove an address list.
- PRINT - Display the contents of an address list.
- CONFLICTS - Find conflicting entries within an address list.
[]>

```

aliasconfig

説明

電子メールエイリアスを設定します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシンモード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できません。

バッチコマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

aliasconfig のバッチ形式を使用すると、新しいエイリアステーブルの追加、既存のエイリアステーブルの編集、電子メールエイリアスのリストの出力、エイリアステーブルのインポート/エクスポートを実行できます。バッチコマンドとして実行するには、aliasconfig コマンドを次の形式で入力し、以下の変数を指定します。

- 新しい電子メールエイリアスの追加

```
aliasconfig new <domain> <alias> [email_address1] [email_address2] ...
```



(注)

存在しないドメインに対して「aliasconfig new」コマンドを実行すると、そのドメインが作成されます。

- 既存の電子メールエイリアスの編集

```
aliasconfig edit <domain> <alias> <email_address1> [email_address2] ...
```

- 電子メールエイリアスの表示

```
aliasconfig print
```

- ローカルエイリアスリストのインポート

```
aliasconfig import <filename>
```

- アプライアンスのエイリアスリストのエクスポート

```
aliasconfig export <filename>
```

例

```
mail3.example.com> aliasconfig
Enter address(es) for "customercare".
Separate multiple addresses with commas.
[ ]> bob@example.com, frank@example.com, sally@example.com

Adding alias customercare: bob@example.com,frank@example.com,sally@example.com
Do you want to add another alias? [N]> n

There are currently 1 mappings defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import aliases from a file.
- EXPORT - Export table to a file.
- CLEAR - Clear the table.
[ ]> new

How do you want your aliases to apply?

1. Globally
2. Add a new domain context
3. example.com
[1]> 1

Enter the alias(es) to match on.
Separate multiple aliases with commas.
Allowed aliases:
- "user@domain" - This email address.
- "user" - This user for any domain
- "@domain" - All users in this domain.
- "@.partialdomain" - All users in this domain, or any of its sub domains.
[ ]> admin

Enter address(es) for "admin".
Separate multiple addresses with commas.
[ ]> administrator@example.com

Adding alias admin: administrator@example.com
Do you want to add another alias? [N]> n
```

```

There are currently 2 mappings defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import aliases from a file.
- EXPORT - Export table to a file.
- CLEAR - Clear the table.
[]> print

admin: administrator@example.com

[ example.com ]
customer: bob@example.com, frank@example.com, sally@example.com

There are currently 2 mappings defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import aliases from a file.
- EXPORT - Export table to a file.
- CLEAR - Clear the table.
[]>

```

表 3-7 エイリアス設定用の引数

引数	説明
<domain>	<p>エイリアスを適用するドメイン コンテキスト。「Global」はグローバルドメイン コンテキストを指定します。</p> <p>設定するエイリアスの名前。</p> <p>グローバルドメイン コンテキストで使用できるエイリアスは次のとおりです。</p> <p>‘user@domain’:この E メールアドレス。</p> <p>‘user’:任意のドメインのこのユーザ。</p> <p>‘@domain’:このドメインのすべてのユーザ。</p> <p>‘@.partialdomain’:このドメインまたはその任意のサブドメインのすべてのユーザ。</p> <p>特定のドメイン コンテキストで使用できるエイリアスは次のとおりです。</p> <p>‘User’:このドメイン コンテキストのこのユーザ</p>
<alias>	<p>‘User@domain’:この E メールアドレス</p>
<email_address>	<p>エイリアスをマッピングする電子メール アドレス。1 つのエイリアスを複数の電子メール アドレスにマッピングできます。</p>
<filename>	<p>エイリアス テーブルのインポート/エクスポートに使用するファイル名。</p>

archivemessage

説明

キュー内の古いメッセージをアーカイブします。

使用方法

確定:このコマンドに `commit` は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次の例では、古いメッセージをアーカイブします。

```
mail3.example.com> archivemessage
```

```
Enter the MID to archive.
```

```
[0]> 47
```

```
MID 47 has been saved in file oldmessage_47.mbox in the configuration
```

altsrchoost

説明

Virtual Gateway™ のマッピングを設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「`commit`」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次の例では、`altsrchoost` テーブルが出力されて、既存のマッピングがないことが示されます。その後、2つのエントリが作成されます。

- グループウェア サーバ ホスト `@exchange.example.com` からのメールは、`PublicNet` インターフェイスにマッピングされます。
- 送信者 IP アドレス `192.168.35.35` からのメールは、`AnotherPublicNet` インターフェイスにマッピングされます。

最後に、確認のために `altsrchoost` マッピングが出力されて、変更が確定されます。

```
mail3.example.com> altsrchost

There are currently no mappings configured.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new mapping.
- IMPORT - Load new mappings from a file.
[ ]> new

Enter the Envelope From address or client IP address for which you want to set up a
Virtual Gateway mapping. Partial addresses such as "@example.com" or "user@" are allowed.
[ ]> @exchange.example.com

Which interface do you want to send messages for @exchange.example.com from?
1. AnotherPublicNet (192.168.2.2/24: mail4.example.com)
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail4.example.com)
[1]> 4

Mapping for @exchange.example.com on interface PublicNet created.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new mapping.
- EDIT - Modify a mapping.
- DELETE - Remove a mapping.
- IMPORT - Load new mappings from a file.
- EXPORT - Export all mappings to a file.
- PRINT - Display all mappings.
- CLEAR - Remove all mappings.
[ ]> new

Enter the Envelope From address or client IP address for which you want to set up a
Virtual Gateway mapping. Partial addresses such as "@example.com" or "user@" are allowed.
[ ]> 192.168.35.35

Which interface do you want to send messages for 192.168.35.35 from?
1. AnotherPublicNet (192.168.2.2/24: mail4.example.com)
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail4.example.com)
[1]> 1

Mapping for 192.168.35.35 on interface AnotherPublicNet created.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new mapping.
- EDIT - Modify a mapping.
- DELETE - Remove a mapping.
- IMPORT - Load new mappings from a file.
- EXPORT - Export all mappings to a file.
- PRINT - Display all mappings.
- CLEAR - Remove all mappings.
[ ]> print

1. 192.168.35.35 -> AnotherPublicNet
2. @exchange.example.com -> PublicNet

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new mapping.
- EDIT - Modify a mapping.
- DELETE - Remove a mapping.
- IMPORT - Load new mappings from a file.
- EXPORT - Export all mappings to a file.
```

```
- PRINT - Display all mappings.
- CLEAR - Remove all mappings.
[]>
mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> Added 2 altsrchoost mappings

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

bounceconfig

説明

バウンスの動作を設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次の例では、`bounceconfig` コマンドを使用して、`bounceprofile` という名前のバウンスプロファイルを作成します。このプロファイルでは、ハード バウンドされたすべてのメッセージが代替アドレスである `bounce-mailbox@example.com` に送信されます。遅延警告メッセージはイネーブールです。受信者あたり警告メッセージが1つ送信されます。警告メッセージ間のデフォルト値は4時間(14400秒)です。

```
mail3.example.com> bounceconfig

Current bounce profiles:
1. Default

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.
[]> new

Please create a name for the profile:
[]> bounceprofile

Please enter the maximum number of retries.
[100]> 100

Please enter the maximum number of seconds a message may stay in the queue before being
hard bounced.

[259200]> 259200

Please enter the initial number of seconds to wait before retrying a message.
[60]> 60
```

```

Please enter the maximum number of seconds to wait before retrying a message.
[3600]> 3600

Do you want a message sent for each hard bounce?(Yes/No/Default) [Y]> y

Do you want bounce messages to use the DSN message format?(Yes/No/Default) [Y]> y

If a message is undeliverable after some interval, do you want to send a delay warning
message?(Yes/No/Default) [N]> y

Please enter the minimum interval in seconds between delay warning messages.
[14400]> 14400

Please enter the maximum number of delay warning messages to send per
recipient.
[1]> 1

Do you want hard bounce and delay warning messages sent to an alternate address, instead
of the sender? [N]> y

Please enter the email address to send hard bounce and delay warning.
[]> bounce-mailbox@example.com

Current bounce profiles:
1. Default
2. bounceprofile

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.
- DELETE - Remove a profile.
[]>
mail3.example.com>

```

デフォルトのバウンス プロファイルの編集

デフォルトのバウンス プロファイルを編集することもできます。この例では、デフォルト プロファイル編集して、到達不可能なホストへの再試行を待機する最大秒数を 3600 (1 時間) から 10800 (3 時間) に増やします。

```

mail3.example.com> bounceconfig

Current bounce profiles:
1. Default
2. bounceprofile

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.
- DELETE - Remove a profile.
[]> edit

Please enter the number of the profile to edit:
[]> 2

Please enter the maximum number of retries.
[100]>

Please enter the maximum number of seconds a message may stay in the queue before being
hard bounced.
[259200]>

```

```

Please enter the initial number of seconds to wait before retrying a message.
[60]>

Please enter the maximum number of seconds to wait before retrying a message.
[3600]> 10800

Do you want a message sent for each hard bounce?(Yes/No/Default) [Y]>

Do you want bounce messages to use the DSN message format?(Yes/No/Default) [N]>

If a message is undeliverable after some interval, do you want to send a delay warning
message?(Yes/No/Default) [N]>

Do you want hard bounce messages sent to an alternate address, instead of the sender? [Y]>

Please enter the email address to send hard bounce.
[bounce-mailbox@example.com]>

Current bounce profiles:
1. Default
2. bounceprofile

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.
- DELETE - Remove a profile.

```

リスナーへのバウンス プロファイルの適用

バウンス プロファイルを設定したら、`listenerconfig -> bounceconfig` コマンドを使用し、変更を確定することにより、そのプロファイルを各リスナーに適用できます。



(注)

バウンス プロファイルは、メッセージを受信したリスナーに基づいて適用できます。ただし、そのリスナーはメッセージが最終的にどのように配信されるかには関係しません。

この例では、`OutboundMail` プライベート リスナーを編集し、このリスナーに `bouncepr1` というバウンス プロファイルを適用します。

```

mail3.example.com> listenerconfig

Currently configured listeners:
1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP Port 25 Private

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.
[ ]> edit

Enter the name or number of the listener you wish to edit.
[ ]> 2

Name: OutboundMail
Type: Private
Interface: PrivateNet (192.168.1.1/24) TCP Port 25
Protocol: SMTP
Default Domain:

```

```

Max Concurrency: 600 (TCP Queue: 50)
Domain Map: Disabled
TLS: No
SMTP Authentication: Disabled
Bounce Profile: Default
Footer: None
LDAP: Off

Choose the operation you want to perform:
- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.
[]> bounceconfig

Please choose a bounce profile to apply:
1. Default
2. bouncepr1
3. New Profile
[1]> 2

Name: OutboundMail
Type: Private
Interface: PrivateNet (192.168.1.1/24) TCP Port 25
Protocol: SMTP
Default Domain:
Max Concurrency: 600 (TCP Queue: 50)
Domain Map: Disabled
TLS: No
SMTP Authentication: Disabled
Bounce Profile: bouncepr1
Footer: None
LDAP: Off

Choose the operation you want to perform:
- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.
[]>

Currently configured listeners:
1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP Port 25 Private

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.
[]>

mail3.example.com> commit

```

```
Please enter some comments describing your changes:
[]> Enabled the bouncepr1 profile to the Outbound mail listener

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

bouncerecipients

説明

キューからメッセージをバウンスします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。
クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。
バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

バウンスされる受信者は、宛先受信者ホストによって、またはメッセージ エンベロープの Envelope From 行に指定された特定のアドレスで識別されるメッセージ送信者によって識別されます。または、配信キュー内のすべてのメッセージを一度にバウンスすることもできます。

受信者ホストによるバウンス

```
mail3.example.com> bouncerecipients

Please select how you would like to bounce messages:
1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.
[1]> 1

Please enter the hostname for the messages you wish to bounce.
[]> example.com

Are you sure you want to bounce all messages being delivered to "example.com"? [N]> Y

Bouncing messages, please wait.
100 messages bounced.
```

Envelope From アドレスによるバウンス

```
mail3.example.com> bouncerecipients

Please select how you would like to bounce messages:
1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.
[1]> 2

Please enter the Envelope From address for the messages you wish to bounce.
[]> mailadmin@example.com
```

```
Are you sure you want to bounce all messages with the Envelope From address of
"mailadmin@example.com"? [N]> Y

Bouncing messages, please wait.
100 messages bounced.
```

すべてバウンス

```
mail3.example.com> bouncerecipients

Please select how you would like to bounce messages:
1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.
[1]>

Are you sure you want to bounce all messages in the queue? [N]> Y

Bouncing messages, please wait.
1000 messages bounced.
```

bvconfig

説明

バウンス検証の設定を行います。このコマンドは、キーおよびバウンスされた無効な電子メールを設定するために使用します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次に、キー設定とバウンスされた無効な電子メールの設定の例を示します。

```
mail3.example.com> bvconfig

Behavior on invalid bounces: reject

Key for tagging outgoing mail: key

Previously-used keys for verifying incoming mail:

    1. key (current outgoing key)
    2. goodneighbor (last in use Wed May 31 23:21:01 2006 GMT)

Choose the operation you want to perform:
- KEY - Assign a new key for tagging outgoing mail.
- PURGE - Purge keys no longer needed for verifying incoming mail.
```

```
- CLEAR - Clear all keys including current key.
- SETUP - Set how invalid bounces will be handled.
[]> key

Enter the key to tag outgoing mail with (when tagging is enabled in the Good
Neighbor Table)
[]> basic_key

Behavior on invalid bounces: reject

Key for tagging outgoing mail: basic_key

Previously-used keys for verifying incoming mail:

    1. basic_key (current outgoing key)
    2. key (last in use Wed May 31 23:22:49 2006 GMT)
    3. goodneighbor (last in use Wed May 31 23:21:01 2006 GMT)

Choose the operation you want to perform:
- KEY - Assign a new key for tagging outgoing mail.
- PURGE - Purge keys no longer needed for verifying incoming mail.
- CLEAR - Clear all keys including current key.
- SETUP - Set how invalid bounces will be handled.
[]> setup

How do you want bounce messages which are not addressed to a valid tagged
recipient to be handled?
1. Reject.
2. Add a custom header and deliver.
[1]> 1

Behavior on invalid bounces: reject

Key for tagging outgoing mail: basic_key

Previously-used keys for verifying incoming mail:

    1. basic_key (current outgoing key)
    2. key (last in use Wed May 31 23:22:49 2006 GMT)
    3. goodneighbor (last in use Wed May 31 23:21:01 2006 GMT)

Choose the operation you want to perform:
- KEY - Assign a new key for tagging outgoing mail.
- PURGE - Purge keys no longer needed for verifying incoming mail.
- CLEAR - Clear all keys including current key.
- SETUP - Set how invalid bounces will be handled.
[]>

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> Configuring a new key and setting reject for invalid email bounces

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

deleterecipients

説明

キューからメッセージを削除します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

アプライアンスには、必要に応じて受信者を削除するための各種のオプションが用意されています。次に、受信者ホスト別の受信者の削除、Envelope From アドレスによる削除、およびキュー内のすべての受信者の削除の例を示します。

受信者ドメインによる削除

```
mail3.example.com> deleterecipients

Please select how you would like to delete messages:
1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.
[1]> 1
Please enter the hostname for the messages you wish to delete.
[]> example.com

Are you sure you want to delete all messages being delivered to "example.com"? [N]> Y

Deleting messages, please wait.
100 messages deleted.
```

Envelope From アドレスによる削除

```
mail3.example.com> deleterecipients

Please select how you would like to delete messages:
1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.
[1]> 2
Please enter the Envelope From address for the messages you wish to delete.
[]> mailadmin@example.com

Are you sure you want to delete all messages with the Envelope From address of
"mailadmin@example.com"? [N]> Y

Deleting messages, please wait.
100 messages deleted.
```

すべて削除

```
mail3.example.com> deleterecipients

Please select how you would like to delete messages:
1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.
[1]> 1
Are you sure you want to delete all messages in the queue? [N]> Y

Deleting messages, please wait.
1000 messages deleted.
```

deliveryconfig

説明

メール配信を設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できません。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次の例では、`deliveryconfig` コマンドを使用し、[配信可能性あり (Possible Delivery)] をイネーブ
ルにして、デフォルトのインターフェイスを [自動 (Auto)] に設定します。システム全体の最大発
信メッセージ配信は、9000 接続です。

```
mail3.example.com> deliveryconfig

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure mail delivery.
[ ]> setup

Choose the default interface to deliver mail.
1. Auto
2. AnotherPublicNet (192.168.3.1/24: mail4.example.com)
3. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
4. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
5. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)
[1]> 1

Enable "Possible Delivery" (recommended)? [Y]> y

Please enter the default system wide maximum outbound message delivery
concurrency
[10000]> 9000

mail3.example.com>
```

delivernow

説明

メッセージのスケジュールを即時配信用に再設定します。ユーザは、1つの受信者ホストと、配信用に現在スケジュールされているすべてのメッセージのいずれかを選択できます。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> delivernow

Please choose an option for scheduling immediate delivery.
1. By recipient domain
2. All messages
[1]> 1

Please enter the recipient domain to schedule for delivery.
[]>foo.com

Scheduling all messages to foo.com for delivery.
```

destconfig

以前の `setgoodtable` コマンドです。テーブルは、現在、宛先制御テーブルと呼ばれています。このテーブルを使用して、指定したドメインの配信制限を設定します。

destconfig コマンドの使用

destconfig サブメニューでは、次のコマンドを使用できます。

表 3-8 destconfig サブコマンド

構文	説明
SETUP	グローバル設定を変更します。
NEW	ドメインの新しい制限を追加します。
EDIT	ドメインの制限を変更します。
DELETE	ドメインの制限を削除します。
DEFAULT	指定されていないドメインのデフォルトの制限を変更します。
LIST	ドメインとその制限のリストを表示します。
DETAIL	1つの宛先またはすべてのエントリの詳細を表示します。

表 3-8 destconfig サブコマンド(続き)

構文	説明
CLEAR	テーブルからすべてのエントリを削除します。
IMPORT	.INI コンフィギュレーション ファイルから宛先制御エントリのテーブルをインポートします。
EXPORT	宛先制御エントリのテーブルを .INI コンフィギュレーション ファイルにエクスポートします。

destconfig コマンドには、宛先制御テーブルの各行を構成する以下の情報を指定する必要があります。

- ドメイン(受信者ホスト)
- ドメインへの最大同時接続数
- 接続ごとの最大メッセージ数
- 受信者制限
- システム全体または仮想ゲートウェイ スイッチ
- MX またはドメインごとの制限の適用
- 受信者制限の期間(分単位)
- バウンス検証
- ドメインで使用するバウンス プロファイル

サンプル宛先制御テーブル

次の表に、宛先制御テーブルのエントリを示します。

表 3-9 宛先制御テーブルのエントリ例

ドメイン	Conn. Limit	Rcpt.Limit	Min. Prd.	Enforce MX/DOM
(デフォルト)	[500]	なし	[1]	ドメイン
表示されていないドメインの接続数は 500、1 時間あたりの受信者数は無制限				
(デフォルト)	[500]	なし	[1]	MXIP
表示されていないドメインのメール ゲートウェイの最大接続数は 500、1 時間あたりの受信者数は無制限				
partner.com	[10]	[500]	[60]	ドメイン
partner.com のすべてのゲートウェイが 10 個の接続を共有、1 分間の最大受信者数は 500				
101.202.101.2	[500]	なし	[0]	MXIP
IP アドレスの指定				

バッチ形式

destconfig コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- 新しい宛先制御テーブルの作成

```
destconfig new <profile> [options]
```

- 既存の宛先制御テーブルの編集

```
destconfig edit <default|profile> [options]
```

- 既存の宛先制御テーブルの削除

```
destconfig delete <profile>
```

- 宛先制御エントリの一覧表示

```
destconfig list
```

- 1つの宛先またはすべてのエントリの詳細の表示

```
destconfig detail <default|profile|all>
```

- 既存の宛先制御テーブルからすべてのエントリを削除

```
destconfig clear
```

- ファイルからのテーブルのインポート

```
destconfig import <filename>
```

- テーブルのファイルへのエクスポート

```
destconfig export <filename>
```

edit および new バッチ コマンドでは、変数名と等号を使用して値を示すことにより、以下のオプションを任意の数だけ指定できます。指定しなかったオプションは、edit を使用した場合は変更されず、new を使用した場合はデフォルト値に設定されます。

concurrency_limit=<int> - The maximum concurrency for a specific host.

concurrency_limit_type=<host|MXIP> - Maximum concurrency is per host or per MX IP.

concurrency_limit_apply=<system|VG> - Apply maximum concurrency is system wide or by Virtual Gateway(tm).

```

max_messages_per_connection=<int> - The maximum number of messages that
will be sent per connection.

recipient_limit_minutes=<int> - The time frame to check for recipient
limits in minutes.

recipient_limit=<int> - The number of recipients to limit per unit of
time.

use_tls=<off|on|require|on_verify|require_verify> - Whether TLS should be
on, off, or required for a given host.

bounce_profile=<default|profile> - The bounce profile name to use.

bounce_verification=<off|on> - Bounce Verification option.

```

例:新しい destconfig エントリの作成

次の例では、現在の destconfig エントリを画面に出力します。さらに、ドメイン partner.com の新しいエントリを作成します。このドメインについては、最大同時接続数が 100、60 分あたりの受信者制限が 50 に設定されます。したがって、システムはドメイン partner.com に対し、1 時間に 100 を超える接続を確立せず、50 を超える受信者にメッセージを配信しません。このドメインにバウンスプロファイルは割り当てられず、TLS 設定は設定されません。最後に、変更が確認のために出力され、確定されます。

```

mail3.example.com> destconfig

There are currently 2 entries configured.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- EXPORT - Export tables to a file.
[]> list

1

```

Domain	Rate Limiting	TLS	Bounce Verification	Bounce Profile
(Default)	On	Off	Off	(Default)

```

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- EXPORT - Export tables to a file.
[]> new

```

```

Enter the domain you wish to configure.

[> partner.com

Do you wish to configure a concurrency limit for partner.com? [Y]> y

Enter the max concurrency limit for "partner.com".
[500]> 100

Do you wish to apply a messages-per-connection limit to this domain? [N]> n

Do you wish to apply a recipient limit to this domain? [N]> y

Enter the number of minutes used to measure the recipient limit.
[60]> 60

Enter the max number of recipients per 60 minutes for "partner.com".
[> 50

Select how you want to apply the limits for partner.com:
1. One limit applies to the entire domain for partner.com
2. Separate limit for each mail exchanger IP address
[1]> 1

Select how the limits will be enforced:
1. System Wide
2. Per Virtual Gateway(tm)
[1]> 1

Do you wish to apply a specific TLS setting for this domain? [N]> n

Do you wish to apply a specific bounce verification address tagging setting for
this domain? [N]> n

Do you wish to apply a specific bounce profile to this domain? [N]> n

There are currently 3 entries configured.

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[> Throttled delivery to partner.com in the destconfig table

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT

```

例:バウンス プロファイルと TLS 設定

この例では、ドメイン `newpartner.com` に新しい `destconfig` エントリを設定します。TLS 接続が必要です。また、この例では、ドメイン `bouncepr1` (「デフォルトのバウンス プロファイルの編集」(138 ページ)を参照) というバウンス プロファイルをドメイン `newpartner.com` へのすべての電子メール配信に使用されるように設定します。

```

mail3.example.com> destconfig

There is currently 1 entry configured.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.

```

```

- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- EXPORT - Export tables to a file.
[]> new

Enter the domain you wish to configure.
[]> newpartner.com

Do you wish to configure a concurrency limit for newpartner.com? [Y]> n

Do you wish to apply a messages-per-connection limit to this domain? [N]> n

Do you wish to apply a recipient limit to this domain? [N]> n

Do you wish to apply a specific TLS setting for this domain? [N]> y

Do you want to use TLS support?
1. No
2. Preferred
3. Required
4. Preferred(Verify)
5. Required(Verify)
[1]> 3

You have chosen to enable TLS. Please use the 'certconfig' command to ensure that there is
a valid certificate configured.

Do you wish to apply a specific bounce verification address tagging setting for this
domain? [N]> y

Perform bounce verification address tagging? [N]> y

Do you wish to apply a specific bounce profile to this domain? [N]> y

Please choose a bounce profile to apply:
1. Default
2. New Profile
[1]> 1

There are currently 2 entries configured.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- EXPORT - Export tables to a file.
[]> detail

          Rate          Bounce          Bounce
Domain    Limiting  TLS    Verification  Profile
=====  =====  =====
newpartner.com  Default  Req  On           Default
(Default)      On       Off  Off          (Default)

```

```

Enter the domain name to view, or enter DEFAULT to view details for the
default, or enter ALL to view details for all:
[]> all

newpartner.com
Maximum messages per connection: Default
Rate Limiting: Default
TLS: Required
Bounce Verification Tagging: On
Bounce Profile: Default

Default
Rate Limiting:
500 concurrent connections
No recipient limit
Limits applied to entire domain, across all virtual gateways
TLS: Off
Bounce Verification Tagging: Off

There are currently 2 entries configured.

[]>

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> enabled TLS for delivery to newpartner.com using demo certificate

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT

```

例:着信「緩衝装置」

この例では、メールを内部グループウェアサーバ exchange.example.com にスロットリングする別の destconfig エントリを作成します。この内部サーバ用の「緩衝装置」エントリを指定することで、トラフィックが特に増大する時間帯には着信が内部グループウェアサーバにスロットリングされます。この例では、アプライアンスは、内部グループウェアサーバ exchange.example.com に対し、1 分間に 10 を超える同時接続を確立せず、1000 を超える受信者にメッセージを配信しません。バウンス プロファイルと TLS 設定は設定されません。

```

mail3.example.com> destconfig

There are currently 2 entries configured.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- CLEAR - Remove all entries.
[]> new

Enter the domain you wish to configure.
[]> exchange.example.com

Do you wish to configure a concurrency limit for exchange.example.com? [Y]> y

```

```

Enter the max concurrency limit for "exchange.example.com".
[500]> 10

Do you wish to apply a recipient limit to this domain? [N]> y

Enter the number of minutes used to measure the recipient limit.
[60]> 1

Enter the max number of recipients per 1 minutes for "exchange.example.com".
[]> 1000

Select how you want to apply the limits for exchange.example.com:
1. One limit applies to the entire domain for exchange.example.com
2. Separate limit for each mail exchanger IP address
[1]> 1

Select how the limits will be enforced:
1. System Wide
2. Per Virtual Gateway(tm)
[1]> 1

Do you wish to apply a specific TLS setting for this domain? [N]> n
Do you wish to apply a specific bounce verification address tagging setting for this
domain? [N]> n

Do you wish to apply a specific bounce profile to this domain? [N]> n

There are currently 3 entries configured.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- CLEAR - Remove all entries.
[]>

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> set up shock absorber for inbound mail

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT

```

例:グローバル設定

この例では、TLS 接続の TLS アラートおよび証明書を設定します。

```

mail3.example.com> destconfig
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Change global settings.
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- DEFAULT - Change the default.
- LIST - Display a summary list of all entries.
- DETAIL - Display details for one destination or all entries.

```

```
- CLEAR - Remove all entries.
- IMPORT - Import tables from a file.
- EXPORT - Export tables to a file.
[ ]> setup
```

The "Demo" certificate is currently configured.You may use "Demo", but this will not be secure.

```
1. partner.com
2. Demo
```

Please choose the certificate to apply:

```
[1]> 1
```

```
Do you want to send an alert when a required TLS connection fails? [N]> n
```

hostrate

説明

特定のホストのアクティビティをモニタします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> hostrate
```

Recipient host:

```
[ ]> aol.com
```

Enter the number of seconds between displays.

```
[10]> 1
```

Time	Host	CrtCncOut	ActvRcp	ActvRcp Delta	DlvRcp Delta	HrdBncRcp Delta	SftBncEvt Delta
23:38:23	up	1	0	0	4	0	0
23:38:24	up	1	0	0	4	0	0
23:38:25	up	1	0	0	12	0	0

^C

hostrate コマンドを停止するには、Ctrl+C を使用します。

hoststatus

説明

特定のホスト名のステータスを取得します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> hoststatus

Recipient host:
[]> aol.com

Host mail status for: 'aol.com'
Status as of:      Fri Aug  8 11:12:00 2003
Host up/down:     up

Counters:
  Queue
    Soft Bounced Events          0
  Completion
    Completed Recipients          1
    Hard Bounced Recipients      1
    DNS Hard Bounces              0
    5XX Hard Bounces              1
    Filter Hard Bounces           0
    Expired Hard Bounces          0
    Other Hard Bounces            0
    Delivered Recipients          0
    Deleted Recipients            0

Gauges:
  Queue
    Active Recipients             0
    Unattempted Recipients        0
    Attempted Recipients          0
  Connections
    Current Outbound Connections  0
    Pending Outbound Connections  0

Oldest Message      No Messages
Last Activity       Fri Aug  8 11:04:24 2003
Ordered IP addresses: (expiring at Fri Aug  8 11:34:24 2003)
  Preference  IPs
  15          64.12.137.121  64.12.138.89  64.12.138.120
  15          64.12.137.89    64.12.138.152 152.163.224.122
  15          64.12.137.184   64.12.137.89  64.12.136.57
  15          64.12.138.57    64.12.136.153 205.188.156.122
  15          64.12.138.57    64.12.137.152 64.12.136.89
  15          64.12.138.89    205.188.156.154 64.12.138.152
  15          64.12.136.121  152.163.224.26 64.12.137.184
  15          64.12.138.120  64.12.137.152 64.12.137.121

MX Records:
  Preference  TTL      Hostname
  15          52m24s  mailin-01.mx.aol.com
  15          52m24s  mailin-02.mx.aol.com
  15          52m24s  mailin-03.mx.aol.com
  15          52m24s  mailin-04.mx.aol.com
```

```

Last 5XX Error:
-----
550 REQUESTED ACTION NOT TAKEN: DNS FAILURE
(at Fri Aug 8 11:04:25 2003)
-----

Virtual gateway information:
=====
example.com (PublicNet_017):
  Host up/down:up
  Last ActivityWed Nov 13 13:47:02 2003
  Recipients0
=====
example.com (PublicNet_023):
  Host up/down:up
  Last ActivityWed Nov 13 13:45:01 2003
  Recipients

```

imageanalysisconfig

説明

IronPort イメージ分析の設定値を設定します

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```

mail.example.com>imageanalysisconfig

IronPort Image Analysis: Enabled
Image Analysis Sensitivity: 65
Verdict Ranges: Clean (0-49), Suspect(50-74), Inappropriate (75+)
Skip small images with size less than 100 pixels (width or height)

```

(ここに初めてライセンス契約書が表示されます。)

```

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure IronPort Image Analysis.
[ ]> setup

```

```

IronPort Image Analysis: Enabled
Would you like to use IronPort Image Analysis? [Y]>

```

```

Define the image analysis sensitivity.Enter a value between 0 (least sensitive) and 100
(most sensitive).As sensitivity increases, so does the false
positive rate.The default setting of 65 is recommended.
[65]>

```

```
Define the range for a CLEAN verdict.Enter the upper bound of the CLEAN range by entering
a value between 0 and 98.The default setting of 49 is
recommended.
[49]>

Define the range for a SUSPECT verdict.Enter the upper bound of the SUSPECT range by
entering a value between 50 and 99.The default setting of 74 is
recommended.
[74]>

Would you like to skip scanning of images smaller than a specific size? [Y]>

Please enter minimum image size to scan in pixels, representing either height or width of
a given image.
[100]>

IronPort Image Analysis: Enabled
Image Analysis Sensitivity: 65
Verdict Ranges: Clean (0-49), Suspect(50-74), Inappropriate (75+)
Skip small images with size less than 100 pixels (width or height)

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure IronPort Image Analysis.
[]>
```

oldmessage

説明

システム上の最も古い非隔離メッセージの MID とヘッダーを表示します。

使用方法

確定:このコマンドに `commit` は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次の例では、古いメッセージを表示します。

```
mail3.example.com> oldmessage

MID 9: 1 hour 5 mins 35 secs old
Received: from test02.com ([172.19.0.109])
by test02.com with SMTP; 14 Feb 2007 22:11:37 -0800
From: user123@test02.com
To: 4031@example.com
Subject: Testing
Message-Id: <20070215061136.68297.16346@test02.com>
```

rate

説明

メッセージのスループットをモニタします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> rate
```

```
Enter the number of seconds between displays.
[10]> 1
```

```
Hit Ctrl-C to return to the main prompt.
```

Time	Connections		Recipients		Recipients		Queue	
	In	Out	Received	Delta	Completed	Delta	K-Used	
23:37:13	10	2	41708833	0	40842686	0	64	
23:37:14	8	2	41708841	8	40842692	6	105	
23:37:15	9	2	41708848	7	40842700	8	76	
23:37:16	7	3	41708852	4	40842705	5	64	
23:37:17	5	3	41708858	6	40842711	6	64	
23:37:18	9	3	41708871	13	40842722	11	67	
23:37:19	7	3	41708881	10	40842734	12	64	
23:37:21	11	3	41708893	12	40842744	10	79	

^C

redirectrecipients

説明

すべてのメッセージを別のリレー ホストにリダイレクトします。



警告

メッセージを、/dev/null を宛先とする受信側ドメインにリダイレクトすると、メッセージが失われます。メールをこのようなドメインにリダイレクトしても、CLI に警告は表示されません。メッセージをリダイレクトする前に、受信側ドメインがあるかどうか SMTP ルートを確認してください。



警告

このホストから大量の SMTP メールを受信できるように準備されていないホストまたは IP アドレスに受信者をリダイレクトすると、メッセージがバウンスされ、メールが失われる可能性があります。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

`redirectrecipients` コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- すべてのメールを別のホスト名または IP アドレスにリダイレクトします。

```
redirectrecipients host <hostname>
```

例

次に、すべてのメールを `example2.com` ホストにリダイレクトする例を示します。

```
mail3.example.com> redirectrecipients
```

```
Please enter the hostname or IP address of the machine you want to send all mail to.  
[> example2.com
```

```
WARNING: redirecting recipients to a host or IP address that is not prepared to accept  
large volumes of SMTP mail from this host will cause messages to bounce and possibly  
result in the loss of mail.
```

```
Are you sure you want to redirect all mail in the queue to "example2.com"? [N]> y
```

```
Redirecting messages, please wait.  
246 recipients redirected.
```

resetcounters

説明

システム内のすべてのカウンタをリセットします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> resetcounters
```

```
Counters reset: Mon Jan 01 12:00:01 2003
```

removemessage

説明

特定のメッセージ ID のメッセージを安全に削除します。

removemessage コマンドでは、作業キュー、再試行キュー、または宛先キュー内のメッセージのみを削除できます。システムの状態によっては、これらのキューに有効でアクティブなメッセージが含まれていない場合があります。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
example.com> removemessage

Enter the MID to remove.
[]> 1

MID 1: 19 secs old

Received: from example2.com ([172.16.0.102])
  by test02.com with SMTP; 01 Mar 2007 19:50:41 -0800
From: user123@test02.com
To: 9526@example.com
Subject: Testing
Message-Id: <20070302035041.67424.53212@test02.com>

Remove this message? [N]> y
```

showmessage

説明

指定されたメッセージ ID のメッセージとメッセージ本文を表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
example.com> showmessage

MID 9: 1 hour 5 mins 35 secs old

Received: from example2.com([172.19.0.109])
  by test02.com with SMTP; 14 Feb 2007 22:11:37 -0800
From: user123@test02.com
To: 4031@example.com
Subject: Testing
Message-Id: <20070215061136.68297.16346@test02.com>

This is the message body.
```

showrecipients

説明

キュー内のメッセージを受信者ホスト別または Envelope From アドレス別に表示するか、すべてのメッセージを表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

showrecipients コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- 受信者ホスト名でのメッセージの検索

```
showrecipients host <hostname>
```

- Envelope From アドレスでのメッセージの検索

```
showrecipients [sender_options] <sender_email>
```

次の sender_option を使用できます。

--match-case アドレスのユーザ名部分の大文字と小文字を区別した一致。

- すべてのメッセージの検索

```
showrecipients all
```

例

次に、すべての受信者ホストへのキュー内のメッセージの例を示します。

```
mail3.example.com> showrecipients

Please select how you would like to show messages:
1. By recipient host.
2. By Envelope From address.
3. All.
[1]> 3

Showing messages, please wait.

MID/      Bytes/      Sender/      Subject
[RID]     [Atmps]    Recipient
1527      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        9554@example.com

1522      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        3059@example.com

1529      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        7284@example.com

1530      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        8243@example.com

1532      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        1820@example.com

1531      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        9595@example.com

1518      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        8778@example.com

1535      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        1703@example.com

1533      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        3052@example.com

1536      1230       user123456@ironport.com Testing
[0]       [0]        511@example.com
```

status

`status` コマンドは、アプライアンスのシステム ステータスを表示するために使用します。「`detail`」オプション(ステータスの詳細)を使用すると、追加情報が表示されます。

使用方法

確定: このコマンドに「`commit`」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> status detail

Status as of:                Mon Sep 08 00:01:44 2014 GMT
Up since:                    Tue Aug 26 17:24:16 2014 GMT

(12d 6h 37m 28s)
Last counter reset:         Never
System status:              Online
Oldest Message:             No Messages
Feature - IronPort Anti-Spam: 1459 days
Feature - Incoming Mail Handling: Perpetual
Feature - Outbreak Filters:  1459 days

Counters:

```

	Reset	Uptime	Lifetime
Receiving			
Messages Received	2	2	2
Recipients Received	2	2	2
Rejection			
Rejected Recipients	0	0	0
Dropped Messages	0	0	0
Queue			
Soft Bounced Events	0	0	0
Completion			
Completed Recipients	0	0	0
Current IDs			
Message ID (MID)			2
Injection Conn. ID (ICID)			0
Delivery Conn. ID (DCID)			13

```

Gauges:

```

	Current
Connections	
Current Inbound Conn.	0
Current Outbound Conn.	0
Queue	
Active Recipients	2
Messages In Work Queue	0
Kilobytes Used	184
Kilobytes Free	8,388,424
Quarantine	
Messages In Quarantine	
Policy, Virus and Outbreak	0
Kilobytes In Quarantine	
Policy, Virus and Outbreak	0

tophosts

説明

電子メールキューに関する現在の情報を取得し、特定の受信者ホストに配信の問題(キューの増大など)があるかどうかを判断するには、tophosts コマンドを使用します。tophosts コマンドは、キュー内の上位 20 の受信者のリストを返します。リストは、アクティブ受信者、発信接続、配信済み受信者、ソフトバウンスイベント、およびハードバウンスされた受信者など、さまざまな統計情報別にソートできます。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> tophosts
```

```
Sort results by:
```

1. Active Recipients
 2. Connections Out
 3. Delivered Recipients
 4. Hard Bounced Recipients
 5. Soft Bounced Events
- ```
[1]> 1
```

```
Status as of: Fri Mar 13 06:09:18 2015 GMT
Hosts marked with '*' were down as of the last delivery attempt.
```

| #  | Recipient Host        | Active Recip. | Conn. Out | Deliv. Recip. | Soft Bounced | Hard Bounced |
|----|-----------------------|---------------|-----------|---------------|--------------|--------------|
| 1* | example.com           | 2             | 0         | 0             | 0            | 0            |
| 2  | the.encryption.queue  | 0             | 0         | 0             | 0            | 0            |
| 3  | the.euq.queue         | 0             | 0         | 0             | 0            | 0            |
| 4  | the.euq.release.queue | 0             | 0         | 0             | 0            | 0            |

## topin

### 説明

着信接続の数の順に上位のホストを表示します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail3.example.com> topin
```

```
Status as of: Sat Aug 23 21:50:54 2003
```

| # | Remote hostname         | Remote IP addr. | listener   | Conn. | In |
|---|-------------------------|-----------------|------------|-------|----|
| 1 | mail.remotedomain01.com | 172.16.0.2      | Incoming01 | 10    |    |
| 2 | mail.remotedomain01.com | 172.16.0.2      | Incoming02 |       | 10 |
| 3 | mail.remotedomain03.com | 172.16.0.4      | Incoming01 |       | 5  |

|    |                         |             |            |   |
|----|-------------------------|-------------|------------|---|
| 4  | mail.remotedomain04.com | 172.16.0.5  | Incoming02 | 4 |
| 5  | mail.remotedomain05.com | 172.16.0.6  | Incoming01 | 3 |
| 6  | mail.remotedomain06.com | 172.16.0.7  | Incoming02 | 3 |
| 7  | mail.remotedomain07.com | 172.16.0.8  | Incoming01 | 3 |
| 8  | mail.remotedomain08.com | 172.16.0.9  | Incoming01 | 3 |
| 9  | mail.remotedomain09.com | 172.16.0.10 | Incoming01 | 3 |
| 10 | mail.remotedomain10.com | 172.16.0.11 | Incoming01 | 2 |
| 11 | mail.remotedomain11.com | 172.16.0.12 | Incoming01 | 2 |
| 12 | mail.remotedomain12.com | 172.16.0.13 | Incoming02 | 2 |
| 13 | mail.remotedomain13.com | 172.16.0.14 | Incoming01 | 2 |
| 14 | mail.remotedomain14.com | 172.16.0.15 | Incoming01 | 2 |
| 15 | mail.remotedomain15.com | 172.16.0.16 | Incoming01 | 2 |
| 16 | mail.remotedomain16.com | 172.16.0.17 | Incoming01 | 2 |
| 17 | mail.remotedomain17.com | 172.16.0.18 | Incoming01 | 1 |
| 18 | mail.remotedomain18.com | 172.16.0.19 | Incoming02 | 1 |
| 19 | mail.remotedomain19.com | 172.16.0.20 | Incoming01 | 1 |
| 20 | mail.remotedomain20.com | 172.16.0.21 | Incoming01 | 1 |

## unsubscribe

### 説明

グローバル配信停止リストを更新します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

この例では、アドレス `user@example.net` がグローバル配信停止リストに追加され、メッセージをハード バウンスするように機能が設定されます。このアドレスに送信されるメッセージはバウンスされます。配信の直前にメッセージがバウンスされます。

```
mail3.example.com> unsubscribe
```

```
Global Unsubscribe is enabled.Action: drop.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new entry.
- IMPORT - Import entries from a file.
- SETUP - Configure general settings.

```
[> new
```

```
Enter the unsubscribe key to add. Partial addresses such as "@example.com" or "user@" are allowed, as are IP addresses.Partial hostnames such as "@.example.com" are allowed.
```

```
[> user@example.net
```

```

Email Address 'user@example.net' added.
Global Unsubscribe is enabled.Action: drop.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- DELETE - Remove an entry.
- PRINT - Display all entries.
- IMPORT - Import entries from a file.
- EXPORT - Export all entries to a file.
- SETUP - Configure general settings.
- CLEAR - Remove all entries.
[]> setup

Do you want to enable the Global Unsubscribe feature? [Y]> y

Would you like matching messages to be dropped or bounced?
1. 削除
2. Bounce
[1]> 2

Global Unsubscribe is enabled.Action: bounce.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- DELETE - Remove an entry.
- PRINT - Display all entries.
- IMPORT - Import entries from a file.
- EXPORT - Export all entries to a file.
- SETUP - Configure general settings.
- CLEAR - Remove all entries.
[]>

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> Added username "user@example.net" to global unsubscribe

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT

```

## workqueue

### 説明

作業キューの一時停止ステータスを表示および変更します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail3.example.com> workqueue

Status: Operational
Messages: 1243

Manually pause work queue?This will only affect unprocessed messages. [N]> y

Reason for pausing work queue:
[]> checking LDAP server

Status: Paused by admin: checking LDAP server
Messages: 1243
```



(注) 理由の入力は任意です。理由を入力しない場合、理由を「operator paused」としてログが記録されます。

次の例では、ワーク キューが再開されます。

```
mail3.example.com> workqueue

Status: Paused by admin: checking LDAP server
Messages: 1243

Resume the work queue? [Y]> y

Status: Operational
Messages: 1243
```

## ネットワーク設定/ネットワーク ツール

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [etherconfig](#)
- [interfaceconfig](#)
- [netstat](#)
- [nslookup](#)
- [packetcapture](#)
- [ping](#)
- [ping6](#)
- [routeconfig](#)
- [setgateway](#)
- [sethostname](#)
- [smtproutes](#)
- [sslconfig](#)
- [sslv3config](#)
- [telnet](#)
- [traceroute](#)
- [traceroute6](#)

## etherconfig

### 説明

メディア設定、NIC ペアリング、VLAN 設定、DSR 設定などのイーサネット設定を行います。

### 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```
mail3.example.com> etherconfig

Choose the operation you want to perform:
- MEDIA - View and edit ethernet media settings.
- VLAN - View and configure VLANs.
- LOOPBACK - View and configure Loopback.
- MTU - View and configure MTU.
- MULTICAST - Accept or reject ARP replies with a multicast address.
[]> vlan

VLAN interfaces:

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new VLAN.
[]> new

VLAN tag ID for the interface (Ex: "34"):
[]> 12

Enter the name or number of the ethernet interface you wish bind to:
1. Data 1
2. Data 2
3. Management
[1]> 1

VLAN interfaces:
1. VLAN 12 (Data 1)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new VLAN.
- EDIT - Edit a VLAN.
- DELETE - Delete a VLAN.
[]>

Choose the operation you want to perform:
- MEDIA - View and edit ethernet media settings.
- VLAN - View and configure VLANs.
- LOOPBACK - View and configure Loopback.
- MTU - View and configure MTU.
- MULTICAST - Accept or reject ARP replies with a multicast address.
[]> loopback
```

```
Currently configured loopback interface:

Choose the operation you want to perform:
- ENABLE - Enable Loopback Interface.
[]>

Choose the operation you want to perform:
- MEDIA - View and edit ethernet media settings.
- VLAN - View and configure VLANs.
- LOOPBACK - View and configure Loopback.
- MTU - View and configure MTU.
- MULTICAST - Accept or reject ARP replies with a multicast address.
[]> mtu

Ethernet interfaces:
1. Data 1 default mtu 1500
2. Data 2 default mtu 1500
3. Management default mtu 1500
4. VLAN 12 default mtu 1500

Choose the operation you want to perform:
- EDIT - Edit an ethernet interface.
[]> edit

Enter the name or number of the ethernet interface you wish to edit.
[]> pair1

That value is not valid.

Enter the name or number of the ethernet interface you wish to edit.
[]> 12

That value is not valid.

Enter the name or number of the ethernet interface you wish to edit.
[]> 2

Please enter a non-default (1500) MTU value for the Data 2 interface.
[]> 1200

Ethernet interfaces:
1. Data 1 default mtu 1500
2. Data 2 mtu 1200
3. Management default mtu 1500
4. VLAN 12 default mtu 1500

Choose the operation you want to perform:
- EDIT - Edit an ethernet interface.
[]>
```

## interfaceconfig

### 説明

インターフェイスを設定します。インターフェイスを作成、編集、削除できます。FTP をイネーブルにし、IP アドレスを変更し、イーサネット IP アドレスを設定できます。

## 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

interfaceconfig コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- 新しいインターフェイスの作成

```
interfaceconfig new <name>

 <ethernet interface>

 <hostname>

 --ip=IPv4 Address/Netmask

 --ip6=IPv6 Address/Prefix Length

 [--ftp[=<port>]]

 [--telnet[=<port>]]

 [--ssh[=<port>]]

 [--http][=<port>]

 [--https[=<port>]]

 [--euq_http[=<port>]]

 [--euq_https][=<port>]

 [--ccs[=<port>]].
```

FTP is available only on IPv4.

- インターフェイスの削除

```
interfaceconfig delete <name>
```

## 例: インターフェイスの設定

```
mail.example.com> interfaceconfig

Currently configured interfaces:
1. Management (10.76.69.149/24 on Management: mail.example.com)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new interface.
```

```
- EDIT - Modify an interface.
- GROUPS - Define interface groups.
- DELETE - Remove an interface.
[]> edit

Enter the number of the interface you wish to edit.
[]> 1

IP interface name (Ex: "InternalNet"):
[Management]>

Would you like to configure an IPv4 address for this interface (y/n)? [Y]>

IPv4 Address (Ex: 192.168.1.2):
[1.1.1.1]>

Netmask (Ex: "24", "255.255.255.0" or "0xffffffff"):
[0xffffffff]>

Would you like to configure an IPv6 address for this interface (y/n)? [N]> n

Ethernet interface:
1. Data 1
2. Data 2
3. Management
[3]>

Hostname:
[mail.example.com]>

Do you want to enable SSH on this interface? [Y]>

Which port do you want to use for SSH?
[22]>

Do you want to enable FTP on this interface? [N]>

Do you want to enable Cluster Communication Service on this interface? [N]>

Do you want to enable HTTP on this interface? [Y]>

Which port do you want to use for HTTP?
[80]>

Do you want to enable HTTPS on this interface? [Y]>

Which port do you want to use for HTTPS?
[443]>

Do you want to enable Spam Quarantine HTTP on this interface? [N]>

Do you want to enable Spam Quarantine HTTPS on this interface? [N]>

Do you want to enable AsyncOS API (Monitoring) HTTP on this interface? [N]> y

Which port do you want to use for AsyncOS API (Monitoring) HTTP?
[6080]>

Do you want to enable AsyncOS API (Monitoring) HTTPS on this interface? [N]> y

Which port do you want to use for AsyncOS API (Monitoring) HTTPS?
[6443]>
```

```
The "Demo" certificate is currently configured.You may use "Demo", but this will not be
secure.To assure privacy, run "certconfig" first.
```

```
Both HTTP and HTTPS are enabled for this interface, should HTTP requests redirect to the
secure service? [Y]>
```

```
You have edited the interface you are currently logged into.Are you sure you want to
change it? [Y]>
```

```
Currently configured interfaces:
```

```
1. Management (10.76.69.149/24 on Management: mail.example.com)
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new interface.
- EDIT - Modify an interface.
- GROUPS - Define interface groups.
- DELETE - Remove an interface.
[]>
```

## nslookup

### 説明

nslookup コマンドを使用すると、DNS の機能をテストできます。

nslookup コマンドでは、アプライアンスから動作している Domain Name Service (DNS; ドメインネーム サービス) サーバを使用してホスト名や IP アドレスを解決して到達できることを確認できます。

**表 3-10** nslookup コマンドのクエリー タイプ

| クエリーのタイプ | 説明                                             |
|----------|------------------------------------------------|
| A        | ホストのインターネット アドレス                               |
| CNAME    | エイリアスの正規の名前                                    |
| MX       | メール エクスチェンジャ                                   |
| NS       | 指定したゾーンのネーム サーバ                                |
| PTR      | クエリーがインターネット アドレスの場合はホスト名、そうでない場合は他の情報に対するポインタ |
| SOA      | ドメインの「権限開始」情報                                  |
| TXT      | テキスト情報                                         |

### 使用方法

**確定:** このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail.example.com> nslookup

Please enter the host or IP address to resolve.
[]> vm30esa0086.ibqa

Choose the query type:
 1. A the host's IP address
 2. AAAA the host's IPv6 address
 3. CNAME the canonical name for an alias
 4. MX the mail exchanger
 5. NS the name server for the named zone
 6. PTR the hostname if the query is an Internet address,
 otherwise the pointer to other information
 7. SOA the domain's "start-of-authority" information
 8. TXT the text information
[1]> 2

AAAA=2001:420:54ff:ff06::95 TTL=30m
```

## netstat

### 説明

netstat コマンドを使用すると、ネットワーク接続(着信および発信)、ルーティングテーブル、およびさまざまなネットワーク インターフェイス統計情報を表示できます。このバージョンではすべての引数がサポートされるわけではないことに注意してください。特に、-a、-A、-g、-m、-M、-N、-s は使用できません。このコマンドはインタラクティブ モードでの実行を目的としているため、netstat を入力した後でレポートの対象を5つのオプションから選択できます。また、リッスンするインターフェイスと表示の間隔も指定できます。

### 使用方法

**確定:** このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:** このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
example.com> netstat
Choose the information you want to display:
 1. List of active sockets.
 2. State of network interfaces.
 3. Contents of routing tables.
 4. Size of the listen queues.
 5. Packet traffic information.
[1]> 2
Select the ethernet interface whose state you wish to display:
 1. Data 1
 2. Data 2
 3. Management
 4. ALL
[]> 1
```

```

Show the number of bytes in and out?[N]>
Show the number of dropped packets?[N]> y
Name Mtu Network Address Ipkts Ierrs Opkts
Oerrs Coll Drop
Data 1 1500 197.19.1/24 example.com 30536 - 5 -
- -
example.com>

```

## packetcapture

### 説明

netstat コマンドを使用すると、ネットワーク接続(着信および発信)、ルーティング テーブル、およびさまざまなネットワーク インターフェイス統計情報を表示できます。このバージョンではすべての引数がサポートされるわけではないことに注意してください。特に、-a、-A、-g、-m、-M、-N、-s は使用できません。このコマンドはインタラクティブ モードでの実行を目的としているため、netstat を入力した後でレポートの対象を5つのオプションから選択できます。また、リッスンするインターフェイスと表示の間隔も指定できます。

### 使用方法

**確定:** このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```

mail.example.com> packetcapture

Capture Information:
 Status: No capture running

Current Settings:
 Maximum File Size: 200 MB
 Limit: None (Run Indefinitely)
 Interface(s): ALL
 Filter: (tcp port 25)

Choose the operation you want to perform:
- START - Start packet capture.
- SETUP - Change packet capture settings.
[]> start

Success - Packet Capture has started

Capture Information:
 File Name: C100V-421C73B18CFB05784A83-B03A99E71ED8-20150312-105256.cap
 File Size: 0 of 200M
 Duration: 0s
 Limit: None (Run Indefinitely)
 Interface(s): ALL
 Filter: (tcp port 25)

```

```
Choose the operation you want to perform:
- STOP - Stop packet capture.
- STATUS - Display current capture status.
- SETUP - Change packet capture settings.
[]> stop

Success - Packet Capture has stopped

Capture Information:
 File Name: C100V-421C73B18CFB05784A83-B03A99E71ED8-20150312-105256.cap
 File Size: 24 of 200M
 Duration: 10s
 Limit: None (Run Indefinitely)
 Interface(s): ALL
 Filter: (tcp port 25)

Choose the operation you want to perform:
- START - Start packet capture.
- SETUP - Change packet capture settings.
[]> setup

Enter maximum allowable size for the capture file (in MB)
[200]>

Do you want to stop the capture when the file size is reached?(If not, a new file will be
started and the older capture data will be discarded.)
[N]>

The following interfaces are configured:
1. Management
2. ALL
Enter the name or number of one or more interfaces to capture packets from, separated by
commas (enter ALL to use all interfaces):
[2]>

Select an operation.Press enter to continue with the existing filter.
- PREDEFINED - PREDEFINED filter.
- CUSTOM - CUSTOM filter.
- CLEAR - CLEAR filter.
[]>

Capture settings successfully saved.

Current Settings:
 Maximum File Size: 200 MB
 Limit: None (Run Indefinitely)
 Interface(s): ALL
 Filter: (tcp port 25)

Choose the operation you want to perform:
- START - Start packet capture.
- SETUP - Change packet capture settings.
[]>
```

## ping

### 説明

ping コマンドを使用すると、アプライアンスからネットワーク ホストへの接続をテストできます。

## 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン)でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail3.example.com> ping

Which interface do you want to send the pings from?
1. Auto
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)
[1]> 1

Please enter the host you wish to ping.
[> anotherhost.example.com

Press Ctrl-C to stop.
PING anotherhost.example.com (x.x.x.x): 56 data bytes
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=0 ttl=64 time=1.421 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.126 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.118 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.115 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=4 ttl=64 time=0.139 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=5 ttl=64 time=0.125 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=6 ttl=64 time=0.124 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=7 ttl=64 time=0.122 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=8 ttl=64 time=0.126 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=9 ttl=64 time=0.133 ms
64 bytes from 10.19.0.31: icmp_seq=10 ttl=64 time=0.115 ms
^C
--- anotherhost.example.com ping statistics ---
11 packets transmitted, 11 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max/stddev = 0.115/0.242/1.421/0.373 ms
^C
```



(注) ping コマンドを終了するには、Ctrl+C を使用します。

## ping6

### 説明

IPv6 を使用するネットワーク ホストに ping を実行します

## 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスする必要があります。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail.example.com> ping6

Which interface do you want to send the pings from?
1. Auto
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
[1]> 1

Please enter the host you wish to ping.
[]> anotherhost.example.com

Press Ctrl-C to stop.
```



(注)

ping6 コマンドを終了するには、Ctrl+C を使用します。

## routeconfig

### 説明

routeconfig コマンドを使用すると、TCP/IP トラフィックのスタティック ルートを作成、編集、削除できます。デフォルトでは、トラフィックは setgateway コマンドで設定されたデフォルト ゲートウェイ経由でルーティングされます。ただし、AsyncOS では特定の宛先へのルーティングも可能です。

ルートは、ニックネーム(参照用)、宛先、およびゲートウェイで構成されます。ゲートウェイ(ネクスト ホップ)は、10.1.1.2 などの IP アドレスです。宛先は次のいずれかになります。

- IP アドレス(192.168.14.32 など)
- CIDR 表記法によるサブネットたとえば、192.168.5.0/24 は 192.168.5.0 から 192.168.5.255 までのクラス C ネットワーク全体を意味します。

IPv6 アドレスの場合は、次の形式を使用できます。

- 2620:101:2004:4202::0-2620:101:2004:4202::ff
- 2620:101:2004:4202::
- 2620:101:2004:4202::23
- 2620:101:2004:4202::/64

このコマンドでは、現在設定されている TCP/IP ルートのリストが表示されるので、そこからルートを選択して edit および delete サブコマンドを使用できます。

## 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

smtproutes コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。ルートに IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのどちらを使用するかを選択できます。

- スタティック ルートの作成:

```
routeconfig new 4|6 <name> <destination_address> <gateway_ip>
```

**表 3-11 routeconfig の引数**

| 引数                  | 説明                                                                                                       |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 6                 | このコマンドを適用する IP のバージョン (IPv4 または IPv6)。clear を指定した場合および print を指定した場合、このオプションは省略可能で、コマンドは両方のバージョンに適用されます。 |
| 名前                  | ルートの名前。                                                                                                  |
| destination_address | 発信 IP トラフィックの場合に照合する IP アドレスまたは CIDR アドレス。                                                               |
| gateway_ip          | このトラフィックの送信先とする IP アドレス。                                                                                 |

- スタティック ルートの編集:

```
routeconfig edit 4|6 <name> <new_name> <destination_address>
<gateway_ip>
```

- スタティック ルートの削除:

```
routeconfig delete 4|6 <name>
```

- すべてのスタティック ルートの削除:

```
routeconfig clear [4|6]
```

- スタティック ルートの一覧出力:

```
routeconfig print [4|6]
```

## 例

```
mail3.example.com> routeconfig

Configure routes for:

1. IPv4
2. IPv6
[1]>

Currently configured routes:

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new route.
[]> new

Please create a name for the route:
[]> EuropeNet

Please enter the destination IPv4 address to match on.
CIDR addresses such as 192.168.42.0/24 are also allowed.
[]> 192.168.12.0/24

Please enter the gateway IP address for traffic to 192.168.12.0/24:
[]> 192.168.14.4

Currently configured routes:
1. EuropeNet Destination: 192.168.12.0/24 Gateway: 192.168.14.4

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new route.
- EDIT - Modify a route.
- DELETE - Remove a route.
- CLEAR - Clear all entries.
[]>

mail3.example.com> routeconfig

Configure routes for:

1. IPv4
2. IPv6
[1]> 2

Currently configured routes:

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new route.
[]> new

Please create a name for the route:
[]> EuropeIPv6Net

Please enter the destination IPv6 address to match on.
CIDR addresses such as 2001:db8::/32 are also allowed.
[]> 2620:101:2004:4202::/6
```

```
Please enter the gateway IP address for traffic to 2620:101:2004:4202::/6:
[]> 2620:101:2004:4202::23
```

```
Currently configured routes:
1. EuropeIPv6Net Destination: 2620:101:2004:4202::/6 Gateway:
2620:101:2004:4202::23
```

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new route.
- EDIT - Modify a route.
- DELETE - Remove a route.
- CLEAR - Clear all entries.
[]>
```

## setgateway

### 説明

setgateway コマンドでは、パケットをルーティングするときに経由するデフォルトのネクストホップを設定します。代替(デフォルトではない)ゲートウェイは、routeconfig コマンドを使用して設定します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できません。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```
mail3.example.com> setgateway
```

```
Warning: setting an incorrect default gateway may cause the current connection to be
interrupted when the changes are committed.
```

```
Enter new default gateway:
[10.1.1.1]> 192.168.20.1
```

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
[]> changed default gateway to 192.168.20.1
```

```
Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

## sethostname

### 説明

ホスト名は、CLI プロンプトでシステムを識別する際に使用されます。完全修飾ホスト名を入力する必要があります。sethostname コマンドは、E メール セキュリティ アプライアンスの名前を設定します。新規ホスト名は、commit コマンドを発行して初めて有効になります。

### 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```
oldname.example.com> sethostname

[oldname.example.com]> mail3.example.com

oldname.example.com>
```

ホスト名の変更を有効にするには、commit コマンドを入力する必要があります。ホスト名の変更を確定すると、CLI プロンプトに新しいホスト名が表示されます。

```
oldname.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> Changed System Hostname

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```

次のように新しいホスト名がプロンプトに表示されます。

```
mail3.example.com>
```

## smtproutes

### 説明

永続的なドメイン転送を設定します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

## バッチ形式

smtproutes コマンドのバッチ形式を使用すると、従来の CLI コマンドのすべての機能を実行できます。

- 新しい SMTP ルートの作成

```
smtproutes new <source> <destination> [destination] [destination] [...]
```

- 既存の SMTP ルートの削除

```
smtproutes delete <source>
```

- SMTP ルートのリストのクリア

```
smtproutes clear
```

- SMTP ルートのリストの出力

```
smtproutes print
```

- SMTP ルートのリストのインポート

```
smtproutes import <filenames>
```

- SMTP ルートのリストのエクスポート

```
smtproutes export <filenames>
```

## 例

次の例では、smtproutes コマンドを使用して、ドメイン example.com の relay1.example.com、relay2.example.com、および backup-relay.example.com へのルート (マッピング) を作成します。宛先のプライオリティを指定するには、/pri=# を使用します。# には 0 ~ 65535 の値を指定します。値が大きいくほどプライオリティは低くなります。プライオリティを指定しない場合、デフォルトの 0 に設定されます。

(systemsetup コマンドの実行時、InboundMail パブリック リスナーを設定するときに同じマッピングを作成している場合があることに注意してください)。

```
mail3.example.com> smtproutes
```

```
There are no routes configured.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new route.
- IMPORT - Import new routes from a file.
[]> new
```

```
Enter the domain for which you want to set up a permanent route.
Partial hostnames such as ".example.com" are allowed.
Use "ALL" for the default route.
```

```
[]> example.com

Enter the destination hosts, separated by commas, which you want mail
for example.com to be delivered.
Enter USEDNS by itself to use normal DNS resolution for this route.
Enter /dev/null by itself if you wish to discard the mail.
Enclose in square brackets to force resolution via address (A)
records, ignoring any MX records.
[]> relay1.example.com/pri=10, relay2.example.com, backup-relay.example.com

Mapping for example.com to relay1.example.com, relay2.example.com,
backup-relay.example.com/pri=10 created.

There are currently 1 routes configured.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new route.
- EDIT - Edit destinations of an existing route.
- DELETE - Remove a route.
- PRINT - Display all routes.
- IMPORT - Import new routes from a file.
- EXPORT - Export all routes to a file.
- CLEAR - Remove all routes.
[]>
```

## sslconfig

### 説明

アプライアンスの SSL 設定を指定します。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```
mail.example.com> sslconfig

sslconfig settings:
 GUI HTTPS method: sslv3tlsv1
 GUI HTTPS ciphers:
 RC4-SHA
 RC4-MD5
 ALL
 Inbound SMTP method: sslv3tlsv1
 Inbound SMTP ciphers:
 RC4-SHA
 RC4-MD5
 ALL
 Outbound SMTP method: sslv3tlsv1
 Outbound SMTP ciphers:
 RC4-SHA
```

```
RC4-MD5
ALL

Choose the operation you want to perform:
- GUI - Edit GUI HTTPS ssl settings.
- INBOUND - Edit Inbound SMTP ssl settings.
- OUTBOUND - Edit Outbound SMTP ssl settings.
- VERIFY - Verify and show ssl cipher list.
[]> gui

Enter the GUI HTTPS ssl method you want to use.
1. SSL v2.
2. SSL v3
3. TLS v1
4. SSL v2 and v3
5. SSL v3 and TLS v1
6. SSL v2, v3 and TLS v1
[5]> 6

Enter the GUI HTTPS ssl cipher you want to use.
[RC4-SHA:RC4-MD5:ALL]>

sslconfig settings:
 GUI HTTPS method: sslv2sslv3tlsv1
 GUI HTTPS ciphers:
 RC4-SHA
 RC4-MD5
 ALL
 Inbound SMTP method: sslv3tlsv1
 Inbound SMTP ciphers:
 RC4-SHA
 RC4-MD5
 ALL
 Outbound SMTP method: sslv3tlsv1
 Outbound SMTP ciphers:
 RC4-SHA
 RC4-MD5
 ALL

Choose the operation you want to perform:
- GUI - Edit GUI HTTPS ssl settings.
- INBOUND - Edit Inbound SMTP ssl settings.
- OUTBOUND - Edit Outbound SMTP ssl settings.
- VERIFY - Verify and show ssl cipher list.
[]> inbound

Enter the inbound SMTP ssl method you want to use.
1. SSL v2.
2. SSL v3
3. TLS v1
4. SSL v2 and v3
5. SSL v3 and TLS v1
6. SSL v2, v3 and TLS v1
[5]> 6

Enter the inbound SMTP ssl cipher you want to use.
[RC4-SHA:RC4-MD5:ALL]>

sslconfig settings:
 GUI HTTPS method: sslv2sslv3tlsv1
 GUI HTTPS ciphers:
 RC4-SHA
 RC4-MD5
 ALL
```

```

Inbound SMTP method: sslv2sslv3tlsv1
Inbound SMTP ciphers:
 RC4-SHA
 RC4-MD5
 ALL
Outbound SMTP method: sslv3tlsv1
Outbound SMTP ciphers:
 RC4-SHA
 RC4-MD5
 ALL

Choose the operation you want to perform:
- GUI - Edit GUI HTTPS ssl settings.
- INBOUND - Edit Inbound SMTP ssl settings.
- OUTBOUND - Edit Outbound SMTP ssl settings.
- VERIFY - Verify and show ssl cipher list.
[]>

```

## sslv3config

### 説明

アプライアンスの SSLv3 設定を有効または無効にします。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

次の例は、エンド ユーザ隔離に対して SSLv3 を無効にする方法を示しています。

```
mail.example.com> sslv3config
```

```

Current SSLv3 Settings:

 UPDATER : Enabled
WEBSECURITY : Enabled
 EUQ : Enabled
 LDAP : Enabled

```

```

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Toggle SSLv3 settings.
[]> setup

```

```

Choose the service to toggle SSLv3 settings:
1. EUQ Service
2. LDAP Service
3. Updater Service
4. Web Security Service
[1]>

```

```
Do you want to enable SSLv3 for EUQ Service ? [Y]>n
```

```
Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Toggle SSLv3 settings.
[]>
```

## telnet

### 説明

リモート ホストに接続します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```
mail3.example.com> telnet

Please select which interface you want to telnet from.
1. Auto
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)
[]> 3

Enter the remote hostname or IP.
[]> 193.168.1.1

Enter the remote port.
[25]> 25

Trying 193.168.1.1...
Connected to 193.168.1.1.
Escape character is '^]'.

```

## traceroute

### 説明

traceroute コマンドを使用すると、アプライアンスから IPV4 を使用するネットワーク ホストへの接続をテストして、ネットワークのホップに関するルーティングの問題をデバッグできます。

## 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail3.example.com> traceroute

Which interface do you want to trace from?
1. Auto
2. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
3. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
4. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)
[1]> 1

Please enter the host to which you want to trace the route.
[]> 10.1.1.1

Press Ctrl-C to stop.
traceroute to 10.1.1.1 (10.1.1.1), 64 hops max, 44 byte packets
 1 gateway (192.168.0.1) 0.202 ms 0.173 ms 0.161 ms
 2 hostname (10.1.1.1) 0.298 ms 0.302 ms 0.291 ms
mail3.example.com>
```

## traceroute6

### 説明

traceroute6 コマンドを使用すると、アプライアンスから IPv6 を使用するネットワーク ホストへの接続をテストして、ネットワークのホップに関するルーティングの問題をデバッグできます。

## 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスできる必要があります。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail.example.com> traceroute6

Which interface do you want to trace from?
1. Auto
2. D1 (2001:db8::/32: example.com)
[1]> 1
```

```
Please enter the host to which you want to trace the route.
[]> example.com
```

```
Press Ctrl-C to stop.
connect: No route to host
vm10esa0031.qa> traceroute6
```

```
Which interface do you want to trace from?
1. Auto
2. D1 (2001:db8::/32: example.com)
[1]> 2
```

```
Please enter the host to which you want to trace the route.
[]> example.com
```

```
Press Ctrl-C to stop.
traceroute6 to example.com (2606:2800:220:1:248:1893:25c8:1946) from 2001:db8::, 64 hops
max, 12 byte packets
sendto: No route to host
 1 traceroute6: wrote example.com 12 chars, ret=-1
 *sendto: No route to host
traceroute6: wrote example.com 12 chars, ret=-1
 *sendto: No route to host
traceroute6: wrote example.com 12 chars, ret=-1
```

# アウトブレイクフィルタ

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [outbreakconfig](#)
- [outbreakflush](#)
- [outbreakstatus](#)
- [outbreakupdate](#)

## outbreakconfig

### 説明

`outbreakconfig` コマンドを使用すると、アウトブレイク フィルタ機能を設定できます。このコマンドを使用して次のアクションを実行できます。

- アウトブレイク フィルタをグローバルにイネーブルにします。
- アダプティブ ルールのスキャンをイネーブルにします。
- スキャンするファイルの最大サイズを設定します(サイズをバイトで入力することに注意してください)。
- アウトブレイク フィルタのアラートをイネーブルにします。
- URL のロギングをイネーブルにします。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```
mail.example.com> outbreakconfig

Outbreak Filters: Enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Change Outbreak Filters settings.
[]> setup

Outbreak Filters: Enabled
Would you like to use Outbreak Filters? [Y]>

Outbreak Filters enabled.

Outbreak Filter alerts are sent when outbreak rules cross the threshold (go above or back
down below), meaning that new messages of
certain types could be quarantined or will no longer be quarantined, respectively.

Would you like to receive Outbreak Filter alerts? [N]>
```

```

What is the largest size message Outbreak Filters should scan?
[524288]>

Do you want to use adaptive rules to compute the threat level of messages? [Y]>

Logging of URLs is currently disabled.

Do you wish to enable logging of URL's? [N]> Y

Logging of URLs has been enabled.

The Outbreak Filters feature is now globally enabled on the system.You must use the
'policyconfig' command in the CLI or the Email
Security Manager in the GUI to enable Outbreak Filters for the desired Incoming and
Outgoing Mail Policies.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Change Outbreak Filters settings.
[]>

```

## outbreakflush

### 説明

キャッシュされている発生ルールをクリアします。

### 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。  
**クラスタ管理:**このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。  
**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```

mail3.example.com> outbreakflush

Warning - This command removes the current set of Outbreak Filter Rules, leaving your
network exposed until the next rule download.Run "outbreakupdate force" command to
immediately download Outbreak Filter Rules.

Are you sure that you want to clear the current rules? [N]> y

Cleared the current rules.

mail3.example.com>

```

## outbreakstatus

### 説明

`outbreakstatus` コマンドは、感染フィルタ機能をイネーブルにするかどうか、発生ルール、現在のしきい値など、感染フィルタ機能の現在の設定を表示します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```
mail3.example.com> outbreakstatus

Outbreak Filters: Enabled

Component Last Update Version
CASE Core Files 26 Jan 2014 06:45 (GMT +00:00) 3.3.1-005
CASE Utilities 26 Jan 2014 06:45 (GMT +00:00) 3.3.1-005
Outbreak Rules 26 Jan 2014 07:00 (GMT +00:00) 20140126_063240

Threat Outbreak Outbreak
Level Rule Name Rule Description

5 OUTBREAK_0002187_03 A reported a MyDoom.BB outbreak.
5 OUTBREAK_0005678_00 This configuration file was generated by...
3 OUTBREAK_0000578_00 This virus is distributed in pictures of...

Outbreak Filter Rules with higher threat levels pose greater risks.
(5 = highest threat, 1 = lowest threat)

Last update: Mon Jan 27 04:36:27 2014

mail3.example.com>
```

## outbreakupdate

### 説明

CASE ルールおよびエンジン コアの即時更新を要求します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト(ユーザがログインしたマシン)でのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
elroy.run> outbreakupdate

Requesting updates for Outbreak Filter Rules.
```

# ポリシーの実施

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [dictionaryconfig](#)
- [exceptionconfig](#)
- [filters](#)
- [policyconfig](#)
- [quarantineconfig](#)
- [scanconfig](#)
- [stripheaders](#)
- [textconfig](#)

## dictionaryconfig

### 説明

コンテンツ デictionary を設定します。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
dictionaryconfig -> new を使用して dictionary を作成し、dictionaryconfig -> delete を使用して dictionary を削除します。
```

### dictionary の作成

```
example.com> dictionaryconfig

No content dictionaries have been defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
[]> new
```

```

Enter a name for this content dictionary.
[]> HRWords

Do you wish to specify a file for import? [N]>

Enter new words or regular expressions, enter a blank line to finish.
<入力した単語のリスト>

Currently configured content dictionaries:
1. HRWords

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.
[]> delete

Enter the number of the dictionary you want to delete:
1. HRWords
[]> 1

Content dictionary "HRWords" deleted.
No content dictionaries have been defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
[]>

```

## ディクショナリの作成2

この例では、用語「codename」を含む「secret\_words」という名前の新しいディクショナリが作成されます。ディクショナリを入力したら、`edit -> settings` サブコマンドを使用して、ディクショナリ内の単語の大文字と小文字の区別や単語境界の検出を定義します。

```

mail3.example.com> dictionaryconfig

No content dictionaries have been defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
[]> new

Enter a name for this content dictionary.
[]> secret_words

Do you wish to specify a file for import? [N]>

Enter new words or regular expressions, enter a blank line to finish.
codename

Currently configured content dictionaries:
1. secret_words

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.
[]> edit

Enter the number of the dictionary you want to edit:
1. secret_words
[]> 1

```

```

Choose the operation you want to perform on dictionary 'secret_words':
- NEW - Create new entries in this dictionary.
- IMPORT - Replace all of the words in this dictionary.
- EXPORT - Export the words in this dictionary.
- DELETE - Remove an entry in this dictionary.
- PRINT - List the entries in this dictionary.
- SETTINGS - Change settings for this dictionary.
[]> settings

Do you want to ignore case when matching using this dictionary? [Y]>

Do you want strings in this dictionary to only match complete words? [Y]>

Enter the default encoding to be used for exporting this dictionary:
1. US-ASCII
2. Unicode (UTF-8)
3. Unicode (UTF-16)
4. Western European/Latin-1 (ISO 8859-1)
5. Western European/Latin-1 (Windows CP1252)
6. Traditional Chinese (Big 5)
7. Simplified Chinese (GB 2312)
8. Simplified Chinese (HZ GB 2312)
9. Korean (ISO 2022-KR)
10. Korean (KS-C-5601/EUC-KR)
11. Japanese (Shift-JIS (X0123))
12. Japanese (ISO-2022-JP)
13. Japanese (EUC)
[2]>

Choose the operation you want to perform on dictionary 'secret_words':
- NEW - Create new entries in this dictionary.
- IMPORT - Replace all of the words in this dictionary.
- EXPORT - Export the words in this dictionary.
- DELETE - Remove an entry in this dictionary.
- PRINT - List the entries in this dictionary.
- SETTINGS - Change settings for this dictionary.
[]>

Currently configured content dictionaries:
1. secret_words

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.
[]>

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> Added new dictionary: secret_words

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT

```

## ディクショナリのインポート

次の例では、`dictionaryconfig` コマンドを使用して、`profanity.txt` テキスト ファイル内の 84 個の用語を Unicode (UTF-8) としてディクショナリ `profanity` にインポートします。

```
mail3.example.com> dictionaryconfig

No content dictionaries have been defined.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
[]> new

Enter a name for this content dictionary.
[]> profanity

Do you wish to specify a file for import? [N]> y

Enter the name of the file to import:
[]> profanity.txt

Enter the encoding to use for the imported file:
1. US-ASCII
2. Unicode (UTF-8)
3. Unicode (UTF-16)
4. Western European/Latin-1 (ISO 8859-1)
5. Western European/Latin-1 (Windows CP1252)
6. Traditional Chinese (Big 5)
7. Simplified Chinese (GB 2312)
8. Simplified Chinese (HZ GB 2312)
9. Korean (ISO 2022-KR)
10. Korean (KS-C-5601/EUC-KR)
11. Japanese (Shift-JIS (X0123))
12. Japanese (ISO-2022-JP)
13. Japanese (EUC)
[2]>

84 entries imported successfully.
Currently configured content dictionaries:
1. profanity

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.
```

## ディクショナリのエクスポート

次の例では、`dictionaryconfig` コマンドを使用して、`secret_words` ディクショナリをテキスト ファイル `secret_words_export.txt` にエクスポートします。

```
mail3.example.com> dictionaryconfig

Currently configured content dictionaries:
1. secret_words

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
```

```

- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.
[]> edit

Enter the number of the dictionary you want to edit:
1. secret_words
[]> 1

Choose the operation you want to perform on dictionary 'secret_words':
- NEW - Create new entries in this dictionary.
- IMPORT - Replace all of the words in this dictionary.
- EXPORT - Export the words in this dictionary.
- DELETE - Remove an entry in this dictionary.
- PRINT - List the entries in this dictionary.
- SETTINGS - Change settings for this dictionary.
[]> export

Enter a name for the exported file:
[]> secret_words_export.txt

mail3.example.com> dictionaryconfig

Currently configured content dictionaries:
1. secret_words

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new content dictionary.
- EDIT - Modify a content dictionary.
- DELETE - Remove a content dictionary.
- RENAME - Change the name of a content dictionary.
[]> edit

Enter the number of the dictionary you want to edit:
1. secret_words
[]> 1

Choose the operation you want to perform on dictionary 'secret_words':
- NEW - Create new entries in this dictionary.
- IMPORT - Replace all of the words in this dictionary.
- EXPORT - Export the words in this dictionary.
- DELETE - Remove an entry in this dictionary.
- PRINT - List the entries in this dictionary.
- SETTINGS - Change settings for this dictionary.
[]> export

Enter a name for the exported file:
[]> secret_words_export.txt

```

## exceptionconfig

### 説明

exceptionconfig コマンドを CLI で使用することにより、ドメイン例外テーブルを作成できます。この例では、E メールアドレス「admin@zzzaazzz.com」をドメイン例外テーブルに追加し、ポリシーを「Allow」に設定します。

## 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail3.example.com> exceptionconfig

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new domain exception table entry
[]> new

Enter a domain, sub-domain, user, or email address for which you wish to
provide an exception:
[]> mail.partner.com

Any of the following passes:
- @[IP address]
 Matches any email address with this IP address.
- @domain
 Matches any email address with this domain.
- @.partial.domain
 Matches any email address domain ending in this domain.
- user@
 Matches any email address beginning with user@.
- user@domain
 Matches entire email address.

Enter a domain, sub-domain, user, or email address for which you wish to
provide an exception:
[]> admin@zzzaazz.com

Choose a policy for this domain exception:
1. Allow
2. Reject
[]> 1

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new domain exception table entry
- EDIT - Edit a domain exception table entry
- DELETE - Delete a domain exception table entry
- PRINT - Print all domain exception table entries
- SEARCH - Search domain exception table
- CLEAR - Clear all domain exception entries
[]>
```

## filters

### 説明

メッセージ処理オプションを設定します。

## 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

この例では、filter コマンドを使用して3つの新しいフィルタを作成します。

- 最初のフィルタの名前は、**big\_messages** です。これは body-size ルールを使用して、10 MB より大きいメッセージをドロップします。
- 2番目のフィルタの名前は、**no\_mp3s** です。これは attachment-filename ルールを使用して、.mp3 ファイル拡張子が付いた添付ファイルを含むメッセージをドロップします。
- 3番目のフィルタの名前は、**mailfrompm** です。これは mail-from ルールを使用して、postmaster@example.com からのメールをすべて調べ、administrator@example.com のブラインド カーボン コピーを作成します。

filter -> list サブコマンドを使用し、フィルタのリストを表示して、フィルタがアクティブで有効であることを確認します。次に、move サブコマンドを使用して、最初と最後のフィルタの位置を入れ替えます。最後に、変更を確定してフィルタを有効にします。

```
mail3.example.com> filters

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new filter.
- IMPORT - Import a filter script from a file.
[]> new

Enter filter script.Enter '.' on its own line to end.
big_messages:
 if (body-size >= 10M) {
 drop();
 }
.
1 filters added.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new filter.
- DELETE - Remove a filter.
- IMPORT - Import a filter script from a file.
- EXPORT - Export filters to a file
- MOVE - Move a filter to a different position.
- SET - Set a filter attribute.
- LIST - List the filters.
- DETAIL - Get detailed information on the filters.
- LOGCONFIG - Configure log subscriptions used by filters.
- ROLLOVERNOW - Roll over a filter log file.
[]> new
Enter filter script.Enter '.' on its own line to end.
no_mp3s:
 if (attachment-filename == '\\.mp3$') {
 drop();
 }
.
1 filters added.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new filter.
```

```

- DELETE - Remove a filter.
- IMPORT - Import a filter script from a file.
- EXPORT - Export filters to a file
- MOVE - Move a filter to a different position.
- SET - Set a filter attribute.
- LIST - List the filters.
- DETAIL - Get detailed information on the filters.
- LOGCONFIG - Configure log subscriptions used by filters.
- ROLLOVERNOW - Roll over a filter log file.
[]> new

```

Enter filter script. Enter '.' on its own line to end.

```

mailfrompm:
 if (mail-from == "^postmaster$")
 { bcc ("administrator@example.com");}
 .
1 filters added.

```

Choose the operation you want to perform:

```

- NEW - Create a new filter.
- DELETE - Remove a filter.
- IMPORT - Import a filter script from a file.
- EXPORT - Export filters to a file
- MOVE - Move a filter to a different position.
- SET - Set a filter attribute.
- LIST - List the filters.
- DETAIL - Get detailed information on the filters.
- LOGCONFIG - Configure log subscriptions used by filters.
- ROLLOVERNOW - Roll over a filter log file.
[]> list

```

## policyconfig

### 説明

受信者単位または送信者ベースのポリシーを設定します。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

- [スパム メッセージをドロップし、陽性と疑わしいスパム メッセージをアーカイブする着信メール ポリシーの作成 \(3-200 ページ\)](#)
- [販売チームのポリシーの作成 \(3-202 ページ\)](#)
- [エンジニアリング チームのポリシーの作成 \(3-204 ページ\)](#)
- [Scan\\_for\\_confidential コンテンツ フィルタの作成 \(3-207 ページ\)](#)

- `no_mp3s` および `ex_employee` コンテンツ フィルタの作成 (3-210 ページ)
- 特定のポリシーに対するコンテンツ フィルタのイネーブル化 (3-215 ページ)
- デフォルトの発信ポリシーの DLP ポリシー (3-219 ページ)
- 一括 E メールまたはソーシャル ネットワークの E メールであると識別されたメッセージをドロップする着信ポリシーの作成 (3-221 ページ)

## スパム メッセージをドロップし、陽性と疑わしいスパム メッセージをアーカイブする着信メール ポリシーの作成

この例では、`policyconfig -> edit -> antis spam` サブコマンドを使用して、デフォルトの着信メールポリシーの Anti-Spam 設定を編集します。(これと同じ設定が電子メール セキュリティ マネージャ機能の GUI にもあります)。

- まず、スパムとして陽性判定されたメッセージはアーカイブの対象から除外され、ドロップされます。
- スパムの疑いがあるメッセージはアーカイブ対象となります。このようなメッセージは、`quarantine.example.com` というサーバにインストールされたスパム隔離にも送信されます。件名行の先頭にテキスト `[quarantined: possible spam]` が追加され、このような疑わしいメッセージには `x-quarantined: true` という特別なヘッダーが追加されます。このシナリオでは、管理者およびエンドユーザは隔離でないかどうかを確認でき、管理者は必要に応じて疑わしいスパムのしきい値を調整できます。

最後に、変更を確定します。

```
mail3.example.com> policyconfig
```

```
Would you like to configure Incoming or Outgoing Mail Policies?
```

- ```
1. Incoming
2. Outgoing
```

```
[1]> 1
```

```
Incoming Mail Policy Configuration
```

Name:	Anti-Spam:	Anti-Virus:	Advanced Malware Protection:	Graymail:	Content Filter:	Outbreak Filters:
DEFAULT	Ironport	Mcafee	N/A	Off	Off	Enabled

```
Choose the operation you want to perform:
```

- ```
- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- PRINT - Print all policies
- FILTERS - Edit content filters
```

```
[]> edit
```

| Name:      | Anti-Spam: | Anti-Virus: | Advanced Malware Protection: | Graymail: | Content Filter: | Outbreak Filters: |
|------------|------------|-------------|------------------------------|-----------|-----------------|-------------------|
| 1. DEFAULT | Ironport   | Mcafee      | N/A                          | N/A       | Off             | Enabled           |

```
Enter the name or number of the entry you wish to edit:
[]> 1

Policy Summaries:

Anti-Spam: IronPort - Deliver, Prepend "[SPAM] " to Subject
Suspect-Spam: IronPort - Deliver, Prepend "[SUSPECTED SPAM] " to Subject
Anti-Virus: Off
Content Filters: Off (No content filters have been created)

Choose the operation you want to perform:
- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- OUTBREAK - Modify Outbreak Filters policy
[]> antis spam

Choose the operation you want to perform:
- EDIT - Edit Anti-Spam policy
- DISABLE - Disable Anti-Spam policy (Disables all policy-related actions)
[]> edit

Begin Anti-Spam configuration

Some messages will be positively identified as spam. Some messages will be
identified as suspected spam. You can set the IronPort Anti-Spam Suspected Spam Threshold
below.
The following configuration options apply to messages POSITIVELY identified as spam:
What score would you like to set for the IronPort Anti-Spam spam threshold?
[90]> 90

1. DELIVER
2. DROP
3. BOUNCE
4. IRONPORT QUARANTINE
What do you want to do with messages identified as spam?
[1]> 2

Do you want to archive messages identified as spam? [N]>

Do you want to enable special treatment of suspected spam? [Y]> y

What score would you like to set for the IronPort Anti-Spam suspect spam threshold?
[50]> 50

The following configuration options apply to messages identified as SUSPECTED spam:
1. DELIVER
2. DROP
3. BOUNCE
4. IRONPORT QUARANTINE
What do you want to do with messages identified as SUSPECTED spam?
[1]> 4

Do you want to archive messages identified as SUSPECTED spam? [N]> y

1. PREPEND
2. APPEND
3. NONE
Do you want to add text to the subject of messages identified as SUSPECTED spam?
[1]> 1

What text do you want to prepend to the subject?
[[SUSPECTED SPAM]]> [quarantined: possible spam]

Do you want to add a custom header to messages identified as SUSPECTED spam? [N]> y
```

Enter the name of the header:

[> **X-quarantined**

Enter the text for the content of the header:

[> **true**

Anti-Spam configuration complete

Policy Summaries:

Anti-Spam: IronPort - Drop

Suspect-Spam: IronPort - Quarantine - Archiving copies of the original message.

Anti-Virus: McAfee - Scan and Clean

Content Filters: Off (No content filters have been created)

Outbreak Filters: Enabled.No bypass extensions.

Choose the operation you want to perform:

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- OUTBREAK - Modify Outbreak Filters policy

[>

| Name:   | Anti-Spam: | Anti-Virus: | Advanced<br>Malware<br>Protection: | Graymail: | Content<br>Filter: | Outbreak<br>Filters: |
|---------|------------|-------------|------------------------------------|-----------|--------------------|----------------------|
| -----   | -----      | -----       | -----                              | -----     | -----              | -----                |
| DEFAULT | Ironport   | Mcafee      | N/A                                | N/A       | Off                | Enabled              |

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- PRINT - Print all policies
- FILTERS - Edit content filters

[>

mail3.example.com> **commit**

Please enter some comments describing your changes:

[> **configured anti-spam for Incoming Default Policy**

Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]> n

Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT

## 販売チームのポリシーの作成

Incoming Mail Policy Configuration

| Name:   | Anti-Spam: | Anti-Virus: | Advanced<br>Malware<br>Protection: | Graymail: | Content<br>Filter: | Outbreak<br>Filters: |
|---------|------------|-------------|------------------------------------|-----------|--------------------|----------------------|
| -----   | -----      | -----       | -----                              | -----     | -----              | -----                |
| DEFAULT | Ironport   | Mcafee      | N/A                                | N/A       | Off                | Enabled              |

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- PRINT - Print all policies
- FILTERS - Edit content filters
[]> new

Enter the name for this policy:
[]> sales_team

Begin entering policy members.The following types of entries are allowed:
Username entries such as joe@, domain entries such as @example.com, sub-domain
entries such as @.example.com, LDAP group memberships such as ldap(Engineers)

Enter a member for this policy:
[]> ldap(sales)

Please select an LDAP group query:
1. PublicLDAP.ldapgroup
[1]> 1

Is this entry a recipient or a sender?
1. Recipient
2. Sender
[1]> 1

Add another member? [Y]> n

Would you like to enable Anti-Spam support? [Y]> y

Use the policy table default? [Y]> n

Begin Anti-Spam configuration

Some messages will be positively identified as spam.Some messages will be
identified as suspected spam.You can set the IronPort Anti-Spam Suspected Spam Threshold
below.
The following configuration options apply to messages POSITIVELY identified as spam:
What score would you like to set for the IronPort Anti-Spam spam threshold?
[90]> 90

1. DELIVER
2. DROP
3. BOUNCE
4. IRONPORT QUARANTINE
What do you want to do with messages identified as spam?
[1]> 2

Do you want to archive messages identified as spam? [N]> n

Do you want to enable special treatment of suspected spam? [Y]> y

What score would you like to set for the IronPort Anti-Spam suspect spam
threshold?
[50]> 50

The following configuration options apply to messages identified as SUSPECTED
spam:
1. DELIVER
2. DROP
3. BOUNCE
4. IRONPORT QUARANTINE
What do you want to do with messages identified as SUSPECTED spam?
[1]> 4
```

```

Do you want to archive messages identified as SUSPECTED spam? [N]> n

1. PREPEND
2. APPEND
3. NONE
Do you want to add text to the subject of messages identified as SUSPECTED
spam?
[1]> 3

Do you want to add a custom header to messages identified as SUSPECTED spam? [N]> n

Anti-Spam configuration complete

Would you like to enable Anti-Virus support? [Y]> y

Use the policy table default? [Y]> y

Would you like to enable Outbreak Filters for this policy? [Y]> y

Use the policy table default? [Y]> y

Incoming Mail Policy Configuration
Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak
----- -
Malware Protection: Filter: Filters:
----- -
sales_team IronPort Default Default Default Default Default
DEFAULT Ironport McAfee N/A Off Off Enabled

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies
[]>

```

次に、エンジニアリング チーム(3 人の E メール受信者)のポリシーを作成し、.dwg ファイルをアウトブレイク フィルタ スキャンの対象外に指定します。

### エンジニアリング チームのポリシーの作成

```

Incoming Mail Policy Configuration
Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak
----- -
Malware Protection: Filter: Filters:
----- -
sales_team IronPort Default Default Default Default Default
DEFAULT Ironport McAfee N/A Off Off Enabled

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy

```

```
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies
[]> new

Enter the name for this policy:
[]> engineering

Begin entering policy members.The following types of entries are allowed:
Username entries such as joe@, domain entries such as @example.com, sub-domain entries
such as @.example.com, LDAP group memberships such as ldap(Engineers)

Enter a member for this policy:
[]> bob@example.com

Is this entry a recipient or a sender?
1. Recipient
2. Sender
[1]> 1

Add another member? [Y]> y

Enter a member for this policy:
[]> fred@example.com

Is this entry a recipient or a sender?
1. Recipient
2. Sender
[1]> 1

Add another member? [Y]> y

Enter a member for this policy:
[]> joe@example.com

Is this entry a recipient or a sender?
1. Recipient
2. Sender
[1]> 1

Add another member? [Y]> n

Would you like to enable Anti-Spam support? [Y]> y

Use the policy table default? [Y]> y

Would you like to enable Anti-Virus support? [Y]> y

Use the policy table default? [Y]> y

Would you like to enable Outbreak Filters for this policy? [Y]> y

Use the policy table default? [Y]> n

Would you like to modify the list of file extensions that bypass
Outbreak Filters? [N]> y

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a file extension
[]> new
```

```
Enter a file extension:
[]> dwg
```

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a file extension
- DELETE - Delete a file extension
- PRINT - Display all file extensions
- CLEAR - Clear all file extensions
[]> print
```

```
The following file extensions will bypass Outbreak Filter processing:
dwg
```

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a file extension
- DELETE - Delete a file extension
- PRINT - Display all file extensions
- CLEAR - Clear all file extensions
[]>
```

Incoming Mail Policy Configuration

| Name:       | Anti-Spam: | Anti-Virus: | Advanced<br>Malware<br>Protection: | Graymail: | Content<br>Filter: | Outbreak<br>Filters: |
|-------------|------------|-------------|------------------------------------|-----------|--------------------|----------------------|
| sales_team  | IronPort   | Default     | Default                            | Default   | Default            | Default              |
| engineering | Default    | Default     | Default                            | Default   | Default            | Enabled              |
| DEFAULT     | Ironport   | Mcafee      | N/A                                | Off       | Off                | Enabled              |

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- MOVE - Move the position of a policy
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies
[]>
```

次に、[受信メール概要ポリシー (Incoming Mail Overview policy)] テーブルで使用する 3 つの新しいコンテンツ フィルタを作成します。

CLI では、policyconfig コマンドの filters サブコマンドは [受信コンテンツ フィルタ (Incoming Content Filters)] GUI ページと同じ機能を持ちます。CLI でコンテンツ フィルタを作成するときには、save サブコマンドを使用してフィルタを保存し、policyconfig コマンドに戻る必要があります。

まず、scan\_for\_confidential コンテンツ フィルタを作成します。

## Scan\_for\_confidential コンテンツフィルタの作成

```

Incoming Mail Policy Configuration
Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak
----- -
 ----- -
 Malware -
 Protection: -

sales_team IronPort Default Default Default Default Default
engineering Default Default Default Default Default Enabled
DEFAULT Ironport McAfee N/A Off Off Enabled

```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- MOVE - Move the position of a policy
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies

[> **filters**

No filters defined.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new filter

[> **new**

Enter a name for this filter:

[> **scan\_for\_confidential**

Enter a description or comment for this filter (optional):

[> **scan all incoming mail for the string 'confidential'**

Filter Name: scan\_for\_confidential

Conditions:

Always Run

Actions:

No actions defined yet.

Description:

**scan all incoming mail for the string 'confidential'**

Choose the operation you want to perform:

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action

[> **add**

1. Condition

2. Action

[1]> **1**

1. Message Body Contains

2. Only Body Contains (Attachments are not scanned)

3. Message Body Size

4. Subject Header

5. Other Header

```

6. Attachment Contains
7. Attachment File Type
8. Attachment Name
9. Attachment MIME Type
10. Attachment Protected
11. Attachment Unprotected
12. Attachment Corrupt
13. Envelope Recipient Address
14. Envelope Recipient in LDAP Group
15. Envelope Sender Address
16. Envelope Sender in LDAP Group
17. Reputation Score
18. Remote IP
19. DKIM authentication result
20. SPF verification result

```

```
[1]> 1
```

Enter regular expression or smart identifier to search message contents for:

```
[]> confidential
```

Threshold required for match:

```
[1]> 1
```

Filter Name: scan\_for\_confidential

Conditions:

```
body-contains("confidential", 1)
```

Actions:

No actions defined yet.

Description:

```
scan all incoming mail for the string 'confidential'
```

Choose the operation you want to perform:

- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action

```
[]> add
```

1. Condition
2. Action

```
[1]> 2
```

1. Bcc
2. Notify
3. Redirect To Alternate Email Address
4. Redirect To Alternate Host
5. Insert A Custom Header
6. Insert A Message Tag
7. Strip A Header
8. Send From Specific IP Interface
9. Drop Attachments By Content
10. Drop Attachments By Name
11. Drop Attachments By MIME Type
12. Drop Attachments By File Type
13. Drop Attachments By Size
14. Send To System Quarantine
15. Duplicate And Send To System Quarantine
16. Add Log Entry
17. Drop (Final Action)
18. Bounce (Final Action)
19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)

```
20. Encrypt (Final Action)
21. Encrypt on Delivery
22. Skip Outbreak Filters check
[1]> 1

Enter the email address(es) to send the Bcc message to:
[]> hr@example.com

Do you want to edit the subject line used on the Bcc message? [N]> y

Enter the subject to use:
[$Subject]> [message matched confidential filter]

Do you want to edit the return path of the Bcc message? [N]> n

Filter Name: scan_for_confidential

Conditions:
body-contains("confidential", 1)

Actions:
bcc ("hr@example.com", "[message matched confidential filter]")

Description:
scan all incoming mail for the string 'confidential'

Choose the operation you want to perform:
- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action
- SAVE - Save filter
[]> add

1. Condition
2. Action
[1]> 2

1. Bcc
2. Notify
3. Redirect To Alternate Email Address
4. Redirect To Alternate Host
5. Insert A Custom Header
6. Insert A Message Tag
7. Strip A Header
8. Send From Specific IP Interface
9. Drop Attachments By Content
10. Drop Attachments By Name
11. Drop Attachments By MIME Type
12. Drop Attachments By File Type
13. Drop Attachments By Size
14. Send To System Quarantine
15. Duplicate And Send To System Quarantine
16. Add Log Entry
17. Drop (Final Action)
18. Bounce (Final Action)
19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)
20. Encrypt (Final Action)
21. Encrypt on Delivery
22. Skip Outbreak Filters check
[1]> 14

1. Policy
[1]> 1
```

```

Filter Name: scan_for_confidential

Conditions:
body-contains("confidential", 1)

Actions:
bcc ("hr@example.com", "[message matched confidential filter]")
quarantine ("Policy")

Description:
scan all incoming mail for the string 'confidential'

Choose the operation you want to perform:
- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action
- MOVE - Reorder the conditions or actions
- SAVE - Save filter
[> save

Defined filters:
1. scan_for_confidential: scan all incoming mail for the string 'confidential'

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new filter
- EDIT - Edit an existing filter
- DELETE - Delete a filter
- PRINT - Print all filters
- RENAME - Rename a filter
[>

```

### no\_mp3s および ex\_employee コンテンツ フィルタの作成

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new filter
- EDIT - Edit an existing filter
- DELETE - Delete a filter
- PRINT - Print all filters
- RENAME - Rename a filter
[> new

Enter a name for this filter:
[> no_mp3s

Enter a description or comment for this filter (optional):
[> strip all MP3 attachments

Filter Name: no_mp3s

Conditions:
Always Run

Actions:
No actions defined yet.

Description:
strip all MP3 attachments

Choose the operation you want to perform:
- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description

```

```
- ADD - Add condition or action
[]> add

1. Condition
2. Action
[1]> 2

1. Bcc
2. Notify
3. Redirect To Alternate Email Address
4. Redirect To Alternate Host
5. Insert A Custom Header
6. Insert A Message Tag
7. Strip A Header
8. Send From Specific IP Interface
9. Drop Attachments By Content
10. Drop Attachments By Name
11. Drop Attachments By MIME Type
12. Drop Attachments By File Type
13. Drop Attachments By Size
14. Send To System Quarantine
15. Duplicate And Send To System Quarantine
16. Add Log Entry
17. Drop (Final Action)
18. Bounce (Final Action)
19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)
20. Encrypt (Final Action)
21. Encrypt on Delivery
22. Skip Outbreak Filters check
[1]> 12

Enter the file type to strip:
[]> mp3

Do you want to enter specific text to use in place of any stripped attachments?[N]> n

Filter Name: no_mp3s

Conditions:
Always Run

Actions:
drop-attachments-by-filetype("mp3")

Description:
strip all MP3 attachments

Choose the operation you want to perform:
- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- SAVE - Save filter
[]> save

Defined filters:
1. scan_for_confidential: scan all incoming mail for the string 'confidential'
2. no_mp3s: strip all MP3 attachments

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new filter
- EDIT - Edit an existing filter
- DELETE - Delete a filter
- PRINT - Print all filters
```

```
- MOVE - Reorder a filter
- RENAME - Rename a filter
[]> new

Enter a name for this filter:
[]> ex_employee

Enter a description or comment for this filter (optional):
[]> bounce messages intended for Doug

Filter Name: ex_employee

Conditions:
Always Run

Actions:
No actions defined yet.

Description:
bounce messages intended for Doug

Choose the operation you want to perform:
- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
[]> add

1. Condition
2. Action
[1]> 1

1. Message Body Contains
2. Only Body Contains (Attachments are not scanned)
3. Message Body Size
4. Subject Header
5. Other Header
6. Attachment Contains
7. Attachment File Type
8. Attachment Name
9. Attachment MIME Type
10. Attachment Protected
11. Attachment Unprotected
12. Attachment Corrupt
13. Envelope Recipient Address
14. Envelope Recipient in LDAP Group
15. Envelope Sender Address
16. Envelope Sender in LDAP Group
17. Reputation Score
18. Remote IP
19. DKIM authentication result
20. SPF verification result
[1]> 13

Enter regular expression to search Recipient address for:
[]> doug

Filter Name: ex_employee

Conditions:
rcpt-to == "doug"
```

```
Actions:
No actions defined yet.

Description:
bounce messages intended for Doug

Choose the operation you want to perform:
- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action
[]> add

1. Condition
2. Action
[1]> 2

1. Bcc
2. Notify
3. Redirect To Alternate Email Address
4. Redirect To Alternate Host
5. Insert A Custom Header
6. Insert A Message Tag
7. Strip A Header
8. Send From Specific IP Interface
9. Drop Attachments By Content
10. Drop Attachments By Name
11. Drop Attachments By MIME Type
12. Drop Attachments By File Type
13. Drop Attachments By Size
14. Send To System Quarantine
15. Duplicate And Send To System Quarantine
16. Add Log Entry
17. Drop (Final Action)
18. Bounce (Final Action)
19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)
20. Encrypt (Final Action)
21. Encrypt on Delivery
22. Skip Outbreak Filters check
[1]> 2

Enter the email address(es) to send the notification to:
[]> joe@example.com

Do you want to edit the subject line used on the notification? [N]> y

Enter the subject to use:
[]> message bounced for ex-employee of example.com

Do you want to edit the return path of the notification? [N]> n

Do you want to include a copy of the original message as an attachment to the
notification? [N]> y

Filter Name: ex_employee

Conditions:
rcpt-to == "doug"

Actions:
notify-copy ("joe@example.com", "message bounced for ex-employee of
example.com")
```

```

Description:
bounce messages intended for Doug

Choose the operation you want to perform:
- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action
- SAVE - Save filter
[> add

1. Condition
2. Action
[1]> 2

1. Bcc
2. Notify
3. Redirect To Alternate Email Address
4. Redirect To Alternate Host
5. Insert A Custom Header
6. Insert A Message Tag
7. Strip A Header
8. Send From Specific IP Interface
9. Drop Attachments By Content
10. Drop Attachments By Name
11. Drop Attachments By MIME Type
12. Drop Attachments By File Type
13. Drop Attachments By Size
14. Send To System Quarantine
15. Duplicate And Send To System Quarantine
16. Add Log Entry
17. Drop (Final Action)
18. Bounce (Final Action)
19. Skip Remaining Content Filters (Final Action)
20. Encrypt (Final Action)
21. Encrypt on Delivery
22. Skip Outbreak Filters check
[1]> 18

Filter Name: ex_employee

Conditions:
rcpt-to == "doug"

Actions:
notify-copy ("joe@example.com", "message bounced for ex-employee of
example.com")
bounce()

Description:
bounce messages intended for Doug

Choose the operation you want to perform:
- RENAME - Rename this filter
- DESC - Edit filter description
- ADD - Add condition or action
- DELETE - Delete condition or action
- SAVE - Save filter
[> save

Defined filters:
1. scan_for_confidential: scan all incoming mail for the string 'confidential'
2. no_mp3s: strip all MP3 attachments
3. ex_employee: bounce messages intended for Doug

```

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new filter
- EDIT - Edit an existing filter
- DELETE - Delete a filter
- PRINT - Print all filters
- MOVE - Reorder a filter
- RENAME - Rename a filter
[]>

Incoming Mail Policy Configuration
Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak
----- -
Malware Protection: Filter: Filters:
----- -
sales_team IronPort Default Default Default Default Default
engineering Default Default Default Default Default Enabled
DEFAULT Ironport McAfee N/A Off Off Enabled

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- MOVE - Move the position of a policy
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies
[]>

```

### 特定のポリシーに対するコンテンツフィルタのイネーブル化

コード例に、もう一度ポリシーをイネーブルにして一部のポリシーのコンテンツフィルタだけをイネーブルにする方法を示します。

```

Incoming Mail Policy Configuration
Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak
----- -
Malware Protection: Filter: Filters:
----- -
sales_team IronPort Default Default Default Default Default
engineering Default Default Default Default Default Enabled
DEFAULT Ironport McAfee N/A Off Off Enabled

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- MOVE - Move the position of a policy
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies
[]> edit

```

| Name:          | Anti-Spam: | Anti-Virus: | Advanced Malware Protection: | Graymail: | Content Filter: | Outbreak Filters: |
|----------------|------------|-------------|------------------------------|-----------|-----------------|-------------------|
| 1. sales_team  | IronPort   | Default     | Default                      | Default   | Default         | Default           |
| 2. engineering | Default    | Default     | Default                      | Default   | Default         | Enabled           |
| 3. DEFAULT     | Ironport   | Mcafee      | N/A                          | Off       | Off             | Enabled           |

Enter the name or number of the entry you wish to edit:  
[> 3

Policy Summaries:

Anti-Spam: IronPort - Drop  
 Suspect-Spam: IronPort - Quarantine - Archiving copies of the original message.  
 Anti-Virus: McAfee - Scan and Clean  
 Graymail Detection: Unsubscribe - Disabled  
 Content Filters: Off  
 Outbreak Filters: Enabled.No bypass extensions.

Choose the operation you want to perform:  
 - ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy  
 - ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy  
 - GRAYMAIL - Modify Graymail policy  
 - OUTBREAK - Modify Outbreak Filters policy  
 - FILTERS - Modify filters  
 [> filters

Choose the operation you want to perform:  
 - ENABLE - Enable Content Filters policy  
 [> enable

1. scan\_for\_confidential  
 2. no\_mp3s  
 3. ex\_employee  
 Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:  
 [> 1

1. Active scan\_for\_confidential  
 2. no\_mp3s  
 3. ex\_employee  
 Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:  
 [> 2

1. Active scan\_for\_confidential  
 2. Active no\_mp3s  
 3. ex\_employee  
 Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:  
 [> 3

1. Active scan\_for\_confidential  
 2. Active no\_mp3s  
 3. Active ex\_employee  
 Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:  
 [>

Policy Summaries:

```
Anti-Spam: IronPort - Drop
Suspect-Spam: IronPort - Quarantine - Archiving copies of the original message.
Anti-Virus: McAfee - Scan and Clean
Graymail Detection: Unsubscribe - Disabled
Content Filters: Enabled.Filters: scan_for_confidential, no_mp3s, ex_employee
Outbreak Filters: Enabled.No bypass extensions.
```

Choose the operation you want to perform:

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
  - ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
  - GRAYMAIL - Modify Graymail policy
  - OUTBREAK - Modify Outbreak Filters policy
  - FILTERS - Modify filters
- [ ]>

Incoming Mail Policy Configuration

| Name:       | Anti-Spam: | Anti-Virus: | Advanced Malware Protection: | Graymail: | Content Filter: | Outbreak Filters: |
|-------------|------------|-------------|------------------------------|-----------|-----------------|-------------------|
| sales_team  | IronPort   | Default     | Default                      | Default   | Default         | Default           |
| engineering | Default    | Default     | Default                      | Default   | Default         | Enabled           |
| DEFAULT     | Ironport   | Mcafee      | N/A                          | Off       | Enabled         | Enabled           |

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
  - EDIT - Edit an existing policy
  - DELETE - Remove a policy
  - PRINT - Print all policies
  - SEARCH - Search for a policy by member
  - MOVE - Move the position of a policy
  - FILTERS - Edit content filters
  - CLEAR - Clear all policies
- [ ]> edit

| Name:          | Anti-Spam: | Anti-Virus: | Advanced Malware Protection: | Graymail: | Content Filter: | Outbreak Filters: |
|----------------|------------|-------------|------------------------------|-----------|-----------------|-------------------|
| 1. sales_team  | IronPort   | Default     | Default                      | Default   | Default         | Default           |
| 2. engineering | Default    | Default     | Default                      | Default   | Default         | Enabled           |
| 3. DEFAULT     | Ironport   | Mcafee      | N/A                          | Off       | Off             | Enabled           |

Enter the name or number of the entry you wish to edit:

[ ]> 2

Policy Summaries:

```
Anti-Spam: Default
Anti-Virus: Default
Graymail Detection: Unsubscribe - Default
Content Filters: Default
Outbreak Filters: Enabled.Bypass extensions: dwg
```

```

Choose the operation you want to perform:
- NAME - Change name of policy
- NEW - Add a new member
- DELETE - Remove a member
- PRINT - Print policy members
- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- GRAYMAIL - Modify Graymail policy
- OUTBREAK - Modify Outbreak Filters policy
- FILTERS - Modify filters
[]> filters

```

```

Choose the operation you want to perform:
- DISABLE - Disable Content Filters policy (Disables all policy-related
actions)
- ENABLE - Enable Content Filters policy
[]> enable

```

```

1. scan_for_confidential
2. no_mp3s
3. ex_employee
Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:
[]> 1

```

```

1. Active scan_for_confidential
2. no_mp3s
3. ex_employee
Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:
[]> 3

```

```

1. Active scan_for_confidential
2. no_mp3s
3. Active ex_employee
Enter the filter to toggle on/off, or press enter to finish:
[]>

```

Policy Summaries:

```

Anti-Spam: Default
Anti-Virus: Default
Graymail Detection: Unsubscribe - Default
Content Filters: Enabled.Filters: scan_for_confidential, ex_employee
Outbreak Filters: Enabled.Bypass extensions: dwg

```

```

Choose the operation you want to perform:
- NAME - Change name of policy
- NEW - Add a new member
- DELETE - Remove a member
- PRINT - Print policy members
- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- GRAYMAIL - Modify Graymail policy
- OUTBREAK - Modify Outbreak Filters policy
- FILTERS - Modify filters
[]>

```

```

Incoming Mail Policy Configuration
Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak
----- -
 ----- -----
 Malware Protection: Filter: Filters:
 ----- -----
sales_team IronPort Default Default Default Default Default
engineering Default Default Default Default Enabled Enabled
DEFAULT Ironport McAfee N/A Off Enabled Enabled

```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- DELETE - Remove a policy
- PRINT - Print all policies
- SEARCH - Search for a policy by member
- MOVE - Move the position of a policy
- FILTERS - Edit content filters
- CLEAR - Clear all policies

[ ]>



(注)

この CLI には、個々のポリシーに新しいコンテンツ フィルタを追加する機能はありません。filters サブコマンドでは、policyconfig コマンドの 1 つのサブセクションからすべてのコンテンツ フィルタを管理することになります。そのため、この例では drop\_large\_attachments の追加を省略しています。

## デフォルトの発信ポリシーの DLP ポリシー

次に、デフォルトの発信ポリシーで DLP ポリシーをイネーブルにする方法を示します。

```
mail3.example.com> policyconfig
```

Would you like to configure Incoming or Outgoing Mail Policies?

1. Incoming
2. Outgoing

[1]> 2

```

Outgoing Mail Policy Configuration
Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak DLP:
----- -
 ----- -----
 Malware Protection: Filter: Filters: ---
 ----- -----
DEFAULT N/A N/A N/A Off Off Off Off

```

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- PRINT - Print all policies
- FILTERS - Edit content filters

[ ]> edit

```

Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak DLP:
----- -
 ----- -----
 Malware ----- Filter: Filters: ---
 Protection: -----

1. DEFAULT N/A N/A N/A Off Off Off Off

```

Enter the name or number of the entry you wish to edit:

[> 1

Policy Summaries:

```

Anti-Spam: Off
Anti-Virus: Off
Graymail Detection: Unsubscribe - Disabled
Content Filters: Off (No content filters have been created)
Outbreak Filters: Off
DLP: Off

```

Choose the operation you want to perform:

- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- GRAYMAIL - Modify Graymail policy
- OUTBREAK - Modify Outbreak Filters policy
- DLP - Modify DLP policy

[> **dlp**

Choose the operation you want to perform:

- ENABLE - Enable DLP policy

[> **enable**

1. California AB-1298
2. Suspicious Transmission - Zip Files
3. Restricted Files

Enter the policy to toggle on/off, or press enter to finish:

[> 1

1. Active California AB-1298
2. Suspicious Transmission - Zip Files
3. Restricted Files

Enter the policy to toggle on/off, or press enter to finish:

[> 2

1. Active California AB-1298
2. Active Suspicious Transmission - Zip Files
3. Restricted Files

Enter the policy to toggle on/off, or press enter to finish:

[> 3

1. Active California AB-1298
2. Active Suspicious Transmission - Zip Files
3. Active Restricted Files

Enter the policy to toggle on/off, or press enter to finish:

[>

Policy Summaries:

```

Anti-Spam: Off
Anti-Virus: Off
Graymail Detection: Unsubscribe - Disabled
Content Filters: Off (No content filters have been created)

```

```

Outbreak Filters: Off
DLP: Enabled.Policies: California AB-1298, Suspicious Transmission - Zip
Files, Restricted Files

Choose the operation you want to perform:
- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- ANTIVIRUS - Modify Anti-Virus policy
- GRAYMAIL - Modify Graymail policy
- OUTBREAK - Modify Outbreak Filters policy
- DLP - Modify DLP policy
[]>

```

## 一括EメールまたはソーシャルネットワークのEメールであると識別されたメッセージをドロップする着信ポリシーの作成

```

mail.example.com> policyconfig

Would you like to configure Incoming or Outgoing Mail Policies?
1. Incoming
2. Outgoing
[1]> 1

Incoming Mail Policy Configuration
Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak
----- ----- ----- Malware ----- Filter: Filters:
 Protection:

DEFAULT Off N/A N/A Off Off N/A

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new policy
- EDIT - Edit an existing policy
- PRINT - Print all policies
- FILTERS - Edit content filters
[]> edit

 Name: Anti-Spam: Anti-Virus: Advanced Graymail: Content Outbreak
 ----- ----- ----- Malware ----- Filter: Filters:
 Protection:

1. DEFAULT Off N/A N/A Off Off N/A

Enter the name or number of the entry you wish to edit:
[]> 1

Policy Summaries:

Anti-Spam: Off
Graymail Detection: Off
Content Filters: Off (No content filters have been created)

Choose the operation you want to perform:
- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- GRAYMAIL - Modify Graymail policy
- FILTERS - Modify filters
[]> graymail

```

```

Choose the operation you want to perform:
- ENABLE - Enable Graymail policy
[]> enable

Begin Graymail configuration

Do you want to enable Safe Unsubscribe? [N]> y

Do you want to perform Safe Unsubscribe action only for unsigned messages (recommended)?
[Y]>

Do you want to enable actions on messages identified as Marketing Email? [N]>

Do you want to enable actions on messages identified as Social Networking Email? [N]> y

1. DELIVER
2. DROP
3. BOUNCE
What do you want to do with messages identified as Social Networking Email?
[1]> 2

Do you want to archive messages identified as Social Networking Email? [N]>

Do you want to enable actions on messages identified as Bulk Email? [N]> y

1. DELIVER
2. DROP
3. BOUNCE
What do you want to do with messages identified as Bulk Email?
[1]> 2

Do you want to archive messages identified as Bulk Email? [N]>

Graymail configuration complete.

Policy Summaries:

Anti-Spam: Off
Graymail Detection: Unsubscribe - Enabled
 Social Networking mails : Drop
 Bulk mails : Drop
Content Filters: Off (No content filters have been created)

Choose the operation you want to perform:
- ANTISPAM - Modify Anti-Spam policy
- GRAYMAIL - Modify Graymail policy
- FILTERS - Modify filters
[]>

```

## quarantineconfig

### 説明

システムの隔離を設定します。

## 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例

```
mail3.example.com> quarantineconfig

Currently configured quarantines:

Quarantine Name Size (MB) % full Messages Retention Policy
1 Outbreak 3,072 0.0 1 12h Release
2 Policy 1,024 0.1 497 10d Delete
3 Virus 2,048 empty 0 30d Delete

2,048 MB available for quarantine allocation.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new quarantine.
- EDIT - Modify a quarantine.
- DELETE - Remove a quarantine.
- OUTBREAKMANAGE - Manage the Outbreak Filters quarantine.
[]> new

Please enter the name for this quarantine:
[]> HRQuarantine

Retention period for this quarantine.(Use 'd' for days or 'h' for hours or 'm' for
'minutes'.):
[]> 15d
1. Delete
2. Release
Enter default action for quarantine:
[1]> 2
Do you want to modify the subject of messages that are released because
"HRQuarantine" overflows? [N]>

Do you want add a custom header to messages that are released because
"HRQuarantine" overflows? [N]>

Do you want to strip all attachments from messages that are released
because "HRQuarantine" overflows? [N]>

Do you want default action to apply automatically when quarantine space fills up? [Y]>

Currently configured quarantines:

Quarantine Name Size (MB) % full Messages Retention Policy
1 HRQuarantine 1,024 N/A N/A 15d Release
2 Outbreak 3,072 0.0 1 12h Release
3 Policy 1,024 0.1 497 10d Delete
4 Virus 2,048 empty 0 30d Delete
(N/A: Quarantine contents is not available at this time.)

1,024 MB available for quarantine allocation.
```

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new quarantine.
- EDIT - Modify a quarantine.
- DELETE - Remove a quarantine.
- OUTBREAKMANAGE - Manage the Outbreak Filters quarantine.
```

## ユーザと隔離

ユーザの追加に関する質問に“y”つまり「はい」と答えると、ユーザ管理が開始され、ユーザ リストを管理できます。これにより、隔離設定に関する他の質問に答えなくても隔離に対して複数のユーザを追加または削除できます。ユーザ管理セクションから出て隔離の設定を続行するには、空のプロンプト ([ ]>) で Enter を押します。



(注)

システム上にゲスト ユーザまたはオペレータ ユーザが作成されている場合は、ユーザへの隔離に対するアクセスの付与だけが要求されます。

隔離のユーザ リストには、Operators グループまたは Guests グループに属するユーザだけが含まれます。Administrators グループ内のユーザは、常に隔離に対してすべてのアクセス権限を持ちます。ユーザ リストを管理するときには、すべてのオペレータ/ゲスト ユーザがすでに隔離のユーザ リストに含まれている場合、NEW コマンドは使用不可となります。同様に、削除の対象となるユーザが存在しない場合、DELETE コマンドは使用不可となります。

## scanconfig

### 説明

添付ファイルのスキャン ポリシーを設定します。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

### 例

この例では、scanconfig コマンドで以下のパラメータを設定します。

- video/\*、audio/\*、image/\* の MIME タイプはスキップされます (コンテンツはスキャンされません)。
- ネストされた (再帰的な) アーカイブ添付ファイルは、最大 10 レベルまでスキャンされます。(デフォルトは 5 レベル)。
- スキャンされる添付ファイルの最大サイズは、25 MB です。これより大きいファイルはすべてスキップされます。(デフォルトは 5 MB)。
- ドキュメントのメタデータがスキャンされます。

- 添付ファイルのスキャンのタイムアウトは、180 秒に設定されます。
- スキャンされなかった添付ファイルは、検索パターンに一致しないと見なされます。(デフォルトの動作)。
- プレーン テキストの本文や MIME タイプの `plain/text` または `plain/html` 部分に何も指定されていない場合は、ASCII エンコードが使用されます。



(注)

[assume the attachment matches the search pattern] を「Y」に設定すると、スキャンできないメッセージはメッセージフィルタールールによって `true` と評価されます。これにより、辞書に一致しないメッセージの検疫など、予想外の動作が発生することがあります。このようなメッセージは、コンテンツが正しくスキャンできないという理由で検疫されていました。この設定は RSA Email DLP スキャンには適用されません。

```
mail3.example.com> scanconfig
There are currently 5 attachment type mappings configured to be SKIPPED.
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new entry.
- DELETE - Remove an entry.
- SETUP - Configure scanning behavior.
- IMPORT - Load mappings from a file.
- EXPORT - Save mappings to a file.
- PRINT - Display the list.
- CLEAR - Remove all entries.
- SMIME - Configure S/MIME unpacking.
[]> setup
1. Scan only attachments with MIME types or fingerprints in the list.
2. Skip attachments with MIME types or fingerprints in the list.
Choose one:
[2]> 2

Enter the maximum depth of attachment recursion to scan:
[5]> 10

Enter the maximum size of attachment to scan:
[5242880]> 10m

Do you want to scan attachment metadata? [Y]> y

Enter the attachment scanning timeout (in seconds):
[30]> 180

If a message has attachments that were not scanned for any reason (e.g.
because of size, depth limits, or scanning timeout), assume the attachment matches the
search pattern? [N]> n

If a message could not be deconstructed into its component parts in order to remove
specified attachments, the system should:

1. Deliver
2. Bounce
3. Drop
[1]>

Configure encoding to use when none is specified for plain body text or
anything with MIME type plain/text or plain/html.
1. US-ASCII
2. Unicode (UTF-8)
3. Unicode (UTF-16)
4. Western European/Latin-1 (ISO 8859-1)
5. Western European/Latin-1 (Windows CP1252)
6. Traditional Chinese (Big 5)
```

```

7. Simplified Chinese (GB 2312)
8. Simplified Chinese (HZ GB 2312)
9. Korean (ISO 2022-KR)
10. Korean (KS-C-5601/EUC-KR)
11. Japanese (Shift-JIS (X0123))
12. Japanese (ISO-2022-JP)
13. Japanese (EUC)
[1]> 1

Scan behavior changed.

There are currently 5 attachment type mappings configured to be SKIPPED.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new entry.
- DELETE - Remove an entry.
- SETUP - Configure scanning behavior.
- IMPORT - Load mappings from a file.
- EXPORT - Save mappings to a file.
- PRINT - Display the list.
- CLEAR - Remove all entries.
- SMIME - Configure S/MIME unpacking.

[]> print
1. Fingerprint Image
2. Fingerprint Media
3. MIME Type audio/*
4. MIME Type image/*
5. MIME Type video/*

```

## stripheaders

### 説明

削除するメッセージヘッダーのリストを定義します。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシンモード（クラスタ、グループ、マシン）で使用できます。

**バッチコマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```

mail3.example.com> stripheaders

Not currently stripping any headers.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Set message headers to remove.
[]> setup

```

```
Enter the list of headers you wish to strip from the messages before they are
delivered. Separate multiple headers with commas.
[]> Delivered-To

Currently stripping headers: Delivered-To

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Set message headers to remove.
[]>

mail3.example.com>
```

## textconfig

### 説明

DLP、バウンス、暗号化通知を含め、アンチウイルス アラート テンプレート、メッセージ免責事項、通知テンプレートなどのテキスト リソースを設定します。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

textconfig -> NEW を使用してテキスト リソースを作成し、textconfig > delete を使用してテキスト リソースを削除します。

```
mail3.example.com> textconfig

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.
[]> new

What kind of text resource would you like to create?
1. Anti-Virus Container Template
2. Anti-Virus Notification Template
3. DLP Notification Template
4. Bounce and Encryption Failure Notification Template
5. Message Disclaimer
6. Encryption Notification Template (HTML)
7. Encryption Notification Template (text)
8. Notification Template
[1]> 5

Please create a name for the message disclaimer:
[]> disclaimer 1
```

Enter the encoding for the message disclaimer:

1. US-ASCII
  2. Unicode (UTF-8)
  3. Unicode (UTF-16)
  4. Western European/Latin-1 (ISO 8859-1)
  5. Western European/Latin-1 (Windows CP1252)
  6. Traditional Chinese (Big 5)
  7. Simplified Chinese (GB 2312)
  8. Simplified Chinese (HZ GB 2312)
  9. Korean (ISO 2022-KR)
  10. Korean (KS-C-5601/EUC-KR)
  11. Japanese (Shift-JIS (X0123))
  12. Japanese (ISO-2022-JP)
  13. Japanese (EUC)
- [1]>

Enter or paste the message disclaimer here. Enter '.' on a blank line to end.

**This message was sent from an IronPort(tm) Email Security appliance.**

.

Message disclaimer "disclaimer 1" created.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.
- EXPORT - Export text resource to a file.
- PRINT - Display the content of a resource.
- EDIT - Modify a resource.
- DELETE - Remove a resource from the system.
- LIST - List configured resources.

[ ]> **delete**

Please enter the name or number of the resource to delete:

[ ]> **1**

Message disclaimer "disclaimer 1" has been deleted.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.

[ ]>

textconfig -> EDIT を使用して既存のテキスト リソースを変更します。エンコードを変更したり、選択したテキスト リソースのテキストを置換したりできます。

## テキスト リソースのインポート

テキスト ファイルをテキスト リソースとしてインポートするには、textconfig -> IMPORT を使用します。インポートするテキスト ファイルは、アプライアンス上の configuration ディレクトリに存在する必要があります。

mail3.example.com> **textconfig**

Current Text Resources:

1. footer.2.message (Message Footer)

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new text resource.

```

- IMPORT - Import a text resource from a file.
- EXPORT - Export text resource to a file.
- PRINT - Display the content of a resource.
- EDIT - Modify a resource.
- DELETE - Remove a resource from the system.
- LIST - List configured resources.
[]> import

What kind of text resource would you like to create?
1. Anti-Virus Container Template
2. Anti-Virus Notification Template
3. DLP Notification Template
4. Bounce and Encryption Failure Notification Template
5. Message Disclaimer
6. Encryption Notification Template (HTML)
7. Encryption Notification Template (text)
8. Notification Template
[1]> 8

Please create a name for the notification template:
[]> strip.mp3files

Enter the name of the file to import:
[]> strip.mp3.txt

Enter the encoding to use for the imported file:
1.US-ASCII
[list of encodings]
[1]>

Notification template "strip.mp3files" created.

Current Text Resources:
1. disclaimer.2.message (Message Disclaimer)
2. strip.mp3files (Notification Template)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.
- EXPORT - Export text resource to a file.
- PRINT - Display the content of a resource.
- EDIT - Modify a resource.
- DELETE - Remove a resource from the system.
- LIST - List configured resources.
[]>

```

## テキスト リソースのエクスポート

テキスト リソースをテキスト ファイルとしてエクスポートするには、`textconfig -> EXPORT` を使用します。テキスト ファイルは、アプライアンス上の `configuration` ディレクトリに作成されます。

```

mail3.example.com> textconfig

Current Text Resources:
1. footer.2.message (Message Footer)
2. strip.mp3 (Notification Template)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.
- EXPORT - Export text resource to a file.

```

```

- PRINT - Display the content of a resource.
- EDIT - Modify a resource.
- DELETE - Remove a resource from the system.
- LIST - List configured resources.
[]> export

Please enter the name or number of the resource to export:
[]> 2

Enter the name of the file to export:
[strip.mp3]> strip.mp3.txt

Enter the encoding to use for the exported file:
1. US-ASCII
[list of encoding types]
[1]>

File written on machine "mail3.example.com" using us-ascii encoding.

Current Text Resources:
1. footer.2.message (Message Footer)
2. strip.mp3 (Notification Template)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new text resource.
- IMPORT - Import a text resource from a file.
- EXPORT - Export text resource to a file.
- PRINT - Display the content of a resource.
- EDIT - Modify a resource.
- DELETE - Remove a resource from the system.
- LIST - List configured resources.
[]>

```

## ログिंगとアラート

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [alertconfig](#)
- [displayalerts](#)
- [findevent](#)
- [grep](#)
- [logconfig](#)
- [rollovernow](#)
- [snmpconfig](#)
- [tail](#)

### alertconfig

#### 説明

電子メール アラートを設定します。

## 使用方法

**確定:**このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## 例:新しいアラートの作成

この例では、新しいアラート受信者(alertadmin@example.com)を作成し、重大度が Critical である、システム、ハードウェア、およびディレクトリ ハーベスト攻撃のアラートを受け取るように設定します。

```
vm30esa0086.ibqa> alertconfig

Not sending alerts (no configured addresses)

Alerts will be sent using the system-default From Address.

Cisco IronPort AutoSupport: Disabled

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new email address to send alerts.
- SETUP - Configure alert settings.
- FROM - Configure the From Address of alert emails.
[]> new

Please enter a new email address to send alerts.
(Ex: "administrator@example.com")
[]> alertadmin@example.com

Choose the Alert Classes.Separate multiple choices with commas.
1. All
2. System
3. Hardware
4. Updater
5. Outbreak Filters
6. Anti-Virus
7. Anti-Spam
8. Directory Harvest Attack Prevention
9. Release and Support Notifications
[1]> 2,3,8

Select a Severity Level.Separate multiple choices with commas.
1. All
2. Critical
3. Warning
4. Information
[1]> 2

Sending alerts to:
 alertadmin@example.com
 Class: Hardware - Severities: Critical
 Class: Directory Harvest Attack Prevention - Severities: Critical
 Class: System - Severities: Critical

Initial number of seconds to wait before sending a duplicate alert: 300
Maximum number of seconds to wait before sending a duplicate alert: 3600
Maximum number of alerts stored in the system are: 50
```

```
Alerts will be sent using the system-default From Address.
```

```
Cisco IronPort AutoSupport: Disabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Add a new email address to send alerts.
- EDIT - Modify alert subscription for an email address.
- DELETE - Remove an email address.
- CLEAR - Remove all email addresses (disable alerts).
- SETUP - Configure alert settings.
- FROM - Configure the From Address of alert emails.

```
[]>
```

## displayalerts

### 説明

アプライアンスから送信された最後の **n** 個のアラートを表示します

### 使用方法

**確定:** このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例

```
> displayalerts
```

```
Date and Time Stamp Description

10 Mar 2015 11:33:36 +0000 The updater could not validate the server certificate.Server
certificate not validated - unable to get local issuer
certificate

Last message occurred 28 times between Tue Mar 10 10:34:57 2015 and Tue Mar 10 11:32:24
2015.

10 Mar 2015 11:23:39 +0000 The updater has been unable to communicate with the update
server for at least 1h.

Last message occurred 8 times between Tue Mar 10 10:29:57 2015 and Tue Mar 10 11:18:24
2015.

10 Mar 2015 10:33:36 +0000 The updater could not validate the server certificate.Server
certificate not validated - unable to get local issuer
certificate

Last message occurred 26 times between Tue Mar 10 09:33:55 2015 and Tue Mar 10 10:29:57
2015.
```

```
10 Mar 2015 10:23:39 +0000 The updater has been unable to communicate with the update
server for at least 1h.
```

```
Last message occurred 9 times between Tue Mar 10 09:26:54 2015 and Tue Mar 10 10:22:56
2015.
```

## findevent

### 説明

メール ログ ファイルのイベントを検索します

### 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

### 例:エンベロープ送信者による検索

```
mail.example.com> findevent
```

```
Please choose which type of search you want to perform:
```

1. Search by envelope FROM
2. Search by Message ID
3. Search by Subject
4. Search by envelope TO

```
[1]> 1
```

```
Enter the regular expression to search for.
```

```
[]> "
```

```
Currently configured logs:
```

| Log Name     | Log Type                | Retrieval       | Interval |
|--------------|-------------------------|-----------------|----------|
| 1. mail_logs | IronPort Text Mail Logs | Manual Download | None     |

```
Enter the number of the log you wish to use for message tracking.
```

```
[1]> 1
```

```
Please choose which set of logs to search:
```

1. All available log files
2. Select log files by date list
3. Current log file

```
[3]> 3
```

```
No matching message IDs were found
```

## 例:メッセージIDによる検索

```
mail.example.com> findevent

Please choose which type of search you want to perform:
1. Search by envelope FROM
2. Search by Message ID
3. Search by Subject
4. Search by envelope TO
[1]> 2

Enter the Message ID (MID) to search for.
[]> 1

Currently configured logs:
 Log Name Log Type Retrieval Interval

 1. mail_logs IronPort Text Mail Logs Manual Download None
Enter the number of the log you wish to use for message tracking.
[1]> 1

Please choose which set of logs to search:
1. All available log files
2. Select log files by date list
3. Current log file
[3]> 1
```

## 例:件名による検索

```
mail.example.com> findevent

Please choose which type of search you want to perform:
1. Search by envelope FROM
2. Search by Message ID
3. Search by Subject
4. Search by envelope TO
[1]> 3

Enter the regular expression to search for.
[]> "

Currently configured logs:
 Log Name Log Type Retrieval Interval

 1. mail_logs IronPort Text Mail Logs Manual Download None
Enter the number of the log you wish to use for message tracking.
[1]> 1

Please choose which set of logs to search:
1. All available log files
2. Select log files by date list
3. Current log file
[3]> 2

Available mail log files, listed by log file start time.Specify multiple log files by
separating with commas or specify a range with a dash:
1. Thu Feb 19 05:18:02 2015
[1]>

No matching message IDs were found
```

## 例:エンベロープ受信者による検索

```
mail.example.com> findevent

Please choose which type of search you want to perform:
1. Search by envelope FROM
2. Search by Message ID
3. Search by Subject
4. Search by envelope TO
[1]> 4

Enter the regular expression to search for.
[]> '

Currently configured logs:

Log Name Log Type Retrieval Interval

1. mail_logs IronPort Text Mail Logs Manual Download None
Enter the number of the log you wish to use for message tracking.
[1]> 1

Please choose which set of logs to search:
1. All available log files
2. Select log files by date list
3. Current log file
[3]> 3

No matching message IDs were found
```

## grep

### 説明

ログ ファイル内のテキストを検索します。

### 使用方法

**確定:**このコマンドに「commit」は必要ありません。

**クラスタ管理:**このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト(ユーザがログインしたマシン)でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスする必要があります。

**バッチ コマンド:**このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

grep コマンドを使用すると、ログ内の文字列を検索できます。grep コマンドを実行するときには、次の構文を使用します。

```
grep [-C count] [-e regex] [-i] [-p] [-t] [regex] log_name
```



(注) 結果を返すには、`-e regex` または `regex` を入力する必要があります。

grep コマンドを実行するときには、次のオプションを使用します。

表 3-12 grep コマンドのオプション

| オプション | 説明                                                |
|-------|---------------------------------------------------|
| -C    | 見つかった grep パターンのコンテキストを示す周辺の行を表示します。表示する行数を入力します。 |
| -e    | 正規表現を入力します。                                       |
| -i    | 大文字と小文字の区別を無視します。                                 |
| -p    | 出力に改ページを追加します。                                    |
| -t    | grep コマンドをログ ファイルの末尾まで実行します。                      |
| regex | 正規表現を入力します。                                       |

## grep の例

次に、アンチウイルス ログの中で文字列「clean」または「viral」を検索する例を示します。この grep コマンドには regex 表現が含まれています。

```
mail3.example.com> grep "CLEAN\\|VIRAL" antivirus

Fri Jun 9 21:50:25 2006 Info: sophos antivirus - MID 1 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun 9 21:53:15 2006 Info: sophos antivirus - MID 2 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun 9 22:47:41 2006 Info: sophos antivirus - MID 3 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun 9 22:47:41 2006 Info: sophos antivirus - MID 4 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun 9 22:47:41 2006 Info: sophos antivirus - MID 5 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun 9 22:47:41 2006 Info: sophos antivirus - MID 6 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun 9 22:47:42 2006 Info: sophos antivirus - MID 12 - Result 'CLEAN' ()
Fri Jun 9 22:53:04 2006 Info: sophos antivirus - MID 18 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:05 2006 Info: sophos antivirus - MID 16 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:06 2006 Info: sophos antivirus - MID 19 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:07 2006 Info: sophos antivirus - MID 21 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:08 2006 Info: sophos antivirus - MID 20 - Result 'VIRAL' ()
Fri Jun 9 22:53:08 2006 Info: sophos antivirus - MID 22 - Result 'VIRAL' ()
mail3.example.com>
```

## logconfig

### 説明

ログ ファイルへのアクセスを設定します。

### 使用方法

**確定:** このコマンドは「commit」が必要です。

**クラスタ管理:** このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

**バッチ コマンド:** このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

## FTP プッシュ ログ サブスクリプションの例

次の例では、logconfig コマンドを使用して、myDeliveryLogs と呼ばれる新しい配信ログを設定します。次に、ログが FTP によってリモート ホストにプッシュされるように設定します。

```
mail3.example.com> logconfig
```

```
Currently configured logs:
```

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli\_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euggui\_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd\_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui\_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail\_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "reportd\_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
16. "reportqueryd\_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
18. "slbld\_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
19. "sntpd\_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
21. "system\_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
22. "trackerd\_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
23. "updater\_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new log.
- EDIT - Modify a log subscription.
- DELETE - Remove a log subscription.
- SETUP - General settings.
- LOGHEADERS - Configure headers to log.
- HOSTKEYCONFIG - Configure SSH host keys.

```
[> new
```

```
Choose the log file type for this subscription:
```

1. IronPort Text Mail Logs
2. qmail Format Mail Logs
3. Delivery Logs
4. Bounce Logs
5. Status Logs
6. Domain Debug Logs
7. Injection Debug Logs
8. SMTP Conversation Logs
9. System Logs
10. CLI Audit Logs
11. FTP Server Logs
12. HTTP Logs
13. NTP logs
14. LDAP Debug Logs
15. Anti-Spam Logs
16. Anti-Spam Archive
17. Anti-Virus Logs
18. Anti-Virus Archive
19. Scanning Logs
20. IronPort Spam Quarantine Logs

```

21. IronPort Spam Quarantine GUI Logs
22. Reporting Logs
23. Reporting Query Logs
24. Updater Logs
25. Tracking Logs
26. Safe/Block Lists Logs
27. Authentication Logs

```

```
[1]> 8
```

Please enter the name for the log:

```
[1]> myDeliveryLogs
```

Choose the method to retrieve the logs.

```

1. FTP Poll
2. FTP Push
3. SCP Push
4. Syslog Push

```

```
[1]> 2
```

Hostname to deliver the logs:

```
[1]> yourhost.example.com
```

Username on the remote host:

```
[1]> yourusername
```

Password for youruser:

```
[1]> thepassword
```

Directory on remote host to place logs:

```
[1]> /logs
```

Filename to use for log files:

```
[conversation.text]>
```

Maximum time to wait before transferring:

```
[3600]>
```

Maximum filesize before transferring:

```
[10485760]>
```

Currently configured logs:

```

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euqgui_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "myDeliveryLogs" Type: "SMTP Conversation Logs" Retrieval: FTP Push - Host
 yourhost.example.com
16. "reportd_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "reportqueryd_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
18. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
19. "slbld_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
20. "sntpd_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
21. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll

```

- ```
22. "system_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
23. "trackerd_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
24. "updater_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll
```

SCP プッシュ ログ サブスクリプションの例

次の例では、logconfig コマンドを使用して、LogPush と呼ばれる新しい配信ログを設定します。このログは、SCP によって IP アドレスが 10.1.1.1 のリモート ホストにユーザ logger としてプッシュされ、ディレクトリ /tmp に保存されるように設定します。ログ取得方法が SCP プッシュである場合は logconfig コマンドから自動的に sshconfig コマンドが呼び出されることに注意してください。(ホスト キーの詳細については「Configuring Host Keys」、ユーザ キーの詳細については「Managing Secure Shell (SSH) Keys」を、『User Guide for AsyncOS for Cisco Email Security Appliances』で参照してください)。また、IP アドレスをホスト名プロンプトで使用できることに注意してください。

```
mail3.example.com> logconfig
```

```
Currently configured logs:
```

- ```
1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euqgui_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "reportd_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
16. "reportqueryd_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
18. "slbld_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
19. "sntpd_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
21. "system_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
22. "trackerd_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
23. "updater_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new log.
- EDIT - Modify a log subscription.
- DELETE - Remove a log subscription.
- SETUP - General settings.
- LOGHEADERS - Configure headers to log.
- HOSTKEYCONFIG - Configure SSH host keys.

```
[]> new
```

```
Choose the log file type for this subscription:
```

- ```
1. IronPort Text Mail Logs
2. qmail Format Mail Logs
3. Delivery Logs
4. Bounce Logs
5. Status Logs
6. Domain Debug Logs
7. Injection Debug Logs
8. SMTP Conversation Logs
```

```
9. System Logs
10. CLI Audit Logs
11. FTP Server Logs
12. HTTP Logs
13. NTP logs
14. LDAP Debug Logs
15. Anti-Spam Logs
16. Anti-Spam Archive
17. Anti-Virus Logs
18. Anti-Virus Archive
19. Scanning Logs
20. IronPort Spam Quarantine Logs
21. IronPort Spam Quarantine GUI Logs
22. Reporting Logs
23. Reporting Query Logs
24. Updater Logs
25. Tracking Logs
26. Safe/Block Lists Logs
27. Authentication Logs
[1]> 3
```

```
Please enter the name for the log:
[> LogPush
```

```
Choose the method to retrieve the logs.
1. FTP Poll
2. FTP Push
3. SCP Push
[1]> 3
```

```
Hostname to deliver the logs:
[> 10.1.1.1
```

```
Port to connect to on the remote host:
[22]>
```

```
Username on the remote host:
[> logger
```

```
Directory on remote host to place logs:
[> /tmp
```

```
Filename to use for log files:
[delivery.log]>
```

```
Maximum time to wait before transferring:
[3600]>
```

```
Maximum filesize before transferring:
[10485760]>
```

```
Protocol:
1. SSH1
2. SSH2
[2]> 2
```

```
Do you want to enable host key checking? [N]> y
```

```
Do you want to automatically scan the host for its SSH key, or enter it
manually?
1. Automatically scan.
2. Enter manually.
[1]> 1
```

```

SSH2:dsa
10.1.1.1 ssh-dss
AAAAB3NzaC1kc3MAAACBALwGi4I1WLDVndbIwEsArt9LVE2ts5yE9JBTSdUwLvoq0G3FRqifrce92zgyHtc/ZWyXav
UTIM3Xd1bpiEcscMp2XKpSnPPx21y8bqkpJsSCQcM8zZMDjnOPm8ghiwHXYh7oNEUJCCPnPxAy44r1J5Yz4x9eIoAL
p0dHU0GR+j1NAAAFQDQi5GY/X9P1DM3fPMvEx7wc0edlwAAAIB9cgMTEFP1WTAGr1RtbowZP5zWZtVDTxLhdXzjlo
4+bb4hBR7DKuc80+naAFnThyH/J8R3WlJVF79M5geKJbXzuJGDK3Zw13UYefPqBqXp2O1zLRQSJYx1WhwYz/rooopN
1BnF4sh12mtq3tde1176bQgtwaQA4wKO15k3zOWsPwAAAIaIcRYat3y+Blv/V6wdE6BBk+oULv3eK38gafuip4WMBx
kG9G0EQi8nss82oznwWBy/pITRQfh4MBmlxTF4VEY00sARr1ZtuUJC1QGQvCgh7Nd3YNais2CSbEKBEaIoTf6+SX2
RNpcUF3Wg5ygw92xtqQPKMcZeLTK2ZJRkhC+Vw==

Add the preceding host key(s) for 10.1.1.1? [Y]> y

Currently installed host keys:
1.10.1.1.1 1024 35 12260642076447444117847407996206675325...3520565607
2.10.1.1.1 ssh-dss AAAAB3NzaC1kc3MAAACBALwGi4I1WLDVndbIwE...JRkhC+Vw==

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new key.
- EDIT - Modify a key.
- DELETE - Remove a key.
- SCAN - Automatically download a host key.
- PRINT - Display a key.
- HOST - Display this machine's host keys.
[ ]>
Maximum filesize before transferring:
[10485760]>

Protocol:
1. SSH1
2. SSH2
[2]> 2

Do you want to enable host key checking? [N]> y

Currently installed host keys:

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a new key.
- SCAN - Automatically download a host key.
- HOST - Display this machine's host keys.
[ ]> scan

Choose the ssh protocol type:
1. SSH1:rsa
2. SSH2:rsa
3. SSH2:dsa
4. All
[4]> 4

SSH1:rsa
10.1.1.1 1024 35
122606420764474441178474079962066753259278682648965870690129496065430424463013457294798980
627829828033793152226448694514316218272814453986931612508282328008815740072109975632356478
532128816187806830746328234327778100131128176672666244511191783747965898000855947022484692
079466697707373948871554575173520565607

```

Syslog プッシュ ログ サブスクリプションの例

次の例では、logconfig コマンドを使用して、MailLogSyslogPush と呼ばれる新しい配信ログを設定します。このログは、UPD を使用して IP アドレスが 10.1.1.2 のリモート syslog サーバに「メール」ファシリティでプッシュされ、所定のディレクトリに保存されるように設定します。

```
mail3.example.com> logconfig
```

```
Currently configured logs:
```

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euqgui_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "reportd_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
16. "reportqueryd_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
18. "slbld_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
19. "sntpd_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
21. "system_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
22. "trackerd_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
23. "updater_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new log.
- EDIT - Modify a log subscription.
- DELETE - Remove a log subscription.
- SETUP - General settings.
- LOGHEADERS - Configure headers to log.
- HOSTKEYCONFIG - Configure SSH host keys.

```
[ ]> new
```

```
Choose the log file type for this subscription:
```

1. IronPort Text Mail Logs
2. qmail Format Mail Logs
3. Delivery Logs
4. Bounce Logs
5. Status Logs
6. Domain Debug Logs
7. Injection Debug Logs
8. SMTP Conversation Logs
9. System Logs
10. CLI Audit Logs
11. FTP Server Logs
12. HTTP Logs
13. NTP logs
14. LDAP Debug Logs
15. Anti-Spam Logs
16. Anti-Spam Archive
17. Anti-Virus Logs
18. Anti-Virus Archive
19. Scanning Logs
20. IronPort Spam Quarantine Logs

```
21. IronPort Spam Quarantine GUI Logs
22. Reporting Logs
23. Reporting Query Logs
24. Updater Logs
25. Tracking Logs
26. Safe/Block Lists Logs
27. Authentication Logs
[1]> 1

Please enter the name for the log:
[]> MailLogSyslogPush

Log level:
1. Critical
2. Warning
3. Information
4. Debug
5. Trace
[3]> 2

Choose the method to retrieve the logs.
1. FTP Poll
2. FTP Push
3. SCP Push
4. Syslog Push
[1]> 4

Hostname to deliver the logs:
[]> 10.1.1.2

Which protocol do you want to use to transfer the log data?
1. UDP
2. [TCP]
[1]> 1

Which facility do you want the log data to be sent as?
1. auth
2. authpriv
3. console
4. daemon
5. ftp
6. local0
7. local1
8. local2
9. local3
10. local4
11. local5
12. local6
13. local7
14. mail
15. ntp
16. security
17. user
[14]> 14

Currently configured logs:
1."MailLogSyslogPush" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: Syslog Push -
Host 10.1.1.2
```

rollovernow

説明

ログ ファイルをロール オーバーします。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> rollovernow

Currently configured logs:

1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euqgui_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "reportd_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
16. "reportqueryd_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
18. "slbld_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
19. "sntpd_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
21. "system_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
22. "trackerd_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
23. "updater_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll
24. All Logs

Which log would you like to roll over?
[ ]> 2

Log files successfully rolled over.
mail3.example.com>
```

snmpconfig

説明

SNMP を設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次の例では、`snmpconfig` コマンドを使用して、ポート 161 の「PublicNet」インターフェイスで SNMP をイネーブルにしています。バージョン 3 のパスフレーズが入力され、確認のために再入力されています。システムは、バージョン 1 および 2 要求を処理するように設定されており、これらのバージョン 1 および 2 からの GET 要求に対してコミュニティ スtring `public` が入力されています。トラップ ターゲット `snmp-monitor.example.com` が入力されています。最後に、システムの場所と連絡先情報が入力されています。

```
mail3.example.com> snmpconfig

Current SNMP settings:
SNMP Disabled.

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure SNMP.
[]> setup

Do you want to enable SNMP? [N]> y

Please choose an IP interface for SNMP requests.
1. Data 1 (192.168.1.1/24: buttercup.run)
2. Data 2 (192.168.2.1/24: buttercup.run)
3. Management (192.168.44.44/24: buttercup.run)
[1]>

Enter the SNMPv3 passphrase.
>
Please enter the SNMPv3 passphrase again to confirm.
>

Which port shall the SNMP daemon listen on?
[161]>

Service SNMP V1/V2c requests? [N]> y

Enter the SNMP V1/V2c community string.
[]> public

From which network shall SNMP V1/V2c requests be allowed?
[192.168.2.0/24]>

Enter the Trap target (IP address).Enter "None" to disable traps.
[None]> snmp-monitor.example.com

Enterprise Trap Status
1. RAIDStatusChange           Enabled
2. fanFailure                   Enabled
3. highTemperature              Enabled
4. keyExpiration                Enabled
5. linkDown                     Enabled
6. linkUp                       Enabled
7. powerSupplyStatusChange     Enabled
```

```

8. resourceConservationMode      Enabled
9. updateFailure                 Enabled
Do you want to change any of these settings? [N]> y

Do you want to disable any of these traps? [Y]>

Enter number or numbers of traps to disable. Separate multiple numbers with commas.
[ ]> 1,8

Enterprise Trap Status
1. RAIDStatusChange             Disabled
2. fanFailure                   Enabled
3. highTemperature              Enabled
4. keyExpiration                Enabled
5. linkDown                     Enabled
6. linkUp                       Enabled
7. powerSupplyStatusChange      Enabled
8. resourceConservationMode      Disabled
9. updateFailure                Enabled
Do you want to change any of these settings? [N]>

Enter the System Location string.
[Unknown: Not Yet Configured]> Network Operations Center - west; rack #31, position 2

Enter the System Contact string.
[snmp@localhost]> Joe Administrator, x8888

Current SNMP settings:
Listening on interface "Data 1" 192.168.2.1/24 port 161.
SNMP v3: Enabled.
SNMP v1/v2: Enabled, accepting requests from subnet 192.168.2.0/24.
SNMP v1/v2 Community String: public
Trap target: snmp-monitor.example.com
Location: Network Operations Center - west; rack #31, position 2
System Contact: Joe Administrator, x8888

mail3.example.com>

```

tail

説明

ログファイルの最新部分を継続的に表示します。tail コマンドには、表示するログの名前または番号をパラメータ tail 9 または tail mail_logs として指定することもできます。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシンモードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログインホスト(ユーザがログインしたマシン)でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカルファイルシステムにアクセスできる必要があります。

バッチコマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> tail

Currently configured logs:
1. "antispam" Type: "Anti-Spam Logs" Retrieval: FTP Poll
2. "antivirus" Type: "Anti-Virus Logs" Retrieval: FTP Poll
3. "asarchive" Type: "Anti-Spam Archive" Retrieval: FTP Poll
4. "authentication" Type: "Authentication Logs" Retrieval: FTP Poll
5. "avarchive" Type: "Anti-Virus Archive" Retrieval: FTP Poll
6. "bounces" Type: "Bounce Logs" Retrieval: FTP Poll
7. "cli_logs" Type: "CLI Audit Logs" Retrieval: FTP Poll
8. "encryption" Type: "Encryption Logs" Retrieval: FTP Poll
9. "error_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
10. "euq_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine Logs" Retrieval: FTP Poll
11. "euogui_logs" Type: "IronPort Spam Quarantine GUI Logs" Retrieval: FTP Poll
12. "ftpd_logs" Type: "FTP Server Logs" Retrieval: FTP Poll
13. "gui_logs" Type: "HTTP Logs" Retrieval: FTP Poll
14. "mail_logs" Type: "IronPort Text Mail Logs" Retrieval: FTP Poll
15. "reportd_logs" Type: "Reporting Logs" Retrieval: FTP Poll
16. "reportqueryd_logs" Type: "Reporting Query Logs" Retrieval: FTP Poll
17. "scanning" Type: "Scanning Logs" Retrieval: FTP Poll
18. "slbld_logs" Type: "Safe/Block Lists Logs" Retrieval: FTP Poll
19. "sntpd_logs" Type: "NTP logs" Retrieval: FTP Poll
20. "status" Type: "Status Logs" Retrieval: FTP Poll
21. "system_logs" Type: "System Logs" Retrieval: FTP Poll
22. "trackerd_logs" Type: "Tracking Logs" Retrieval: FTP Poll
23. "updater_logs" Type: "Updater Logs" Retrieval: FTP Poll
Enter the number of the log you wish to tail.
[]> 19

Press Ctrl-C to stop.
Sat May 15 12:25:10 2008 Info: PID 274: User system commit changes: Automated Update for
Quarantine Delivery Host
Sat May 15 23:18:10 2008 Info: PID 19626: User admin commit changes:
Sat May 15 23:18:10 2008 Info: PID 274: User system commit changes: Updated filter logs
config
Sat May 15 23:46:06 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes: Receiving suspended.
Sat May 15 23:46:06 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes: Suspended receiving.
Sat May 15 23:46:35 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes: Receiving resumed.
Sat May 15 23:46:35 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes: Receiving resumed.
Sat May 15 23:48:17 2008 Info: PID 25696: User admin commit changes:
Sun May 16 00:00:00 2008 Info: Generated report: name b, start time Sun May 16 00:00:00
2004, size 2154 bytes
^Cmail3.example.com>
```

レポート

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- reportingconfig

reportingconfig

reportingconfig コマンドの使用

reportingconfig サブメニューでは、以下のサブコマンドを使用できます。

表 3-13 reportingconfig サブコマンド

構文	説明	アベイラビリティ
filters	セキュリティ管理アプライアンスのフィルタを設定します。	M-Series のみ
alert_timeout	レポート データを取得できなかった場合にアラートを受け取るまでの時間を設定します。	M-Series のみ
domain	ドメイン レポート設定を指定します。	M-Series のみ
mode	セキュリティ管理アプライアンスで中央集中型レポーティングをイネーブルにします。E メール セキュリティアプライアンスの中央集中型またはローカルレポーティングをイネーブルにします。	C-Series、M-Series
mailsetup	E メール セキュリティ アプライアンスのレポーティングを設定します。	C-Series のみ

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

例:レポーティング フィルタのイネーブル化(M-Series のみ)

```
mail3.example.com> reportingconfig

Choose the operation you want to perform:
- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.
[]> filters

Filters remove specific sets of centralized reporting data from the "last year"
reports.Data from the reporting groups selected below will not be recorded.

All filtering has been disabled.

1. No Filtering enabled
2. IP Connection Level Detail.
3. User Detail.
4. Mail Traffic Detail.
Choose which groups to filter, you can specify multiple filters by entering a comma
separated list:
[]> 2, 3
```

```
Choose the operation you want to perform:
- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get
reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.
[]>
```

ドメインレポートの HAT REJECT 情報のイネーブル化(M-Series のみ)

```
mail3.example.com> reportingconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.
[]> domain
```

```
If you have configured HAT REJECT policy on all remote appliances providing reporting data
to this appliance to occur at the message recipient level then of domain reports.
Use message recipient HAT REJECT information for domain reports? [N]> y
```

```
Choose the operation you want to perform:
- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.
[]>
```

タイムアウトアラートのイネーブル化(M-Series のみ)

```
mail3.example.com> reportingconfig
```

```
Choose the operation you want to perform:
- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.
[]> alert_timeout
```

```
An alert will be sent if reporting data has not been fetched from an appliance after 360
minutes.
Would you like timeout alerts to be enabled? [Y]> y
```

```
After how many minutes should an alert be sent?
[360]> 240
```

```
Choose the operation you want to perform:
- FILTERS - Configure filtering for the SMA.
- ALERT_TIMEOUT - Configure when you will be alerted due to failing to get reporting data
- DOMAIN - Configure domain report settings.
- MODE - Enable/disable centralized reporting.
[]>
```

E メールセキュリティ アプライアンスでの中央集中型レポートイングのイネーブル化

```
mail3.example.com> reportingconfig

Choose the operation you want to perform:
- MAILSETUP - Configure reporting for the ESA.
- MODE - Enable centralized or local reporting for the ESA.
[]> mode

Centralized reporting: Local reporting only.

Do you want to enable centralized reporting? [N]> y

Choose the operation you want to perform:
- MAILSETUP - Configure reporting for the ESA.
- MODE - Enable centralized or local reporting for the ESA.
[]>
```

レポートイング データに対する記憶域の制限の設定(C-Series のみ)

```
mail.example.com> reportingconfig

Choose the operation you want to perform:
- MAILSETUP - Configure reporting for the ESA.
- MODE - Enable centralized or local reporting for the ESA.
[]> mailsetup

SenderBase timeout used by the web interface: 5 seconds
Sender Reputation Multiplier: 3
The current level of reporting data recording is: unlimited
No custom second level domains are defined.
Legacy mailflow report: Disabled

Choose the operation you want to perform:
- SENDERBASE - Configure SenderBase timeout for the web interface.
- MULTIPLIER - Configure Sender Reputation Multiplier.
- COUNTERS - Limit counters recorded by the reporting system.
- THROTTLING - Limit unique hosts tracked for rejected connection reporting.
- TLD - Add customer specific domains for reporting rollup.
- STORAGE - How long centralized reporting data will be stored on the C-series before
being overwritten.
- LEGACY - Configure legacy mailflow report.
[]> storage

While in centralized mode the C-series will store reporting data for the M-series to
collect.If the M-series does not collect that data then eventually the C-series will begin
to overwrite the oldest data with new data.
A maximum of 24 hours of reporting data will be stored.
How many hours of reporting data should be stored before data loss?
[24]> 48

SenderBase timeout used by the web interface: 5 seconds
Sender Reputation Multiplier: 3
The current level of reporting data recording is: unlimited
No custom second level domains are defined.
Legacy mailflow report: Disabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
- SENDERBASE - Configure SenderBase timeout for the web interface.
- MULTIPLIER - Configure Sender Reputation Multiplier.
- COUNTERS - Limit counters recorded by the reporting system.
- THROTTLING - Limit unique hosts tracked for rejected connection reporting.
- TLD - Add customer specific domains for reporting rollup.
- STORAGE - How long centralized reporting data will be stored on the C-series
before being overwritten.
- LEGACY - Configure legacy mailflow report.
[]>
```

SenderBase

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [sbstatus](#)
- [senderbaseconfig](#)

sbstatus

説明

SenderBase クエリーのステータスを表示します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> sbstatus

SenderBase host status
Status as of:          Tue Oct 21 10:55:04 2003
Host up/down:         up
```

アプライアンスが SenderBase 評価サービスに接続できない場合、つまりこのサービスへの接続が成功しなかった場合は、次のように表示されます。

```
mail3.example.com> sbstatus

SenderBase host status
Host up/down:         Unknown (never contacted)
```

senderbaseconfig

説明

SenderBase の接続設定を指定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> senderbaseconfig

Share statistics with SenderBase Information Service: Enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure SenderBase Network Participation settings
[]> setup

Do you want to share statistical data with the SenderBase Information Service
(recommended)? [Y]>

Share statistics with SenderBase Information Service: Enabled

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure SenderBase Network Participation settings
[]>
```

SMTP サービスの設定

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [callaheadconfig](#)
- [listenerconfig](#)
- [localeconfig](#)
- [smtpauthconfig](#)

callaheadconfig

説明

SMTP コールアヘッド プロファイルを追加、編集、または削除します

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次に、配信ホストの新しい SMTP コールアヘッド プロファイルを作成する例を示します。

```
> callaheadconfig

No SMTP Call-Ahead profiles are configured on the system.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new profile.
[ ]> new

Select the type of profile you want to create:
1. Delivery Host
2. Static Call-Ahead Servers
[1]> 1

Please enter a name for the profile:
[ ]> delhost01

Advanced Settings:
  MAIL FROM Address: <>
  Interface: Auto
  Timeout Value: 30
  Validation Failure Action: ACCEPT
  Temporary Failure Action: REJECT with same code
  Maximum number of connections: 5
  Maximum number of validation queries: 1000
  Cache size: 10000
  Cache TTL: 900
Do you want to change advanced settings? [N]> n

Currently configured SMTP Call-Ahead profiles:
1. delhost01 (Delivery Host)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.
- DELETE - Delete a profile.
- PRINT - Display profile information.
- TEST - Test profile.
- FLUSHCACHE - Flush SMTP Call-Ahead cache.
[ ]>
```

次に、コールアヘッド サーバの新しい SMTP コールアヘッド プロファイルを作成する例を示します。

```
> callaheadconfig

Currently configured SMTP Call-Ahead profiles:
1. delhost01 (Delivery Host)
```

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.
- DELETE - Delete a profile.
- PRINT - Display profile information.
- TEST - Test profile.
- FLUSHCACHE - Flush SMTP Call-Ahead cache.
[ ]> new

Select the type of profile you want to create:
1. Delivery Host
2. Static Call-Ahead Servers
[1]> 2

Please enter a name for the profile:
[ ]> Static

Enter one or more Call-Ahead servers hostname separated by commas.
[ ]> 192.168.1.2

Advanced Settings:
  MAIL FROM Address: <>
  Interface: Auto
  Timeout Value: 30
  Validation Failure Action: ACCEPT
  Temporary Failure Action: REJECT with same code
  Maximum number of connections: 5
  Maximum number of validation queries: 1000
  Cache size: 10000
  Cache TTL: 900
Do you want to change advanced settings? [N]> n

Currently configured SMTP Call-Ahead profiles:
1. Static (Static Call-Ahead Servers)
2. delhost01 (Delivery Host)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new profile.
- EDIT - Modify a profile.
- DELETE - Delete a profile.
- PRINT - Display profile information.
- TEST - Test profile.
- FLUSHCACHE - Flush SMTP Call-Ahead cache.
[ ]> print

Select the profile you want to print:
1. Static (Static Call-Ahead Servers)
2. delhost01 (Delivery Host)
[1]>

```

listenerconfig

説明

listenerconfig コマンドでは、リスナーを作成、編集、削除できます。AsyncOS では、メッセージを受信し、受信ホストやネットワークの内部またはインターネット上の外部の受信者のいずれかにリレーするための条件を指定する必要があります。

これらの対象となる条件はリスナーで定義されます。これらの条件が一括されてメールフローポリシーが定義され、適用されます。リスナーでは、アプライアンスでEメールを送信するシステムと通信する方法も定義されます。

表 3-14 listenerconfig コマンド

名前	リスナーには、簡単に参照できるように一意の名前を付けてください。リスナー用に定義する名前では、大文字と小文字が区別されます。AsyncOS では、複数のリスナーに同一の名前を付けることはできません。	
IP インターフェイス	リスナーは IP インターフェイスに割り当てられます。リスナーを作成し割り当てる前に、systemstartup コマンドまたは interfaceconfig コマンドを使用して、すべての IP インターフェイスを設定する必要があります。	
メールプロトコル	電子メールの受信に使用されるメールプロトコルであり、ESMTP と QMQP のいずれかです。	
IP ポート	リスナーへの接続に使用する特定の IP ポート。デフォルトでは、SMTP ではポート 25 を使用し、QMQP ではポート 628 を使用します。	
リスナータイプ:	パブリック (Public)	パブリック リスナーおよびプライベート リスナーは、ほとんどの設定に使用されます。一般的に、プライベート リスナーはプライベート (内部) ネットワークに使用されます。パブリック リスナーには、インターネット経由の電子メールの受信のためのデフォルトの特性があります。
	プライベート (Private)	
	ブラックホール	テストまたはトラブルシューティングの目的で、「ブラックホール」リスナーを使用できます。ブラックホール リスナーの作成時に、メッセージを削除する前にそのメッセージをディスクに書き込むかどうかを選択します (詳細については『 <i>User Guide for AsyncOS for Cisco Email Security Appliances</i> 』の「Testing and Troubleshooting」の章を参照してください)。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式:一般的な listenerconfig

listenerconfig コマンドのバッチ形式を使用すると、特定のインターフェイスに対してリスナーを追加および削除できます。listenerconfig コマンドのバッチ形式では、リスナーの HAT および RAT を設定することもできます。

- 新しいリスナーの追加:

```
listenerconfig new <name> <public|private|blackhole|blackholequeueing>
<interface_name> <smtp|qmqp>
```

- リスナーの削除:

```
listenerconfig delete <name>
```

バッチ形式:HAT

次に、listenerconfig のバッチ形式を使用して HAT 関連の各種作業を実行する例を示します。引数の詳細については、表 3-15「listenerconfig 引数値:HAT」(P. 258)を参照してください。を参照してください。

- HAT への新しい送信者グループの追加

```
listenerconfig edit <name> hostaccess new sendergroup <name>
<host_list> <behavior> [options [--comments]
```

- HAT への新しいポリシーの追加

```
listenerconfig edit <name> hostaccess new policy <name> <behavior>
[options]
```

- 送信者グループへの新しいホスト リストの追加

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup
<name> new <host_list>
```

- 送信者グループからのホストの削除

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup
<name> delete <host>
```

- 送信者グループ リストでのホストの移動

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup
<name> move <host> <host-to-insert-before>
```

- 送信者グループのポリシーの変更

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup
<name> policy <behavior> [options]
```

- 送信者グループ リストの出力

```
listenerconfig edit <name> hostaccess edit sendergroup <name> print
```

- 送信者グループ名の変更

```
listenerconfig edit sendergroup <name> hostaccess edit sendergroup  
<name> rename <name>
```

- HAT ポリシーの編集

```
listenerconfig edit <name> hostaccess edit policy <name> <behavior>  
[options]
```

- HAT からの送信者グループの削除

```
listenerconfig edit <name> hostaccess delete sendergroup <name>
```

- ポリシーの削除

```
listenerconfig edit <name> hostaccess delete policy <name>
```

- HAT での送信者グループの移動

```
listenerconfig edit <name> hostaccess move <group>  
<group-to-insert-before>
```

- HAT デフォルト オプションの変更

```
listenerconfig edit <name> hostaccess default [options]
```

- ホスト アクセス テーブルの出力

```
listenerconfig edit <name> hostaccess print
```

- HAT のローカル コピーのインポート

```
listenerconfig edit <name> hostaccess import <filename>
```

- アプライアンスからの HAT のコピーのエクスポート

```
listenerconfig edit <name> hostaccess export <filename>
```

- HAT からユーザ定義のすべての送信者グループおよびポリシーを削除

```
listenerconfig edit <name> hostaccess clear
```

表 3-15 listenerconfig 引数値:HAT

引数	説明
<behavior>	“Accept”、“Relay”、“Reject”、“TCP Refuse”、または“Continue”。送信者グループで使用する動作を選択するときは、“Policy: FOO” (“FOO” はポリシー名) という形式で追加の動作も選択できます。
<filename>	ホスト アクセス テーブルのインポートおよびエクスポートで使用するファイル名。
<group>	送信者グループの <name>。
<host>	<host_list> の 1 つのエンティティ。
<host_list>	追加するホストを入力します。ホストは次のようなフォーマットにできます。 CIDR アドレス (10.1.1.0/24) IP アドレス範囲 (10.1.1.10 ~ 20) IP サブネット (10.2.3) ホスト名 (crm.example.com) 部分ホスト名 (.example.com) SenderBase 評価スコア範囲 (7.5:10.0) SenderBase ネットワーク オーナー IDS (SBO:12345) リモート ブラックリスト クエリー (dnslist[query.blacklist.example]) (注) 複数のホストを指定する場合は、カンマで区切ります。
<name>	送信者グループまたはポリシーの名前。HAT ラベルは、文字または下線で開始する必要がある、その後に任意の数の文字、数字、下線、またはハイフンを追加します。

表 3-15 listenerconfig 引数値:HAT(続き)

	--max_size	最大メッセージサイズ。最後に、単位がキロバイトの場合は k、メガバイトの場合は M を追加します。単位がバイトの場合、末尾の文字は不要です。
	--max_conn	1つのホストから確立できる接続の最大数。
	--max_msgs	接続あたりの最大メッセージ数。
	--max_rcpt	メッセージあたりの最大受信者数。
	--override	SMTP バナーのホスト名を上書きします。“No”または SMTP バナー文字列。
	--cust_acc	カスタム SMTP 受け入れ応答を指定します。“No”または SMTP 受け入れ応答文字列。
	--acc_code	カスタム SMTP 受け入れ応答コード。デフォルトは 220 です。
	--cust_rej	カスタム SMTP 拒否応答を指定します。“No”または SMTP 拒否応答文字列。
	--rej_code	カスタム SMTP 拒否応答コード。デフォルトは 554 です。
	--rate_lim	ホスト単位のレート制限をイネーブルにします。“No”、“default”、またはホストごとの受信者の1時間あたり最大数を指定します。
	--cust_lim	カスタム SMTP 制限超過応答メッセージを指定します。“No”または SMTP 拒否応答文字列。デフォルトは “No” です。
	--lim_code	カスタム SMTP 制限超過応答コード。デフォルトは 452 です。
	--use_sb	デフォルトでフロー制御に SenderBase を使用します。“Yes”、“No”、または “default”。
	--as_scan	anti-spam スキャンをイネーブルにします。“Yes”、“No”、“Default”。
	--av_scan	アンチウイルス スキャンをイネーブルにします。“Yes”、“No”、“Default”。
[options]		
	--dhap	ディレクトリ ハーベスト攻撃防止 “No”、“default”、またはリモート ホストからの無効な受信者の1時間あたり最大数を指定します。
	--tls	サポートされていません。TLS を設定するには、メニュー システムを使用します。
	--sig_bits	IP アドレスの有意ビット数。0~32、“No”、または “default”。
	--dkim_signing	DKIM 署名をイネーブルにします。“Yes”、“No”、“Default”。
	--dkim_verification	DKIM 検証をイネーブルにします。“Yes”、“No”、“Default”。

表 3-15 listenerconfig 引数値:HAT(続き)

--dkim_verification_profile <name>	DKIM 検証プロファイルの名前。このオプションは、--dkim_verification の値を “Yes” に設定した場合にのみ適用されます。
--spf	SPF 検証をイネーブルにします。“Yes”、“No”、“Default”。
--spf_conf_level	SPF 適合レベル。“--spf Yes” の場合にのみ使用します。“spf_only”、“sidf_compatible”、“sidf_strict”。
--spf_downgrade_pra	SPF PRA 検証結果をダウングレードします。“--spf Yes” および “--spf_conf_level sidf_compatible” の場合にのみ使用します。“Yes”、“No。”
--spf_helo_test	SPF HELO テスト。“--spf Yes” および “--spf_conf_level sidf_compatible,” または “--spf_conf_level spf_only” の場合に使用します。“Yes”、“No”。
--dmarc_verification	DMARC 検証をイネーブルにします。“Yes”、“No”、“Default”。
--dmarc_verification_profile <name>	DMARC 検証プロファイルの名前。このオプションは、--dmarc_verification の値を “Yes” に設定した場合にのみ適用されます。
--dmarc_agg_reports	DMARC 集計レポートの有効化。“Yes”、“No”、“Default”。このオプションは、--dmarc_verification の値を “Yes” に設定した場合にのみ適用されます。

バッチ形式:RAT

次に、listenerconfig のバッチ形式を使用して RAT 関連の各種作業を実行する例を示します。引数の詳細については、表 3-16「listenerconfig 引数値:RAT」(P. 261)を参照してください。を参照してください。

- RAT への新しい受信者の追加

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess new <rat_addr> [options]
```

- RAT 内の受信者の編集

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess edit <rat_addr> [options]
```

- RAT からの受信者の削除

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess delete <rat_addr>
```

- RAT のコピーの出力

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess print
```

- ローカル RAT のアプライアンスへのインポート

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess import <filename>
```

- RAT のエクスポート

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess export <filename>
```

- デフォルト アクセスのクリア

```
listenerconfig edit <name> rcptaccess clear <default_access>
```

表 3-16 *listenerconfig* 引数値:RAT

引数	説明
<rat_addr>	追加するホストを入力します。ホストは次のようなフォーマットにできます。 CIDR アドレス (10.1.1.0/24) ホスト名 (crm.example.com) 部分ホスト名 (.example.com) ユーザ名 (postmaster@) 完全な電子メール アドレス (joe@example.com, joe@[1.2.3.4]) (注) 複数のホストを指定する場合は、カンマで区切ります。
<options>	
--action	アドレスに適用するアクション。“Accept” または “Reject” のどちらか。デフォルトは “Accept” です。
--cust_resp	カスタム SMTP 応答を指定します。“No” または SMTP 受け入れ応答文字列。
--resp_code	カスタム SMTP 応答コード。“Accept” の場合は 250 がデフォルト、“Reject” の場合は 550 がデフォルトです。
--bypass_rc	受信制御をバイパスします。デフォルトは “No” です。
--bypass_la	LDAP 承認クエリーをバイパスします。“Yes” または “No” のどちらか。

例:リスナーの追加

次の例では、`listenerconfig` コマンドを使用して、エンタープライズ ゲートウェイ構成に必要な B リスナーに使用できる、`OutboundMail` と呼ばれる新しいプライベート リスナーを作成します。(注:このプライベート リスナーは、GUI の `System Setup Wizard` または CLI の `systemsetup` コマンドを実行するときに追加することもできます)。

プライベート リスナー タイプを選択し、名前を `OutboundMail` に設定します。このリスナーは、`PrivateNet IP` インターフェイス上でポート 25 の SMTP プロトコルを使用して動作するように指定します。このリスナーのホスト アクセス ポリシーのデフォルト値が受け入れられます。

```
mail3.example.com> listenerconfig
Currently configured listeners:
1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP TCP Port 25 Public

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.
[1]> new

Please select the type of listener you want to create.
1. Private
2. Public
3. Blackhole
[2]> 1

Please create a name for this listener (Ex: "OutboundMail"):
[1]> OutboundMail

Please choose an IP interface for this Listener.
1. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
2. PrivateNet (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
3. PublicNet (192.168.2.1/24: mail3.example.com)
[1]> 2

Choose a protocol.
1. SMTP
2. QMQP
[1]> 1

Please enter the TCP port for this listener.
[25]> 25

Please specify the systems allowed to relay email through the IronPort C60.
Hostnames such as "example.com" are allowed.
Partial hostnames such as ".example.com" are allowed.
IP addresses, IP address ranges, and partial IP addresses are allowed.
Separate multiple entries with commas.
[1]> .example.com

Do you want to enable rate limiting for this listener?(Rate limiting defines the maximum
number of recipients per hour you are willing to receive from a remote domain.) [N]> n

Default Policy Parameters
=====
Maximum Message Size: 100M
Maximum Number Of Connections From A Single IP: 600
Maximum Number Of Messages Per Connection: 10,000
Maximum Number Of Recipients Per Message: 100,000
Maximum Number Of Recipients Per Hour: Disabled
Use SenderBase for Flow Control: No
```

```

Spam Detection Enabled: No
Virus Detection Enabled: Yes
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
Would you like to change the default host access policy? [N]> n

Listener OutboundMail created.
Defaults have been set for a Private listener.
Use the listenerconfig->EDIT command to customize the listener.

Currently configured listeners:
1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP TCP Port 25 Private

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.
[]>

```

例: エクスポートおよびインポートによるリスナーのホスト アクセス テーブル(HAT)のカスタマイズ

listenerconfig コマンドのサブコマンドの多くでは、データのインポートとエクスポートによって大規模な設定変更ができるため、CLI にデータを少しずつ入力する必要がありません。この手順では、CLI を使用して、ファイルをエクスポートし、変更を加えてインポートすることにより、リスナーのホスト アクセス テーブル(HAT)を変更します。HAT CLI エディタまたは GUI を使用してリスナーの HAT をカスタマイズすることもできます。詳細については、『*User Guide for AsyncOS for Cisco Email Security Appliances*』の「Configuring the Gateway to Receive Mail」と「Using Mail Flow Monitor」の章を参照してください。

エクスポートとインポートによって定義した、リスナーの HAT をカスタマイズするには:

ステップ 1 listenerconfig の hostaccess -> export サブコマンドを使用して、デフォルトの HAT をファイルにエクスポートします。

次の例では、パブリック リスナー InboundMail の HAT を出力し、さらに inbound.HAT.txt というファイルにエクスポートします。

```

mail3.example.com> listenerconfig

Currently configured listeners:
1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP TCP Port 25 Private

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.
[]> edit

Enter the name or number of the listener you wish to edit.
[]> 1
Name: InboundMail
Type: Public

```

```

Interface: PublicNet (192.168.2.1/24) TCP Port 25
Protocol: SMTP
Default Domain:
Max Concurrency: 1000 (TCP Queue: 50)
Domain map: disabled
TLS: No
SMTP Authentication: Disabled
Bounce Profile: Default
Use SenderBase For Reputation Filters and IP Profiling: Yes
Footer: None
LDAP: off

```

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.

[> **hostaccess**

Default Policy Parameters

=====

```

Maximum Message Size: 10M
Maximum Number Of Concurrent Connections From A Single IP: 10
Maximum Number Of Messages Per Connection: 10
Maximum Number Of Recipients Per Message: 50
Directory Harvest Attack Prevention: Enabled
Maximum Number Of Invalid Recipients Per Hour: 25
Maximum Number Of Recipients Per Hour: Disabled
Use SenderBase for Flow Control: Yes
Spam Detection Enabled: Yes
Virus Detection Enabled: Yes
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
DKIM/DomainKeys Signing Enabled: No
DKIM Verification Enabled: No
SPF/SIDF Verification Enabled: No
DMARC Verification Enabled: No
Envelope Sender DNS Verification Enabled: No
Domain Exception Table Enabled: No
Accept untagged bounces: No

```

There are currently 4 policies defined.

There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.

[> **print**

```

$BLOCKED
  REJECT {}

```

```

$TRUSTED
  ACCEPT {
    tls = "off"
    dhap_limit = 0
    max_rcpts_per_hour = -1
    virus_check = "on"
    max_msgs_per_session = 5000
    spam_check = "off"
    use_sb = "off"
    max_message_size = 104857600
    max_rcpts_per_msg = 5000
    max_concurrency = 600
  }
$ACCEPTED
  ACCEPT {}
$THROTTLED
  ACCEPT {
    tls = "off"
    dhap_limit = 0
    max_rcpts_per_hour = 1
    virus_check = "on"
    max_msgs_per_session = 10
    spam_check = "on"
    use_sb = "on"
    max_message_size = 1048576
    max_rcpts_per_msg = 25
    max_concurrency = 10
  }
WHITELIST:
  $TRUSTED (My trusted senders have no anti-spam or rate limiting)

BLACKLIST:
  $BLOCKED (Spammers are rejected)

SUSPECTLIST:
  $THROTTLED (Suspicious senders are throttled)

UNKNOWNLIST:
  $ACCEPTED (Reviewed but undecided, continue normal acceptance)

ALL
  $ACCEPTED (Everyone else)

Default Policy Parameters
=====
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
Maximum Concurrency Per IP: 1,000
Maximum Message Size: 100M
Maximum Messages Per Connection: 1,000
Maximum Recipients Per Message: 1,000
Maximum Recipients Per Hour: Disabled
Use SenderBase For Flow Control: Yes
Spam Detection Enabled: Yes
Virus Detection Enabled: Yes

There are currently 4 policies defined.
There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.

```

```
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.
```

```
[> export
```

```
Enter a name for the exported file:
```

```
[> inbound.HAT.txt
```

```
File written on machine "mail3.example.com".
```

ステップ 2 コマンドライン インターフェイス (CLI) の外部で、ファイル `inbound.HAT.txt` を取得します。

ステップ 3 テキスト エディタを使用して、このファイルに新しい HAT エントリを作成します。

この例では、HAT 内の ALL エントリの上に以下のエントリを追加します。

```
spamdomain.com REJECT
.spamdomain.com REJECT
251.192.1.TCPREFUSE
169.254.10.10 RELAY
```

- 最初の 2 つのエントリは、ドメイン `spamdomain.com` および `spamdomain.com` のサブドメイン内のリモート ホストからの接続をすべて拒否します。
- 3 目目のエントリは、IP アドレスが `251.192.1.x` であるホストからの接続を拒否します。
- 4 目目のエントリによって、IP アドレスが `169.254.10.10` であるリモート ホストは、インターネットへのすべての発信電子メールについて E メール セキュリティ アプライアンスを SMTP リレーとして使用できます。



(注) HAT 内でのルール の順序は重要な意味を持ちます。リスナーに接続しようとするホストごとに、HAT は上から下へ順番に読み込まれます。接続元ホストにルールが一致する場合、その接続に対してすぐにアクションが実行されます。HAT では、すべてのカスタム エントリを ALL ホスト定義より上に配置する必要があります。HAT CLI エディタまたは GUI を使用してリスナーの HAT をカスタマイズすることもできます。詳細については、『*User Guide for AsyncOS for Cisco Email Security Appliances*』の「Configuring the Gateway to Receive Mail」と「Using Mail Flow Monitor」の章を参照してください。

ステップ 4 ファイルを保存してインターフェイスの `configuration` ディレクトリに配置し、インポートできるようにします。(詳細については、付録 B「Accessing the Appliance」を参照してください)。

ステップ 5 `listenerconfig` の `hostaccess -> import` サブコマンドを使用して、編集済みのホスト アクセス テーブル ファイルをインポートします。

次の例では、編集済みのファイル `inbound.HAT.txt` を InboundMail リスナーの HAT にインポートします。`print` サブコマンドを使用して新しいエントリを出力します。

```
mail3.example.com> listenerconfig
```

```
Currently configured listeners:
```

```
1. InboundMail (on PublicNet, 192.168.2.1) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutboundMail (on PrivateNet, 192.168.1.1) SMTP TCP Port 25 Private
```

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.
[]> edit

Enter the name or number of the listener you wish to edit.
[]> 1

Name: InboundMail
Type: Public
Interface: PublicNet (192.168.2.1/24) TCP Port 25
Protocol: SMTP
Default Domain:
Max Concurrency: 1000 (TCP Queue: 50)
Domain Map: Disabled
TLS: No
SMTP Authentication: Disabled
Bounce Profile: Default
Use SenderBase For Reputation Filters and IP Profiling: Yes
Footer: None
LDAP: Off

Choose the operation you want to perform:
- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.
[]> hostaccess

Default Policy Parameters
=====
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
Maximum Concurrency Per IP: 1,000
Maximum Message Size: 100M
Maximum Messages Per Connection: 1,000
Maximum Recipients Per Message: 1,000
Maximum Recipients Per Hour: Disabled
Use SenderBase For Flow Control: Yes
Spam Detection Enabled: Yes
Virus Detection Enabled: Yes

There are currently 4 policies defined.
There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.
[]> import
```

```

Enter the name of the file to import:
[> inbound.HAT.txt

9 entries imported successfully.

Default Policy Parameters
=====
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
Maximum Concurrency Per IP: 1,000
Maximum Message Size: 100M
Maximum Messages Per Connection: 1,000
Maximum Recipients Per Message: 1,000
Maximum Recipients Per Hour: Disabled
Use SenderBase For Flow Control: Yes
Spam Detection Enabled: Yes
Virus Detection Enabled: Yes

There are currently 4 policies defined.
There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.
[> print

$ACCEPTED
  ACCEPT
$THROTTLED
  ACCEPT {
    spam_check = "on"
    max_msgs_per_session = 10
    max_concurrency = 10
    max_rcpts_per_msg = 25
    max_rcpts_per_hour = 1
    dhap_limit = 0
    virus_check = "on"
    max_message_size = 1048576
    use_sb = "on"
    tls = "off"
  }
$TRUSTED
  ACCEPT {
    spam_check = "off"
    max_msgs_per_session = 5000
    max_concurrency = 600
    max_rcpts_per_msg = 5000
    max_rcpts_per_hour = -1
    dhap_limit = 0
    virus_check = "on"
    max_message_size = 104857600
    use_sb = "off"
    tls = "off"
  }
$BLOCKED
  REJECT

```

```

WHITELIST:
    $TRUSTED (My trusted senders have no anti-spam scanning or rate limiting)

BLACKLIST:
    $BLOCKED (Spammers are rejected)

SUSPECTLIST:
    $THROTTLED (Suspicious senders are throttled)

UNKNOWNLIST:
    $ACCEPTED (Reviewed but undecided, continue normal acceptance)

spamdomain.com
    REJECT (reject the domain "spamdomain.com")

.spamdomain.com
    REJECT (reject all subdomains of ".spamdomain.com")

251.192.1.
    TCPREFUSE (TCPREFUSE the IP addresses in "251.192.1")

169.254.10.10
    RELAY (RELAY the address 169.254.10.10)

ALL
    $ACCEPTED (Everyone else)

Default Policy Parameters
=====
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
Maximum Concurrency Per IP: 1,000
Maximum Message Size: 100M
Maximum Messages Per Connection: 1,000
Maximum Recipients Per Message: 1,000
Maximum Recipients Per Hour: Disabled
Use SenderBase For Flow Control: Yes
Spam Detection Enabled: Yes
Virus Detection Enabled: Yes

There are currently 4 policies defined.
There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.
[ ]>

```

インポート後には、設定変更を有効にするために、必ず `commit` コマンドを発行します。

例:公開キーのハーベストおよび S/MIME の復号化と検証のイネーブル化

次の例は、下記のことを行う方法を示します。

- 着信 S/MIME 署名済みメッセージから公開キーを取得(ハーベスト)します。
- S/MIME の復号化と検証をイネーブルにします。

```
mail.example.com> listenerconfig
```

```
Currently configured listeners:
```

```
1. MyListener (on Management, 172.29.181.70) SMTP TCP Port 25 Public
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.
[]> edit
```

```
Enter the name or number of the listener you wish to edit.
```

```
[]> 1
```

```
Name: MyListener
```

```
Type: Public
```

```
Interface: Management (172.29.181.70/24) TCP Port 25
```

```
Protocol: SMTP
```

```
Default Domain: <none configured>
```

```
Max Concurrent Connections: 50 (TCP Queue: 50)
```

```
Domain Map: Disabled
```

```
TLS: No
```

```
SMTP Authentication: Disabled
```

```
Bounce Profile: Default
```

```
Use SenderBase For Reputation Filters and IP Profiling: Yes
```

```
Footer: None
```

```
Heading: None
```

```
SMTP Call-Ahead: Disabled
```

```
LDAP: Off
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

```
- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- CERTIFICATE - Choose the certificate.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.
```

```
[]> hostaccess
```

```
Default Policy Parameters
```

```
=====
```

```
Maximum Message Size: 10M
```

```
Maximum Number Of Concurrent Connections From A Single IP: 10
```

```
Maximum Number Of Messages Per Connection: 10
```

```
Maximum Number Of Recipients Per Message: 50
```

```
Directory Harvest Attack Prevention: Enabled
```

```
Maximum Number Of Invalid Recipients Per Hour: 25
```

```
Maximum Number Of Recipients Per Hour: Disabled
```

```
Maximum Number of Recipients per Envelope Sender: Disabled
```

```
Use SenderBase for Flow Control: Yes
```

```
Spam Detection Enabled: Yes
```

```
Virus Detection Enabled: Yes
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
DKIM/DomainKeys Signing Enabled: No
DKIM Verification Enabled: No
S/MIME Public Key Harvesting Enabled: No
S/MIME Decryption/Verification Enabled: No
SPF/SIDF Verification Enabled: No
DMARC Verification Enabled: No
Envelope Sender DNS Verification Enabled: No
Domain Exception Table Enabled: No
Accept untagged bounces: No
```

```
There are currently 4 policies defined.
There are currently 5 sender groups.
```

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- RESET - Remove senders and set policies to system default.
[ ]> default
```

```
Enter the default maximum message size.Add a trailing k for kilobytes, M for megabytes, or
no letter for b
[10M]>
```

```
Enter the maximum number of concurrent connections allowed from a single IP address.
[10]>
```

```
Enter the maximum number of messages per connection.
[10]>
```

```
Enter the maximum number of recipients per message.
[50]>
```

```
Do you want to override the hostname in the SMTP banner? [N]>
```

```
Would you like to specify a custom SMTP acceptance response? [N]>
```

```
Would you like to specify a custom SMTP rejection response? [N]>
```

```
Do you want to enable rate limiting per host? [N]>
```

```
Do you want to enable rate limiting per envelope sender? [N]>
```

```
Do you want to enable Directory Harvest Attack Prevention per host? [Y]>
```

```
Enter the maximum number of invalid recipients per hour from a remote host.
[25]>
```

```
Select an action to apply when a recipient is rejected due to DHAP:
1. Drop
2. Code
[1]>
```

```
Would you like to specify a custom SMTP DHAP response? [Y]>
```

```

Enter the SMTP code to use in the response.550 is the standard code.
[550]>

Enter your custom SMTP response.Press Enter on a blank line to finish.
custom_response

Would you like to use SenderBase for flow control by default? [Y]>

Would you like to enable anti-spam scanning? [Y]>

Would you like to enable anti-virus scanning? [Y]>

Do you want to allow encrypted TLS connections?
1. No
2. Preferred
3. Required
4. Preferred - Verify
5. Required - Verify
[1]>

Would you like to enable DKIM/DomainKeys signing? [N]>

Would you like to enable DKIM verification? [N]>

Would you like to enable S/MIME Public Key Harvesting? [N]> y

Would you like to harvest certificate on verification failure? [N]>

Would you like to harvest updated certificate? [Y]>

Would you like to enable S/MIME gateway decryption/verification? [N]> y

Select the appropriate operation for the S/MIME signature processing:
1. Preserve
2. Remove
[1]>

Would you like to change SPF/SIDF settings? [N]>

Would you like to enable DMARC verification? [N]>

Would you like to enable envelope sender verification? [N]>

Would you like to enable use of the domain exception table? [N]>

Do you wish to accept untagged bounces? [N]>

Default Policy Parameters
=====
Maximum Message Size: 10M
Maximum Number Of Concurrent Connections From A Single IP: 10
Maximum Number Of Messages Per Connection: 10
Maximum Number Of Recipients Per Message: 50
Directory Harvest Attack Prevention: Enabled
Maximum Number Of Invalid Recipients Per Hour: 25
Maximum Number Of Recipients Per Hour: Disabled
Maximum Number of Recipients per Envelope Sender: Disabled
Use SenderBase for Flow Control: Yes
Spam Detection Enabled: Yes
Virus Detection Enabled: Yes
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
DKIM/DomainKeys Signing Enabled: No

```

```

DKIM Verification Enabled: No
S/MIME Public Key Harvesting Enabled: Yes
S/MIME Decryption/Verification Enabled: Yes
SPF/SIDF Verification Enabled: No
DMARC Verification Enabled: No
Envelope Sender DNS Verification Enabled: No
Domain Exception Table Enabled: No
Accept untagged bounces: No

There are currently 4 policies defined.
There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- RESET - Remove senders and set policies to system default.
[]>

```

例: HATの詳細パラメータ

表 3-17 では、HAT の詳細パラメータの構文を定義しています。次の値は数値であり、後に **k** を追加してキロバイトで表すか、後に **M** を追加してメガバイトで表すことができます。文字のない値はバイトと見なされます。アスタリスクが付いたパラメータは、表 3-17 に示す変数構文をサポートしています。

表 3-17 HAT 詳細パラメータの構文

パラメータ	構文	値	値の例
接続あたりの最大メッセージ数	max_msgs_per_session	数値	1000
メッセージあたりの最大受信者数	max_rcpts_per_msg	数値	10000 1k
最大メッセージ サイズ	max_message_size	数値	1048576 20M
このリスナーに許可された最大同時接続数	max_concurrency	数値	1000
SMTP バナー コード	smtp_banner_code	数値	220
SMTP バナー テキスト (*)	smtp_banner_text	文字列	Accepted
SMTP 拒否バナー コード	smtp_banner_code	数値	550
SMTP 拒否バナー テキスト (*)	smtp_banner_text	文字列	Rejected
SMTP バナーホスト名を上書き	use_override_hostname	on off default	default
	override_hostname	文字列	newhostname

表 3-17 HAT 詳細パラメータの構文(続き)

パラメータ	構文	値	値の例
TLS を使用	tls	on off required	on
anti-spam スキャンの使用	spam_check	on off	off
Sophos ウイルス スキャンの使用	virus_check	on off	off
1 時間あたりの最大受信者数	max_rcpts_per_hour	数値	5k
1 時間あたりのエラーコードの最大受信者数	max_rcpts_per_hour_code	数値	452
1 時間あたりのテキストの最大受信者数(*)	max_rcpts_per_hour_text	文字列	Too many recipients
SenderBase の使用	use_sb	on off	on
SenderBase レピュテーション スコアの定義	sbrs[value1:value2]	-10.0- 10.0	sbrs[-10:-7.5]
ディレクトリ獲得攻撃防止:1 時間あたりの最大無効受信大数	dhap_limit	数値	150

例:SPF および SIDF の設定

リスナーのホスト アクセス テーブルのデフォルトの設定をする場合、リスナーの SPF/SIDF 準拠レベルと、アプライアンスが SPF/SIDF 検証結果に基づいて実行する SMTP アクション (ACCEPT または REJECT) を選択できます。アプライアンスがメッセージを拒否する場合に送信する SMTP 応答を定義することもできます。

準拠レベルに応じて、アプライアンスは HELO ID、MAIL FROM ID、または PRA ID に対してチェックを実行します。アプライアンスが、次の各 ID チェックの各 SPF/SIDF 検証結果に対し、セッションを続行する (ACCEPT) か、セッションを終了する (REJECT) かを指定できます。

- [None]。情報の不足のため、検証を実行できません。
- [Neutral]。ドメイン所有者は、クライアントに指定された ID を使用する権限があるかどうかをアサートしません。
- [SoftFail]。ドメイン所有者は、ホストが指定された ID を使用する権限がないと思うが、断言を避けたいと考えています。
- [Fail]。クライアントは、指定された ID でメールを送信する権限がありません。
- [TempError]。検証中に一時的なエラーが発生しました。
- [PermError]。検証中に永続的なエラーが発生しました。

アプライアンスは、メッセージに **Resent-Sender:** または **Resent-From:** ヘッダーが存在する場合に、**PRA ID** の **Pass** 結果を **None** にダウングレードするように **SIDF** 互換準拠レベルを設定していない限り、**Pass** 結果のメッセージを受け入れます。アプライアンスは **PRA** チェックで **None** が返された場合に指定された **SMTP** アクションを実行します。

ID チェックに対して **SMTP** アクションを定義していない場合、アプライアンスは **Fail** を含むすべての検証結果を自動的に受け入れます。

イネーブルにされたいずれかの **ID** チェックの **ID** 検証結果が **REJECT** アクションに一致する場合、アプライアンスはセッションを終了します。たとえば、管理者は、すべての **HELO ID** チェック結果に基づいてメッセージを受け入れるようにリスナーを設定しますが、**MAIL FROM ID** チェックからの **Fail** 結果に対してはメッセージを拒否するようにリスナーを設定するとします。メッセージが **HELO ID** チェックに失敗しても、アプライアンスはその結果を受け入れるため、セッションが続行します。次に、メッセージが **MAIL FROM ID** チェックで失敗した場合、リスナーはセッションを終了し、**REJECT** アクションの **SMTP** 応答を返します。

SMTP 応答は、アプライアンスが **SPF/SIDF** 検証結果に基づいてメッセージを拒否する場合に返すコード番号とメッセージです。**TempError** 結果は、他の検証結果と異なる **SMTP** 応答を返します。**TempError** の場合、デフォルトの応答コードは **451** で、デフォルトのメッセージテキストは「#4.4.3 Temporary error occurred during SPF verification」です。他のすべての検証結果では、デフォルトの応答コードは **550** で、デフォルトのメッセージテキストは「#5.7.1 SPF unauthorized mail is prohibited」です。**TempError** や他の検証結果に独自の応答コードとメッセージテキストを指定できます。

任意で、**Neutral**、**SoftFail**、または **Fail** 検証結果に対して **REJECT** アクションが実行された場合に、**SPF** パブリッシュドメインから、サードパーティの応答を返すように、アプライアンスを設定することができます。デフォルトで、アプライアンスは次の応答を返します。

```
550-#5.7.1 SPF unauthorized mail is prohibited.
550-The domain example.com explains:
550 <Response text from SPF domain publisher>
```

これらの **SPF/SIDF** 設定をイネーブルにするには、`listenerconfig -> edit` サブコマンドを使用し、リスナーを選択します。次に、`hostaccess -> default` サブコマンドを使用して、ホストアクセステーブルのデフォルトの設定を編集します。次のプロンプトに **yes** と答えて、**SPF** 制御を設定します。

```
Would you like to change SPF/SIDF settings? [N]> yes
```

```
Would you like to perform SPF/SIDF Verification? [Y]> yes
```

ホスト アクセス テーブルでは、次の SPF 制御設定を使用できます。

表 3-18 SPF 制御設定

準拠レベル	使用可能な SPF 制御設定
SPF のみ (SPF Only)	<ul style="list-style-type: none"> • HELO ID チェックを実行するかどうか • 次の ID チェックの結果に基づいて実行される SMTP アクション • HELO ID (イネーブルの場合) • MAIL FROM ID • REJECT アクションに対して返される SMTP 応答コードとテキスト • 秒単位の検証タイムアウト
SIDF 互換 (SIDF Compatible)	<ul style="list-style-type: none"> • HELO ID チェックを実行するかどうか • メッセージに Resent-Sender: または Resent-From: ヘッダーが存在する場合に、検証で PRA ID の Pass 結果を None にダウングレードするかどうか • 次の ID チェックの結果に基づいて実行される SMTP アクション • HELO ID (イネーブルの場合) • MAIL FROM ID • PRA Identity • REJECT アクションに対して返される SMTP 応答コードとテキスト • 秒単位の検証タイムアウト
SIDF 厳格 (SIDF Strict)	<ul style="list-style-type: none"> • 次の ID チェックの結果に基づいて実行される SMTP アクション • MAIL FROM ID • PRA Identity • SPF REJECT アクションの場合に返される SMTP 応答コードとテキスト • 秒単位の検証タイムアウト

次に、ユーザが SPF Only 準拠レベルを使用して、SPF/SIDF 検証を設定する例を示します。アプライアンスは HELO ID チェックを実行し、None および Neutral 検証結果を受け入れ、その他の結果を拒否します。SMTP アクションの CLI プロンプトはすべての ID タイプで同じです。ユーザは MAIL FROM ID の SMTP アクションを定義しません。アプライアンスは、その ID のすべての検証結果を自動的に受け入れます。アプライアンスはすべての REJECT 結果に対して、デフォルトの拒否コードとテキストを使用します。

例:SPF/SIDF 設定

```
Would you like to change SPF/SIDF settings? [N]> yes

Would you like to perform SPF/SIDF Verification? [N]> yes

What Conformance Level would you like to use?
1. SPF only
2. SIDF compatible
3. SIDF strict
[2]> 1

Would you like to have the HELO check performed? [Y]> y

Would you like to change SMTP actions taken as result of the SPF verification? [N]> y

Would you like to change SMTP actions taken for the HELO identity? [N]> y

What SMTP action should be taken if HELO check returns None?
1. Accept
2. Reject
[1]> 1

What SMTP action should be taken if HELO check returns Neutral?
1. Accept
2. Reject
[1]> 1

What SMTP action should be taken if HELO check returns SoftFail?
1. Accept
2. Reject
[1]> 2

What SMTP action should be taken if HELO check returns Fail?
1. Accept
2. Reject
[1]> 2

What SMTP action should be taken if HELO check returns TempError?
1. Accept
2. Reject
[1]> 2

What SMTP action should be taken if HELO check returns PermError?
1. Accept
2. Reject
[1]> 2

Would you like to change SMTP actions taken for the MAIL FROM identity? [N]> n

Would you like to change SMTP response settings for the REJECT action? [N]> n

Verification timeout (seconds)
[40]>
```

次に、リスナーのデフォルトのポリシーパラメータに SPF/SIDF 設定がどのように表示されるかを示します。

例:デフォルト ポリシー パラメータの SPF/SIDF

```
SPF/SIDF Verification Enabled: Yes
Conformance Level: SPF only
Do HELO test: Yes
SMTP actions:
  For HELO Identity:
    None, Neutral: Accept
    SoftFail, Fail, TempError, PermError: Reject
  For MAIL FROM Identity: Accept
SMTP Response Settings:
  Reject code: 550
  Reject text: #5.7.1 SPF unauthorized mail is prohibited.
  Get reject response text from publisher: Yes
  Defer code: 451
  Defer text: #4.4.3 Temporary error occurred during SPF verification.
Verification timeout: 40
```

例:DMARC 検証の有効化

次に、DMARC 検証を有効にする例を示します。

```
mail.example.com> listenerconfig
```

```
Currently configured listeners:
```

```
1. Listener 1 (on Management, 172.29.181.70) SMTP TCP Port 25 Public
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.

```
[> edit
```

```
Enter the name or number of the listener you wish to edit.
```

```
[> 1
```

```
Name: Listener 1
```

```
Type: Public
```

```
Interface: Management (172.29.181.70/24) TCP Port 25
```

```
Protocol: SMTP
```

```
Default Domain: <none configured>
```

```
Max Concurrent Connections: 300 (TCP Queue: 50)
```

```
Domain Map: Disabled
```

```
TLS: No
```

```
SMTP Authentication: Disabled
```

```
Bounce Profile: Default
```

```
Use SenderBase For Reputation Filters and IP Profiling: Yes
```

```
Footer: None
```

```
Heading: None
```

```
SMTP Call-Ahead: Disabled
```

```
LDAP: Off
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- CERTIFICATE - Choose the certificate.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.

```
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.
[]> hostaccess
```

```
Default Policy Parameters
=====
Maximum Message Size: 20M
Maximum Number Of Concurrent Connections From A Single IP: 10
Maximum Number Of Messages Per Connection: 10
Maximum Number Of Recipients Per Message: 50
Directory Harvest Attack Prevention: Enabled
Maximum Number Of Invalid Recipients Per Hour: 25
Maximum Number Of Recipients Per Hour: Disabled
Maximum Number of Recipients per Envelope Sender: Disabled
Use SenderBase for Flow Control: Yes
Spam Detection Enabled: Yes
Virus Detection Enabled: Yes
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
DKIM/DomainKeys Signing Enabled: No
DKIM Verification Enabled: No
SPF/SIDF Verification Enabled: No
DMARC Verification Enabled: No
Envelope Sender DNS Verification Enabled: No
Domain Exception Table Enabled: No
Accept untagged bounces: No
```

```
There are currently 4 policies defined.
There are currently 5 sender groups.
```

```
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- RESET - Remove senders and set policies to system default.
[]> default
```

```
Enter the default maximum message size. Add a trailing k for kilobytes, M for megabytes, or
no letter for bytes.
```

```
[20M]>
```

```
Enter the maximum number of concurrent connections allowed from a single IP address.
```

```
[10]>
```

```
Enter the maximum number of messages per connection.
```

```
[10]>
```

```
Enter the maximum number of recipients per message.
```

```
[50]>
```

```
Do you want to override the hostname in the SMTP banner? [N]>
```

```
Would you like to specify a custom SMTP acceptance response? [N]>
```

```
Would you like to specify a custom SMTP rejection response? [N]>
```

```
Do you want to enable rate limiting per host? [N]>

Do you want to enable rate limiting per envelope sender? [N]>

Do you want to enable Directory Harvest Attack Prevention per host? [Y]>

Enter the maximum number of invalid recipients per hour from a remote host.
[25]>

Select an action to apply when a recipient is rejected due to DHAP:
1. Drop
2. Code
[1]>

Would you like to specify a custom SMTP DHAP response? [Y]>

Enter the SMTP code to use in the response.550 is the standard code.
[550]>

Enter your custom SMTP response.Press Enter on a blank line to finish.

Would you like to use SenderBase for flow control by default? [Y]>

Would you like to enable anti-spam scanning? [Y]>

Would you like to enable anti-virus scanning? [Y]>

Do you want to allow encrypted TLS connections?
1. No
2. Preferred
3. Required
4. Preferred - Verify
5. Required - Verify
[1]>

Would you like to enable DKIM/DomainKeys signing? [N]>

Would you like to enable DKIM verification? [N]>

Would you like to change SPF/SIDF settings? [N]>

Would you like to enable DMARC verification? [N]> Y

Select the DMARC verification profile to use:
1. DEFAULT

[1]> 1

Would you like to send aggregate reports? [N]> Y

Note: DMARC reports should be DMARC compliant.
Secure delivery is recommended for delivery of DMARC reports.
Please enable TLS support using the `destconfig` command.
Would you like to enable envelope sender verification? [N]> Y

Would you like to specify a custom SMTP response for malformed envelope senders? [Y]>

Enter the SMTP code to use in the response.553 is the standard code.
[553]>

Enter your custom SMTP response.Press Enter on a blank line to finish.
```

Would you like to specify a custom SMTP response for envelope sender domains which do not resolve? [Y]>

Enter the SMTP code to use in the response.451 is the standard code.
[451]>

Enter your custom SMTP response.Press Enter on a blank line to finish.

Would you like to specify a custom SMTP response for envelope sender domains which do not exist? [Y]>

Enter the SMTP code to use in the response.553 is the standard code.
[553]>

Enter your custom SMTP response.Press Enter on a blank line to finish.

Would you like to enable use of the domain exception table? [N]>

Do you wish to accept untagged bounces? [N]>

Default Policy Parameters
=====

Maximum Message Size: 20M
Maximum Number Of Concurrent Connections From A Single IP: 10
Maximum Number Of Messages Per Connection: 10
Maximum Number Of Recipients Per Message: 50
Directory Harvest Attack Prevention: Enabled
Maximum Number Of Invalid Recipients Per Hour: 25
Maximum Number Of Recipients Per Hour: Disabled
Maximum Number of Recipients per Envelope Sender: Disabled
Use SenderBase for Flow Control: Yes
Spam Detection Enabled: Yes
Virus Detection Enabled: Yes
Allow TLS Connections: No
Allow SMTP Authentication: No
Require TLS To Offer SMTP authentication: No
DKIM/DomainKeys Signing Enabled: No
DKIM Verification Enabled: No
SPF/SIDF Verification Enabled: No
DMARC Verification Enabled: Yes
 DMARC Verification Profile: DEFAULT
 Aggregate reports: Yes
Envelope Sender DNS Verification Enabled: Yes
Domain Exception Table Enabled: No
Accept untagged bounces: No

There are currently 4 policies defined.
There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
 - EDIT - Modify an entry.
 - DELETE - Remove an entry.
 - MOVE - Move an entry.
 - DEFAULT - Set the defaults.
 - PRINT - Display the table.
 - IMPORT - Import a table from a file.
 - EXPORT - Export the table to a file.
 - RESET - Remove senders and set policies to system default.
- []>

Name: Listener 1
Type: Public
Interface: Management (172.29.181.70/24) TCP Port 25

```

Protocol: SMTP
Default Domain: <none configured>
Max Concurrent Connections: 300 (TCP Queue: 50)
Domain Map: Disabled
TLS: No
SMTP Authentication: Disabled
Bounce Profile: Default
Use SenderBase For Reputation Filters and IP Profiling: Yes
Footer: None
Heading: None
SMTP Call-Ahead: Disabled
LDAP: Off

```

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change the name of the listener.
 - INTERFACE - Change the interface.
 - CERTIFICATE - Choose the certificate.
 - LIMITS - Change the injection limits.
 - SETUP - Configure general options.
 - HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
 - RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
 - BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
 - MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
 - DOMAINMAP - Configure domain mappings.
- []>

Currently configured listeners:

1. Listener 1 (on Management, 172.29.181.70) SMTP TCP Port 25 Public

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new listener.
 - EDIT - Modify a listener.
 - DELETE - Remove a listener.
 - SETUP - Change global settings.
- []>

mail.example.com>

localeconfig

説明

多言語対応の設定値を設定します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できません。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> localeconfig

Behavior when modifying headers: Use encoding of message body
Behavior for untagged non-ASCII headers: Impose encoding of message body
Behavior for mismatched encodings bodies and footers: Use encoding of message footer

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure multi-lingual settings.
[]> setup
If a header is modified, encode the new header in the same encoding as the message
body?(Some MUAs incorrectly handle headers encoded in a different encoding than the
body.However, encoding a modified header in the same encoding as the message body may
cause certain characters in the modified header to be lost.) [Y]>

If a non-ASCII header is not properly tagged with a character set, impose the encoding of
the body on the header during processing and final representation of the message?(Many
MUAs create non-RFC-compliant headers that are then handled in an undefined way.Imposing
the encoding of the body on the header may encode the header more precisely.) [Y]>

When there is an encoding mismatch between the message body and a footer, the system
initially attempts to encode the entire message in the same encoding as the message
body.If the system cannot combine the message body and the footer in the same encoding, do
you want the system to failover and attempt to encode the entire message using the
encoding of the message footer?(When this feature is enabled, the system will attempt to
display the footer "in-line" rather than defaulting to adding it as an attachment.) [N]> y

Behavior when modifying headers: Use encoding of message body
Behavior for untagged non-ASCII headers: Impose encoding of message body
Behavior for mismatched encodings bodies and footers: Use encoding of message body

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Configure multi-lingual settings.

[]>mail3.example.com>
```

smtpauthconfig

説明

SMTP 認証発信および転送プロファイルを設定します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

次の例では、`smtppauthconfig` コマンドを使用して、サーバ「`smtp2.example.com`」の新しい転送ベースのプロファイルを作成します。

```
mail3.example.com> smtppauthconfig

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new SMTP Auth profile
[]> new

Choose the type of profile you wish to create:
- FORWARD - Create an SMTP Auth forwarding server group profile
- OUTGOING - Create an outgoing SMTP Auth profile

[]> forward

Enter a name for this profile:
[]> forwarding-based

Please begin entering forwarding servers for this group profile.
Enter a hostname or an IP address for the forwarding server:
[]> smtp2.example.com

Enter a port:
[25]>

Choose the interface to use for forwarding requests:
1.Auto
2.Data 1 (192.168.1.1/24: mail3.example.com)
3.Data 2 (192.168.2.1/24: mail3.example.com)
4.Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)
[]>
Require TLS?(issue STARTTLS) [Y]> y

Enter the maximum number of simultaneous connections allowed:
[10]>

Use SASL PLAIN mechanism when contacting forwarding server? [Y]>
Use SASL LOGIN mechanism when contacting forwarding server? [Y]>

Would you like to enter another forwarding server to this group? [N]>

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new SMTP Auth profile
- EDIT - Edit an existing SMTP Auth profile
- PRINT - List all profiles
- DELETE - Delete a profile
- CLEAR - Delete all profiles
[]>

mail3.example.com> commit

Please enter some comments describing your changes:
[]> created SMTP auth profile

Do you want to save the current configuration for rollback?[Y]> n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```



(注) 認証済みのユーザには、RELAY HAT ポリシーが許可されます。



(注) 1つのプロファイル内で複数の転送サーバを指定することもできます。SASL メカニズム CRAM-MD5 と DIGEST-MD5 は、E メールセキュリティアプライアンスと転送サーバの間ではサポートされません。

システムのセットアップ

systemsetup

説明

初回のシステム セットアップおよびシステムの再インストール。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> systemsetup

WARNING: The system setup wizard will completely delete any existing
'listeners' and all associated settings including the 'Host Access Table' -
mail operations may be interrupted.

Are you sure you wish to continue? [Y]> y

Before you begin, please reset the administrator password to a new value.
Old password:
New password:
Retype new password:

*****
You will now configure the network settings for the IronPort C100.
Please create a fully qualified hostname for the IronPort C100 appliance
(Ex: "ironport-C100.example.com"):
[]> ironport-C100.example.com

*****
```

```
You will now assign an IP address for the "Data 1" interface.
Please create a nickname for the "Data 1" interface (Ex: "Data 1"):
[]> Data 1

Enter the static IP address for "Data 1" on the "Data 1" interface?(Ex:
"192.168.1.1"):
[]> 192.168.1.1

What is the netmask for this IP address?(Ex: "255.255.255.0" or "0xffffffff"):
[255.255.255.0]>

You have successfully configured IP Interface "Data 1".

*****

Would you like to assign a second IP address for the "Data 1" interface? [Y]> n

What is the IP address of the default router (gateway) on your network?:
[192.168.1.1]> 192.168.2.1

*****

Do you want to enable the web interface on the Data 1 interface? [Y]> y

Do you want to use secure HTTPS? [Y]> y

Note: The system will use a demo certificate for HTTPS.
Use the "certconfig" command to upload your own certificate.

*****

Do you want the IronPort C100 to use the Internet's root DNS servers or would
you like it to use your own DNS servers?
1. Use Internet root DNS servers
2. Use my own DNS servers
[1]> 2

Please enter the IP address of your DNS server.
[]> 192.168.0.3

Do you want to enter another DNS server? [N]>

You have successfully configured the DNS settings.

*****

You are now going to configure how the IronPort C100 accepts mail by creating a
"Listener".
Please create a name for this listener (Ex: "MailInterface"):
[]> InboundMail

Please choose an IP interface for this Listener.
1. Data 1 (192.168.1.1/24: ironport-C100.example.com)
[1]> 1

Enter the domain names or specific email addresses you want to accept mail for.

Hostnames such as "example.com" are allowed.
Partial hostnames such as ".example.com" are allowed.
Usernames such as "postmaster@" are allowed.
Full email addresses such as "joe@example.com" or "joe@[1.2.3.4]" are allowed.
Separate multiple addresses with commas.
[]> example.com, .example.com
```

Would you like to configure SMTP routes for example.com, .example.com? [Y]> **n**

Please specify the systems allowed to relay email through the IronPort C100.
Hostnames such as "example.com" are allowed.

Partial hostnames such as ".example.com" are allowed.

IP addresses, IP address ranges, and partial IP addresses are allowed.

Separate multiple entries with commas.

[]> **example.com, .example.com**

Do you want to enable filtering based on SenderBase Reputation Service (SBRS) Scores for this listener?(Your selection will be used to filter all incoming mail based on its SBRS Score.) [Y]> **y**

Do you want to enable rate limiting for this listener?(Rate limiting defines the maximum number of recipients per hour you are willing to receive from a remote domain.) [Y]> **y**

Enter the maximum number of recipients per hour to accept from a remote domain.

[]> **1000**

Default Policy Parameters

=====

Maximum Message Size: 10M

Maximum Number Of Concurrent Connections From A Single IP: 10

Maximum Number Of Messages Per Connection: 10

Maximum Number Of Recipients Per Message: 50

Directory Harvest Attack Prevention: Enabled

Maximum Number Of Invalid Recipients Per Hour: 25

Maximum Number Of Recipients Per Hour: 1,000

Maximum Recipients Per Hour SMTP Response:

452 Too many recipients received this hour

Use SenderBase for Flow Control: Yes

Spam Detection Enabled: Yes

Virus Detection Enabled: Yes

Allow TLS Connections: No

Allow SMTP Authentication: No

Require TLS To Offer SMTP authentication: No

DKIM/DomainKeys Signing Enabled: No

DKIM Verification Enabled: No

SPF/SIDF Verification Enabled: No

DMARC Verification Enabled: No

Envelope Sender DNS Verification Enabled: No

Domain Exception Table Enabled: No

Accept untagged bounces: No

Would you like to change the default host access policy? [N]> **n**

Listener InboundMail created.

Defaults have been set for a Public listener.

Use the listenerconfig->EDIT command to customize the listener.

Do you want to use Anti-Spam scanning in the default Incoming Mail policy? [Y]> **y**

Would you like to enable IronPort Spam Quarantine? [Y]> **y**

IronPort Anti-Spam configured globally for the IronPort C100 appliance. Use the policyconfig command (CLI) or Mail Policies (GUI) to customize the IronPort settings for each listener.

IronPort selected for DEFAULT policy

```
Do you want to use Anti-Virus scanning in the default Incoming and Outgoing
Mail policies? [Y]> y

1.McAfee Anti-Virus
2.Sophos Anti-Virus
Enter the number of the Anti-Virus engine you would like to use on the default
Incoming and Outgoing Mail policies.
[]> 2

Sophos selected for DEFAULT policy

*****

Do you want to enable Outbreak Filters? [Y]> y

Outbreak Filters enabled.

Outbreak Filter alerts are sent when outbreak rules cross the threshold (go above or back
down below), meaning that new messages of certain types could be quarantined or will no
longer be quarantined, respectively.

Allow the sharing of limited data with SenderBase? [Y]> y

You have successfully configured Outbreak Filters and SenderBase.

*****

You will now configure system alerts.
Please enter the email address(es) to send alerts.
(Ex: "administrator@example.com")
Separate multiple addresses with commas.
[]> administrator@example.com

Would you like to enable IronPort AutoSupport, which automatically emails
system alerts and weekly status reports directly to IronPort Customer Support?
You will receive a complete copy of each message sent to IronPort.
(Recommended) [Y]> y

*****

You will now configure scheduled reporting.
Please enter the email address(es) to deliver scheduled reports to.
(Leave blank to only archive reports on-box.)
Separate multiple addresses with commas.
[]> administrator@example.com

*****

You will now configure system time settings.
Please choose your continent:
1. Africa
2. America
...
11. GMT Offset
[11]> 2

Please choose your country:
1. Anguilla
...
47. United States
```

```
48. Uruguay
49. Venezuela
50. Virgin Islands (British)
51. Virgin Islands (U.S.)
[]> 47

Please choose your timezone:
1. Alaska Time (Anchorage)
...
26. Pacific Time (Los_Angeles)
[]> 26

Do you wish to use NTP to set system time? [Y]> y

Please enter the fully qualified hostname or IP address of your NTP server, or
press Enter to use time.ironport.com:
[time.ironport.com]>

*****

Would you like to commit these changes at this time? [Y]> y

Congratulations!System setup is complete.

For advanced configuration, please refer to the User Guide.
```

URL フィルタリング

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [aggregatorconfig](#)
- [urllistconfig](#)
- [webcacheflush](#)
- [websecurityadvancedconfig](#)
- [websecurityconfig](#)
- [websecuritydiagnostics](#)

aggregatorconfig

説明

E メールセキュリティ アプライアンスでシスコのアグリゲータ サーバのアドレスを設定します。このサーバは、リライトされた URL と、各ユーザのクリックに関連付けられたアクション (許可、ブロック、または不明) をクリックしたエンド ユーザの詳細を提供します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できません。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> aggregatorconfig

Choose the operation you want to perform:
- EDIT - Edit aggregator configuration
[]> edit

Edit aggregator address:
[aggregator.organization.com]> org-aggregator.com

Successfully changed aggregator address to : org-aggregator.com
```

urllistconfig

説明

URL フィルタリング機能によって評価されない URL のホワイトリストを設定またはインポートします。このリストは、アウトブレイク フィルタ機能には使用されません。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できません。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

例

```
> urllistconfig
No URL lists configured.
Choose the operation you want to perform:
NEW - Create a new URL list-
[]> new
Do you want to import a URL list?
[N]>
Enter a name for the URL list
[]> sample
Enter the URL domains that need to be skipped from scanning for URL Filtering.
Enter one URL domain per line and '.' to finish.
cisco.com
ironport.com/*
*.example.com
10.2.4.5/24
```

```
[2001:DB8::1]
URL list sample added.
There are currently 4 URL lists configured.
Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new URL whitelist.
- EDIT - Modify an existing URL whitelist.
- DELETE - Delete an existing URL whitelist.
[]>EDIT
Choose the operation to edit the URL whitelist:

- IMPORT - Import a file into an existing URL whitelist
- EXPORT - Export an existing URL whitelist into a file
- RENAME - Rename an existing URL whitelist
[]>IMPORT

Assign new name to the imported list?(By default, name stored in the
file will be applied to the list)
[N] > Y

Enter name of the list > new_list

Enter filename to import from > URLfile
NOTE: These files will be stored in /pub/configuration

URL list "new_list" added.
```

webcacheflush

説明

URL フィルタリング機能で使用されるキャッシュをフラッシュします。シスコの Web セキュリティ サービスとの通信に使用される証明書を変更した場合は、このコマンドを使用します。通常、シスコ サポートから指示された場合にのみ、このコマンドを使用します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
> webcacheflush
Web Security cache has been flushed.
```

websecurityadvancedconfig

説明

URL フィルタリングの詳細設定を設定します。



(注)

トラブルシューティングの目的でタイムアウト値を変更する場合以外は、シスコのサポートから指示があった場合にのみこのコマンドを使用します。

タイムアウト値は、URL の評価およびカテゴリを提供するクラウド サービスとの通信用の秒単位の値です。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

バッチ形式については、CLI インライン ヘルプを参照してください。

例

```
> websecurityadvancedconfig

Enter URL lookup timeout (includes any DNS lookup time) in seconds:
[15]>

Enter the URL cache size (no. of URLs):
[1215000]>

Do you want to disable DNS lookups?[N]>

Enter the maximum number of URLs that should be scanned:
[100]>

Enter the Web security service hostname:
[example.com]>

Enter the threshold value for outstanding requests:
[20]>

Do you want to verify server certificate?[Y]>

Enter the default time-to-live value (seconds):
[30]>

Do you want to include additional headers?[N]>

Enter the default debug log level for RPC server:
[Info]>
```

```
Enter the default debug log level for SDS cache:
[Info]>

Enter the default debug log level for HTTP client:
[Info]>
```

websecurityconfig

説明

URL フィルタリングの基本設定 (URL レピュテーションおよび URL カテゴリ機能) を設定します。通常、証明書管理は自動です。Cisco TAC から Yes にすることを指示されていない限り、証明書の設定を要求されたときに No を選択してください。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドは、すべてのマシン モード (クラスタ、グループ、マシン) で使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしています。詳細については、CLI のインライン ヘルプを参照してください。このコマンドのインライン ヘルプにアクセスするには、help コマンドを使用します。

例

```
mail.example.com> websecurityconfig

Enable URL Filtering? [N]> y

Do you wish to enable Web Interaction Tracking? [N]> y

Web Interaction Tracking is enabled.

Do you want to whitelist URLs using a URL list? [N]> y

1. urllist1
2. urllist2
3. No URL list
Enter the number of URL list
[1]> 1

URL list 'urllist1' added

mail.example.com> websecurityconfig

URL Filtering is enabled.
URL list 'urllist1' used.
System provided certificate used.
Web Interaction Tracking is enabled.
```

websecuritydiagnostics

説明

URL フィルタリングに関連する診断統計情報を表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> websecuritydiagnostics
```

```
Cache Size: 254
```

```
Cache Hits: 551
```

```
Response Time
```

```
Minimum: None
```

```
Average: 0.0
```

```
Maximum: None
```

```
DNS Lookup Time
```

```
Minimum: 9.4198775
```

```
Average: 10.1786801765
```

```
Maximum: 10.544356
```

ユーザの管理

ここでは、次の CLI コマンドについて説明します。

- [userconfig](#)
- [password](#) または [passwd](#)
- [last](#)
- [who](#)
- [whoami](#)

userconfig

説明

ユーザ アカウントと外部の認証ソースへの接続を管理します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドはクラスタ モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。詳細については、CLI のインライン ヘルプを参照してください。このコマンドのインライン ヘルプにアクセスするには、help コマンドを使用します。例:

```
mail.example.com> userconfig help
```

例:新しいユーザアカウントの作成

次に、Help Desk User ロールを持つ新しいユーザ アカウントの作成例を示します。

```
mail.example.com> userconfig
```

```
Users:
```

```
1. admin - "Administrator" (admin)
```

```
External authentication: Disabled
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new account.
- EDIT - Modify an account.
- DELETE - Remove an account.
- POLICY - Change password and account policy settings.
- PASSWORD - Change the password for a user.
- ROLE - Create/modify user roles.
- STATUS - Change the account status.
- EXTERNAL - Configure external authentication.
- DLPTRACKING - Configure DLP tracking privileges.

```
[ ]> new
```

```
Enter the new username.
```

```
[ ]> helpdesk
```

```
Enter the full name for helpdesk.
```

```
[ ]> HELP DESK
```

```
Assign a role to "helpdesk":
```

1. Administrators - Administrators have full access to all settings of the system.
2. Operators - Operators are restricted from creating new user accounts.
3. Read-Only Operators - Read-Only operators may only view settings and status information.
4. Guests - Guest users may only view status information.
5. Technicians - Technician can only manage upgrades and feature keys.
6. Help Desk Users - Help Desk users have access only to ISQ and Message Tracking.

```
[1]> 6
```

```
Would you like to get a system generated password? [N]>
```

```
Enter the password for helpdesk
```

```
[ ]>
```

```
Please enter the new password again:
```

```
Users:
```

1. admin - "Administrator" (admin)
2. helpdesk - "HELP DESK" (helpdesk)

```
External authentication: Disabled
```

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new account.
- EDIT - Modify an account.
- DELETE - Remove an account.
- POLICY - Change password and account policy settings.
- PASSWORD - Change the password for a user.
- ROLE - Create/modify user roles.
- STATUS - Change the account status.
- EXTERNAL - Configure external authentication.
- DLPTRACKING - Configure DLP tracking privileges.
[]>

```

例:RADIUS サーバを外部認証用にセットアップ

次に、RADIUS サーバを外部認証用にセットアップする例を示します。RADIUS サーバをセットアップするには、ホスト名、ポート、および共有パスワードを入力し、認証プロトコルとして CHAP と PAP のどちらを使用するかを指定します。

```
mail.example.com> userconfig
```

```

Users:
1. admin - "Administrator" (admin)
2. hdesk_user - "Helpdesk User" (helpdesk)

```

```
External authentication: Disabled
```

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new account.
- EDIT - Modify an account.
- DELETE - Remove an account.
- POLICY - Change password and account policy settings.
- PASSWORD - Change the password for a user.
- ROLE - Create/modify user roles.
- STATUS - Change the account status.
- EXTERNAL - Configure external authentication.
- DLPTRACKING - Configure DLP tracking privileges.
[]> external

```

```

Choose the operation you want to perform:
- SETUP - Set up global settings.
[]> setup

```

```
Do you want to enable external authentication? [N]> Y
```

```

Please enter the timeout in seconds for how long the external authentication credentials
will be cached.(Enter '0' to disable expiration of
authentication credentials altogether when using one time passwords.)
[0]> 30

```

```

Choose a mechanism to use:
LDAP is unavailable because no LDAP queries of type EXTERNALAUTH are configured
1. RADIUS
[]> 1

```

```

Configured RADIUS servers:
- No RADIUS servers configured

```

```

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a RADIUS server configuration.
[]> new

```

```

Please enter host name or IP address of the RADIUS server:
[ ]> radius.example.com

Please enter port number of the RADIUS server:
[1812]>

Please enter the shared password:
>
Please enter the new password again.
>

Please enter timeout in seconds for receiving a valid reply from the server:
[5]>

1. CHAP
2. PAP
Select authentication type:
[2]>

Configured RADIUS servers:
Host          Port  Timeout (s)  Auth type
-----
radius.example.com  1812  5            pap

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Add a RADIUS server configuration.
- EDIT - Modify a RADIUS server configuration.
- DELETE - Remove a RADIUS server configuration.
- CLEAR - Remove all RADIUS server configurations.
[ ]>

```

password または passwd

説明

自分のパスワードを変更します。

使用方法

確定: このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理: このコマンドはクラスタ モードでのみ使用できます。



(注)

passwd コマンドは、マシン モードしか使用できないゲスト ユーザが使用できるようにするための特例です。ゲスト ユーザがクラスタ内のマシン上で passwd コマンドを実行すると、警告メッセージは表示されず、ユーザのモードを変更せずにクラスタ レベルのデータに対して操作が行われます。他のすべてのユーザに対しては、上記の(他の制限されるコンフィギュレーション コマンドと同じ)動作が行われます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> password

Old password: your_old_password
New password: your_new_password
Retype new password: your_new_password
Password changed.
```

last

説明

`last` コマンドは、システムに最近ログインしたユーザを表示します。デフォルトでは、システムにログインしているすべてのユーザを表示します。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
elroy.run> last

Username Remote Host Login Time Logout Time Total Time
=====
admin 10.251.23.186 Thu Sep 01 09:14 still logged in 1h 5m
admin 10.251.23.186 Wed Aug 31 14:00 Wed Aug 31 14:01 1m
admin 10.251.16.231 Wed Aug 31 13:36 Wed Aug 31 13:37 0m
admin 10.251.23.186 Wed Aug 31 13:34 Wed Aug 31 13:35 0m
admin 10.251.23.142 Wed Aug 31 11:26 Wed Aug 31 11:38 11m
admin 10.251.23.142 Wed Aug 31 11:05 Wed Aug 31 11:09 4m
admin 10.251.23.142 Wed Aug 31 10:52 Wed Aug 31 10:53 1m
admin 10.251.60.37 Tue Aug 30 01:45 Tue Aug 30 02:17 32m
admin 10.251.16.231 Mon Aug 29 10:29 Mon Aug 29 10:41 11m
shutdown Thu Aug 25 22:20
```

who

説明

`who` コマンドは、CLI からシステムにログインしたすべてのユーザ、ログイン時間、アイドル時間、およびユーザがログインしたリモート ホストを一覧表示します。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト(ユーザがログインしたマシン)でのみ使用できます。このコマンドを使用するには、ローカル ファイル システムにアクセスする必要があります。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> who

Username Login Time Idle Time Remote Host What
=====
admin    03:27PM 0s        10.1.3.201 cli
```

whoami

説明

whoami コマンドは、現在ログインしているユーザのユーザ名および氏名と、ユーザが属しているグループを表示します。

使用方法

確定:このコマンドは「commit」が必要です。

クラスタ管理:このコマンドは、すべてのマシン モード(クラスタ、グループ、マシン)で使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail3.example.com> whoami

Username: admin
Full Name: Administrator
Groups: admin, operators, config, log, guest
```

仮想アプライアンスの管理

- [loadlicense](#)
- [showlicense](#)

loadlicense

説明

仮想アプライアンスの XML ライセンスをロードします。ファイルからロードするか、コピーアンドペーストできます。詳細については、『*Cisco Content Security Virtual Appliance Installation Guide*』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/security/email-security-appliance/products-installation-guides-list.html> から入手できます。

このコマンドは、管理者またはオペレータ権限を持つユーザが使用できます。

使用方法

確定: このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理: このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト (ユーザがログインしたマシン) でのみ使用できます。

バッチ コマンド: このコマンドはバッチ形式をサポートしていません。

例

```
mail.example.com> loadlicense

1 Paste via CLI
2 Load from file
How would you like to load a license file?
[1]> 2

Enter the name of the file in /configurations to import:
[]> <filename>

TERMS AND CONDITIONS OF USE
<Terms and conditions>

Do you accept the above license agreement?
[]> y
The license agreement was accepted.

The following feature key have been added:
<feature keys>
```

エラーやハードウェアの設定ミスが表示されることもあります。

showlicense

説明

現在の仮想アプライアンス ライセンスに関する情報を表示します。詳細については、[featurekey](#) コマンドを使用すると分かります。

このコマンドは、管理者またはオペレータ権限を持つユーザが使用できます。

使用方法

確定:このコマンドに「commit」は必要ありません。

クラスタ管理:このコマンドはマシン モードでのみ使用できます。さらに、このコマンドはログイン ホスト(ユーザがログインしたマシン)でのみ使用できます。

バッチ コマンド:このコマンドはバッチ形式をサポートしています。

バッチ形式

このコマンドの構文:showlicense

例

```
mail.example.com> showlicense

company: Example Inc.
org: Widget Division
unit: Portland Data Center
seats: 1000
city: Portland
state: Oregon
country: US
email: mailadmin@example.com
begin_date: Tue Dec 6 17:45:19 2011
end_date: Mon Sep 1 17:45:19 2014
vln: ABC-123423123
serial: 1003385
```

